

和哥美那禮棹

作者 加藤友輔 (北久太郎町二丁目)
板元 小川屋清右衛門 (錦町二丁目)
出願 寛政五年二月二十九日
許可 寛政五年二月二十九日

明顯寺講師碑帖

撰者 細合半齋 (勢州一身田)
板元 藤屋善七 (高麗橋二丁目)
出願 寛政五年五月二日
許可 寛政五年五月二日

〔附記〕本書の板行に對し公儀よりの注意をうけ板元より京都佛光寺門跡へも届け出でその聽許を受けたる上これを板行販賣したりといふ

采葺集

作者 細合半齋 (勢州一身田)
板元 本屋又兵衛 (博勢町)
出願 寛政五年三月二日
許可 寛政五年五月二日

新撰 冠附 かさし艸

一冊

左傳注解辨誤

再板發行申出
板元 河内屋喜兵衛
右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行
申出年月 寛政五年八月

算法知惠海大全

再板發行申出
板元 吉文字屋市兵衛
右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行
申出年月 寛政五年八月

女有職掌文庫

以前「職掌文庫」と題せしを此度改題發行申出
板元 三野屋半右衛門
右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行
申出年月 寛政五年八月十三日

錢範

作者 赤善 (高麗橋一丁目)
板元 柏原屋清右衛門 (高麗橋五丁目)
出願 寛政五年八月二日
許可 寛政五年八月二十八日

墨付五十五丁

新板發行申出
板元 柏原屋十兵衛
右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行
申出年月 寛政四年四月

外題年鑑

増補發行申出
板元 増田屋源兵衛
右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行
申出年月 寛政五年四月

萬物早占

以前「四聲占考」と題せしを此度改題發行申出
板元 升屋七右衛門
右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行
申出年月 寛政五年四月

漢土諸家人物誌

作者 鎌田積藏 (難波村)
板元 奈良屋長兵衛 (博勢町)
出願 寛政五年六月二日
許可 寛政五年七月二十五日

續文通下書

一冊

爲學要説

校合者 柴田權五郎 (播州船路)
板元 柏原屋嘉兵衛 (博勢町)
出願 寛政五年八月二日
許可 寛政五年八月二十八日

大坂指掌之圖

作者 曾谷忠助 (平野町二丁目)
板元 播磨屋九兵衛 (高麗橋一丁目)
出願 寛政五年八月二日
許可 寛政五年八月二十八日

折句俵

以前「はい盆の月」と題せしを此度改題發行申出
板元 鹽屋平助
右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行
申出年月 寛政五年九月十三日

弦曲粹辨當

三編 小本一冊
新板發行申出
板元 鹽屋平介
右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行

女通鑑玉匣

以前「女有職掌文庫」と題せしもの、内より抜摺し此度改題發行申出
板元 平野屋半右衛門
右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行
申出年月 寛政五年九月

華菌百人一首都錦

以前「女有職掌文庫」と題せしもの、内より抜摺し此度改題發行申出
板元 平野屋半右衛門
右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行
申出年月 寛政五年九月

拾玉百人一首十寸か

以前「女有職掌文庫」と題せしもの、内より抜摺し此度改題發行申出
板元 平野屋半右衛門
右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行
申出年月 寛政五年九月

相生百人一首千歳文

以前「女教補談袋」と題せしを此度改題發行申出
板元 鹽屋平助
右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行
申出年月 寛政五年十月

誹諧三種尺初篇

新板發行申出
板元 鹽屋平助
右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行
申出年月 寛政五年十月三日

誹諧場附五色種

新板發行申出
板元 鹽屋平助
右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行
申出年月 寛政五年十月三日

和歌作者部類

丁數二百八十三丁
校合者 皆川主計 (京都)
板元 奈良屋長兵衛 (博勢町)

明元流算法

出願 寛政五年十一月朔
許可 寛政五年十二月朔
作者 鹽文輔
板元 本屋又兵衛 (博勢町)

小學正文

校合者 鎌田積藏 (難波村)
板元 柏原屋佐兵衛 (高麗橋一丁目)
出願 寛政五年十一月朔
許可 寛政五年十二月朔

誹諧折句花山椒

新板發行申出
板元 柏原屋重兵衛
右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行
申出年月 寛政五年十一月六日

和歌明題部類

丁數三百九十一丁
作者 尾崎春藏 (難波村)
板元 奈良屋長兵衛 (博勢町)

出願 寛政五年十一月 許可 寛政五年十二月十九日 續和歌明題部類 一冊 丁數一百七十五丁 作者 尾崎春藏 (藤波村)	出願 寛政五年十一月 許可 寛政五年十二月十九日 寛政孔方鑑 一冊 作者 川村羽積 (博勢町)	出願 寛政五年十一月 許可 寛政五年十二月十九日 新渡大泉譜 一冊 作者 川村羽積 (博勢町)	出願 寛政五年十一月 許可 寛政五年十二月十九日 新續類題和歌集 以前「部類現葉和歌集」と題せしを此度改題發行申出	出願 寛政五年十一月 許可 寛政五年十二月十九日 古文眞寶 二冊 以前「具原點古文後集」と題せしを此度改題發行申出	出願 寛政五年十一月 許可 寛政五年十二月十九日 門引節用集大成 一冊 以前「門引大和字彙」と題せしを此度改題發行申出	出願 寛政五年十一月 許可 寛政五年十二月十九日 古文集 二冊 以前「具原點古文後集」と題せしを此度改題發行申出	出願 寛政五年十一月 許可 寛政五年十二月十九日 役繪本花あやめ 三冊 新板發行申出	出願 寛政五年十一月 許可 寛政五年十二月十九日 増訂掌中詩語大成 一冊	出願 寛政五年十一月 許可 寛政五年十二月十九日 季寄袖の玉 一冊 丁數四十二丁 作者 車蓋 (京郡)	出願 寛政五年十一月 許可 寛政五年十二月十九日 其蔓集 一冊 校合者 長月菴若翁 (備後尾道)	出願 寛政五年十一月 許可 寛政五年十二月十九日 狂歌拾葉集 一冊 撰者 一掃舍時丸 (淨國寺町)	出願 寛政五年十一月 許可 寛政五年十二月十九日 朱子定本孝經 一冊 校合者 山口剛三郎 (石州津和野)	出願 寛政五年十一月 許可 寛政五年十二月十九日 欣淨財穢編 三冊 著者 研立 (能州)	出願 寛政五年十一月 許可 寛政五年十二月十九日 絃曲高麗よしき 一冊 集吟者 藤永檢校	出願 寛政五年十一月 許可 寛政五年十二月十九日 五經 十冊 點者 中井徳治	出願 寛政五年十一月 許可 寛政五年十二月十九日 大日本道中行程細見記 一冊 作者 鳥飼洞齋 (木挽町中之町)	出願 寛政五年十一月 許可 寛政五年十二月十九日 六合釋名格 一冊 作者 夢生 (高野山)	出願 寛政五年十一月 許可 寛政五年十二月十九日 懷寶永代藏 一冊 作者 田中友水子
---	---	---	---	---	---	--	--	---	--	--	---	--	--	--	--	---	---	--

出願 寛政六年五月 許可 寛政六年五月二十七日 増訂正續文章軌範 六冊 再板發行願出	出願 寛政六年五月 許可 寛政六年五月二十七日 本興録 一冊 丁數四十四丁 作者 岡白駒	出願 寛政六年五月 許可 寛政六年五月二十七日 小西遊草 一冊 丁數二十七丁 作者 細合半齋 (高田御門跡御内)	出願 寛政六年五月 許可 寛政六年五月二十七日 正像末和讀大意 一冊 丁數三十丁 作者 蓮光寺致淳 (吹田)	出願 寛政六年五月 許可 寛政六年五月二十七日 差料私鑿 二冊 丁數四十四丁 作者 前田利賢 (播州)	出願 寛政六年五月 許可 寛政六年五月二十七日 和歌籠の塵 一冊	出願 寛政六年五月 許可 寛政六年五月二十七日 占夢早考 一冊 作者 池永太郎吉 (木町四丁目)	出願 寛政六年五月 許可 寛政六年五月二十七日 三ヶ津役者名取角力 一枚摺 新板發行申出	出願 寛政六年五月 許可 寛政六年五月二十七日 當時滑稽即興噺 五冊 墨附六十丁 新板發行申出	出願 寛政六年五月 許可 寛政六年五月二十七日 大日本道中行程細見記 一冊 作者 鳥飼洞齋 (木挽町中之町)	出願 寛政六年五月 許可 寛政六年五月二十七日 六合釋名格 一冊 作者 夢生 (高野山)	出願 寛政六年五月 許可 寛政六年五月二十七日 懷寶永代藏 一冊 作者 田中友水子
--	---	---	---	--	---	--	--	---	--	--	---

筆海重寶記大全 二冊

作者 永田 慶次 (高麗橋二丁目)
板元 柏原屋清右衛門 (高麗橋二丁目)
出願 寛政六年十月二十八日
許可 寛政六年十月二十八日

周易解 六冊

作者 岡 太 仲
板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋二丁目)
出願 寛政六年十月二十八日
許可 寛政六年十月二十八日

風流狂歌畫譜 一冊

作者 陰山白縁齋 (今橋二丁目)
板元 鹽屋三郎兵衛 (今橋二丁目)
出願 寛政六年十月二十八日
許可 寛政六年十月二十八日

四國通路圖 一枚摺

作者 山口 周 助 (高麗橋三丁目)
板元 寛政六年十月二十八日
出願 寛政六年十月二十八日
許可 寛政六年十月二十八日

季寄手引草 一冊

出願 寛政六年十月二十八日
許可 寛政六年十月二十八日

以前「誦讀小笈」と題せしを此度改題發行申出

板元 鹽屋忠兵衛
右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行
申出年月 寛政六年十月

師走の月夜 五冊

以前「御伽厚化粧」と題せしを此度改題發行申出
板元 尼屋貞次郎
右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行
申出年月 寛政六年十一月

玄海堂かな手本 一冊

筆者 長 友 松
板元 柏原屋與左衛門 (高麗橋五丁目)
代判 柏原屋清右衛門 (高麗橋五丁目)
出願 寛政六年十一月
許可 寛政六年十二月五日

三昭考 一冊

作者 漢 昭 太 (高麗橋三丁目)
板元 柏原屋嘉兵衛 (高麗橋三丁目)
出願 寛政六年十一月
許可 寛政六年十一月

許可 寛政六年十二月五日

四方山孝子噺 一冊

作者 陰山白縁齋 (今橋二丁目)
板元 河内屋太助 (高麗橋町)
出願 寛政六年十一月五日
許可 寛政六年十二月五日

萬手形案文 一冊

以前「萬手形鑑」と題せしもの板木焼失せしにより此度改題發行願出
作者 森 和 助 (立賣場二丁目)
板元 河内屋太助 (高麗橋町)
出願 寛政六年十一月五日
許可 寛政六年十二月五日

新撰むらちどり 一冊

新撰五十丁 新板發行申出
作者 一 蝶 堂
板元 鹽屋忠兵衛
右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行
申出年月

要字選

出願 寛政六年十一月五日
許可 寛政六年十二月五日

増補發行願出

板元 堀屋清兵衛 (初瀬町)
出願 寛政七年二月九日

白山集 四冊

作者 平 賀 周 藏 (島州廣島)
板主 右 同 人
賣弘 加島屋九兵衛 (四軒町)
出願 寛政七年二月二十四日
許可 寛政七年二月二十四日

小學句讀 四冊

從來の板木焼失せしため新板發行願出
校合者 鎌田 頼 藏 (藤波村)
板元 和泉屋善兵衛 (高麗橋四丁目)
出願 寛政七年二月十七日
許可 寛政七年二月二十九日

秘傳衛生論 二冊

作者 本井伊左衛門 (河州依木)
板元 敦賀屋六兵衛 (北久賣寺町五丁目)
出願 寛政七年二月十七日
許可 寛政七年二月二十九日

大學新注 一冊

作者 關 谷 敬 藏 (長 崎)
板元 山口屋亦市 (北久太郎町五丁目)
出願 寛政七年二月十七日
許可 寛政七年二月二十九日

茶功適 折本一冊

作者 俵屋太郎吉 (高麗橋町)
板元 鹽屋忠兵衛 (北久太郎町五丁目)
出願 寛政七年二月十七日
許可 寛政七年二月二十九日

不動心圖 一枚摺

新板發行申出
作者 山口剛三郎
板元 播磨屋九兵衛
右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行
申出年月 寛政七年三月

狂歌蘆分船 一冊

新板發行申出
板元 鹽屋忠兵衛
右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行
申出年月 寛政七年四月八日

盆山石圖式 一冊

作者 樽屋清兵衛 (龍田町)
板元 鹽屋忠兵衛 (北久太郎町五丁目)
出願 寛政七年五月
許可 寛政七年六月二十三日

道二翁道話 二冊

作者 八 宮 觀 農 (大瀬町)
板元 本屋吉兵衛 (高麗橋町)
出願 寛政七年五月
許可 寛政七年六月十三日

奥堺吉兵衛行狀聞書 一冊

作者 豊田四郎兵衛 (東橋町)
板元 右 同 人
出願 寛政七年五月
許可 寛政七年六月十八日

石經通考 二冊

作者 松井甚五郎 (淨覺町)
板元 河内屋榮介 (南久太郎町六丁目)
出願 寛政七年五月
許可 寛政七年六月十三日

鐘秀集 一冊

輯者 祇 園 興 市 (故人)
板元 鹽屋忠兵衛 (北久太郎町五丁目)
出願 寛政七年五月
許可 寛政七年六月十三日

通俗和漢雜話 五冊

以前「萬國山海經」と題せしを此度改題發行申出
板元 河内屋八兵衛
右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行
申出年月 寛政七年五月十二日

折句柱 一冊

以前「指句翁神」と題せしを此度改題發行申出
板元 柏原屋重兵衛
右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行
申出年月 寛政七年五月十二日

文通下書大成 一冊

以前「文通下書」と題せしものと「横文通下書」と題せしものとを合巻にし此度改題發行申出
板元 鹽 屋 平 介
右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行
申出年月 寛政七年五月

刪補錦囊外療秘録 三冊

作者 鳥 飼 洞 齋 (故人)
板元 吉文字屋市左衛門 (木挽町中之町)
出願 寛政七年六月
許可 寛政七年六月二十五日

仕用書狀大全 一冊

筆者 戸 田 榮 治 (炭屋町)
板元 吉文字屋市左衛門 (木挽町中之町)
出願 寛政七年六月
許可 寛政七年六月二十五日

俳諧和唐材 一冊

作者 永 凡 (七郎右衛門町一丁目)
板元 柏原屋清右衛門 (高麗橋五丁目)

出願 寛政七年八月二十四日
許可 寛政七年八月二十四日

瀧本 榮 一冊
作者 細合 半齋
板元 藤屋彌兵衛 (一持田御門跡御内)

出願 寛政七年八月二十四日
許可 寛政七年八月二十四日

繪本頼光一代記 五冊
作者 岡田 玉山 (北濃邊町)

出願 寛政七年八月二十四日
許可 寛政七年八月二十四日

板元 藤屋屋六兵衛 (南久寶寺町五丁目)

出願 寛政七年八月二十四日
許可 寛政七年八月二十四日

頭書實語教童子教 一冊
作者 富尾 平兵衛 (故人)

出願 寛政七年八月二十四日
許可 寛政七年八月二十四日

板元 藤屋屋六兵衛 (南久寶寺町五丁目)

和歌吳竹集 中本二冊
再板發行願出
校合者 依屋太郎吉 (本町四丁目)

板元 奈良屋長兵衛 (博勢町)

出願 寛政七年八月二十四日
許可 寛政七年八月二十四日

教庭訓往來 一冊
作者 下河邊拾水 (島 郡)

板元 奈良屋長兵衛 (博勢町)

出願 寛政七年八月二十四日
許可 寛政七年八月二十四日

紀元通考 一冊
作者 松井甚五郎 (淨覺町)

板元 河内屋永助 (津村北之町)

出願 寛政七年八月二十四日
許可 寛政七年八月二十四日

二乗成佛章 一冊
作者 淨明寺衆體 (津村北之町)

板元 河内屋永助 (南久太郎町六丁目)

出願 寛政七年八月二十四日
許可 寛政七年八月二十四日

東海道名跡圖會 一冊
以前「一目玉銚」と題せしもの

板元 河内屋多助 (出)

右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行
申出年月 寛政七年九月三日

日本風土記 一冊
以前「日本事跡考」と題せしもの
の一部分を此度改題發行申出

板元 河内屋多助 (出)

右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行
申出年月 寛政七年九月三日

本朝年中行事 一冊
以前「日本事跡考」と題せしもの
の一部分を此度改題發行申出

板元 河内屋多助 (出)

右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行
申出年月 寛政七年九月三日

古今日本人物史 一冊
以前「日本事跡考」と題せしもの
の一部分を此度改題發行申出

板元 河内屋多助 (出)

右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行
申出年月 寛政七年九月三日

四書片 小本三冊
再板發行申出
板元 秋田屋市兵衛

右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行
申出年月 寛政七年九月十八日

挿花故實集 三冊
丁數七十二丁
作者 龜 齡 軒 (南久太郎町三丁目)

板元 柏原屋清右衛門 (福慶町五丁目)

出願 寛政七年十月
許可 寛政七年十一月六日

獨算鑑 一冊
丁數三十九丁
作者 蟻峨屋利兵衛 (西 宮)

板元 鹽屋平助 (出)

出願 寛政七年十月
許可 寛政七年十一月六日

産痘濕痢瘧五正論 一冊
丁數三十七丁

作者 菅井文平 (老松町)

板元 河内屋惣兵衛 (南久太郎町六丁目)

出願 寛政七年十月
許可 寛政七年十一月六日

頭書音訓古状揃 かな付
丁數四十一丁
輯者 志多森善兵衛 (備後町四丁目)

板元 和泉屋善兵衛 (備後町四丁目)

出願 寛政七年十月
許可 寛政七年十一月六日

小學句讀無點 四冊
丁數一百十八丁
作者 明 陳 選 (長堀平右衛門町)

板元 河内屋八兵衛 (出)

出願 寛政七年十月
許可 寛政七年十一月六日

五篇引字賞節用集 一冊
丁數三百二十一丁
作者 鎌田 頌 藏 (難波村)

板元 吉文字屋市左衛門 (木挽町中之町)

出願 寛政七年十月
許可 寛政七年十一月六日

生入花葦芽 四冊
丁數八十二丁
作者 森 治五右衛門 (讃州羽方林)

板元 柏原屋清右衛門 (福慶町五丁目)

出願 寛政七年十月
許可 寛政七年十一月六日

葛子琴詩抄 一冊
丁數一百二十一丁
作者 橋本貞元 (故人)

板元 山口屋又一 (北久太郎町五丁目)

出願 寛政七年十月
許可 寛政七年十一月六日

孤雲樓遺稿 七冊
丁數一百四十二丁
作者 片山 中 藏 (心齋町)

板元 丹波屋利兵衛 (出)

出願 寛政七年十月
許可 寛政七年十一月六日

經典餘師孫子之部 二冊
丁數 七十一丁

作者 淡千賀太 (讃 州)

板元 柏原屋嘉兵衛 (博勢町)

出願 寛政七年十一月
許可 寛政七年十二月

大全早引節用集 一冊
丁數三百三十二丁
作者 山下重政 (故人)

板元 柏原屋與左衛門 (福慶町五丁目)

出願 寛政七年十一月
許可 寛政七年十二月

金光明最勝王經調點付 十卷
丁數二百九十丁餘
校合者 般若寺萬條 (天王寺村)

板元 加賀屋治兵衛 (平野町二丁目)

出願 寛政七年十一月
許可 寛政七年十二月

狀通案紙 一冊
筆者 宮南 耕 齋

板元 河内屋太助 (出)

出願 寛政七年十一月
許可 寛政七年十二月

董其昌天馬賦 一冊

筆者 明、董其昌

板元 柏原屋十兵衛 (博勢町)

出願 寛政七年十一月
許可 寛政七年十二月

山海名産圖會 五冊
丁數九十八丁
作者 平 瀬 輔 世 (平野町一丁目)

畫工 郡 關 月 (出)

板元 千草屋平兵衛 (江戸堀三丁目)

出願 寛政七年十一月
許可 寛政七年十二月

眞宗要説 一冊
以前「眞宗眼録抄」と題せしを
此度改題發行申出

板元 海部屋勘兵衛

右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行
申出年月 寛政七年十一月

俳諧折句杖 一冊
墨附七十六丁
新板發行申出

作者 園田 荻 風

板元 鹽屋平助 (出)

右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行

<p>丁數一百四十丁 校合者 平井角兵衛 板元 河内屋八兵衛 出願 寛政八年四月 許可 寛政八年四月二十五日</p> <p>丁數九十三丁 校合者 平井角兵衛 板元 河内屋八兵衛 出願 寛政八年四月 許可 寛政八年四月二十五日</p> <p>國歌八論 一冊 丁數二十四丁 作者 荷田在滿 板元 龜屋安兵衛 出願 寛政八年五月 許可 寛政八年五月</p> <p>青囊完璧 五冊 丁數一百九十九丁 作者 清、王、約、菴 板元 河内屋八兵衛</p>	<p>出願 寛政八年五月 許可 寛政八年五月</p> <p>狂歌岸の松 一冊 丁數五十九丁 集者 釘屋三右衛門 板元 藤屋九兵衛 出願 寛政八年五月 許可 寛政八年五月</p> <p>早引節用集 眞字附 一冊 再板發行申出 板元 柏原屋與左衛門 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 寛政八年五月</p> <p>増補日本汐路之記 一冊 再刻發行申出 板元 河内屋惣兵衛 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 寛政八年五月</p> <p>道二翁道話二篇 二冊 輯者 八宮勳 板元 本屋吉兵衛</p>	<p>出願 寛政八年六月 許可 寛政八年八月五日</p> <p>狂歌かひあはせ 一冊 作者 巴水亭貞三 板元 河内屋太助 出願 寛政八年六月 許可 寛政八年八月五日</p> <p>二神傳 三冊 丁數九十九丁 作者 天羽友仙 板元 河内屋喜兵衛 出願 寛政八年六月 許可 寛政八年八月五日</p> <p>綱鑑玉衡 明之部 四冊 點者 平井角兵衛 板元 河内屋八兵衛 出願 寛政八年六月 許可 寛政八年八月五日</p> <p>三國志辨誤 一冊 點者 平井角兵衛</p>	<p>板元 河内屋八兵衛 出願 寛政八年六月 許可 寛政八年八月五日</p> <p>楚辭燈 四冊 點者 三村積藏 板元 河内屋八兵衛 出願 寛政八年六月 許可 寛政八年八月五日</p> <p>怪談雨の燈 五冊 作者 玉香山人 板元 柏原屋重兵衛 出願 寛政八年六月 許可 寛政八年八月五日</p> <p>清棧唱和集 一冊 藏板主 長久保源五兵衛 賣弘 藤屋彌兵衛 出願 寛政八年六月 許可 寛政八年八月五日</p> <p>算法指南車 一冊 再板發行申出</p>
--	--	--	--

<p>板元 勝尾屋六兵衛 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 寛政八年七月</p> <p>史律解 一冊 作者 茨木徳次郎 板元 河内屋喜兵衛 出願 寛政八年八月 許可 寛政八年九月二日</p> <p>平太郎事跡傳 五冊 作者 中川昌房 板元 藤屋善七 出願 寛政八年八月 許可 寛政八年九月二日</p> <p>秋のねさめ 小本二冊 再板發行申出 板元 吉文字屋市左衛門 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 寛政八年九月</p> <p>字典節用 一冊 再板發行申出</p>	<p>板元 吉文字屋市左衛門 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 寛政八年九月</p> <p>和唐材 夏秋二冊 作者 氷凡 板元 柏原屋清右衛門 出願 寛政八年九月 許可 寛政八年十月朔</p> <p>百人一首ひなことは 四冊 作者 尾崎春藏 板元 柏原屋與左衛門 出願 寛政八年九月 許可 寛政八年十月朔</p> <p>瑞竹堂經驗方 二冊 校合者 藤田仲達 板元 河内屋喜兵衛 出願 寛政八年九月 許可 寛政八年九月</p> <p>撰玉類題和歌集 十六冊 板元 増田屋源兵衛</p>	<p>以前「部類現葉集」と題せしを 此度改題發行申出 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 寛政八年九月</p> <p>必東和文集 一冊 以前「女羅館消息」と題せしを 此度改題發行申出 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 寛政八年九月</p> <p>女文選料紙箱 一冊 再板發行申出 板元 柏原屋清右衛門 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 寛政八年五月</p> <p>百人一首都大全 一冊 以前「萬世百人一首」と題せし を此度改題發行申出 板元 河内屋喜兵衛 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 寛政八年六月</p> <p>女用小倉文庫 一冊</p>	<p>以前「玉葉百人一首」と題せし を此度改題發行申出 板元 河内屋喜兵衛 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 寛政八年六月</p> <p>大成百人一首 一冊 以前「女用千代之女」と題せし を此度改題發行申出 板元 河内屋喜兵衛 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 寛政八年六月</p> <p>破衣裸談義 五冊 以前「時勢世話談義」と題せし を此度改題發行申出 板元 河内屋太助 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 寛政八年六月</p> <p>狂歌なまはかどみ 五冊 以前「狂哥眞寸鏡」と題せしもの 「狂哥續寸鏡」と題せしもの 「狂哥月の鏡」と題せしもの 「狂哥水かみ」と題せしもの 「狂哥手なれの鏡」と題せしもの 以上の五種を一括にし此度 改題發行申出</p>
---	--	---	---

板元 山口屋又一
右板元よりの申出で本屋行
司にて閉届け板行
申出年月 寛政八年六月

日用初心案文 小本 一冊
以前「御家流懐中手本」と題せしを此度改題發行申出

板元 扇屋利助
右板元よりの申出で本屋行
司にて閉届け板行
申出年月 寛政八年九月

怪談夜半鐘 四冊
墨付四十六丁

作者 三村朱助 (備前)
板元 鹽屋權平
新板發行申出
右板元よりの申出で本屋行
司にて閉届け板行
申出年月 寛政八年九月

住吉名所鑑 中本 一冊
前板の抜摺再板發行申出

板元 鹽屋平介
右板元よりの申出で本屋行
司にて閉届け板行
申出年月 寛政八年十月

俳諧百家仙 一冊
作者 升 (下寺町淨國寺)

板元 鹽屋喜助 (南久太郎町六丁目)
出願 寛政八年十月
許可 寛政八年十一月十三日

都會節用百家通 一冊

作者 高莊二郎 (心齋町)
板元 和泉屋卯兵衛
出願 寛政八年十月
許可 寛政八年十一月十三日

大故紙家碑帖 一冊

作者 細合半齋 (伊勢)
板元 本屋又兵衛 (博勢町)
出願 寛政八年十月
許可 寛政八年十一月十三日

和蘭新譯地球全圖 折本 一冊

閱者 長久保赤水 (水戸)
板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋二丁目)
出願 寛政八年十一月

許可 寛政八年十一月十八日

世話千字文 一冊

筆者 長友松 (故人)
板元 平野屋半右衛門 (天満又治郎町)
出願 寛政八年十一月
許可 寛政八年十一月十八日

世話千字文假名付 一冊

筆者 三ツ切横本形 (天満又治郎町)
板元 平野屋半右衛門
出願 寛政八年十一月
許可 寛政八年十一月十八日

郭有道碑 折本 一冊

筆者 後漢、蔡邕 (今鹿二丁目)
藏板主 吉田慶山
寶弘 藤屋善七 (高麗橋二丁目)
出願 寛政八年十一月
許可 寛政八年十一月十八日

郭有道碑 折本 一冊

新板發行申出
作者 後漢、蔡邕
板元 前川清三郎

右板元よりの申出で本屋行
司にて閉届け板行
申出年月 寛政八年十一月

字貫節用

二丁増補彫足し發行申出
板元 吉文字屋市左衛門 (本鏡中之町)
右板元よりの申出で本屋行
司にて閉届け板行
申出年月 寛政八年十二月

奇談戲草 五冊

以前「英雄軍談」と題せしを此
度改題發行申出
板元 鹽屋長兵衛
右板元よりの申出で本屋行
司にて閉届け板行
申出年月 寛政八年十二月

装束ものがたり 五冊

以前「那智御山手管之瀧」と題
せしを此度改題發行申出
板元 朝田屋清兵衛
右板元よりの申出で本屋行
司にて閉届け板行
申出年月 寛政八年十二月

盡ぬ泉 二冊

新板發行申出
板元 大塚屋惣兵衛
右板元よりの申出で本屋行
司にて閉届け板行
申出年月 寛政八年十一月

百人一首 一冊

新板發行申出
板元 綿屋喜兵衛
右板元よりの申出で本屋行
司にて閉届け板行
申出年月 寛政八年十一月

茶道七夏式 二冊

以前「交會一致」と題せしを此
度改題發行申出
板元 鹽屋忠兵衛
右板元よりの申出で本屋行
司にて閉届け板行
申出年月 寛政八年十二月

繪本富士牧狩 五冊

以前「繪本勇見山」と題せしも
の「繪本名取川」と題せしも
のとを合せ此度改題發行申出
板元 柏原屋與左衛門
右板元よりの申出で本屋行
司にて閉届け板行
申出年月 寛政八年十二月

四書字引 一冊

再板發行申出
板元 河内屋八兵衛
右板元よりの申出で本屋行
司にて閉届け板行
申出年月 寛政八年十二月

女大學寶箱 一冊

舊板に「百人一首」を増補し發
行の旨申出
板元 柏原屋清右衛門
右板元よりの申出で本屋行
司にて閉届け板行
申出年月 寛政八年十二月

誹諧早學文

以前「さくら苗」と題せしを此
度改題發行申出
板元 鹽屋三郎兵衛
右板元よりの申出で本屋行
司にて閉届け板行
申出年月 寛政九年二月

輕口臍が茶 五冊

新板發行申出
板元 和泉屋卯兵衛

右板元よりの申出で本屋行
司にて閉届け板行
申出年月 寛政九年二月十八日

易象解 周易新疏附錄 一冊

作者 關谷敬藏 (長崎)
板元 山口屋又市 (北久太郎町五丁目)
出願 寛政九年三月
許可 寛政九年五月

外傷論 一冊

作者 中井孫九郎 (肥州和智山)
板元 河内屋太助 (備前)
出願 寛政九年三月
許可 寛政九年五月

新花つみ 一冊

作者 燕村 (故人)
板元 鹽屋忠兵衛 (北久太郎町五丁目)
出願 寛政九年三月
許可 寛政九年五月

來芝一代記 三冊

新板發行申出

以前「石婦傳」と題せしを此度
改題發行申出

板元 綿屋喜兵衛
右板元よりの申出で本屋行
司にて閉届け板行
申出年月 寛政九年四月十一日

教訓行平鍋 小本 一冊

新板發行申出
作者 谷東助 (筑前家中)
板元 敦賀屋九兵衛
右板元よりの申出で本屋行
司にて閉届け板行
申出年月 寛政九年四月

錦囊百人一首大全 一冊

以前「倭百人一首」と題せしも
の「女文臺」と題せしも「婦人
教訓書」と題せしも「伊勢物
語」と題せしも以上四種を合
せて一冊とし此度改題發行申
出

俳諧青蘊集 三冊

右板元よりの申出で本屋行
司にて閉届け板行
申出年月 寛政九年四月

<p>板元 柏原屋與左衛門 (願野町五丁目) 出願 寛政九年五月 許可 寛政九年九月</p> <p>白水先生遺稿 一冊 作者 西川四郎右衛門 (攝州高槻魚屋町) 板元 柏原屋佐兵衛 (願野町五丁目) 出願 寛政九年五月 許可 寛政九年九月</p> <p>國界重鎮日本與地路程 分色 全圖 書翰色摺 一冊 作者 長久保赤水 (水戸) 板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋一丁目) 出願 寛政九年五月 許可 寛政九年九月</p> <p>繪本太閤記 十冊 作者 岡田玉山 (淨覺町) 板元 勝尾屋六兵衛 (南久寶寺町五丁目) 出願 寛政九年五月 許可 寛政九年九月</p> <p>伊勢參宮名所圖會 五冊</p>	<p>同附録 一冊 以前「伊勢參宮名所圖會」は三冊物なりしが増補訂正を加へ本文五冊附録一冊に改め新に發行願出</p> <p>作者 藤 關 月 (高麗橋三丁目) 板元 鹽屋忠兵衛 (北久太郎町五丁目) 出願 寛政九年五月二十一日 許可 寛政九年六月</p> <p>三郷大坂細覽圖 一枚摺 書翰摺 作者 赤 善 應 (高麗橋一丁目) 板元 播磨屋九兵衛 (高麗橋一丁目) 出願 寛政九年六月 許可 寛政九年十二月五日</p> <p>和歌枕詞補注 二冊 作者 尾 崎 春 藏 (福木町) 板元 奈良屋長兵衛 (博勢町) 出願 寛政九年六月 許可 寛政九年十二月五日</p> <p>掌中和歌類題集 一冊</p>	<p>再板願出 作者 尾 崎 春 藏 (福木町) 板元 奈良屋長兵衛 (博勢町) 出願 寛政九年六月 許可 寛政九年十二月五日</p> <p>家相圖解 二冊 作者 松浦久信 (南瓦屋町) 板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋一丁目) 出願 寛政九年六月 許可 寛政九年十二月五日</p> <p>易占秘訣 二冊 作者 熊坂平吉 (奥州) 板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋一丁目) 出願 寛政九年六月 許可 寛政九年十二月五日</p> <p>萬葉考 (三之卷并別記大考) 三冊 作者 武庫春海 (攝州兵庫) 板元 柏原屋佐兵衛 (願野町五丁目) 出願 寛政九年六月 許可 寛政九年十二月五日</p> <p>古今毒草紙 五冊 以前「怪異談叢」と題せしを此度改題發行申出 板元 鹽屋長兵衛 右板元よりの申出でを本屋行司にて閉届け板行 申出年月 寛政九年六月</p> <p>解開口新話 一冊 以前「難窓解頤」と題せしを此度改題發行申出 板元 柏原屋重兵衛 右板元よりの申出でを本屋行司にて閉届け板行 申出年月 寛政九年閏七月</p> <p>女教浪華梅 一冊 以前「玉容百人一首」と題せしを此度改題發行申出 板元 河内屋太助</p>
---	--	--

<p>右板元よりの申出でを本屋行司にて閉届け板行 申出年月 寛政九年八月</p> <p>音曲鼻毛拔 小本一冊 丁敷五十五丁 新板發行申出 板元 海部屋勘兵衛 右板元よりの申出でを本屋行司にて閉届け板行 申出年月 寛政九年八月</p> <p>新咄庚申講 五冊 丁敷六十八丁 新板發行申出 作者 喜林館慶山 (北久太郎町二丁目) 板元 淺田屋清兵衛 右板元よりの申出でを本屋行司にて閉届け板行 申出年月 寛政九年八月</p> <p>袖玉和譜 (列張綴) 一冊 新板發行申出 板元 柏原屋清右衛門 右板元よりの申出でを本屋行司にて閉届け板行 申出年月 寛政九年八月</p> <p>善隣隨譚續編 一冊 作者 義 端 (住吉中在家村)</p>	<p>板元 河内屋嘉兵衛 (長坂十丁目) 出願 寛政九年八月 許可 寛政九年十月晦</p> <p>狂言かたをなみ 一冊 集者 釘屋藤兵衛 (扇屋町) 板元 藤屋九兵衛 (安堂寺町五丁目) 出願 寛政九年八月 許可 寛政九年十月晦</p> <p>頭癩疹精要 一冊 新板發行申出 板元 敦賀屋九兵衛 右板元よりの申出でを本屋行司にて閉届け板行 申出年月 寛政九年八月</p> <p>粹の道づれ 四冊 新板發行申出 作者 魚 丸 板元 鹽屋權平 右板元よりの申出でを本屋行司にて閉届け板行 申出年月 寛政九年九月</p> <p>歌曲若みどり 四冊</p>	<p>新板發行申出 板元 勝尾屋六兵衛 右板元よりの申出でを本屋行司にて閉届け板行 申出年月 寛政九年九月</p> <p>歌曲若美登里 四冊 抜ザリ二百五十番 新板發行申出 板元 勝尾屋六兵衛 右板元よりの申出でを本屋行司にて閉届け板行 申出年月 寛政九年九月</p> <p>宮南書札集 一冊 丁敷五十六丁 筆者 宮南耕齋 (高麗橋一丁目) 板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋一丁目) 出願 寛政九年十月二十三日 許可 寛政九年十一月廿四日</p> <p>俳諧分類 一冊 作者 尾崎春藏 (福木町) 板元 鹽屋忠兵衛 (北久太郎町五丁目) 出願 寛政九年十月二十三日 許可 寛政九年十一月廿四日</p>	<p>繪本太閤記 十冊 丁敷三百五十五丁 口繪増補發行願出 板元 勝尾屋六兵衛 出願 寛政九年十月二十三日 許可 寛政九年十一月廿四日</p> <p>字林玉篇大全 一冊 丁敷三百九十八丁 作者 鎌田 續 藏 (藤波村) 板元 吉文字屋市左衛門 (木挽町中之町) 出願 寛政九年十一月十四日 許可 寛政十年十月二十日</p> <p>字林玉篇大全補遺 一冊 丁敷六十一丁 作者 鎌田 續 藏 (藤波村) 板元 吉文字屋市左衛門 (木挽町中之町) 出願 寛政九年十一月十四日 許可 寛政十年十月二十日</p> <p>古今和歌集兩序雜言 二冊 丁敷六十三丁 作者 尾崎春藏 (福木町) 板元 本屋又兵衛 (博勢町)</p>
--	--	--	---

出願 寛政九年十一月十四日 許可 寛政十年十月二十日 狂歌尚友百首 一冊 丁數三十九丁 新板發行申出 作者 平野屋庄藏 板元 増田屋源兵衛 右板元よりの申出でを本屋行 司にて閉届け板行 申出年月 寛政九年十一月	集者 清、高士奇 板元 山口屋又一 出願 寛政九年十一月 許可 寛政十年二月十三日 合筆下江草 一冊 丁數二十丁 筆者 細合、半齋 板元 藤屋彌兵衛 出願 寛政九年十一月 許可 寛政十年二月十三日	出願 寛政九年十一月 許可 寛政十年二月十三日 四季發句類林抄 五冊 丁數三百六丁 作者 黃花菴升六 板元 鹽屋忠兵衛 出願 寛政九年十一月 許可 寛政十年二月十三日	出願 寛政九年十一月 許可 寛政十年二月十三日 紙漣調法記 一冊 丁數十九丁 作者 藤屋次兵衛 板元 秋田屋市兵衛 出願 寛政九年十一月	許可 寛政十年二月十三日 大橋集 一冊 丁數三十二丁 集者 橋、雅子、和(故人) 板元 本屋又兵衛 出願 寛政九年十一月 許可 寛政十年二月十三日	出願 寛政九年十一月 許可 寛政十年二月十三日 役者舞臺粧 三冊 丁數七十八丁 板元 綿屋喜兵衛 出願 寛政九年十二月	出願 寛政九年十二月 許可 寛政十年二月十三日 近世越路之雪 五冊 丁數五十九丁 作者 佐藤魚丸 板元 淺田屋清兵衛 出願 寛政九年十二月	出願 寛政九年十二月 許可 寛政十年二月十三日 本朝年代考記 親族一覽入 折本兩面摺 板元 鹽屋宗助 出願 寛政九年十二月	出願 寛政九年十二月 許可 寛政十年二月十三日 俳諧名所發句集 四冊 以前「俳諧名所方角」と題せし を此度改題發行申出 板元 柏原屋清右衛門 右板元よりの申出でを本屋行 司にて閉届け板行 申出年月 寛政九年十二月	出願 寛政九年十二月 許可 寛政十年二月十三日 眞宗即席文章 一冊 丁數二十丁 以前「眞宗要説」と題せしを此 度再板に際し平假名に直し改 題發行申出 板元 海部屋勤兵衛 右板元よりの申出でを本屋行 司にて閉届け板行 申出年月 寛政十年正月	出願 寛政十年八月七日 許可 寛政十年八月七日 繪本法の末廣 一冊 新板發行申出 作者 四好堂 板元 藤屋九兵衛 右板元よりの申出でを本屋行 司にて閉届け板行 申出年月 寛政十年正月	出願 寛政十年八月七日 許可 寛政十年八月七日 漫遊記 五冊 丁數八十八丁 作者 多氣能綾足
--	--	---	---	--	---	--	---	---	--	--	---

出願 寛政九年十一月
許可 寛政十年二月十三日
江村銷夏錄 四冊
丁數二百二十五丁 唐本翻刻

出願 寛政九年十一月
許可 寛政十年二月十三日
六合釋纂註 一冊
作者 釋無相
板元 敦賀屋九兵衛
出願 寛政十年四月
許可 寛政十年八月七日

出願 寛政十年六月十六日
許可 寛政十年八月七日
六合釋精義 一冊
作者 快道
板元 敦賀屋九兵衛
出願 寛政十年六月十六日
許可 寛政十年八月七日

出願 寛政十年八月七日
許可 寛政十年八月七日
冠辭考績紹 七冊
作者 上田餘齋
板元 柏原屋重兵衛
出願 寛政十年六月十六日
許可 寛政十年八月七日

出願 寛政十年八月七日
許可 寛政十年八月七日
初産身の守 小本一冊
新板發行申出
板元 河内屋喜兵衛
右板元よりの申出でを本屋行
司にて閉届け板行
申出年月 寛政十年七月十九日

出願 寛政十年八月七日
許可 寛政十年八月七日
古今名諺 小本一冊
作者 荒井半藏
板元 河内屋喜兵衛
出願 寛政十年八月
許可 寛政十年十一月六日

出願 寛政十年八月七日
許可 寛政十年八月七日
畫本異國一覽 五冊
作者 岡田玉山
板元 藤屋彌兵衛
出願 寛政十年八月
許可 寛政十年十一月六日

出願 寛政十年二月 許可 寛政十年五月十九日 御纂醫宗金鑑平脈辨脈 一冊 丁數二十丁 校合者 天野俊英 板元 敦賀屋九兵衛 出願 寛政十年二月 許可 寛政十年五月十九日	出願 寛政十年六月十六日 許可 寛政十年八月七日 東坡文抄 二冊 校合者 大川太良平 板元 河内屋八兵衛 出願 寛政十年四月 許可 寛政十年八月七日	出願 寛政十年六月十六日 許可 寛政十年八月七日 女訓いろは俗和哥 一冊 小本 新板發行申出 板元 敦賀屋九兵衛 右板元よりの申出でを本屋行 司にて閉届け板行 申出年月 寛政十年六月	出願 寛政十年六月十六日 許可 寛政十年八月七日 冠注分別六合釋 一冊 作者 智幢僧正 藏板主 大傳法院 出願 寛政十年六月十六日	出願 寛政十年六月十六日 許可 寛政十年八月七日 増補早引節用集 小本一冊 作者 山下重政(故人) 板元 柏原屋與左衛門 出願 寛政十年六月十六日 許可 寛政十年八月七日	出願 寛政十年六月十六日 許可 寛政十年八月七日 堺細見繪圖 折本一枚 作者 中井藍江 板元 柏原屋嘉兵衛 出願 寛政十年六月十六日 許可 寛政十年八月七日	出願 寛政十年六月十六日 許可 寛政十年八月七日 懷家相早合點 折本一枚 作者 祥月堂橋子(故人) 板元 藤屋彌兵衛 出願 寛政十年六月十六日	出願 寛政十年六月十六日 許可 寛政十年八月七日 繪本太閤記 二編 十六冊	出願 寛政十年六月十六日 許可 寛政十年八月七日 一休幼紳 五冊 以前「夢中一休」と題せしを此 度改題發行申出 板元 鹽屋權平 右板元よりの申出でを本屋行 司にて閉届け板行 申出年月 寛政十年二月	出願 寛政十年六月十六日 許可 寛政十年八月七日 六合釋纂註 一冊 作者 釋無相 板元 敦賀屋九兵衛 出願 寛政十年四月 許可 寛政十年八月七日	出願 寛政十年六月十六日 許可 寛政十年八月七日 六合釋精義 一冊 作者 快道 板元 敦賀屋九兵衛 出願 寛政十年六月十六日 許可 寛政十年八月七日	出願 寛政十年六月十六日 許可 寛政十年八月七日 冠辭考績紹 七冊 作者 上田餘齋 板元 柏原屋重兵衛 出願 寛政十年六月十六日 許可 寛政十年八月七日	出願 寛政十年六月十六日 許可 寛政十年八月七日 初産身の守 小本一冊 新板發行申出 板元 河内屋喜兵衛 右板元よりの申出でを本屋行 司にて閉届け板行 申出年月 寛政十年七月十九日	出願 寛政十年六月十六日 許可 寛政十年八月七日 古今名諺 小本一冊 作者 荒井半藏 板元 河内屋喜兵衛 出願 寛政十年八月 許可 寛政十年十一月六日	出願 寛政十年六月十六日 許可 寛政十年八月七日 畫本異國一覽 五冊 作者 岡田玉山 板元 藤屋彌兵衛 出願 寛政十年八月 許可 寛政十年十一月六日
--	---	---	---	--	---	---	--	---	---	---	---	--	--	---

<p>作者 岡田 玉山 板元 勝尾屋六兵衛 出願 寛政十年九月 許可 寛政十年十一月</p> <p>みをつくし 一冊 再板發行申出 板元 和泉屋卯兵衛 右板元よりの申出で本屋行 司にて開届け板行 申出年月 寛政十年九月</p> <p>つまえるし 小本一冊 新板發行申出 板元 和泉屋卯兵衛 右板元よりの申出で本屋行 司にて開届け板行 申出年月 寛政十年九月</p> <p>通俗西遊記 四篇七冊 作者 尾形 貞齋 板元 鹽屋 平助 出願 寛政十年九月 許可 寛政十年十月十六日 (南久寶寺町五丁目)</p> <p>古事附風流 小本一冊 新板發行申出 板元 増田屋源兵衛</p>	<p>右板元よりの申出で本屋行 司にて開届け板行 申出年月 寛政十年九月</p> <p>和漢年代箋 一冊 丁數二十四丁 作者 惠 光 板元 播磨屋九兵衛 出願 寛政十年十月 許可 寛政十年十一月 (高麗橋一丁目)</p> <p>俳諧こし扇 一冊 丁數二十七丁 作者 八千坊 駝岳 板元 鹽屋 忠兵衛 出願 寛政十年十月 許可 寛政十年十一月 (北久太郎町五丁目)</p> <p>繪本太閤記 三編 十二冊 丁數二百九十六丁 作者 岡田 玉山 板元 勝尾屋六兵衛 出願 寛政十年十月 許可 寛政十年十一月 (南久寶寺町五丁目)</p>	<p>狂哥類題集 五冊 以前「狂歌かみやま」と題せ しを此度改題發行申出 板元 藤屋 九兵衛 申出年月 寛政十年十一月</p> <p>古今怪談西曙物語 五冊 以前「東曙双紙」と題せしを此 度改題發行申出 板元 河内屋 八兵衛 申出年月 寛政十年十一月</p> <p>兩替手形便覽 小本一冊 作者 藤屋 九兵衛 板元 右 同人 出願 寛政十年十一月 許可 寛政十年十二月十七日 (安堂寺町五丁目)</p> <p>幼學今孝 經訓點付一冊 丁數十九丁 作者 清、王、雲、軒 板元 藤屋 善七 (高麗橋一丁目)</p>	<p>出願 寛政十年十一月 許可 寛政十年十二月十七日</p> <p>通俗西遊記 五篇七冊 丁數八十五丁 作者 尾形 貞齋 板元 鹽屋 平介 出願 寛政十年十一月 許可 寛政十年十二月十七日 (南久寶寺町五丁目)</p> <p>安心答問義 二冊 附録或問辨 丁數九十六丁 作者 釋 香 水 板元 藤屋 彌兵衛 出願 寛政十年十一月 許可 寛政十年十二月十七日 (高麗橋一丁目)</p> <p>温病論 二冊 丁數五十三丁 作者 蝦 又 玄 板元 河内屋 太介 出願 寛政十年十一月 許可 寛政十年十二月十七日 (高麗橋一丁目)</p> <p>浪速上古圖説并圖 四枚</p>
---	---	---	---

<p>丁數二十七丁 作者 中村 直朝 板元 柏原屋佐兵衛 出願 寛政十年十一月 許可 寛政十年十二月十七日 (高麗橋五丁目)</p> <p>新題和歌百首 一冊 丁數十三丁 作者 加藤 以 倫 板元 小川屋清右衛門 出願 寛政十年十二月 許可 寛政十年十二月十七日 (錦町二丁目)</p> <p>繪本二葉葵 二冊 新板發行申出 作者 松 好 齋 板元 鹽屋 長兵衛 右板元よりの申出で本屋行 司にて開届け板行 申出年月 寛政十年十二月</p> <p>詩熟字小笈 一冊 以前「俳名即鑑」と題せしを此 度改題發行申出 板元 奈良屋長兵衛</p>	<p>右板元よりの申出で本屋行 司にて開届け板行 申出年月 寛政十一年正月</p> <p>麻疹要論 一冊 作者 那須山 章元 板元 譽田屋伊右衛門 出願 寛政十一年二月 許可 寛政十一年二月 (博勢町)</p> <p>俳諧三十六哥仙 一冊 作者 夜半亭 蕪村(故人) 板元 鹽屋 忠兵衛 出願 寛政十一年二月 許可 寛政十一年二月 (北久太郎町五丁目)</p> <p>山居帖 一冊 筆者 董 其 昌 板元 譽田屋伊右衛門 右は素人の藏板なりしを此度 買受け發行いたしたしと譽田 屋伊右衛門よりの申出で本 屋行司にて開届け板行 申出年月 寛政十一年二月</p> <p>進物重寶記 一冊 以前「香信ろく」と題せしを此</p>	<p>度改題發行申出 板元 譽田屋伊右衛門 右板元よりの申出で本屋行 司にて開届け板行 申出年月 寛政十一年二月</p> <p>増補和字功過自知録 一冊 丁數四十一丁 作者 僧 竹 嵩 板元 藤屋 彌兵衛 出願 寛政十一年三月 許可 寛政十一年四月十二日 (高麗橋一丁目)</p> <p>俳諧十家類題集 五冊 丁數二百四十四丁 作者 八千坊 駝岳 板元 河内屋 多助 出願 寛政十一年三月 許可 寛政十一年四月十二日 (高麗橋一丁目)</p> <p>掌中和歌題林抄小本 一冊 丁數九十九丁 作者 尾崎 春 藏 板元 奈良屋長兵衛 出願 寛政十一年三月 許可 寛政十一年三月 (博勢町)</p>	<p>許可 寛政十一年四月十二日</p> <p>麻疹例草 一冊 丁數四十六丁 作者 橋爪 善八郎 板元 敦賀屋 九兵衛 出願 寛政十一年四月 許可 寛政十一年六月廿三日 (高麗橋一丁目)</p> <p>漢隸字源 六冊 丁數三百六十六丁 作者 吹田 屋 龍藏 板元 吹田 屋 龍藏 右板元よりの申出で本屋行 司にて開届け板行 申出年月 寛政十一年四月</p> <p>繪本太閤記四編 十二冊 丁數二百六十九丁 作者 岡田 玉山 板元 勝尾屋六兵衛 出願 寛政十一年四月 許可 寛政十一年四月 (南久寶寺町五丁目)</p>
---	--	--	--

許可 寛政十一年七月廿三日

玄賞齋法帖

一冊

筆者 董其昌

右は素人の藏板なりしを此度買受け發行いたしたし山口屋又一よりの申出でを本屋行司にて開届け板行

申出年月 寛政十一年四月

書翰指南抄

一冊

以前「草書圖鏡」と題せしを此度改題發行申出

板元 河内屋太助

右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行

申出年月 寛政十一年四月

品玉傳授種

五冊

以前「天狗通」と題せしものと「放下茶」と題せしものとを合せ此度改題發行申出

板元 鹽屋喜助

右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行

申出年月 寛政十一年五月

輕口新玉繻

五冊

新板發行申出

板元 和泉屋卯兵衛

右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行

申出年月 寛政十一年五月

口科手引草

小本一冊

以前「口科秘義」と題せしを此度改題發行申出

板元 藤屋善七

右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行

申出年月 寛政十一年五月十八日

年回早繰指掌圖

折本

選者 小刀屋六兵衛

（津村東之町）

板元 右 同人

出願 寛政十一年六月

許可 寛政十一年八月十九日

大洲孝子傳

五冊

選者 川田資深

（大洲）

板元 播磨屋嘉助

（上磯波町）

出願 寛政十一年六月

許可 寛政十一年八月九日

大日本年號箋

折本一冊

以前「萬代箋」と題せしを此度改題發行申出

板元 奈良屋長兵衛

右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行

申出年月 寛政十一年七月五日

常用翰要集

一冊

新板發行申出

板元 吉文字屋市左衛門

右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行

申出年月 寛政十一年七月

永代過去帖

一冊

新板發行申出

板元 河内屋太助

右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行

申出年月 寛政十一年八月

知音浪花のほとり

一冊

丁敷四十三丁 新板發行申出

板元 鹽屋三郎兵衛

右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行

申出年月 寛政十一年八月

安土問答繪抄

五冊

丁敷七十八丁

作者 譽（故人）

板元 藤屋六兵衛

（附記）本書は寛政十一年九月十五日板行相成らざる旨申渡され原稿は公儀に没收せらる

南遊記

五冊

丁敷六十八丁 新板發行申出

板元 藤屋九兵衛

右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行

申出年月 寛政十一年八月

附註新木賊

後篇一冊

新板發行申出

板元 鹽屋平助

右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行

申出年月 寛政十一年八月

四家諸通文箋

二冊

作者 戸田榮治

（袋屋町）

板元 秋田屋市兵衛

（安堂寺町五丁目）

出願 寛政十一年九月

許可 寛政十一年九月十五日

俳諧十家類題集

五冊

訂正發行願出

作者 八千坊 陀岳

（江戸堀二丁目）

板元 河内屋太助

（龜屋町）

出願 寛政十一年九月

許可 寛政十一年九月十五日

狂歌浪花梅

五冊

作者 尾形貞齋

（古金町）

出願 寛政十一年八月

許可 寛政十一年九月十日

唐韻指迷

一冊

作者 河内屋太介

（龜屋町）

出願 寛政十一年十月

許可 寛政十一年十月廿七日

古易察病傳

一冊

作者 便道

（紀州）

板元 藤屋彌兵衛

出願 寛政十一年十月

（高麗橋二丁目）

許可 寛政十一年十月廿七日

和漢摺印補正

一冊

作者 鳥羽万七郎

（京都）

板元 藤屋彌兵衛

（高麗橋二丁目）

出願 寛政十一年十月

許可 寛政十一年十月廿七日

大全文字通

一冊

作者 鳥飼洞齋

（本橋町中之丁）

板元 吉文字屋市左衛門

（本橋町中之丁）

出願 寛政十一年十一月

許可 寛政十一年十二月二十七日

文章字畫大成

一冊

作者 増田甚兵衛

（本橋町中之丁）

出願 寛政十一年十一月

許可 寛政十一年十二月二十七日

寺子教訓四民往來

一冊

筆者 西守貞丈

（本橋町中之丁）

板元 吉文字屋市左衛門

（本橋町中之丁）

出願 寛政十一年十一月

（高麗橋二丁目）

許可 寛政十一年十二月二十七日

雅尾上鐘摺

一冊

校合人 三浦要助

（播州高砂）

板元 柏原屋嘉兵衛

（博野町）

出願 寛政十一年十一月

許可 寛政十一年十二月二十七日

山水奇觀

後篇四冊

畫家 淵上旭江

（江戸堀五丁目）

板元 敦賀屋九兵衛

（龜屋町）

出願 寛政十一年十一月

許可 寛政十一年十二月二十七日

大誠解

一冊

作者 森川丈助

（讃州九徳）

板元 増田屋源兵衛

（龜屋町二丁目）

出願 寛政十一年十一月

許可 寛政十一年十二月二十七日

折々紳

五冊

作者 建利助

（百貫町）

板元 扇屋利助

（百貫町）

出願 寛政十一年十一月

（高麗橋二丁目）

許可 寛政十一年十二月二十七日

南北相法

五冊

作者 健屋伊兵衛

（吉野屋町）

板元 扇屋利助

（百貫町）

出願 寛政十一年十一月

許可 寛政十一年十二月二十七日

繪本太閤記

五篇十二冊

作者 岡田玉山

（南久太郎町五丁目）

板元 藤屋六兵衛

（南久太郎町五丁目）

出願 寛政十一年十一月

許可 寛政十一年十二月二十七日

醫療衆方規矩

一冊

作者 鳥飼洞齋

（本橋町中之丁）

板元 吉文字屋市左衛門

（本橋町中之丁）

出願 寛政十一年十一月

許可 寛政十一年十二月二十七日

繪本忠臣蔵

五冊

畫工 荒田屋榮二郎

（北橋屋町）

<p>板元 扇屋利助 (百貫町)</p> <p>出願 寛政十一年十一月</p> <p>許可 寛政十一年十二月二十七日</p> <p>野暮のしほり 四冊</p> <p>丁敷四十四丁 新板發行申出</p> <p>板元 柏原屋重兵衛</p> <p>右板元よりの申出で本屋行</p> <p>司にて開届け板行</p> <p>申出年月 寛政十一年十二月</p> <p>發句つみまつ</p> <p>新板發行申出</p> <p>板元 柏原屋重兵衛</p> <p>右板元よりの申出で本屋行</p> <p>司にて開届け板行</p> <p>申出年月 寛政十一年十二月</p> <p>七高僧論釋</p> <p>以前「安樂集」と題せしもの「五部九卷」と題せしもの「選擇集」と題せしもの「講阿彌陀」と題せしもの「往生要集」と題せしもの「往生論注」と題せしもの「易行品」と題せしもの以上七種を合せ此度改題發行申出</p> <p>板元 本屋又兵衛</p> <p>右板元よりの申出で本屋行</p>	<p>司にて開届け板行</p> <p>申出年月 寛政十一年十二月</p> <p>山水奇觀 前編 四冊</p> <p>作者 淵上旭江 (江戸堀五丁目)</p> <p>本書藏板主は紀州和歌山藤江九兵衛なりしが此度銚屋町教賀屋九兵衛にて板木を買受け板行願出</p> <p>板元 教賀屋九兵衛 (鶴屋町)</p> <p>出願 寛政十二年二月</p> <p>許可 寛政十二年四月廿二日</p> <p>道二翁道話 三篇 二冊</p> <p>丁敷五十八丁</p> <p>作者 八宮勳 (藤州大藤村)</p> <p>板元 本屋吉兵衛 (鶴屋町)</p> <p>出願 寛政十二年二月</p> <p>許可 寛政十二年四月廿二日</p> <p>會所往來 一冊</p> <p>筆者 戸田榮治 (炭屋町)</p> <p>板元 秋田屋市兵衛 (安堂寺町五丁目)</p> <p>出願 寛政十二年二月</p>	<p>〔附記〕本書出願に對し寛政十二年四月二十二日會所往來は公道に拘はり候文章有之に付板行相成らずとの趣を以て却下さる</p> <p>世話千字文 一冊</p> <p>筆者 竹村勝藏 (今橋二丁目)</p> <p>板元 平野屋半右衛門 (天満又次郎町)</p> <p>出願 寛政十二年二月</p> <p>許可 寛政十二年四月廿二日</p> <p>肥前風土記 一冊</p> <p>丁敷十六丁</p> <p>校合者 宇治五十槻 (雲路屋町)</p> <p>板元 河内屋喜兵衛 (北久太郎町五丁目)</p> <p>出願 寛政十二年二月</p> <p>許可 寛政十二年四月廿二日</p> <p>にひまなひ 一冊</p> <p>丁敷二十二丁</p> <p>作者 加茂眞淵(故人) (上藤波町)</p> <p>板元 播磨屋嘉介 (上藤波町)</p> <p>出願 寛政十二年二月</p> <p>許可 寛政十二年四月廿二日</p>	<p>腹證奇覽 二冊</p> <p>丁敷五十七丁</p> <p>作者 稻葉意伸 (京)</p> <p>板元 河内屋喜兵衛 (北久太郎町五丁目)</p> <p>出願 寛政十二年二月</p> <p>許可 寛政十二年四月廿二日</p> <p>監本四書集註 五冊</p> <p>點合者 高宮環中 (北久太郎二丁目)</p> <p>校合者 池内尙友 (北久太郎二丁目)</p> <p>板元 河内屋八兵衛 (北久太郎二丁目)</p> <p>出願 寛政十二年二月</p> <p>許可 寛政十二年四月廿二日</p> <p>呂新吾先生語錄 三冊</p> <p>校合者 若槻源三郎 (京)</p> <p>板元 河内屋太助 (鶴屋町)</p> <p>出願 寛政十二年二月</p> <p>許可 寛政十二年四月廿二日</p> <p>監本無點四書集註 五冊</p> <p>句讀 池内尙友 (北久太郎二丁目)</p> <p>板元 河内屋八兵衛 (北久太郎二丁目)</p>
--	---	---	--

<p>出願 寛政十二年二月</p> <p>許可 寛政十二年四月廿二日</p> <p>近世貞婦傳 五冊</p> <p>以前「教訓人の杖」と題せしを此度改題發行申出</p> <p>板元 河内屋八兵衛</p> <p>右板元よりの申出で本屋行</p> <p>司にて開届け板行</p> <p>申出年月 寛政十二年三月</p> <p>〔附記〕原本には板元河内屋八兵衛の肩書に「池ノ内」の三字あり</p> <p>艶廓通覽 五冊</p> <p>新板發行申出</p> <p>板元 柏原屋重兵衛</p> <p>右板元よりの申出で本屋行</p> <p>司にて開届け板行</p> <p>申出年月 寛政十二年四月</p> <p>大徳濟陰方 二冊</p> <p>以前「産科秘録」と題せしもの此度改題發行申出</p> <p>板元 泉屋宇兵衛</p> <p>右板元よりの申出で本屋行</p> <p>司にて開届け板行</p> <p>申出年月 寛政十二年三月</p>	<p>和讀講翼 五冊</p> <p>作者 釋常照 (京)</p> <p>板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋一丁目)</p> <p>出願 寛政十二年三月</p> <p>〔附記〕この出願に對し同月二十三日本書の板行は先づ本山に届け済みの上にて其の手續に及ぶべしとて却下せらる</p> <p>扣重法記 折本 一冊</p> <p>以前「年回早合點」と題せしを此度改題發行申出</p> <p>板元 鹽屋三郎兵衛</p> <p>右板元よりの申出で本屋行</p> <p>司にて開届け板行</p> <p>申出年月 寛政十二年四月</p> <p>袖珍年曆重法記 折本 一冊</p> <p>新板發行申出</p> <p>板元 小刀屋六兵衛</p> <p>右板元よりの申出で本屋行</p> <p>司にて開届け板行</p> <p>申出年月 寛政十二年四月</p> <p>詩聯指掌 一冊</p> <p>以前「掌中聯錦」と題せしを此度改題發行申出</p>	<p>板元 秋田屋市兵衛</p> <p>右板元よりの申出で本屋行</p> <p>司にて開届け板行</p> <p>申出年月 寛政十二年四月</p> <p>雲根志 三編 六冊</p> <p>作者 木内小繁</p> <p>板元 鹽屋平介</p> <p>出願 寛政十二年四月十五日</p> <p>許可 寛政十二年五月十三日</p> <p>諸國獨案内 折本 一冊</p> <p>作者 増田甚兵衛</p> <p>板元 吉文字屋源十郎 (木挽町仲之丁)</p> <p>出願 寛政十二年四月十五日</p> <p>許可 寛政十二年五月十三日</p> <p>相生松樹箋 一冊</p> <p>作者 三浦要助 (播州高砂)</p> <p>板元 柏原屋嘉兵衛 (博勢町)</p> <p>出願 寛政十二年四月十五日</p> <p>許可 寛政十二年五月十三日</p> <p>癩疹便覽 一冊</p> <p>作者 藥師寺壽軒 (兵)</p>	<p>板元 教賀屋九兵衛 (鶴屋町)</p> <p>出願 寛政十二年四月</p> <p>許可 寛政十二年五月十三日</p> <p>〔附記〕本書は以前兵庫藥師寺壽軒方の藏板なりしが教賀屋九兵衛にて先方と交渉の上その板木を買受け板元を願出でたるなり</p> <p>津國八十八所弘法大師巡拜記 一冊</p> <p>新板發行申出</p> <p>板元 鹽屋三郎兵衛</p> <p>右板元よりの申出で本屋行</p> <p>司にて開届け板行</p> <p>申出年月 寛政十二年四月</p> <p>神道講釋評論 二冊</p> <p>以前「殘口猿轡」と題せしもの内より抜摺し此度改題發行申出</p> <p>板元 藤屋善七</p> <p>右板元よりの申出で本屋行</p> <p>司にて開届け板行</p> <p>申出年月 寛政十二年四月</p> <p>衣箱考 二冊</p> <p>作者 有山治平 (伏見兩替町)</p>
--	--	---	---

板元 柏原屋重兵衛 (博勢町) 出願 寛政十二年五月 許可 寛政十二年七月	板元 播磨屋嘉助 右板元よりの申出でを本屋行 司にて閉届け板行 申出年月 寛政十二年閏四月	筆者 戸田 榮治 (炭屋町) 板元 秋田屋市兵衛 (安堂寺町五丁目) 出願 寛政十二年六月 許可 寛政十二年七月廿八日	作者 吉田 元良 (常崎船大工町) 板元 藤屋吉兵衛 (藤屋町) 出願 寛政十二年六月 許可 寛政十二年七月廿八日
作者 明、董其昌 板元 藤屋彌兵衛 (高橋橋一丁目) 出願 寛政十二年五月 許可 寛政十二年七月	以前「俳諧青根峯」と題せしを 此度改題發行申出 板元 平野屋半右衛門 右板元よりの申出でを本屋行 司にて閉届け板行 申出年月 寛政十二年五月	作者 加藤 景範 (故人) 板元 小川屋清右衛門 (錦町二丁目) 出願 寛政十二年六月 許可 寛政十二年七月廿八日	作者 宇治 五十槻 (伊勢元木田御主) 板元 鹽屋忠兵衛 (北久太郎町五丁目) 出願 寛政十二年六月 許可 寛政十二年七月廿八日
再板發行願出 作者 山下 重政 (故人) 板元 柏原屋與左衛門 (願慶町五丁目) 出願 寛政十二年五月 許可 寛政十二年七月	折句題林集 一冊 新板發行申出 板元 鹽屋 平助 右板元よりの申出でを本屋行 司にて閉届け板行 申出年月 寛政十二年五月	東海道中案見圖 折本一冊 作者 西守 貞丈 (岩田町) 板元 吉文字屋市左衛門 (木挽町中ノ町) 出願 寛政十二年六月 許可 寛政十二年七月廿八日	雙後國風土記 一冊 校合者 宇治 五十槻 (勢州元木田御主) 板元 河内屋喜兵衛 (北久太郎町五丁目) 出願 寛政十二年六月 許可 寛政十二年七月廿八日
獨醒菴集 作者 平賀 周藏 (勢州廣島) 板元 加嶋屋久兵衛 (高橋橋四軒町) 出願 寛政十二年五月 許可 寛政十二年七月	世話千字文 一冊 問屋往來 商賣往來	俳諧發句題葉集 五冊 作者 黃花 菴升六 (木挽町南之町) 板元 奈良屋長兵衛 (博勢町) 出願 寛政十二年六月 許可 寛政十二年七月廿八日	風雪發句集 二冊 以前「支峰集」と題せしを此度 改題發行申出 板元 河内屋太介 右板元よりの申出でを本屋行
豫州 好人録 五冊 以前「豫州孝子傳」と題せしを 大洲	此度改題發行申出 板元 播磨屋嘉助 右板元よりの申出でを本屋行 司にて閉届け板行 申出年月 寛政十二年閏四月	民間論草 一冊 作者 加藤 景範 (故人) 板元 小川屋清右衛門 (錦町二丁目) 出願 寛政十二年六月 許可 寛政十二年七月廿八日	契沖法師富士山和哥 百詠 一冊 双鈎者 荒井 牛藏 (四軒町) 藏板主 宇治 五十槻 (勢州山田元木田御主) 賣弘 河内屋喜兵衛 (北久太郎町五丁目) 出願 寛政十二年六月 許可 寛政十二年七月廿八日

司にて閉届け板行 申出年月 寛政十二年七月	諸國方言 五冊 以前「物類稱呼」と題せしを此 度改題發行申出 板元 小刀屋六兵衛 右板元よりの申出でを本屋行 司にて閉届け板行 申出年月 寛政十二年七月	出願 寛政十二年八月 (博勢町) 許可 寛政十二年十月八日	板元 河内屋惣兵衛 (南久太郎町六丁目) 出願 寛政十二年八月 許可 寛政十二年十月八日
筆道早合點 三冊 以前「筆道指南大成」と題せし もの「筆文章」と題せしもの 「大萬寶節用」と題せしもの 内より三都圖「筆學用文」と題 せしもの、本文技措「御家千 文字釋文」と題せしもの、堀風 月往來」と題せしもの以上六 種取合せて三冊にし此度改題 發行申出 板元 泉屋卯兵衛 右板元よりの申出でを本屋行 司にて閉届け板行 申出年月 寛政十二年七月	改正江戸道中記 一冊 作者 大村喜兵衛 (南久寶寺町四丁目) 板元 柏原屋嘉兵衛 (博勢町) 出願 寛政十二年八月 許可 寛政十二年十月八日	氣疾證治 一冊 作者 由良 登的 (説州) 板元 河内屋喜兵衛 (北久太郎町五丁目) 出願 寛政十二年八月 許可 寛政十二年十月八日	劇場樂屋圖會 二冊 丁敷二十九丁 新板發行申出 板元 鹽屋長兵衛 右板元よりの申出でを本屋行 司にて閉届け板行 申出年月 寛政十二年八月二十六 日
掌中源氏物語 一冊 作者 尾崎 雅嘉 (櫻木町) 板元 ならや長兵衛	祝詞考 三冊 作者 加茂 眞淵 (故人)	古戦擊要 二冊 作者 鈴木 昌則 (播州姫路) 板元 柏原屋嘉兵衛 (博勢町) 出願 寛政十二年八月 許可 寛政十二年十月八日	團七時雨傘 三冊 丁敷一百二十丁 新板發行申 出 板元 鹽屋長兵衛 右板元よりの申出でを本屋行 司にて閉届け板行 申出年月 寛政十二年八月二十六 日
繪本女雜書 五冊 作者 岡田 玉山 (南久太郎町六丁目) 板元 柏原屋重兵衛 (博勢町) 出願 寛政十二年九月 許可 寛政十二年十一月二十四日	日本諸家詩選 前編 後編 五冊 以前「向風集」と題せしを此度 改題發行申出 板元 奈良屋長兵衛 右板元よりの申出でを本屋行 司にて閉届け板行 申出年月 寛政十二年八月	鍼灸便覽 一冊 以前「愈安便覽」と題せしを此 度改題發行申出 板元 奈良屋長兵衛 右板元よりの申出でを本屋行 司にて閉届け板行 申出年月 寛政十二年八月	嗚呼 芙蓉 五冊 作者 田宮 素洲 (讃岐屋町) 板元 小刀屋六兵衛 (津村東ノ町) 出願 寛政十二年九月 許可 寛政十二年十一月二十四日

許可 寛政十二年十一月二十四日
群書一覽 五冊
 作者 尾崎春藏 (尾崎町)
 板元 海部屋勘兵衛 (小濱町)
 出願 寛政十二年九月
 許可 寛政十二年十一月二十四日
繪本三韓軍記 十二冊
 作者 中川昌房 (木挽町北之町)
 畫師 丹羽桃溪 (博勢町)
 板元 本屋又兵衛 (博勢町)
 出願 寛政十二年九月
 許可 寛政十二年十一月二十四日
孟子外書 一冊
 作者 宋、劉貢文 (北久太郎町五丁目)
 板元 河内屋吉兵衛 (北久太郎町五丁目)
 出願 寛政十二年九月
 許可 寛政十二年十一月二十四日
書札早手本 一冊
 以前「尺牘用文章」と題せしを
 此度改題發行申出
 板元 柏原屋嘉兵衛 (藤原町)

右板元よりの申出で本屋行
 司にて開届け板行
 申出年月 寛政十二年九月
珍術万寶笈 七冊
 以前「さんげ倍」と題せしもの
 「世寶傳授袋」と題せしもの
 「世寶傳授袋續篇」と題せしもの
 の「萬世秘事枕」と題せしもの
 「唐土秘事海」と題せしもの
 上の五種を取合せて七冊とし
 此度改題發行申出
 板元 和泉屋卯兵衛 (藤原町)
 右板元よりの申出で本屋行
 司にて開届け板行
 申出年月 寛政十二年九月
壽仕様傳授 一冊
 以前「長生壽得録」と題せしを
 此度改題發行申出
 板元 小刀屋六兵衛 (藤原町)
 右板元よりの申出で本屋行
 司にて開届け板行
 申出年月 寛政十二年九月
繪本拾遺信長記 十五冊
 作者 秋里仁左衛門 (京都)
 板元 譽田屋伊右衛門 (博勢町)

出願 寛政十二年九月
古文眞實正文 二冊
 校合者 早水玄義 (龜津原住吉)
 板元 柏原屋與左衛門 (藤原町五丁目)
 出願 寛政十二年九月
 許可 寛政十二年十一月廿四日
六書通 古篆之部 六冊
 双鈎者 鎌田積藏 (藤原町)
 板元 河内屋喜兵衛 (北久太郎町五丁目)
 出願 寛政十二年十月
 許可 寛政十二年十二月八日
書札便覽 一冊
 筆者 長武左衛門(故人)
 板元 柏原屋嘉兵衛 (博勢町)
 出願 寛政十二年九月
 許可 寛政十二年十一月二十四日
篆書西銘 一冊
 筆者 太平寺屋彌兵衛 (藤原町)
 板元 藤屋吉兵衛 (藤原町)

出願 寛政十二年十月
 許可 寛政十二年十二月八日
古今警世通語 五冊
 作者 鈴木七郎 (舟町)
 板元 升屋七右衛門 (舟町)
 出願 寛政十二年十月
 許可 寛政十二年十二月八日
繪本二嶋英勇記 十冊
 作者 環玉 (南藤原町)
 板元 鹽屋宗助 (南久太郎町)
 出願 寛政十二年十月
 許可 寛政十二年十二月八日
歌詩新題百首 一冊
 作者 加藤以備 (錦町二丁目)
 板元 小川屋清右衛門 (錦町二丁目)
 出願 寛政十二年十月
 許可 寛政十二年十二月八日
増補相場高下傳 小本 一冊
 丁数六十八丁

作者 田宮素洲 (殿屋町)
 板元 河内屋留介 (北久太郎町五丁目)
 出願 寛政十二年十一月
 許可 寛政十二年正月二十日
諸國妙見尊靈驗記 一冊
 作者 鈴木七郎 (舟町)
 板元 升屋七右衛門 (舟町)
 出願 寛政十二年十一月
 許可 寛政十二年正月二十日
大阪より登船獨案内
 三つ切小本 一冊
 作者 安藤一言 (安堂寺町五丁目)
 板元 藤屋九兵衛 (安堂寺町五丁目)
 出願 寛政十二年十一月
 許可 寛政十二年正月二十日
按摩指南大成 一冊
 作者 高智徳 (江戸三味線場)
 板元 小刀屋六兵衛 (津村東之丁)
 出願 寛政十二年十一月

許可 寛政十三年正月二十日
繪本太平記 一冊
 作者 環玉 (南藤原町)
 板元 鹽屋宗助 (南久太郎町六丁目)
 出願 寛政十二年十一月
 許可 寛政十三年正月二十日
韓本蒙求 三冊
 校合者 大典 (京相國寺目心菴)
 板元 日野屋彦左衛門 (北久太郎町五丁目)
 出願 寛政十二年十一月
 許可 寛政十三年正月二十日
はいかい四季類題集 五冊
 作者 七杉堂奇淵 (藤原町一丁目)
 板元 鹽屋忠兵衛 (北久太郎町五丁目)
 出願 寛政十二年十一月
 許可 寛政十三年正月二十日
算藪 かな付 一冊
 作者 秦石田 (油町)

板元 勝尾屋六兵衛 (南久太郎町五丁目)
 出願 寛政十二年十一月
 許可 寛政十三年正月二十日
都會節用百家通 一冊
 増補訂正願出
 作者 高安庄二郎(故人)
 板元 泉屋卯兵衛 (長堀心齋町)
 出願 寛政十二年十一月
 許可 寛政十三年正月二十日
狂哥雪月花 一冊
 新板發行申出
 撰者 陰山梅好 (今橋二丁目)
 板元 鹽屋三郎兵衛 (今橋二丁目)
 右板元よりの申出で本屋行
 司にて開届け板行
 申出年月 寛政十二年十一月九日
貞柳狂哥犬百人一首 一冊
 新板發行申出
 撰者 陰山梅好 (今橋二丁目)
 板元 鹽屋三郎兵衛 (今橋二丁目)
 右板元よりの申出で本屋行

司にて開届け板行
 申出年月 寛政十二年十一月九日
繪本太閤記六編 十二冊
 作者 岡田玉山 (南久太郎町六丁目)
 板元 勝尾屋六兵衛 (南久太郎町五丁目)
 出願 寛政十二年十一月
 許可 寛政十三年正月十六日
療治茶談續篇 一冊
 同附ろく 一冊
 板元 柏原屋十兵衛
 本書は素人の板行なりしを柏
 原屋十兵衛方にて板木を買受
 け發行申出
 右板元よりの申出で本屋行
 司にて開届け板行
 申出年月 寛政十二年十一月
繪本拾遺信長記 十五冊
 作者 秋里仁左衛門 (京都)
 板元 譽田屋伊右衛門 (博勢町)
 出願 寛政十二年十一月
 許可 享和元年三月十四日
倭教訓力草 五冊

以前「碎玉優庭訓」と題せしを
此度改題發行申出
板元 河内屋八兵衛
右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行
申出年月 寛政十二年十二月五日

はいかい問答 五冊
以前「青根ヶ峯」と題せしを此
度改題發行申出
板元 平野屋半左衛門
右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行
申出年月 寛政十二年十二月五日

萬年曆雜書大成 一冊
以前「萬寶雜書元三御圖入」と
題せしを此度改題發行申出
板元 吉文字屋市左衛門
右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行
申出年月 寛政十二年十二月五日

女用手引草 一冊
以前「女千歳和訓文」と題せし
を此度改題發行申出
板元 吉文字屋市左衛門

右板元よりの申出でを本屋司
にて開届け板行
申出年月 寛政十二年十二月五日

當用證文大全 一冊
新板發行申出
板元 河内屋留介
右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行
申出年月 寛政十三年正月十一日

名家和歌集 二冊
以前「和歌山下水」と題せしを
此度改題發行申出
板元 河内屋喜兵衛
右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行
申出年月 寛政十三年二月五日

女萬寶操鑑 一冊
以前「婦人養草」と題せしを此
度改題發行申出
板元 海部屋勘兵衛
右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行
申出年月 寛政十三年二月五日

折句誹諧小笠 折本 一冊
新板發行申出
作者 園田 萩風
板元 和泉屋卯兵衛
右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行
申出年月 寛政十三年二月五日

浪花近古圖 折本 一枚摺
以前「浪花往古圖」と題せしを
此度改題發行申出
板元 柏原屋佐兵衛
右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行
申出年月 寛政十三年二月五日

董其昌滕王閣賦 二冊
新板發行申出
板元 吹田屋龍藏
代判 安兵衛
右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行
申出年月 寛政十三年二月

當隨一小うたひ 一冊
流 田宮 由藏

板元 秋田屋市兵衛
出願 寛政十三年二月
許可 享和元年四月六日

東 牖 子 五冊
作者 田宮 由藏
板元 秋田屋市兵衛
出願 寛政十三年二月
許可 享和元年四月六日

萬歳大雜書日用寶 一冊
作者 下河邊拾水(故人)
板元 柏原屋清右衛門
出願 寛政十三年二月
許可 享和元年四月六日

後撰百人一首 一冊
校合者 陸 柳 窓
板元 奈良屋長兵衛
出願 寛政十三年二月
許可 享和元年四月六日

奇説徒然草 四冊
以前「釋門徒然草」と題せしを
此度改題發行申出

板元 鹽屋長兵衛
右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行
申出年月 寛政十三年二月

童學重寶記 一冊
以前「寺子指南車」と題せしを
此度改題發行申出
板元 勝尾屋六兵衛
右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行
申出年月 享和元年三月

繪本敵打孝女傳 六冊
丁數一百二十一丁
作者 木 卷(故人)
板元 鹽屋忠兵衛
出願 享和元年三月
許可 享和元年五月二十七日

算法大全指南車 一冊
以前「算法指南車」と題せしもの
と「算數」と題せしものとを
合本とし此度改題發行申出
板元 勝尾屋六兵衛
右板元よりの申出でを本屋行

司にて開届け板行
申出年月 享和元年三月

元三大師御關 一冊
作者 富尾平兵衛(故人)
板元 勝尾屋六兵衛
出願 享和元年三月十四日
許可 享和元年五月十二日

史記(鍾伯敬制定) 十五冊
以前「史記正文」と題せしを此
度改題發行申出
板元 河内屋喜兵衛
右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行
申出年月 享和元年三月

養生談 一冊
丁數四十四丁
作者 谷 了 閑
板元 播磨屋嘉助
出願 享和元年四月
許可 享和元年五月二十七日

茶湯獨稽古 二篇
折本 一冊

作者 一 雨 菴(故人)
板元 鹽屋忠兵衛
出願 享和元年四月
許可 享和元年五月二十七日

夜半翁蕪村遺稿 一冊
丁數五十八丁
集者 鹽屋忠兵衛
板元 右 同 人
出願 享和元年四月
許可 享和元年五月二十七日

國雅管窺 一冊
丁數十九丁
作者 加藤 景範(故人)
板元 小川屋清右衛門
出願 享和元年五月
許可 享和元年七月十三日

家相大全 三冊
丁數九十四丁
作者 松浦長門 椽
板元 藤屋彌兵衛
出願 享和元年五月
許可 享和元年七月十三日

正信偈和讀(無章) 一冊
丁數二百二十一丁
校合者 長 圓 寺
板元 譽田屋伊右衛門
出願 享和元年五月
許可 享和元年七月十三日

腹證奇覽 後篇 二冊
丁數七十一丁
作者 稻葉 意 仲
板元 河内屋喜兵衛
出願 享和元年五月
許可 享和元年七月十三日

廓中一覽 一冊
以前「浪花青樓志」と題せしを
此度改題發行申出
板元 和泉屋卯兵衛
右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行
申出年月 享和元年五月

象棋六要 小本 一冊
新板發行申出

象棋袖珍 小本 二冊

<p>新板發行申出 象棋藏庫 小本一冊 新板發行申出 象棋珍手選 小本二冊 計四種 新板發行申出 板元 海部屋勘兵衛 (小瀨町) 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 享和元年五月</p>	<p>出願 享和元年五月 許可 享和元年七月十三日 當流和讀 寸珍一冊 校合者 應因寺 板元 勝尾屋六兵衛 (南久寶寺町五丁目) 出願 享和元年五月 許可 享和元年七月十三日 懷寶料理即珍 折本一冊 作者 西守貞丈 (岩田町) 板元 吉文字屋利助 (安堂寺町五丁目) 出願 享和元年五月十三日 許可 享和元年七月十三日 折句大全 一冊 新板發行申出 板元 柏原屋嘉兵衛 (南久太郎町六丁目) 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 享和元年五月 増補新大成のしらべ 新板發行申出 板元 柏原屋與左衛門 (順慶町五丁目)</p>	<p>右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 享和元年五月 繪本濫褻錦 一冊 新板發行申出 作者 多田一芳 (故人) 板元 播磨屋嘉助 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 享和元年五月 懷寶早字引 一冊 以前「懷引節用集」と題せしを 此度改題發行申出 板元 藤屋平助 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 享和元年五月 當時素人庖丁 一冊 三ツ切小本 作者 淺野安藏 (淨國寺町) 板元 勝尾屋六兵衛 (南久寶寺町五丁目) 出願 享和元年五月 許可 享和元年九月十三日 あやはとり 小本一冊</p>	<p>作者 早川圓橋 (甲州) 板元 奈良屋長兵衛 (博勢町) 出願 享和元年五月 許可 享和元年九月十三日 蕉門俳諧七書 小本三冊 作者 佐野曾藏 (輪町) 板元 奈良屋長兵衛 (博勢町) 出願 享和元年五月 許可 享和元年九月十三日 烟花談名錄 三冊 作者 田宮山藏 (讀岐屋町) 板元 和泉屋卯兵衛 (長瀬心齋町) 出願 享和元年五月 許可 享和元年九月十三日 腹證奇覽附錄 一冊 新板發行申出 板元 河内屋喜兵衛 (北久太郎町五丁目) 右板元よりの申出でを本屋行</p>
---	---	--	--

<p>司にて開届け板行 申出年月 享和元年六月 人言種後篇 二冊 半紙本 作者 丹波屋西左衛門 (布屋町) 板元 扇屋利助 (百貫町) 出願 享和元年七月 許可 享和元年十二月十一日 文通大全 半紙本一冊 筆工 永田慶治 (高瀬橋一丁目) 板元 吉文字屋市左衛門 (木挽町中之丁) 出願 享和元年七月 許可 享和元年十二月十一日 繪本西遊記初篇 十冊 半紙本 作者 法橋玉山 (南久太郎町六丁目) 板元 泉屋卯兵衛 (長瀬心齋町) 出願 享和元年七月 許可 享和元年十二月十一日</p>	<p>遺志初巻 二冊 作者 細合半齋 (一身田御門跡御内) 板元 藤屋彌兵衛 (高瀬橋一丁目) 出願 享和元年七月 許可 享和元年十二月十一日 文章包彈 一冊 作者 岡島恕助 (石見濱田) 板元 加賀屋善藏 (北久太郎町五丁目) 出願 享和元年七月 許可 享和元年十二月十一日 唐土名勝圖會 五冊 丁數二百五十二丁 作者 陸丈右衛門 板元 河内屋吉兵衛 (北久太郎町五丁目) 出願 享和元年七月 許可 享和元年十二月十一日 人間好次第 二冊 丁數四十丁 作者 釜屋清藏 (泉屋町) 板元 藤屋九兵衛 (安堂寺町五丁目)</p>	<p>出願 享和元年七月 許可 享和元年十二月十一日 繪本國性爺傳 十三冊 丁數三百四十二丁 作者 畫工 岡田玉山 (南久太郎町五丁目) 板元 柏原屋清右衛門 (順慶町五丁目) 出願 享和元年八月 許可 享和元年八月 大增戲場節用集 一冊 新板發行申出 板元 扇屋利助 (百貫町) 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 享和元年八月 俳諧こぼれたね 一冊 作者 佐野曾藏 (舟町) 板元 藤屋彌兵衛 (高瀬橋一丁目) 出願 享和元年八月 許可 享和元年十二月十一日 印藉考 一冊 作者 曾谷字佐 (故人)</p>	<p>板元 藤屋清本郎 (藤左衛門町) 出願 享和元年八月 許可 享和元年十二月十一日 野々宮歌合戀古抄 一冊 作者 僧 周淨 (讀州) 板元 藤屋彌兵衛 (高瀬橋一丁目) 出願 享和元年八月 許可 享和元年十二月十一日 繪本實語教 五冊 作者 岡田玉山 (南久太郎町六丁目) 板元 泉屋卯兵衛 (心齋町) 出願 享和元年八月 許可 享和元年十二月十一日 長崎紀行 一冊 丁數七十三丁 作者 長久保赤水 (水戸) 板元 藤屋九兵衛 (安堂寺町五丁目) 出願 享和元年八月 許可 享和元年十二月十一日 算法稽古早指南 一冊</p>
--	--	---	--

<p>新板發行申出 板元 河内屋太介 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 享和元年八月</p> <p>狂歌家之風 一冊 作者 貞 國 (豊州廣島)</p> <p>板元 譽田屋伊右衛門 (博勢町)</p> <p>出願 享和元年九月 許可 享和元年十二月七日</p> <p>庭訓往來かな付 一冊 筆工 竹村正造 板元 吉文字屋利助 (安堂寺町五丁目)</p> <p>出願 享和元年九月 許可 享和元年十二月七日</p> <p>書札案文 一冊 筆工 竹村正造 板元 河内屋八兵衛 (北久太郎町二丁目)</p> <p>出願 享和元年九月 許可 享和元年十二月七日</p> <p>書札案文大全 一冊 筆工 竹村正造</p>	<p>板元 河内屋八兵衛 (北久太郎町二丁目)</p> <p>出願 享和元年九月 許可 享和元年十二月七日</p> <p>方鑿精義大成 二冊 作者 松浦長門 (南瓦屋町)</p> <p>板元 河内屋八兵衛 (南久寶寺町)</p> <p>出願 享和元年九月 許可 享和元年十二月七日</p> <p>(附記) 本書は他の非を顯は し風儀を亂すの惧れありとて 板行を見合すべしと申渡さる</p> <p>季寄手引艸 一冊 新板發行申出 作者 鶯 水(故人)</p> <p>板元 河内屋太介 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 享和元年九月</p> <p>大日本名所記 二十冊 以前「國花萬葉記」と題せしを 此度改題發行申出 板元 河内屋太助 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 享和元年八月</p>	<p>板元 瀧本存古帖 一冊 以前「瀧本消息」と題せしを此 度改題發行申出 板元 藤屋彌兵衛 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 享和元年九月</p> <p>唐伯虎集 一冊 校合者 雲林院玄純 (百貫町)</p> <p>板元 山口屋又市 (北久太郎町五丁目)</p> <p>出願 享和元年十一月 許可 享和元年十二月廿四日</p> <p>萬歳小謡昇平樂 一冊 作者 田宮由藏 (設岐屋町)</p> <p>板元 鹽屋平助 (南久寶寺町五丁目)</p> <p>出願 享和元年十一月 許可 享和元年十二月廿四日</p> <p>雅曲たまのあそび 一冊 作者 雄川 丘 甫(故人) 畫師 雄川 丘 徳 (安土町一丁目)</p> <p>板元 淺田屋清兵衛</p>	<p>出願 享和元年十一月 許可 享和元年十二月廿四日</p> <p>平天儀 一枚摺 作者 岩橋善兵衛 (和泉貝塚南町)</p> <p>板元 河内屋八兵衛 (北久太郎町二丁目)</p> <p>出願 享和元年十一月 許可 享和元年十二月廿四日</p> <p>平天儀圖解 一冊 作者 岩橋善兵衛 (和泉貝塚南町)</p> <p>板元 河内屋八兵衛 (北久太郎町二丁目)</p> <p>出願 享和元年十一月 許可 享和元年十二月廿四日</p> <p>伯英遺稿 一冊 作者 伯 英(故人)</p> <p>板元 河内屋八兵衛 (南久寶寺町五丁目)</p> <p>出願 享和元年十一月 許可 享和元年十二月廿四日</p> <p>癩疹備要方 一冊 作者 支 堂 (設 州)</p> <p>板元 河内屋八兵衛</p>
--	---	---	--

<p>出願 享和元年十一月 許可 享和元年十二月廿四日</p> <p>誹諧新季寄 小本一冊 作者 七杉菴奇淵 (南本町二丁目)</p> <p>板元 鹽屋忠兵衛 (北久太郎町五丁目)</p> <p>出願 享和元年十一月 許可 享和元年十二月廿四日</p> <p>道二翁道話 四編 三冊 輯者 八宮勳 農(故人) 板元 本屋萬吉 (龜屋町)</p> <p>出願 享和元年十一月 許可 享和元年十二月廿四日</p> <p>繪本太閤記 七編 十二冊 作者 岡田玉山 (南久太郎町六丁目)</p> <p>板元 勝尾屋六兵衛 (南久寶寺町五丁目)</p> <p>出願 享和元年十一月 許可 享和元年十二月廿四日</p> <p>和蘭内科選要 四編 三冊 翻譯 宇田川玄隨 (作州津山)</p>	<p>板元 紀伊國屋卯兵衛 (南久太郎町六丁目)</p> <p>出願 享和元年十一月 許可 享和元年十二月廿四日</p> <p>本道醫療近路 一冊 以前「天文醫業」と題せしを此 度改題發行申出 板元 秋田屋市兵衛 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 享和元年十一月</p> <p>繪本この手拍 二冊 新板發行申出 板元 鹽屋長兵衛 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 享和元年十二月</p> <p>戲場畫史 二冊 新板發行申出 板元 秋田屋市兵衛 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 享和元年十二月</p> <p>萬歳小謡昇平樂 口繪十三丁増加申出</p>	<p>板元 鹽屋平助 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 享和元年十二月</p> <p>易原圖 折本一枚摺 作者 眞勢彦右衛門 (高麗橋二丁目)</p> <p>新板發行申出 板元 藤屋彌兵衛 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 享和二年二月</p> <p>方種 小本一冊 再板發行申出 作者 吉益周介(故人) 板元 河内屋喜兵衛 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 享和二年二月</p> <p>軍器考圖式後編玉簪 二冊 新板發行申出 作者 松浦庶輔 (尾 豊)</p> <p>板元 吉文字屋市左衛門 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行</p>	<p>申出年月 享和二年二月</p> <p>即席料理 折本一冊 以前「料理即珍」と題せしを此 度改題發行申出 板元 吉文字屋利介 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 享和二年正月</p> <p>廿四輩御舊跡圖 奥文段七丁増補申出 作者 貧 遣 板元 河内屋太介 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 享和二年二月</p> <p>日本風土記 八冊 作者 秋里仁左衛門 (京 都)</p> <p>板元 播磨屋五兵衛 (長崎心齋町)</p> <p>出願 享和二年二月 許可 享和二年四月十七日</p> <p>痘疹美面定 折本一冊 作者 万町權之進 (釘屋町)</p> <p>板元 田原屋平兵衛</p>
---	--	--	--

板元 鹽屋忠兵衛
右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行
申出年月 享和二年十月

趙子昂詩集 二冊

丁數一百四十四丁
點者 高濱周輔 (鹽路家中)
板元 敦賀屋九兵衛 (筋屋町)
出願 享和二年十月二十八日
許可 享和二年十月二十八日

目科全書 二冊

丁數七十丁
作者 支那 鄧氏 (支那人)
板元 河内屋八兵衛 (南久寶寺五丁目)
出願 享和二年十月二十八日
許可 享和二年十月二十八日

蔓難錄 三冊

丁數一百三十二丁
作者 柘植彰常 (河州國分村)
板元 吉文字屋市左衛門 (木挽町中之丁)
出願 享和二年十月

許可 享和二年十月二十八日
康宋續詩學聯錦大全 一冊

丁數七十二丁
作者 鎌田環齋 (藤波村)
板元 河内屋喜兵衛 (北久太郎町五丁目)
出願 享和二年十月三十日
許可 享和二年十一月三十日

掌中冠辭例 一冊

丁數六十一丁
作者 丘崎青雨 (かいは町)
板元 奈良屋長兵衛 (藤波町)
出願 享和二年十一月三十日
許可 享和二年十一月三十日

萬代一覽 兩面摺

作者 河野屋次郎兵衛 (備後)
板元 河内屋太助 (唐物町四丁目)
出願 享和二年十一月三十日
許可 享和二年十一月三十日

慕景集 一冊

丁數十丁

作者 太田持資
板元 和泉屋卯兵衛 (心齋町)
出願 享和二年十一月三十日
許可 享和二年十一月三十日

我宿艸 三冊

丁數五十八丁
作者 太田道灌
板元 和泉屋卯兵衛 (心齋町)
出願 享和二年十一月三十日
許可 享和二年十一月三十日

俳諧季寄爪楊枝 一冊

改題發行申出
板元 小刀屋六兵衛
右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行
申出年月 享和二年十一月

扣重實記 折本兩面摺一枚

影足し申出
板元 鹽屋重兵衛
右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行
申出年月 享和二年十一月

入用字引節用集 一冊

新板發行申出

板元 吉文字屋市左衛門
右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行
申出年月 享和二年十一月

繪本言葉艸 五冊

新板發行申出
板元 河内屋太助
右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行
申出年月 享和二年十一月

技癢錄 二冊

丁數七十八丁
作者 南部伯民 (防州)
板元 千草屋新右衛門 (四軒町)
出願 享和二年十一月廿九日
許可 享和二年十一月廿九日

藤氏醫談 二冊

丁數六十四丁
作者 近藤隆昌 (泉州堺)
板元 河内屋喜兵衛 (北久太郎町五丁目)
出願 享和二年十一月廿九日
許可 享和二年十一月廿九日

繪本野山よしき 二冊

以前「俳諧思のしほり」と題せしを此度改題發行申出
板元 田原屋平兵衛
右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行
申出年月 享和二年十一月

農家益 三冊

丁數六十六丁
作者 扇屋徳兵衛 (長瀬十町目)
板元 播磨屋五兵衛 (心齋町)
出願 享和二年十一月廿五日
許可 享和二年十一月廿五日

穂原艸 二冊

作者 近藤大隅 (玉造)
藏板主 近藤大隅 (玉造森之宮神主)
賣弘 扇屋利助 (百貫町)
出願 享和二年十二月十八日
許可 享和二年十二月十八日

稽古御和讃 一冊

増補發行出願
校合者 長圓寺

板元 譽田屋伊右衛門 (金田町)
出願 享和二年十二月十八日
許可 享和二年十二月十八日

新增茶人花押藪 補正茶人花押藪

増補發行申出
作者 森川會香 (今鷹二丁目)
板元 今津屋辰三郎
出願 享和二年十二月十八日
許可 享和二年十二月十八日

日用辨惑書口訣と天文平方角圖解とにつきて

此の兩書板行の義出願したるに「曆に差構ひなき書物か」との質問ありこれにつき本屋行司にて相談の上當時大坂に於て名高き曆學者麻田立達(本町四丁目住)の鑑別を乞ひその證言を得て「曆には差構ひなきよしの口上書」を行司藤屋九兵衛大澤屋次郎右衛門の連署を以て差出し許可を得たり

字會節用永代藏 一冊

作者 大村治郎右衛門

板元 勝尾屋六兵衛 (南久寶寺町四丁目)
出願 享和三年正月
許可 享和三年二月十日

妙術博物筌 後篇 七冊

一の巻は以前「拾遺知恵海」と題し京都にて板行許可されしもの二の巻は以前「日用傳家寶」と題せしもの三の巻は「拾遺知恵海」と「經便手引草」と題せしものを取合せ四の巻は以前「萬寶知恵袋」と題せしもの五の巻は「日用傳家寶」と以前「天文俗譯」と題せしもの一部分を取合せ六の巻は「天文俗譯」と題せしもの別に目錄一冊これは此度新に彫刻

大日本國指掌全圖 一枚摺

筆者 西守貞丈 (岩田町)
板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋一丁目)

續詩學貫珠 四冊

作者 鎌田環齋 (藤波村)
板元 敦賀屋九兵衛 (筋屋町)
出願 享和三年閏正月
許可 享和三年二月十日

掌中詩約貫珠 一冊

作者 鎌田環齋 (藤波村)
板元 敦賀屋九兵衛 (筋屋町)
出願 享和三年閏正月
許可 享和三年二月十日

女大學寶箱 一冊

附錄女今川入
作者 貝原篤 (信濃人)

板元 柏原屋清右衛門 (順慶町五丁目)
出願 享和三年二月
許可 享和四年十一月

文章 鱒臭

作者 靈松寺義端 (住 吉)
板元 河内屋吉兵衛 (北久太郎町五丁目)
出願 享和三年二月
許可 享和三年四月十一日
(附記) 本書板行の義故ありて取消し願下げ

朝鮮世表

作者 田宮 由藏 (霞巖屋町)
板元 播磨屋五兵衛 (心齋町)
出願 享和三年二月
許可 享和三年四月十一日

二十四輩順拜圖會 前篇

作者 專教寺了貞 (河州茨田郡南十番村)
板元 小刀屋六兵衛 (津村東之町)
出願 享和三年二月
許可 享和三年四月十四日
(附記) 本書は最初に六冊物

として出願したるがその許可に先立ち六の巻を除き五冊物に改むることを出願し許可を得たりき

両面年代早見略服忌

作者 翠雲堂台谷 (江戸下巻)
藏板主 右 同人
賣弘 絳屋市兵衛 (伏見兩替町四丁目)
出願 享和三年二月
許可 享和三年四月

春秋占筮書

作者 毛 奇齡 (高麗橋一丁目)
板元 藤屋彌兵衛
出願 享和三年二月
許可 享和三年四月十四日

掌中古言梯 折本一冊

作者 藤 重 獻 吉 (阿波屋敷屋町)
板元 泉屋卯兵衛 (長堀心齋町)
出願 享和三年二月
許可 享和三年四月十四日
(附記) 本書の板行に對し同業者藤屋長兵衛より「差替ひあり」との異議を本屋行司ま

で申出でたり

狂歌題輪 折本一冊

作者 佐藤 魚丸 (南堀江通二丁目)
板元 和泉屋源七 (順慶町五丁目)
出願 享和三年三月
許可 享和三年四月十一日

唐詩分類集 小本一冊

作者 石井 文助 (泉州津和野)
板元 藤屋吉兵衛 (福屋町)
出願 享和三年三月
許可 享和三年四月十一日

文風漢畫

作者 兼工 文 鳳 (京 都)
板元 今津屋辰三郎 (江戸堀二丁目)
出願 享和三年三月
許可 享和三年四月十一日

繪本童子教 五冊

丁數八十一丁
作者 岡田 玉山 (南久太郎町六丁目)
板元 和泉屋卯兵衛

出願 享和三年五月 (長堀心齋町)
許可 享和三年六月六日

和蘭醫話 二冊

丁數六十七丁
作者 萬町權之進 (泉 州)
板元 山口屋又一 (北久太郎町五丁目)
出願 享和三年五月
許可 享和三年六月六日

和唐 材冬之部 一冊

作者 依屋喜兵衛 (七郎右衛門町二丁目)
板元 小刀屋六兵衛 (津村東之町)
出願 享和三年五月
許可 享和三年六月六日

易學射覆必用 一冊

作者 釋 便 道 (紀 州)
板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋一丁目)
出願 享和三年五月
許可 享和三年六月六日

繪本月賀佐禰 一冊

出願 享和三年七月

作者 丹波屋西左衛門 (布屋町)
板元 鹽屋忠兵衛 (北久太郎町五丁目)
出願 享和三年五月
許可 享和三年六月六日
(附記) 本書板行出願の後内容の訂正を加へ更に願ひ出でて許可を得たるなり

增小刻古言梯 一冊

丁數八十六丁
作者 藤 重 獻 吉 (霞巖屋町一丁目)
板元 泉屋卯兵衛 (長堀心齋町)
出願 享和三年五月
許可 享和三年六月六日

律數揚搯 二冊

作者 關 嘉 (尾 州)
藏板主 永樂屋東四郎 (尾張名古屋本町)
賣弘 河内屋八兵衛 (南久寶寺町五丁目)
出願 享和三年六月
許可 享和三年七月晦

漫吟集 六冊

出願 享和三年七月晦

作者 契 沖 (故人)
板元 河内屋八兵衛 (南久寶寺町五丁目)
出願 享和三年七月
許可 享和三年七月晦

墨蹟祖師傳記 二冊

作者 宗 都 (京 都)
板元 柏原屋嘉助 (順慶町二丁目)
出願 享和三年七月
許可 享和三年七月晦

唐土名勝圖會 第一集 六冊

作者 岡田 玉山 (南久太郎町六丁目)
板元 河内屋吉兵衛 (北久太郎町五丁目)
出願 享和三年七月
許可 享和三年七月晦

御夢想疊算 折本一冊

作者 田宮 由藏 (阿波屋敷屋町)
板元 右 同人
賣弘 柏原屋正兵衛 (博 勢 町)
出願 享和三年七月
許可 享和三年七月晦

古流 生花諸國百瓶圖 三冊
作者 葛野 意 菴 (南本町五丁目)
藏板主 右 同人
賣弘 柏原屋清右衛門 (順慶町五丁目)
出願 享和三年七月
許可 享和三年七月晦

字數節用集 一冊

作者 山下 重 政 (故人)
板元 本屋 佐 吉 (安堂寺町五丁目)
出願 享和三年七月
許可 享和三年七月晦

俳諧高野聖 二冊

作者 淺見 左 逸 (南新町一丁目)
板元 播磨屋五兵衛 (心齋町)
出願 享和三年七月
許可 享和三年七月晦

訂正四聲字林集韻大全 一冊

再板發行願出
校合者 鎌田 頑藏 (難 波 村)
板元 秋田屋市兵衛 (安堂寺町五丁目)

出願 享和三年七月
許可 享和三年七月

大成年歷通覽 一冊

作者 鎌田 貞 藏 (難 波 村)
板元 河内屋太助 (博 勢 町)
出願 享和三年八月
許可 享和三年十月十五日

和歌新題百首續編 一冊

作者 加藤 以 衛 (錦町二丁目)
板元 小川屋清右衛門 (錦町二丁目)
出願 享和三年八月
許可 享和三年十月十五日

奇談實錄 五冊

作者 清涼 山人 (但 州)
板元 河内屋太助 (博 勢 町)
出願 享和三年九月
許可 享和三年十月十五日

忠臣連理鉢植 二冊

作者 松 好 齋 (岩 田 町)
板元 河内屋太助 (岩 田 町)

續歌文要語

丁數六十九丁 一冊
作者 早川 圓橋 (甲斐國)
板元 奈良屋長兵衛 (博勢町)
出願 文化元年十一月
許可 文化元年十二月廿二日

葵氏艶譜

三板
新板發行申出
板元 本屋武次郎
代判 河内屋儀助
右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行
申出年月 文化元年十二月

和漢書畫摺印補遺

小本一冊
作者 鳥羽万七郎 (京 都)
板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋一丁目)
出願 文化二年二月九日
許可 文化二年三月二十七日

手相即座考

小本一冊
作者 兼塚 齋 (京 都)
板元 敦賀屋九兵衛 (京 都)

出願 文化二年二月九日 (訪屋町)
許可 文化二年三月二十七日

實語教・童子教

一冊
筆者 戸田 榮治 (炭屋町)
板元 勝尾屋六兵衛 (博勢町)
出願 文化二年二月九日
許可 文化二年三月二十七日

理科素人庖丁二篇

小本一冊
作者 淺野 高藏 (本町四丁目)
板元 海部屋勘兵衛 (小濱町)
出願 文化二年二月九日
許可 文化二年三月二十七日

消息文例

二冊
作者 藤井長門守 (備中國吉備津宮神主)
藏板主 右 同人
寶弘 奈良屋長兵衛 (博勢町)
出願 文化二年二月

大全早引節用集

一冊

再板發行願出

作者 山下 重政 (故人)
板元 柏原屋與左衛門 (願慶町五丁目)
出願 文化二年二月
許可 文化二年三月二十七日

獅子少年存稿

一冊
作者 春名代三郎 (北久太郎町五丁目)
板元 加賀屋善藏
出願 文化二年二月
許可 文化二年三月二十七日

八木龍之卷

小本一冊
一枚摺添 新板發行申出
板元 藤屋彌兵衛
右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行
申出年月 文化二年四月

文林花押集

一冊
作者 鳥羽万七郎 (京 都)
板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋一丁目)
出願 文化二年四月
許可 文化二年八月二日

會席細工庖丁

一冊

作者 淺野 高藏 (本町四丁目)

板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋一丁目)
出願 文化二年四月
許可 文化二年八月二日

間似合 早料理獻立仕樣集

一冊
作者 北尾仁右衛門 (故人)
板元 勝尾屋六兵衛 (博勢町)
出願 文化二年四月
許可 文化二年八月二日

續茶人花押藪

一冊
丁數六丁増補願出
板元 今津屋辰三郎 (江戸橋二丁目)
出願 文化二年四月
許可 文化二年八月二日

繪本玉藻譚

五冊
作者 岡田 玉山 (米屋町五丁目)
板元 海部屋勘兵衛 (小濱町)
出願 文化二年四月
許可 文化二年六月二十四日
〔附記〕本書第三の巻にて壹箇所挿圖の訂正を申渡され書

き改めて許可さる

琴曲大全

一冊
集者 淺野 高藏 (本町四丁目)
板元 勝尾屋六兵衛 (博勢町)
出願 文化二年五月
許可 文化二年八月二日

備中國大繪圖

一冊
作者 古川平次兵衛 (備中國岡田村)
板元 油屋宇兵衛 (津村東ノ町)
出願 文化二年五月
許可 文化二年八月二日

都會節用百家通

一冊
再板發行願出
作者 高莊 二郎 (故人)
板元 秋田屋市兵衛 (安堂寺町五丁目)
出願 文化二年五月
許可 文化二年八月二日

廿四輩順拜圖會後篇

五冊
作者 專教寺了貞 (河州美田郡南十番村)
板元 小刀屋六兵衛 (津村東ノ町)

出願 文化二年五月
〔附記〕本書板行の議出願したるも同年八月十一日に至り開届けられず却下さる

さき草

一冊
作者 藤井長門守 (備中國吉備津宮神主)
板元 河内屋義助 (南本町五丁目)
出願 文化二年五月
許可 文化二年八月二日

和蘭三法方典

六冊
作者 橋本 宗吉 (安堂寺町五丁目)
板元 山口屋又一郎 (北久太郎町五丁目)
出願 文化二年六月
許可 文化二年八月二日

増易學小筌

一冊
作者 新井 白蛾
板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋一丁目)
出願 文化二年七月
許可 文化二年八月二日

爪しるし

小本一冊
再板發行申出

板元 富田屋利三郎
右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行
申出年月 文化二年八月

繪本歳時記

六冊
作者 田宮 山藏 (京 都)
板元 吉文字屋市左衛門 (木挽町中之町)
出願 文化二年八月
〔附記〕本書の内容に訂正を要する所ありとて却下せらる

三才窺管

三冊
作者 廣瀬 周伯 (常 州)
板元 河内屋八兵衛 (前久寶寺町五丁目)
出願 文化二年八月
許可 文化二年九月十二日

家相全書

三冊
作者 長田 直行 (玉水町)
板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋一丁目)
出願 文化二年八月
〔附記〕本書板行の議出願したるも同年八月に至り願ひを取下げたり

非譯文要訣

一冊
作者 中山 隆 (讃州高松)
板元 河内屋儀助 (南本町五丁目)
出願 文化二年八月六日
〔附記〕本書の出願に對し八月二十三日「板行相成らず」と申渡さる

廿四輩順拜圖會後篇

五冊
作者 專教寺了貞 (河州美田郡南十番村)
板元 小刀屋六兵衛 (津村東ノ町)
出願 文化二年八月
許可 文化二年十一月十九日

唐光韻鏡餘論

三冊
作者 無相 文雄 (故人)
藏板主 光 蓮 寺 (龜後日田)
寶弘 柏原屋清右衛門 (願慶町五丁目)
出願 文化二年八月
許可 文化三年五月二十日

古方便覽

二冊
再板發行願出
作者 六角 重任 (故人)
板元 河内屋喜兵衛

出願 文化二年八月 許可 文化二年九月晦 皇朝儒臣傳 四冊 作者 岡白 駒(故人) 板元 播磨屋新兵衛 (上野波町)	出願 文化二年八月 許可 文化二年九月晦 歷代萬寶即鑑 折本一枚摺 作者 鎌田貞藏 (藤波村)	出願 文化二年八月 許可 文化二年九月晦 繪本歳時記 六冊 作者 田宮山藏 (京)	出願 文化二年八月 許可 文化二年九月晦 新増絲の錦 一冊 増補發行申出 板元 鹽屋平介 (京)	出願 文化二年八月 許可 文化二年九月晦 家相全書 三冊 作者 長田直行 (玉水町)	出願 文化二年八月 許可 文化二年九月晦 誹諧七部集注解 二冊 作者 井眉 (木挽町中之丁)	出願 文化二年八月 許可 文化二年九月晦 癸亥發句集 二冊 作者 黃花庵升六 (鳥之内等屋町)	出願 文化二年八月 許可 文化二年九月晦 甲子發句集 二冊 作者 黃花庵升六 (鳥之内等屋町)	出願 文化二年八月 許可 文化二年九月晦 いせおんど戀の寐鏡 四冊 新板發行申出 板元 河内屋多介 (津村東之町)	出願 文化二年八月 許可 文化二年九月晦 漫遊雜記附獨嘯子 一冊 右板元よりの申出でを本屋行	
出願 文化二年八月 許可 文化二年九月晦 司にて開届け板行 申出年月 文化二年九月	出願 文化二年八月 許可 文化二年九月晦 誹諧七部集注解 二冊 作者 井眉 (木挽町中之丁)	出願 文化二年八月 許可 文化二年九月晦 癸亥發句集 二冊 作者 黃花庵升六 (鳥之内等屋町)	出願 文化二年八月 許可 文化二年九月晦 甲子發句集 二冊 作者 黃花庵升六 (鳥之内等屋町)	出願 文化二年八月 許可 文化二年九月晦 誹諧七部集注解 二冊 作者 井眉 (木挽町中之丁)	出願 文化二年八月 許可 文化二年九月晦 家相全書 三冊 作者 長田直行 (玉水町)	出願 文化二年八月 許可 文化二年九月晦 皇朝儒臣傳 四冊 作者 岡白 駒(故人) 板元 播磨屋新兵衛 (上野波町)	出願 文化二年八月 許可 文化二年九月晦 歷代萬寶即鑑 折本一枚摺 作者 鎌田貞藏 (藤波村)	出願 文化二年八月 許可 文化二年九月晦 繪本歳時記 六冊 作者 田宮山藏 (京)	出願 文化二年八月 許可 文化二年九月晦 新増絲の錦 一冊 増補發行申出 板元 鹽屋平介 (京)	出願 文化二年八月 許可 文化二年九月晦 漫遊雜記附獨嘯子 一冊 右板元よりの申出でを本屋行

出願 文化三年五月 許可 文化三年九月二十六日 和歌假名題 二冊 作者 紫竹庵 (伊丹町)	出願 文化三年五月 許可 文化三年九月二十六日 永曆大雜書天文大成 一冊 丁數九十四丁 作者 田宮山藏 (京)	出願 文化三年五月 許可 文化三年九月二十六日 紋帳手引艸 二冊 丁數七十三丁 校合者 鳥飼雅頌 (木挽町中之丁)	出願 文化三年五月 許可 文化三年九月二十六日 今按名蹟考 五冊 作者 岩橋秀榮 (紀州)	出願 文化三年五月 許可 文化三年九月二十六日 改正日本輿地路程全圖 折本一冊 再板發行願出 作者 長久保赤水 (水戸)	出願 文化三年五月 許可 文化三年九月二十六日 乙丑發句集 中本二冊 作者 黃花庵升六 (笠原町)	出願 文化三年五月 許可 文化三年九月二十六日 大日本細見指掌全圖 折本一冊 作者 鳥飼洞齋(故人) (高麗橋一丁目)	出願 文化三年五月 許可 文化三年九月二十六日 料理簡便集 一冊 丁數二十二丁 作者 田中信平 (豊前中津)	出願 文化三年五月 許可 文化三年九月二十六日 榎の落葉 一冊 丁數十九丁 作者 荒木田久老 (伊勢荒木田村主)	出願 文化三年五月 許可 文化三年九月二十六日 接骨新書 二冊 板元 河内屋八三郎 (小濱町)	出願 文化三年五月 許可 文化三年九月二十六日 茶山集 二冊 唐本翻刻 校合者 中山 巖 (讃州高松)	出願 文化三年五月 許可 文化三年九月二十六日 大成年曆通覽折本一枚摺 作者 鎌田貞藏 (藤波村)	出願 文化三年五月 許可 文化三年九月二十六日 大日本細見指掌全圖 折本一冊 作者 鳥飼洞齋(故人) (高麗橋一丁目)	出願 文化三年五月 許可 文化三年九月二十六日 乙丑發句集 中本二冊 作者 黃花庵升六 (笠原町)	出願 文化三年五月 許可 文化三年九月二十六日 大日本細見指掌全圖 折本一冊 作者 鳥飼洞齋(故人) (高麗橋一丁目)	出願 文化三年五月 許可 文化三年九月二十六日 料理簡便集 一冊 丁數二十二丁 作者 田中信平 (豊前中津)	出願 文化三年五月 許可 文化三年九月二十六日 榎の落葉 一冊 丁數十九丁 作者 荒木田久老 (伊勢荒木田村主)	出願 文化三年五月 許可 文化三年九月二十六日 接骨新書 二冊 板元 河内屋八三郎 (小濱町)	出願 文化三年五月 許可 文化三年九月二十六日 茶山集 二冊 唐本翻刻 校合者 中山 巖 (讃州高松)	出願 文化三年五月 許可 文化三年九月二十六日 大成年曆通覽折本一枚摺 作者 鎌田貞藏 (藤波村)
--	---	---	--	--	--	--	--	--	--	---	--	--	--	--	--	--	--	---	--

藏板主 右 同人
寶弘 鹽屋忠兵衛 (北久太郎町五丁目)
出願 文化三年六月
許可 文化三年九月二十六日

月花惟孝 六冊
作者 岡田 玉山 (南本町五丁目)
板元 加賀屋 彌助 (南久太郎町六丁目)
出願 文化三年六月
許可 文化三年九月二十六日

李笠翁詩抄 二冊
作者 明、李 漁
板元 河内屋 八兵衛 (南久太郎町五丁目)
出願 文化三年九月
許可 文化四年三月十三日

老子古義 四冊
作者 三 野 元 密 (廣 州)
板元 河内屋 八兵衛 (南久太郎町五丁目)
出願 文化三年九月
許可 文化四年三月十三日

親鸞聖人二十四輩願拜記 一冊
洛陽御書跡

作者 秋里 離 鶴 (京 都)
板元 小刀屋 六兵衛 (津村東之町)
出願 文化三年九月
許可 文化四年三月十三日

四書小本片 片假名付 三冊
再板發行申出
校合者 木 瀨 德 (安堂寺町五丁目)
板元 秋田屋 市兵衛 (安堂寺町五丁目)
出願 文化三年九月
許可 文化四年三月十三日

瑠璃天狗 五冊
作者 荒物屋 源兵衛 (さくら町)
板元 鹽 屋 平 介 (南久太郎町五丁目)
出願 文化三年九月
許可 文化四年三月十三日

易學小笠象意考 小本一冊
作者 釋 便 道 (紀 州)
板元 藤屋 彌兵衛 (高麗橋一丁目)
出願 文化三年九月
許可 文化四年三月十三日

作者 松 岡 良 助 (上 本 町)
板元 河内屋 太 助 (唐物町四丁目)
出願 文化三年九月
許可 文化四年三月十三日

算學稽古大全 一冊
作者 松 岡 良 助 (上 本 町)
板元 河内屋 太 助 (唐物町四丁目)
出願 文化三年九月
許可 文化四年三月十三日

方鑿的要全書 三冊
作者 松 浦 長 門 (南瓦屋町)
板元 藤屋 彌兵衛 (高麗橋一丁目)
出願 文化三年十一月
許可 文化四年三月二十日

自來也說話 後篇 五冊
作者 感和亭 鬼 武 (江戸京橋町)
板元 吉文字屋 市左衛門 (木挽町中之丁)
出願 文化三年十一月
許可 文化四年三月二十日

四智堂詩稿 二冊
校正人 石 塚 信 高 (福 州)
藏板主 右 同人
寶弘 河内屋 八兵衛

出願 文化三年十一月
許可 文化四年三月十三日

大同類聚方 二冊
作者 畑 惟 和 (故人)
板元 鹽 屋 平 助 (南久太郎町五丁目)
幼小到付代判
出願 文化三年十一月
許可 文化四年三月十三日

誹諧獨けいこ
新板發行申出
板元 鹽屋 忠兵衛
右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行
申出年月 文化三年十一月

三ヶ津 評判役者眞草行 三冊
新板發行申出
板元 八文字屋 八左衛門
右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行
申出年月 文化三年十一月

戲場紅楓秋葉話
新板發行申出
板元 河内屋 太 助

右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行
申出年月 文化三年十二月

小話訓蒙圖彙 一冊
以前「隨一小話」と題せしもの
の抜擢此度改題發行申出
板元 秋田屋 市兵衛
右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行
申出年月 文化三年十二月

袖五年代記 一冊
丁數七丁増 補發行申出
板元 鹽 屋 平 助
代判 鹽屋 忠兵衛
右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行
申出年月 文化三年十二月

繪本戲場語 六冊
新板發行申出
板元 鹽屋 長兵衛
右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行
申出年月 文化三年十二月

けいせい宮傳受 六冊
以前「芝居噺」と題せしを此度
改題發行申出

右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行
申出年月 文化四年正月十四日

麻中艶譜 三冊
以前「葵氏艶譜」と題せしを此
度改題發行申出
板元 藤屋 德 兵衛
右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行
申出年月 文化四年正月十四日

方角即考 一冊
作者 松 浦 國 祐 (南瓦屋町)
板元 藤 屋 善 七 (高麗橋一丁目)
出願 文化四年正月
許可 文化四年三月二十日

當世精進鼎 二冊
料理 淺 野 高 藏 (本町四丁目)
板元 藤屋 彌兵衛 (高麗橋一丁目)
出願 文化四年四月
許可 文化四年七月二日

新編蜂蟬の巻 五冊
作者 栗 杖 亭 東 山 (江戸芝)
板元 秋田屋 太右衛門

らび魚類の分は別冊にして願
ひ出でよしのことにし却下
さる
再願 文化四年八月
許可 文化四年十二月廿六日

忍指在原草紙 五冊
作者 中川 德 二 良 (西高津新地六丁目)
板元 本屋 又 兵衛 (博 勢 町)
出願 文化四年四月
再願 文化四年七月
〔附記〕本書の板行は再度願
ひ出でたるも惣年寄より度々
本屋行司を呼出され質問さる
ることあり結局板元より出願
を取消す

脚氣提要 二冊
作者 西 田 耕 悅 (津 州)
板元 吉文字屋 市左衛門 (木挽町中之丁)
出願 文化四年四月
許可 文化四年七月二日

續撰清正記 五冊
従来の板木焼失のため再板彫
刻板行願出
板元 藤屋 六兵衛 (博 勢 町)
出願 文化四年四月
〔附記〕本書板行の出願に對
し同年五月二十一日願書に附
箋をつけて却下せらる

新撰折形圖會折本一枚摺
新板發行申出
作者 津 山 勇 藏 (豐崎町)
板元 小刀屋 六兵衛 (津村東之町)
右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行

<p>申出年月 文化四年五月十一日</p> <p>孝百人一首姫鑑 一冊</p> <p>作者 富尾平兵衛(故人)</p> <p>板元 勝尾屋六兵衛</p> <p>出願 文化四年五月</p> <p>許可 文化四年九月二十七日</p>	<p>許可 文化四年十二月十九日</p> <p>會稽松之雪 七冊</p> <p>作者 宮本屋俊藏</p> <p>板元 炭屋吉兵衛</p> <p>出願 文化四年八月</p> <p>許可 文化十四年二月十九日</p>	<p>板元 海部屋勘兵衛</p> <p>出願 文化四年八月</p> <p>許可 文化四年十二月廿六日</p>	<p>新板發行申出</p> <p>板元 鹽屋平助</p> <p>代判 鹽屋忠兵衛</p> <p>右板元よりの申出でを本屋行司にて開刷け板行</p> <p>申出年月 文化四年十月</p>
<p>校合者 宿禰俊信</p> <p>板元 河内屋喜兵衛</p> <p>出願 文化四年五月</p> <p>許可 文化四年九月二十七日</p>	<p>人間一心道中記 繪圖</p> <p>一枚摺并別録綴本 再板發行</p> <p>板元 勝尾屋六兵衛</p> <p>出願 文化四年八月</p> <p>許可 文化四年十二月十九日</p>	<p>作者 手塚 兎月</p> <p>板元 河内屋多介</p> <p>出願 文化四年八月</p> <p>許可 文化四年十二月廿六日</p>	<p>板元 河内屋多介</p> <p>出願 文化四年八月</p> <p>許可 文化四年十二月廿六日</p>
<p>作者 水野 南北</p> <p>藏板主 右 同人</p> <p>賣弘 扇屋利介</p> <p>出願 文化四年五月</p> <p>許可 文化四年九月二十七日</p>	<p>勢遊紳 一冊</p> <p>作者 川合 丈平</p> <p>藏板主 右 同人</p> <p>賣弘 掃磨屋九兵衛</p> <p>出願 文化四年八月</p> <p>許可 文化四年十二月廿六日</p>	<p>作者 鐵格子波丸</p> <p>板元 河内屋多介</p> <p>出願 文化四年八月</p> <p>許可 文化四年十二月廿六日</p>	<p>名家載覽 十七冊</p> <p>撰者 千野 元達</p> <p>板元 河内屋儀介</p> <p>出願 文化四年十月</p> <p>許可 文化四年十月</p>
<p>作者 宮原文之進</p> <p>板元 扇屋利助</p> <p>出願 文化四年八月</p> <p>許可 文化四年十二月十九日</p>	<p>筆道指南手引草 二冊</p> <p>丁數二十九丁 増補發行願出</p> <p>校合者 丹波屋太郎右衛門</p> <p>出願 文化四年八月</p> <p>許可 文化四年十二月十九日</p>	<p>作者 手塚 兎月</p> <p>板元 河内屋多介</p> <p>出願 文化四年八月</p> <p>許可 文化四年十二月廿六日</p>	<p>板元 河内屋多介</p> <p>出願 文化四年八月</p> <p>許可 文化四年十二月廿六日</p>
<p>作者 宇田川 玄眞</p> <p>板元 河内屋儀介</p> <p>出願 文化四年十月</p> <p>許可 文化五年三月</p>	<p>茶店墨畫草紙 八冊</p> <p>作者 栗枝亭鬼卯</p> <p>板元 加賀屋彌介</p> <p>出願 文化四年十一月</p> <p>許可 文化五年六月十六日</p>	<p>作者 橋本 稻彦</p> <p>板元 奈良屋長兵衛</p> <p>出願 文化四年十一月</p> <p>許可 文化五年六月廿七日</p>	<p>紫文製錦 初篇 二冊</p> <p>作者 橋本 稻彦</p> <p>板元 奈良屋長兵衛</p> <p>出願 文化四年十一月</p> <p>許可 文化五年六月廿七日</p>
<p>(附記) 本書の一より九に至る九冊は江戸室町二丁目須原屋市兵衛方にて板行したるが後その板木を大坂紀伊國屋卯兵衛方にて買うけ同家にて十より十二に至る三冊を板行したるを更に文化四年七月一より十二に至る板木を河内屋儀介方にて買うけ此度その十三より十五に至る三冊を新に板行出願に及びその許可を得たるなり</p>	<p>萬葉集見安補正 四冊</p> <p>作者 池永太郎吉(故人)</p> <p>校者 上田 餘齋</p> <p>板元 奈良屋長兵衛</p> <p>出願 文化四年十一月</p> <p>許可 文化五年六月廿七日</p>	<p>作者 丹波屋西左衛門</p> <p>板元 鹽屋長兵衛</p> <p>出願 文化四年十一月</p> <p>許可 文化五年六月廿七日</p>	<p>繪本室の八嶋 六冊</p> <p>作者 丹波屋西左衛門</p> <p>板元 鹽屋長兵衛</p> <p>出願 文化四年十一月</p> <p>許可 文化五年六月廿七日</p>
<p>作者 栗枝亭鬼卯</p> <p>板元 河内屋儀介</p> <p>出願 文化四年十一月</p> <p>許可 文化五年六月十六日</p>	<p>紫文消息 一冊</p> <p>一名小菘か本</p> <p>作者 橋本 稻彦</p> <p>板元 奈良屋長兵衛</p> <p>出願 文化四年十一月</p> <p>許可 文化五年六月廿七日</p>	<p>作者 橋本 稻彦</p> <p>板元 海部屋勘兵衛</p> <p>出願 文化四年十一月</p> <p>許可 文化四年十一月</p>	<p>進物便覽 一冊</p> <p>作者 橋本 稻彦</p> <p>板元 海部屋勘兵衛</p> <p>出願 文化四年十一月</p> <p>許可 文化四年十一月</p>
<p>作者 宇田川 玄眞</p> <p>板元 河内屋儀介</p> <p>出願 文化四年十月</p> <p>許可 文化五年三月</p>	<p>繪本壁生紳 四冊</p> <p>一名五大力 丁數八十八丁</p> <p>新板發行申出</p> <p>書工 松好齋</p> <p>板元 河内屋多介</p> <p>右板元よりの申出でを本屋行司にて開刷け板行</p> <p>申出年月 文化四年十一月</p>	<p>作者 藤重 獻吉</p> <p>板元 河内屋太介</p> <p>出願 文化四年十月</p> <p>許可 文化四年十月</p>	<p>俳諧なにはぶり 一冊</p> <p>作者 八千坊 駝岳</p> <p>藏板主 右 同人</p> <p>賣弘 鹽屋忠兵衛</p> <p>出願 文化四年十一月</p> <p>許可 文化四年十一月</p>
<p>作者 栗枝亭鬼卯</p> <p>板元 河内屋儀介</p> <p>出願 文化四年十一月</p> <p>許可 文化五年六月十六日</p>	<p>竹篋太郎譚 五冊</p> <p>作者 桃枝亭陶山</p> <p>板元 秋田屋太右衛門</p> <p>出願 文化四年十一月</p> <p>許可 文化五年六月十六日</p>	<p>名家載覽 十七冊</p> <p>撰者 千野 元達</p> <p>板元 河内屋儀介</p> <p>出願 文化四年十月</p> <p>許可 文化四年十月</p>	<p>俳諧番匠童 一冊</p> <p>作者 立 甫(故人)</p> <p>板元 扇屋利介</p> <p>出願 文化四年十一月</p> <p>許可 文化四年十一月</p>

<p>作者 宇田川 玄眞</p> <p>板元 河内屋儀介</p> <p>出願 文化四年十月</p> <p>許可 文化五年三月</p>	<p>茶店墨畫草紙 八冊</p> <p>作者 栗枝亭鬼卯</p> <p>板元 加賀屋彌介</p> <p>出願 文化四年十一月</p> <p>許可 文化五年六月十六日</p>	<p>作者 橋本 稻彦</p> <p>板元 奈良屋長兵衛</p> <p>出願 文化四年十一月</p> <p>許可 文化五年六月廿七日</p>	<p>紫文製錦 初篇 二冊</p> <p>作者 橋本 稻彦</p> <p>板元 奈良屋長兵衛</p> <p>出願 文化四年十一月</p> <p>許可 文化五年六月廿七日</p>
<p>(附記) 本書の一より九に至る九冊は江戸室町二丁目須原屋市兵衛方にて板行したるが後その板木を大坂紀伊國屋卯兵衛方にて買うけ同家にて十より十二に至る三冊を板行したるを更に文化四年七月一より十二に至る板木を河内屋儀介方にて買うけ此度その十三より十五に至る三冊を新に板行出願に及びその許可を得たるなり</p>	<p>萬葉集見安補正 四冊</p> <p>作者 池永太郎吉(故人)</p> <p>校者 上田 餘齋</p> <p>板元 奈良屋長兵衛</p> <p>出願 文化四年十一月</p> <p>許可 文化五年六月廿七日</p>	<p>作者 丹波屋西左衛門</p> <p>板元 鹽屋長兵衛</p> <p>出願 文化四年十一月</p> <p>許可 文化五年六月廿七日</p>	<p>繪本室の八嶋 六冊</p> <p>作者 丹波屋西左衛門</p> <p>板元 鹽屋長兵衛</p> <p>出願 文化四年十一月</p> <p>許可 文化五年六月廿七日</p>
<p>作者 栗枝亭鬼卯</p> <p>板元 河内屋儀介</p> <p>出願 文化四年十一月</p> <p>許可 文化五年六月十六日</p>	<p>紫文消息 一冊</p> <p>一名小菘か本</p> <p>作者 橋本 稻彦</p> <p>板元 奈良屋長兵衛</p> <p>出願 文化四年十一月</p> <p>許可 文化五年六月廿七日</p>	<p>作者 橋本 稻彦</p> <p>板元 海部屋勘兵衛</p> <p>出願 文化四年十一月</p> <p>許可 文化四年十一月</p>	<p>進物便覽 一冊</p> <p>作者 橋本 稻彦</p> <p>板元 海部屋勘兵衛</p> <p>出願 文化四年十一月</p> <p>許可 文化四年十一月</p>
<p>作者 宇田川 玄眞</p> <p>板元 河内屋儀介</p> <p>出願 文化四年十月</p> <p>許可 文化五年三月</p>	<p>繪本壁生紳 四冊</p> <p>一名五大力 丁數八十八丁</p> <p>新板發行申出</p> <p>書工 松好齋</p> <p>板元 河内屋多介</p> <p>右板元よりの申出でを本屋行司にて開刷け板行</p> <p>申出年月 文化四年十一月</p>	<p>作者 藤重 獻吉</p> <p>板元 河内屋太介</p> <p>出願 文化四年十月</p> <p>許可 文化四年十月</p>	<p>俳諧なにはぶり 一冊</p> <p>作者 八千坊 駝岳</p> <p>藏板主 右 同人</p> <p>賣弘 鹽屋忠兵衛</p> <p>出願 文化四年十一月</p> <p>許可 文化四年十一月</p>
<p>作者 栗枝亭鬼卯</p> <p>板元 河内屋儀介</p> <p>出願 文化四年十一月</p> <p>許可 文化五年六月十六日</p>	<p>竹篋太郎譚 五冊</p> <p>作者 桃枝亭陶山</p> <p>板元 秋田屋太右衛門</p> <p>出願 文化四年十一月</p> <p>許可 文化五年六月十六日</p>	<p>名家載覽 十七冊</p> <p>撰者 千野 元達</p> <p>板元 河内屋儀介</p> <p>出願 文化四年十月</p> <p>許可 文化四年十月</p>	<p>俳諧番匠童 一冊</p> <p>作者 立 甫(故人)</p> <p>板元 扇屋利介</p> <p>出願 文化四年十一月</p> <p>許可 文化四年十一月</p>

<p>司にて開届け板行 申出年月 文化五年十月五日</p> <p>俳席便牌 新板發行申出 板元 扇屋利助 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 文化五年十月五日</p> <p>姪娘寶の筒 一冊 作者 桑原壽菴 板元 河内屋喜兵衛 出願 文化五年十月 許可 文化六年二月十七日 (北久太郎町五丁目)</p> <p>正誤秋の寐覺 一冊 作者 萩原元克 板元 吉文字屋市左衛門 出願 文化五年十月 許可 文化六年二月十七日 (木挽町中の丁)</p> <p>萬寶二面鑑折本 一冊 再板發行申出 板元 小刀屋六兵衛 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行</p>	<p>申出年月 文化五年十月廿日</p> <p>早引節用集 一冊 再板發行申出 作者 山下重政(故人) 板元 柏原屋與左衛門 出願 文化五年十一月 許可 文化六年二月十七日 (順慶町五丁目)</p> <p>冠附手引種小本 一冊 新板發行申出 作者 莫争菴萩翁 板元 京屋吉右衛門 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 文化五年十一月五日</p> <p>拳會角力圖會 二冊 新板發行申出 作者 松尾屋五雀 板元 河内屋太助 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 文化五年十一月五日</p> <p>半山詩集 三冊 作者 白木忠藏 (讃州丸龜)</p>	<p>藏板主 右 同人 賣弘 加賀屋市松 出願 文化五年十一月 許可 文化六年二月十七日 (北久太郎町五丁目)</p> <p>料理獻立指南 五冊 以前「茶湯獻立指南」と題せし を此度改題發行申出 板元 吉文字屋市左衛門 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 文化五年十二月五日</p> <p>發句類林集 二冊 以前「津守船」と題せしを此度 改題發行申出 板元 吉文字屋市左衛門 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 文化五年十二月五日</p> <p>當世料理箋小本 一冊 丁數二十四丁 以前「月令博物箋」と題せしも の、内より抜擢此度改題發行 申出 板元 吉文字屋市左衛門 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行</p>	<p>申出年月 文化五年十二月五日</p> <p>役者大學 三冊 新板發行申出 板元 八文字屋八左衛門 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 文化五年十二月</p> <p>女撰要和國織 一冊 再板發行申出 板元 敦賀屋九兵衛 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 文化五年十二月二十一日</p> <p>醉興傳 二冊 新板發行申出 板元 加賀屋彌助 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 文化五年十二月二十一日</p> <p>大成萬寶二面鑑 折本 一枚揃 新板發行申出 板元 小刀屋六兵衛 右板元よりの申出でを本屋行</p>
--	---	--	--

<p>司にて開届け板行 申出年月 文化五年十二月二十一日</p> <p>狂哥兼題集 以前「狂哥治玉集」と題せしも の、内より抜擢此度改題發行 申出 板元 鹽屋忠兵衛 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 文化六年正月十一日</p> <p>狂哥月並釋教集 板元 鹽屋忠兵衛 出願 文化六年正月十一日 許可 文化六年五月二十七日</p> <p>柳翁狂哥類題 一冊 編者 石津平助 (會根崎村) 板元 扇屋利介 (百貫町) 出願 文化六年二月 許可 文化六年五月二十七日</p> <p>懷中雜書さいわい袋 作者 布屋清藏 板元 柏原屋庄兵衛 (龜井町)</p>	<p>出願 文化六年二月 許可 文化六年五月二十七日 (津村東之町)</p> <p>詠哥大概抄義 二冊 作者 松月亭 藏板主 右 同人 賣弘 敦賀屋九兵衛 出願 文化六年二月 許可 文化六年四月二十八日 (錦屋町)</p> <p>渾天新語 二冊 作者 河野主計助 藏板主 右 同人 賣弘 藤屋徳兵衛 出願 文化六年五月二十七日 許可 文化六年五月二十七日 (北久太郎町五丁目)</p> <p>琴曲よしの山 増補影足し 發行申出丁數一百二十四丁 板元 小刀屋六兵衛 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 文化六年三月</p> <p>市川市紅一河の流れ 二冊 一世一代記</p>	<p>新板發行申出 板元 八文字屋八左衛門 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 文化六年三月</p> <p>日溪講主對食偈管窺 一冊 作者 正光寺 板元 河内屋義介 出願 文化六年三月 許可 文化六年五月二十七日 (龜屋町)</p> <p>琴曲松の聲 一冊 丁數二百三十二丁 以前「琴曲つるの聲」と題せし ものを増補し此度改題發行願 出 作者 永田太郎三郎 板元 河内屋多介 (唐物町五丁目) 出願 文化六年三月 許可 文化六年五月二十七日</p> <p>自然齋宗祇家集 一冊 作者 河内屋次左衛門 (紀州若山)</p>	<p>藏板主 右 同人 賣弘 河内屋多介 出願 文化六年三月 許可 文化六年五月二十七日 (龜屋町)</p> <p>天の惠 一冊 作者 天惠齋 藏板主 右 同人 賣弘 藤屋彌兵衛 出願 文化六年三月 許可 文化六年五月二十七日 (高麗橋二丁目)</p> <p>天地惠 一冊 作者 天惠齋 藏板主 右 同人 賣弘 藤屋彌兵衛 出願 文化六年三月 許可 文化六年五月二十七日 (高麗橋二丁目)</p> <p>北海集 三冊 作者 山田運平 藏板主 右 同人 賣弘 藤屋清太郎 出願 文化六年三月 許可 文化六年五月二十七日 (今橋二丁目)</p>
--	--	---	---

<p>鏡西八郎譽弓勢 淨るり本 新板發行申出 板元 天満屋源二郎 右板元よりの申出で本屋行 司にて開届け板行 申出年月 文化六年四月</p> <p>増茶人系譜 折本一冊 新板發行申出 板元 河内屋多介 右板元よりの申出で本屋行 司にて開届け板行 申出年月 文化六年四月</p> <p>萬葉集句解 六冊 作者 伴 蒿 蹊(故人) 板元 奈良屋長兵衛 (本町二丁目) 出願 文化六年四月 許可 文化六年十月四日</p> <p>續々詩學聯錦 作者 鎌田 環齋 (難波村) 板元 秋田屋市兵衛 (安堂寺町五丁目) 出願 文化六年四月 許可 文化六年十月三日</p> <p>衆書字彙 一冊</p>	<p>丁敷四十二丁 筆者 黒井 子昂 板元 鹽屋長兵衛 (傳馬町) 出願 文化六年七月 許可 文化七年五月</p> <p>袖玉御和讃 平かな付 丁敷九十五丁 作者 釋 解山(故人) 板元 柏原屋清右衛門 (關野町五丁目) 出願 文化六年七月 許可 文化七年五月</p> <p>萬寶三世相 一冊 新板發行申出 板元 勝尾屋六兵衛 右板元よりの申出で本屋行 司にて開届け板行 申出年月 文化六年八月</p> <p>助語辨法 四冊 作者 津田 櫻屋 (泉州員護) 板元 敦賀屋九兵衛 (鶴屋町)</p> <p>究談賣油郎 五冊 ナガノシラブウウウ</p>	<p>作者 芝屋 勝助(故人) 板元 布屋忠三郎 (鹽町四丁目) 出願 文化六年九月 許可 文化七年五月</p> <p>小笠原諸禮大全 二冊 作者 岡田 玉山(故人) 板元 勝尾屋六兵衛 (博勢町) 出願 文化六年九月 許可 文化七年五月</p> <p>名家載覽 十五冊 作者 千野 元達 (讃州高松) 板元 河内屋儀介 (難屋町) 出願 文化六年九月 許可 文化七年五月</p> <p>折句さがし 一冊 新板發行申出</p>	<p>板元 京屋吉右衛門 右板元よりの申出で本屋行 司にて開届け板行 申出年月 文化六年九月</p> <p>誹諧奇淵七部集 三冊 西國之部 作者 花屋菴奇淵 (南久太郎町六丁目) 藏板主 綿屋奇淵 (南久太郎町六丁目) 賣弘 鹽屋忠兵衛 (北久太郎町五丁目) 出願 文化六年十月 許可 文化七年五月</p> <p>折句趣向帳 新板發行申出 板元 鹽屋忠兵衛 右板元よりの申出で本屋行 司にて開届け板行 申出年月 文化六年十月</p> <p>俳諧四季部類 一冊 作者 二柳(故人) 板元 鹽屋忠兵衛 (北久太郎町五丁目) 出願 文化六年十月 許可 文化七年五月</p> <p>俳諧季寄桐火榻 一冊</p>
--	--	--	---

<p>作者 花屋菴奇淵 (南久太郎町六丁目) 板元 鹽屋忠兵衛 (北久太郎町五丁目) 出願 文化六年十月 許可 文化七年五月</p> <p>葦牙草紙 八冊 作者 鐵格子波丸 (立賣堀二丁目) 板元 河内屋吉兵衛 (南本町五丁目) 出願 文化六年十一月 許可 文化七年五月</p> <p>式禮用文章 一冊 作者 岡田 玉山(故人) 板元 吉文字屋市左衛門 (米洗町中之丁) 出願 文化六年十一月 許可 文化七年五月</p> <p>方鑿三白辨義 一冊 作者 松浦 東鶴 (瓦屋町) 板元 藤屋 善七 (高橋町一丁目) 出願 文化六年十一月 許可 文化七年五月</p> <p>新玉抄 四冊</p>	<p>作者 奈良屋長兵衛 (本町二丁目) 出願 文化六年十一月 許可 文化七年五月</p> <p>整骨新書 四冊 作者 各務 相二 (袋屋町) 板元 小刀屋六兵衛 (津村東之町) 出願 文化六年十二月 許可 文化七年八月</p> <p>文月恨切子 四冊 新板發行申出 板元 河内屋太助 右板元よりの申出で本屋行 司にて開届け板行 申出年月 文化六年十二月</p> <p>役者新綿船 小本 三冊 新板發行申出 板元 八文字屋八左衛門 右板元よりの申出で本屋行 司にて開届け板行 申出年月 文化六年十二月</p> <p>經典孝經之部 一冊 再板發行申出</p>	<p>板元 河内屋太助 右板元よりの申出で本屋行 司にて開届け板行 申出年月 文化六年十二月</p> <p>繪入西行撰集抄 三冊 半紙形本 再板發行申出 板元 加賀屋彌助 右板元よりの申出で本屋行 司にて開届け板行 申出年月 文化六年十二月</p> <p>子華子 二冊 再板發行申出 板元 河内屋太助 右板元よりの申出で本屋行 司にて開届け板行 申出年月 文化六年十二月</p> <p>冠附五色墨 小本 一冊 新板發行申出 板元 河内屋嘉七 右板元よりの申出で本屋行 司にて開届け板行 申出年月 文化六年十二月</p> <p>繪本不知火草紙 三冊 作者 馬田 昌調 (南本町四丁目) 板元 播磨屋松之介</p>	<p>出願 文化七年正月 (難屋町) 許可 文化七年四月二十四日</p> <p>繪本長曾我部物語 六冊 作者 手塚 兔月 (京 都) 板元 河内屋嘉七 (傳馬町) 出願 文化七年二月 許可 文化七年五月八日</p> <p>赤水餘稿 一冊 藏板主 五島 一彦 (金屋町) 賣弘 加賀屋彌助 (關野町五丁目) 出願 文化七年二月 許可 文化七年五月八日</p> <p>偽書說 三冊 藏板主 帶屋伊兵衛 (紀州若出) 賣弘 河内屋太助 (唐物町四丁目) 出願 文化七年二月 許可 文化七年五月八日</p> <p>狂歌崑山集 小本 一冊 藏板主 石津 平助 (曾根崎村)</p>
---	--	---	---

賣弘 扇屋利助 (百貫町) 出願 文化七年二月 許可 文化七年五月八日	再板發行申出 板元 吉文字屋市左衛門 右板元よりの申出で本屋行 行司にて開届け板行 申出年月 文化七年十月	遊女五十人一首 一冊 作者 中井 藍江 (尾崎町一丁目) 板元 鹽屋平助 (清久寶寺町五丁目) 出願 文化七年十一月 許可 文化八年三月二十六日	古醫法 一冊 丁敷五十丁 作者 幸禮 龍菴 (木天満町) 板元 藤屋善七 (高麗橋一丁目) 出願 文化七年十一月 許可 文化八年三月二十六日	猿曳門出調 上下 二冊 新板發行申出 板元 河内屋多助 右板元よりの申出で本屋行 行司にて開届け板行 申出年月 文化七年十一月	繪嘶當時梅小本 一冊 申出年月 文化七年十一月
實枝亭鬼卵 (遠州日坂) 板元 河内屋嘉七 (傳馬町) 出願 文化七年三月	再板發行申出 板元 河内屋喜兵衛 右板元よりの申出で本屋行 行司にて開届け板行 申出年月 文化七年十一月	狂哥道の栞 一冊 三ツ切小本新板發行申出 板元 鹽屋三郎兵衛 右板元よりの申出で本屋行 行司にて開届け板行 申出年月 文化七年十一月	役者出情嘶 三冊 新板發行申出 作者 八文字屋自笑 板元 河内屋多助 右板元よりの申出で本屋行 行司にて開届け板行 申出年月 文化七年十一月	陰陽五要奇書初篇 二冊 元經之部 校者 井上 主殿 (中船場町) 板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋一丁目) 出願 文化七年十一月 許可 文化八年三月二十六日	
三才因縁辨疑後篇 三冊 再板發行申出 作者 村上 俊清 (故人) 板元 河内屋吉兵衛 右板元よりの申出で本屋行 行司にて開届け板行 申出年月 文化七年八月	再板發行申出 板元 河内屋喜兵衛 右板元よりの申出で本屋行 行司にて開届け板行 申出年月 文化七年十一月	農家 益後篇 二冊 作者 大藏 永常 板元 播磨屋松之介 (備前町) 代判 佐兵衛 出願 文化七年十一月 許可 文化八年六月二十九日	女諸通文鑑 二冊 再板發行申出 筆者 戸田 榮次 (袋屋町) 板元 秋田屋市兵衛 (安堂寺町五丁目) 出願 文化七年十二月 許可 文化八年三月二十六日	詩類函二集 小本 二冊 作者 角野二左衛門 (泉州) 板元 河内屋吉兵衛 (南木町五丁目) 出願 文化七年十二月 許可 文化八年三月二十六日	
佩文齋掌中韻府 三冊 校正者 横塘有明 (本天満町) 板元 山崎屋嘉右衛門 (在町) 出願 文化七年九月 許可 文化七年十一月八日	再板發行申出 板元 河内屋吉兵衛 右板元よりの申出で本屋行 行司にて開届け板行 申出年月 文化七年八月	貞烈勇婦傳 五冊 作者 栗枝亭鬼卵 (遠州日坂) 板元 勝元屋六兵衛 (傳馬町) 出願 文化七年九月	廣益正字通 一冊 丁敷二百五十九丁 作者 鎌田 環齋 (龜波村) 板元 敦賀屋九兵衛 (鈴屋町) 出願 文化七年九月 許可 文化七年十一月八日	詩類函三集 二冊 作者 角野二左衛門 (泉州) 板元 河内屋吉兵衛 (南木町五丁目) 出願 文化七年十二月 許可 文化八年三月二十六日	
一笑七變 一冊 作者 釋道 振 (安藝) 藏板主 山家屋利介 (立賣場中之町) 賣弘 海部屋勘兵衛 (小濱町) 右賣弘人よりの申出で本屋 行司にて開届け板行 申出年月 文化七年九月	再板發行申出 板元 吉文字屋市左衛門 右板元よりの申出で本屋行 行司にて開届け板行 申出年月 文化七年十月	雙陸獨稽古妙乎 二冊 錦囊鈔 中本 作者 大原 芳藏 (龜州東地) 板元 尼屋與兵衛 (市町橋本三郎同家) 右板元よりの申出で本屋行 行司にて開届け板行 申出年月 文化八年正月	女當用文章 一冊 筆者 晴雲堂一言 (京都) 板元 吉文字屋市右衛門 出願 文化八年二月 許可 文化八年六月二十一日	掌中群書一覽 一冊 作者 尾崎 春藏 (鹿木町) 板元 海部屋勘兵衛 (小濱町) 出願 文化八年二月 許可 文化八年六月二十一日	
諏吉便覽 二冊 校正者 井上 主殿 (中船場町) 板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋一丁目) 出願 文化七年十月 許可 八年三月二十六日	再板發行申出 板元 吉文字屋市左衛門 右板元よりの申出で本屋行 行司にて開届け板行 申出年月 文化七年十月	書狀大全 再板發行申出 板元 吉文字屋市左衛門 右板元よりの申出で本屋行 行司にて開届け板行 申出年月 文化七年十月	新增字林玉篇大全 一冊	桂百人一首玉兔 一冊 再板發行申出	

再板發行申出 板元 吉文字屋市左衛門 右板元よりの申出で本屋行 行司にて開届け板行 申出年月 文化七年十月	遊女五十人一首 一冊 作者 中井 藍江 (尾崎町一丁目) 板元 鹽屋平助 (清久寶寺町五丁目) 出願 文化七年十一月 許可 文化八年三月二十六日	古醫法 一冊 丁敷五十丁 作者 幸禮 龍菴 (木天満町) 板元 藤屋善七 (高麗橋一丁目) 出願 文化七年十一月 許可 文化八年三月二十六日	猿曳門出調 上下 二冊 新板發行申出 板元 河内屋多助 右板元よりの申出で本屋行 行司にて開届け板行 申出年月 文化七年十一月	繪嘶當時梅小本 一冊 申出年月 文化七年十一月
新板發行申出 板元 河内屋喜兵衛 右板元よりの申出で本屋行 行司にて開届け板行 申出年月 文化七年十一月	狂哥道の栞 一冊 三ツ切小本新板發行申出 板元 鹽屋三郎兵衛 右板元よりの申出で本屋行 行司にて開届け板行 申出年月 文化七年十一月	役者出情嘶 三冊 新板發行申出 作者 八文字屋自笑 板元 河内屋多助 右板元よりの申出で本屋行 行司にて開届け板行 申出年月 文化七年十一月	陰陽五要奇書初篇 二冊 元經之部 校者 井上 主殿 (中船場町) 板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋一丁目) 出願 文化七年十一月 許可 文化八年三月二十六日	
再板發行申出 板元 河内屋吉兵衛 右板元よりの申出で本屋行 行司にて開届け板行 申出年月 文化七年八月	農家 益後篇 二冊 作者 大藏 永常 板元 播磨屋松之介 (備前町) 代判 佐兵衛 出願 文化七年十一月 許可 文化八年六月二十九日	女諸通文鑑 二冊 再板發行申出 筆者 戸田 榮次 (袋屋町) 板元 秋田屋市兵衛 (安堂寺町五丁目) 出願 文化七年十二月 許可 文化八年三月二十六日	詩類函二集 小本 二冊 作者 角野二左衛門 (泉州) 板元 河内屋吉兵衛 (南木町五丁目) 出願 文化七年十二月 許可 文化八年三月二十六日	
再板發行申出 板元 河内屋喜兵衛 右板元よりの申出で本屋行 行司にて開届け板行 申出年月 文化七年十一月	貞烈勇婦傳 五冊 作者 栗枝亭鬼卵 (遠州日坂) 板元 勝元屋六兵衛 (傳馬町) 出願 文化七年九月	廣益正字通 一冊 丁敷二百五十九丁 作者 鎌田 環齋 (龜波村) 板元 敦賀屋九兵衛 (鈴屋町) 出願 文化七年九月 許可 文化七年十一月八日	詩類函三集 二冊 作者 角野二左衛門 (泉州) 板元 河内屋吉兵衛 (南木町五丁目) 出願 文化七年十二月 許可 文化八年三月二十六日	
再板發行申出 板元 吉文字屋市左衛門 右板元よりの申出で本屋行 行司にて開届け板行 申出年月 文化七年十月	雙陸獨稽古妙乎 二冊 錦囊鈔 中本 作者 大原 芳藏 (龜州東地) 板元 尼屋與兵衛 (市町橋本三郎同家) 右板元よりの申出で本屋行 行司にて開届け板行 申出年月 文化八年正月	女當用文章 一冊 筆者 晴雲堂一言 (京都) 板元 吉文字屋市右衛門 出願 文化八年二月 許可 文化八年六月二十一日	掌中群書一覽 一冊 作者 尾崎 春藏 (鹿木町) 板元 海部屋勘兵衛 (小濱町) 出願 文化八年二月 許可 文化八年六月二十一日	
再板發行申出 板元 吉文字屋市左衛門 右板元よりの申出で本屋行 行司にて開届け板行 申出年月 文化七年十月	書狀大全 再板發行申出 板元 吉文字屋市左衛門 右板元よりの申出で本屋行 行司にて開届け板行 申出年月 文化七年十月	新增字林玉篇大全 一冊	桂百人一首玉兔 一冊 再板發行申出	

畫工 竹原春朝齋(故人) 板元 秋田屋市兵衛 (安堂寺町五丁目) 出願 文化八年二月 許可 文化八年六月二十一日	京都指南圖 一枚摺 畫工 西村中和 (京 都) 板元 小刀屋六兵衛 (津村東之町) 出願 文化八年三月 許可 文化八年七月十四日	續表書字覽 一冊 兼者 黒井子昂(故人) 板元 鹽屋長兵衛 (備馬町) 出願 文化八年三月 許可 文化八年七月十四日	藝苑志 一冊 作者 嶋屋權右衛門 (道空町) 板元 藤屋九兵衛 (安堂寺町五丁目) 出願 文化八年三月 許可 文化八年七月十四日	溫泉論 二冊
作者 拓植中務 (和州高取) 板元 吉文字屋市右衛門 (木挽町中ノ丁) 出願 文化八年四月 許可 文化八年七月十八日	南海遺珠 二冊 作者 中山城山 (讃州高松) 板元 河内屋竹松 (北久太郎町五丁目) 代判 茂兵衛 出願 文化八年四月 許可 文化八年七月十八日	易術斷則 一冊 作者 盧橋菴 (京) 板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋五丁目) 出願 文化八年四月 許可 文化八年七月十八日	古易又玄解 五冊 丁數一百二十二丁	
作者 井上主殿 (北船場町) 板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋一丁目) 出願 文化八年四月 許可 文化八年七月十八日	改正日本圖 一枚摺 作者 赤水 (常州水戸) 板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋一丁目) 出願 文化八年四月 許可 文化八年七月十八日	年中吉方一覽 折本壹枚摺 作者 松浦幸七良 (五里町) 板元 藤屋善七 (高麗橋一丁目) 出願 文化八年四月 許可 文化八年七月十八日	畫咄百の笑 一冊 新板發行申出 作者 十南合一九 板元 河内屋喜兵衛 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 文化八年四月	
紀伊國名所圖會 前篇 丁數二百七十丁 五冊 作者 帶屋伊兵衛 (紀州若山新通二丁目) 藏板主 右同人 支配人 河内屋太助 (唐物町四丁目)	當世容顏美艶考 小本二冊 新板發行申出 校合者 淺野高造 板元 敦賀屋久四郎 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 文化八年六月	增 狂歌嫩葉集 二冊 丁數六十七丁増補再刻願出 作者 蘆原蟹丸 (安堂寺町五丁目) 板元 吉文字屋市右衛門 (木挽町中之丁) 出願 文化八年七月 許可 文化八年七月二十六日	四聲字林集韻 一冊 大紙三ツ切丁數二百九十九丁	

從來は豎本仕立なりしを此度より横本に仕立て發行の旨を願出 作者 鎌田環齋 (藤波村) 板元 吉文字屋市右衛門 (木挽町中之丁) 出願 文化八年七月 許可 文化九年正月	新撰姓氏錄 四冊 丁數一百五十二丁 増訂再板願出 校合者 稻彦(故人) 板元 海部屋勘兵衛 (小濱町) 出願 文化八年七月 許可 文化九年正月	萬葉類葉抄 二冊 丁數九十四丁 作者 村上三助 (京 都) 板元 奈良屋長兵衛 (本町二丁目) 出願 文化八年七月 許可 文化八年十月十六日	新深川集 一冊	
作者 黃花菴升六 (尾上町) 板元 鹽屋忠兵衛 (北久太郎町五丁目) 出願 文化八年七月 許可 文化八年十月十六日	俳諧翁反古 二冊 丁數四十五丁 作者 花屋菴奇淵 (南久太郎町六丁目) 板元 鹽屋忠兵衛 (北久太郎町五丁目) 出願 文化八年七月 許可 文化八年十月十六日	清利大師めぐり 三冊 丁數六十七丁 新板發行申出 作者 十返合一九 (東 都) 板元 河内屋嘉七 (備馬町) 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 文化八年八月	俳諧發句櫻苗 二冊 丁數九十一丁	
作者 花屋菴奇淵 (南久太郎町六丁目) 藏板主 右同人 賣弘 河内屋嘉七 (備馬町) 出願 文化八年八月 許可 文化八年十月十二日	黃花菴升六發句集 二冊 丁數八十七丁 作者 黃花菴升六 (尾上町) 藏板主 右同人 賣弘 鹽屋忠兵衛 (北久太郎町五丁目) 出願 文化八年八月 許可 文化八年十月十二日	和歌景物便覽 小本一冊 丁數九十九丁 作者 蓮阿 (京都双林寺中) 板元 奈良屋長兵衛 (本町二丁目) 出願 文化八年八月 許可 文化八年十月十二日	新 濟の宿がえ 五冊 丁數八十三丁 新板發行申出	
作者 桂文治 (新町新堀町) 板元 鹽屋長兵衛 (備馬町) 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 文化八年八月	女用小倉文臺 一冊 丁數一百七丁再板發行申出 板元 鹽屋平助 代判 鹽屋忠兵衛 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 文化八年八月	增 浪華藝苑志 一冊 三ツ切丁數二十四丁 新板發行申出 作者 嶋屋權右衛門 (常安裏町) 板元 藤屋九兵衛 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 文化八年八月	昔今庚申譚 五冊 丁數一百三十一丁 作者 栗枝亭鬼卯	

<p>板元 平野屋宗七 (遼州小夜中山) 出願 文化八年八月 許可 文化九年正月 南船屋町)</p> <p>繪本更科舛紙 後篇 五冊 丁數一百十丁 作者 栗枝亭鬼卯 (遼州日坂)</p> <p>板元 勝尾屋六兵衛 (博勢町) 出願 文化八年八月 許可 文化九年正月</p> <p>金屋金五郎全傳 五冊 丁數一百二十七丁 作者 金太樓 (北久寶寺町五丁目)</p> <p>板元 敦賀屋文四郎 (北久太郎町五丁目) 出願 文化八年八月 許可 文化九年正月</p> <p>筑前國金鱗化粧櫻 六冊 丁數一百三十二丁 作者 中川昌房 (高津新地八丁目) 板元 丹波屋榮藏 (谷町三丁目) 出願 文化八年九月</p>	<p>許可 文化九年正月</p> <p>卷懷四聲字林集韻 一冊 丁數二百四十丁 從來板行のもの此度半紙二ツ切の形を以て巻懷形とし新に發行願出 作者 鎌田環齋 (藤波村)</p> <p>板元 吉文字屋市右衛門 (木挽町中之丁) 出願 文化八年九月 許可 文化九年正月</p> <p>狂哥浪花土産 一冊 丁數十四丁新板發行申出 集者 玉縁齋壽好(故人) 板元 鹽屋龜藏 (今橋二丁目) 代判 橋本屋惣兵衛 右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行 申出年月 文化八年十月</p> <p>毘沙門天王靈驗記 五冊 丁數一百六十四丁 作者 木田重規 (瓦町二丁目) 藏板主 地藏寺 (河内) 賣弘 近江屋平藏</p>	<p>出願 文化八年十一月 (瓦町二丁目) 許可 文化九年九月</p> <p>古易病筮格 二冊 丁數六十一丁 作者 釋便道 (紀州) 板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋一丁目) 出願 文化八年十一月 許可 文化九年五月二十七日</p> <p>増字早引節用集眞字附一冊 百信 丁數一百七十七丁再割發行願出 作者 山下重政(故人) 板元 柏原屋與左衛門 (願登町五丁目) 出願 文化八年十一月 許可 文化九年五月二十七日</p> <p>清明上河圖 一冊 畫工 岡熊岳 (尾張坂町) 板元 河内屋吉兵衛 (南木町五丁目) 出願 文化八年十一月 許可 文化九年五月二十七日</p>	<p>出願 文化八年十一月 (瓦町二丁目) 許可 文化九年九月</p> <p>紀伊國名所圖會二篇 五冊 丁數二百廿七丁 作者 帶屋伊兵衛 (紀州若山新通二丁目) 藏板主 右同人 賣弘 河内屋太助 (唐物町四丁目) 出願 文化八年十一月 許可 文化九年六月</p> <p>養生訓 四冊 附錄補割願出 作者 貝原篤信(故人) 校合者 杉原義篤 (白髮町)</p> <p>板元 海部屋勘兵衛 出願 文化八年十二月 許可 文化九年五月二十七日</p> <p>三勝柳菫根色指 六冊 (前篇四冊後篇二冊とあれば六冊は書損たるべきか)新板發行申出 丁數七十三丁 作者 近松徳斐(故人) 板元 河内屋多助 右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行 申出年月 文化八年十一月</p> <p>申年役者出情噺 三冊</p>
--	--	--	---

<p>新板發行申出</p> <p>作者 八文字屋自笑 板元 河内屋多助 右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行 申出年月 文化八年十一月</p> <p>劇場訓蒙圖彙 五冊 丁數八十九丁 新板發行申出</p> <p>作者 式亭三馬 (京都) 板元 河内屋太助 (唐物町四丁目) 右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行 申出年月 文化八年十二月</p> <p>増補新大成のしらべ 二冊増補の分組とも疊付 一百三十丁内六丁は目録 新刊發行申出 板元 柏原屋與左衛門 右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行 申出年月 文化八年十二月 〔附記〕本書は文化九年十一月再増補板行</p> <p>花江都年代記 三篇 四冊 歌舞伎年代記</p>	<p>丁數八十四丁新板發行申出</p> <p>作者 談洲樓焉馬 (江戸) 板元 河内屋太助 (唐物町四丁目) 右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行 申出年月 文化九年二月</p> <p>小學紺珠 六冊 墨附四百丁 作者 宋、王厚齋 板元 河内屋吉兵衛 (南木町五丁目) 出願 文化九年二月 許可 文化九年七月十三日</p> <p>實語教繪抄 一冊 墨附三十四丁 作者 岡田玉山(故人) 板元 今津屋辰三郎 (江戸堀二丁目) 出願 文化九年二月 許可 文化九年七月十三日</p> <p>吾妻の都登 二冊 墨附九十丁 作者 玉屋五兵衛 (河波橋町) 板元 扇屋利助</p>	<p>出願 文化九年二月 (百貫町) 許可 文化九年七月十三日</p> <p>子孫長命衛生論 三冊 丁數一百四丁 作者 本井子承(故人) 板元 丹波屋榮藏 (谷町三丁目) 出願 文化九年二月 許可 文化十年六月十七日</p> <p>脚氣辨正 一冊 丁數二十五丁 作者 丸山士美 (紀州若山) 板元 吉文字屋市右衛門 (木挽町中之丁) 出願 文化九年二月 許可 文化十年四月</p> <p>古今詠物詩選 四冊 附錄歴朝名家詩話 此度附録の歴朝名家詩話を添加發行の旨申出 板元 河内屋太助 右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行 申出年月 文化九年二月</p> <p>花江都年代記 四編 四冊 歌舞伎年代記</p>	<p>丁數八十二丁 新板發行申出</p> <p>作者 談洲樓焉馬 (江戸) 板元 河内屋太助 (唐物町四丁目) 右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行 申出年月 文化九年三月</p> <p>會席噺袋 三冊 丁數三十五丁 新板發行申出</p> <p>作者 一丸 (浪花) 板元 河内屋喜兵衛 (北久太郎町五丁目) 右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行 申出年月 文化九年三月</p> <p>經典熟字辨 類目二十丁熟字辨目次と本文との間に増補の類目二十丁を添加發行の事を申出 作者 鎌田環齋 (藤波村) 板元 吉文字屋市右衛門 (木挽町中之丁) 右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行</p>
---	---	---	---

<p>卜筮樞要 二冊 丁數八十一丁 作者 平澤左仲 (江戸)</p> <p>板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋二丁目)</p> <p>出願 文化九年十一月 許可 文化十年七月四日</p>	<p>増補新大成絲のしらべ 二冊 此度九十一丁増補 發行申出 板元 柏原屋與左衛門 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 文化九年十一月</p>	<p>板元 河内屋太助 (唐物町四丁目)</p> <p>右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 文化九年十一月</p> <p>冠附蟲目録 一冊 丁數八十八丁 新刊發行 申出</p> <p>作者 芳井馬宥 (袋屋町)</p> <p>板元 鹽屋平助 (南久寶寺町)</p> <p>代判 鹽屋忠兵衛 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 文化九年十一月</p>	<p>老子解 一冊 丁數二十一丁 作者 仁科源太夫 (備前岡山)</p> <p>板元 敦賀屋九兵衛 (鶴屋町)</p> <p>出願 文化九年十一月 許可 文化十年七月</p>	<p>校本古今和歌集 二冊 丁數一百三十一丁 校合者 聽雨菴蓮阿 (京都東山)</p>	<p>板元 敦賀屋九兵衛 (鶴屋町)</p> <p>出願 文化九年十一月 許可 文化十年七月</p> <p>紫文製錦 二篇二冊 三四之卷 丁數九十四丁 作者 橋本稻彦(故人)</p> <p>板元 奈良屋長兵衛 (本町二丁目)</p> <p>出願 文化九年十一月 許可 文化十年七月</p>	<p>和歌新吳竹集 二冊 丁數一百九十七丁 作者 石津平助 (曾根崎村)</p> <p>板元 河内屋嘉七 (傳馬町)</p> <p>出願 文化九年十一月 許可 文化十年七月</p>	<p>和蘭文字早讀傳授 一冊 折本 作者 盧橋菴 (京都)</p> <p>板元 秋田屋太右衛門 (車町)</p> <p>出願 文化九年十一月 許可 文化十年七月</p>	<p>七才子詩集注解 二冊 此度十二丁補刻發行申出 板元 河内屋太助 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 文化九年十二月</p> <p>作者 當陽軒支樓 (北野村)</p> <p>丁數二十二丁</p> <p>藏板主 右同人 寶弘 播磨屋九兵衛 (高麗橋二丁目)</p> <p>出願 文化九年十二月 許可 文化十年七月</p>	<p>本朝大成畫家印譜 一冊 折本 作者 中村勝造 (勢州)</p> <p>板元 藤屋善七 (高麗橋二丁目)</p> <p>出願 文化九年十二月 許可 文化十年七月</p>	<p>朱竹垞詩抄 五冊 丁數一百十三丁 點者 春田尙平 (土佐堀二丁目)</p>
--	--	---	--	--	---	---	---	---	---	---

<p>板元 河内屋太助 (唐物町四丁目)</p> <p>出願 文化九年十二月 許可 文化十年七月</p> <p>水石畫譜 一冊 丁數二十丁 作者 小橋屋萬兵衛 (鹽町三丁目)</p> <p>板元 河内屋喜兵衛 (北久太郎町五丁目)</p> <p>出願 文化九年十二月 許可 文化十年七月</p>	<p>狂歌生駒山 二冊 丁數一百六十丁 作者 木編 (百貫町)</p> <p>板元 扇屋利助 (曾根崎村)</p> <p>出願 文化九年十二月 許可 文化十年七月</p>	<p>狂歌題林集 四冊 丁數一百七十九丁 作者 石津平助 (曾根崎村)</p> <p>板元 扇屋利助 (百貫町)</p> <p>出願 文化九年十二月 許可 文化十年七月</p>	<p>本朝千字文 かな付首書 半紙本 一冊 丁數十五 丁新刊申出 板元 敦賀屋九兵衛 (鶴屋町)</p> <p>右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 文化九年十二月</p> <p>琴歌目録 一冊 丁數二十五丁 新刊申出 作者 柏原屋與左衛門 (鹽町五丁目)</p> <p>右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 文化九年十二月</p>	<p>妹脊の通轉 四冊 丁數七十二丁 新刊申出 作者 八重垣歌國 (京町堀二丁目)</p> <p>板元 河内屋太助 (唐物町四丁目)</p> <p>右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 文化九年十二月</p> <p>續三五和歌集類題 二冊 丁數一百四十九丁</p>	<p>作者 大虛菴光演 (大津)</p> <p>板元 奈良屋長兵衛 (本町二丁目)</p> <p>出願 文化十年正月 許可 文化十年十二月</p> <p>遊女爪志るし 一冊 丁數二十九丁 新刊發行 集者 吉田利三郎 (立賣堀南裏町)</p> <p>板元 藤屋徳兵衛 (北久太郎町五丁目)</p> <p>右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 文化十年正月</p>	<p>歌曲組歌目録 一冊 丁數五丁半 増補發行申出 板元 柏原屋與左衛門 (鹽町五丁目)</p> <p>右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 文化十年正月</p> <p>増補武用辨略 八冊 増補作者 伊藤文藏 (鹽後園)</p>	<p>板元 河内屋太助 (唐物町四丁目)</p> <p>出願 文化十年二月 許可 文化十年七月</p> <p>西の替役者目利自慢 二冊 作者 八文字舍自笑 (唐物町四丁目)</p> <p>板元 河内屋太助 (唐物町四丁目)</p> <p>右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 文化十年二月</p>	<p>正訓神代卷 二冊 丁數九十丁 作者 源稻彦(故人) (番州廣嶋)</p> <p>板元 河内屋太助 (唐物町四丁目)</p> <p>出願 文化十年二月 許可 文化十年八月</p>	<p>阿蘭陀始制理原 二冊 エレキテル 丁數五十一丁 作者 橋本宗吉 (安堂寺町五丁目)</p> <p>板元 河内屋太助 (唐物町四丁目)</p> <p>出願 文化十年二月 許可 文化十年七月</p> <p>(附記) 本書板行の義出願し</p>
--	--	---	--	---	--	---	--	--	---

たるも同年八月都合により願ひ下げとなる

再建天王寺参り

見物 三冊
新板發行申出
作者 十返舎一九 (江戸)

古今假名遣

右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行
申出年月 文化十年三月
作者 橋本 稻彦(故人)
板元 奈良屋長兵衛 (本町五丁目)

百忍歌庶人孝經

丁數五十七丁
作者 阿竹華岳
板元 河内屋彌太郎 (長堤十丁目)

家相故曆傳

二冊

丁數五十丁
作者 松浦東鷄 (南瓦屋町)

板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋一丁目)

和歌ぬさ袋

一冊
以前「掌中明題」と題せしもの
「掌中題林抄」と題せしもの
「掌中まさな神」と題せしもの
「掌中假名字例」と題せしもの
以上四種を合本とし此度改題發行申出

板元 奈良屋長兵衛

右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行
申出年月 文化十年四月

歌人傳

一冊
一名色葉和歌集
以前「典義抄」と題せしもの
内より抜撰此度改題發行申出
右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行
申出年月 文化十年四月

教訓女今川操草

一冊

丁數二十四丁
作者 岡田玉山(故人)

板元 勝尾屋六兵衛 (博勢町)

雪玉集

四冊
校合者 尾崎春藏 (根木町)

板元 奈良屋長兵衛 (本町二丁目)

出願 文化十年五月
許可 文化十年七月二十九日

紫文製錦三編

二冊
五六之巻
作者 橋本 稻彦(故人) (豊州廣嶋)

出願 文化十年五月
許可 文化十年七月二十九日

許可 文化十年七月二十九日

算術早指南 一冊
丁數七十四丁
作者 奥山源藏 (根木町)

板元 勝尾屋六兵衛 (博勢町)

古今袖中歌袋

一冊
新板發行申出
撰者 淺野高藏 (本町四丁目)

板元 柏原屋與左衛門 (藤原町五丁目)

狂歌一人十首

一冊
新板發行申出
集者 三日坊鎌丸 (藤原町四丁目)

右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行
申出年月 文化十年五月

松陽講義

四冊
丁數三百二十三丁
作者 清、隱 共
調點者 篠崎長左衛門 (江戸堀一丁目)

醫方秘事曉中編

二冊
作者 篠山 齡臺 (天滿北嶋町)

醫方秘事曉後編

二冊
作者 篠山 齡臺 (天滿北嶋町)

苙早考

一冊
再板發行申出
板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋一丁目)

司にて開届け板行
申出年月 文化十年七月

霞亭詩抄

一冊
丁數四十六丁
作者 齋藤霞亭 (兵庫魚野町)

板元 河内屋喜兵衛 (北久太郎町五丁目)

出願 文化十年七月
許可 文化十年十一月十九日

百人一首女訓玉文庫

一冊
作者 石津平助 (曾根崎村)

板元 加賀屋彌助 (博馬町)

出願 文化十年七月
許可 文化十年十一月十九日

作者 玉泉堂膳丸 (曾根崎村)

板元 安田屋吉兵衛 (曾根崎村)

出願 文化十年九月
許可 文化十年十一月十九日

繪本兒耳寶

三冊
新板發行申出
右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行
申出年月 文化十年八月

談資錄

二冊
作者 白木忠藏 (讃州)

藏板主 右同人 (讃州)

賣弘 和田屋修藏 (淡路町切町)

出願 文化十年九月
許可 文化十年十一月十九日

許可 文化十年十一月十九日

假粧水千貫精寛 六冊
丁數一百十九丁
作者 歌 國 (京町堀二丁目)

板元 播磨屋重郎兵衛 (北久太郎町五丁目)

出願 文化十年九月
許可 文化十年十一月十九日

緯山碑

新刊發行申出
刻者 前川帶刀 (京都)

藏板主 増田屋源兵衛 (博勢町)

賣弘 増田屋源兵衛 (博勢町)

右賣弘人よりの申出でを本屋行司にて開届け板行
申出年月 文化十年十月

狂歌三栗集

一冊
藏板主 依屋惣七 (京町堀一丁目)

賣弘 扇屋利助 (百貫町)

出願 文化十年十月
許可 文化十年十一月十九日

南北脩身錄

四冊
藏板主 水野南北

<p>賣弘 扇屋利助 (京 都) 助 (百貫町)</p> <p>出願 文化十年十月</p> <p>許可 文化十年閏十一月十九日</p> <p>百性往來 一冊</p> <p>新板發行申出</p> <p>板元 藤屋善七</p> <p>右板元よりの申出でを本屋行</p> <p>司にて開届け板行</p> <p>申出年月 文化十年十一月</p> <p>冠附鏡磨 一冊</p> <p>丁數六十九丁新板發行申出</p> <p>作者 桐芽菴曲破 (北備前町)</p> <p>板元 藤屋徳兵衛 (北久太郎町五丁目)</p> <p>右板元よりの申出でを本屋行</p> <p>司にて開届け板行</p> <p>申出年月 文化十年十一月</p> <p>繪いろは國字忠臣蔵 五冊</p> <p>新板發行申出</p> <p>作者 布屋清藏 (京町堀一丁目)</p> <p>板元 河内屋太助 (唐物町四丁目)</p> <p>右板元よりの申出でを本屋行</p>	<p>司にて開届け板行</p> <p>申出年月 文化十年十一月</p> <p>五畿内産物圖會 五冊</p> <p>新板發行申出</p> <p>作者 大原東野 (美木町)</p> <p>藏板主 右 同人</p> <p>賣弘 河内屋太助 (唐物町四丁目)</p> <p>右賣弘人よりの申出でを本屋行</p> <p>司にて開届け板行</p> <p>申出年月 文化十年十一月</p> <p>蘭室集略 十二冊</p> <p>作者 藤子善 (豐後編綴)</p> <p>藏板主 右 同人</p> <p>賣弘 加賀屋善藏 (北久太郎町五丁目)</p> <p>出願 文化十年十一月</p> <p>許可 文化十年閏十一月十九日</p> <p>女孝鏡草 一冊</p> <p>丁數五十七丁</p> <p>作者 十返舎一九 (江 戶)</p> <p>板元 小刀屋六兵衛 (津村東之町)</p> <p>出願 文化十年十一月</p> <p>許可 文化十年閏十一月</p>	<p>頭書五體千字文 一冊</p> <p>丁數二十九丁</p> <p>作者 峰岸啓藏 (難波村)</p> <p>板元 吉文字屋市右衛門 (木挽町中之丁)</p> <p>出願 文化十年十一月</p> <p>許可 文化十年閏十一月十九日</p> <p>難波津百首 一冊</p> <p>作者 成樂堂 (天 橋)</p> <p>板元 藤屋徳兵衛 (北久太郎町五丁目)</p> <p>出願 文化十年十一月</p> <p>許可 文化十年閏十一月</p> <p>日本回國勸懲記 五冊</p> <p>作者 濱松歌國 (京町堀二丁目)</p> <p>板元 播磨屋重郎兵衛 (北久太郎町五丁目)</p> <p>出願 文化十年十一月</p> <p>許可 文化十年閏十一月十九日</p> <p>四季こし扇 一冊</p> <p>詞林</p> <p>以前は半紙本三ツ切形なりしを比度大半紙本三ツ切形にし再板發行願出</p> <p>作者 八千坊</p>	<p>板元 鹽屋忠兵衛 (吳服町)</p> <p>出願 文化十年十一月</p> <p>許可 文化十年閏十一月</p> <p>戌年役者繁榮話 三冊</p> <p>新板發行申出</p> <p>作者 八文舎自笑 (京 都)</p> <p>板元 河内屋太助 (唐物町四丁目)</p> <p>右板元よりの申出でを本屋行</p> <p>司にて開届け板行</p> <p>申出年月 文化十年閏十一月</p> <p>道中早繰細見圖 折本</p> <p>一枚摺</p> <p>作者 南里亭其樂 (江 戶)</p> <p>板元 吉文字屋市右衛門 (木挽町中之丁)</p> <p>出願 文化十年閏十一月</p> <p>許可 文化十一年正月</p> <p>繪本高名猿 小本三冊</p> <p>繪本武者賣 小本三冊</p> <p>繪本智惠賣 小本三冊</p> <p>繪本千歲笑 小本三冊</p>
---	---	--	---

<p>繪本春の始 小本三冊</p> <p>繪本玉の光 小本三冊</p> <p>以上七種新板發行申出</p> <p>板元 豊後屋伊兵衛</p> <p>右板元よりの申出でを本屋行</p> <p>司にて開届け板行</p> <p>申出年月 文化十年閏十一月</p> <p>浪華花時計 一冊</p> <p>新板發行申出</p> <p>作者 好文舎花笑</p> <p>板元 扇屋利助 (百貫町)</p> <p>右板元よりの申出でを本屋行</p> <p>司にて開届け板行</p> <p>申出年月 文化十年閏十一月</p> <p>和歌七玉題林抄 一冊</p> <p>作者 蓮阿法師 (京都東山)</p> <p>板元 河内屋嘉七 (備前町)</p> <p>出願 文化十年閏十一月</p> <p>許可 文化十一年六月</p> <p>繪本更科双紙 三編 五冊</p> <p>作者 栗枝亭鬼那 (遠州日坂)</p> <p>板元 河内屋嘉助 (博 夢町)</p>	<p>出願 文化十年閏十一月</p> <p>許可 文化十一年六月五日</p> <p>南紀風雅集 三冊</p> <p>作者 伊藤海藏 (紀州若山)</p> <p>藏板主 右 同人</p> <p>賣弘 河内屋太助 (唐物町四丁目)</p> <p>出願 文化十年閏十一月</p> <p>(附記) 本書板行の義出願したるが後都合により願ひを取消す</p> <p>新撰姓氏錄 四冊</p> <p>丁數一百五十一丁 増補</p> <p>新刻發行願出</p> <p>校合者 橋本稻彦(故人)</p> <p>板元 海部屋勘兵衛 (小 濱町)</p> <p>出願 文化十年十二月</p> <p>許可 文化十三年四月十二日</p> <p>五代史 十五冊</p> <p>補刻發行申出</p> <p>板元 河内屋吉兵衛</p> <p>右板元よりの申出でを本屋行</p> <p>司にて開届け板行</p> <p>申出年月 文化十年十二月</p> <p>故事附古新説話 五冊</p>	<p>新板發行申出</p> <p>作者 十南舎一九 (慶人町二丁目)</p> <p>板元 秋田屋太右衛門 (車 町)</p> <p>右板元よりの申出でを本屋行</p> <p>司にて開届け板行</p> <p>申出年月 文化十年十二月</p> <p>冠附名附親 一冊</p> <p>新板發行申出</p> <p>作者 草竹亭史力 (北久太郎町五丁目)</p> <p>板元 藤屋徳兵衛</p> <p>右板元よりの申出でを本屋行</p> <p>司にて開届け板行</p> <p>申出年月 文化十年十二月</p> <p>冠附たわれ梅 一冊</p> <p>(一名取方手引草)</p> <p>新板發行申出</p> <p>作者 芳齋堂 (し ぬ町)</p> <p>板元 藤屋善七 (高麗橋一丁目)</p> <p>右板元よりの申出でを本屋行</p> <p>司にて開届け板行</p> <p>申出年月 文化十一年正月</p> <p>花鏡二卷咄 二冊</p> <p>新板發行申出</p>	<p>作者 一 九 (上 町)</p> <p>板元 吉文字屋市右衛門 (木挽町中之丁)</p> <p>右板元よりの申出でを本屋行</p> <p>司にて開届け板行</p> <p>申出年月 文化十一年二月</p> <p>四國名所圖會 二冊</p> <p>阿波之部</p> <p>作者 布屋喜兵衛 (南久寶寺町一丁目)</p> <p>藏板主 右 同人</p> <p>賣弘 河内屋太助 (唐物町四丁目)</p> <p>出願 文化十一年二月</p> <p>許可 文化十一年九月三十日</p> <p>後撰集新抄別記 一冊</p> <p>作者 中山編助 (三州吉田家中)</p> <p>藏板主 右 同人</p> <p>賣弘 河内屋太助 (唐物町四丁目)</p> <p>出願 文化十一年二月</p> <p>許可 文化十一年九月三十日</p> <p>周髀算經正解 一冊</p> <p>丁數十二丁</p> <p>作者 鳥名左七郎 (紀州若山家中)</p>
---	--	--	--

藏板主 右 同人
賣弘 河内屋太助 (唐物町四丁目)
出願 文化十一年二月
許可 文化十一年九月三十日

須彌山儀銘并序和解

二冊 圖一枚添
作者 積善院圓通 (聖護院宮内)

藏板主 感 應 寺 (紀 州)

賣弘 海部屋勘兵衛 (小 濱 町)

出願 文化十一年四月
許可 文化十一年十一月

教訓百物語

一冊
作者 村 井 山 清 (故人)

板元 加嶋屋久兵衛 (四 軒 町)

出願 文化十一年四月
許可 文化十二年三月

雜書大全以呂波引

一冊
作者 鎌 田 積 藏 (山城國時村)

板元 勝尾屋六兵衛 (博 勢 町)

出願 文化十一年四月
許可 文化十二年三月

魚釣釣竿精要

一冊
丁數四十八丁 新板發行

作者 白 舟 子 (河州八尾)

板元 平野屋武右衛門 (藤 馬 町)

右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行

申出年月 文化十一年四月

愛蓮說

一冊
新刊發行申出

筆者 陶 齋

藏板主 村上恆菴 (油 掛 町)

賣弘 河内屋嘉助 (博 勢 町)

右賣弘人よりの申出でを本屋
行司にて開届け板行

申出年月 文化十一年四月

女實語教操草

小本 一冊

作者 大村喜兵衛 (故人)

板元 勝尾屋六兵衛 (博 勢 町)

出願 文化十一年五月
許可 文化十一年七月

經典餘師

五冊

成年俄選

五冊
作者 一 淡 (故人)

板元 平野屋武右衛門 (藤 馬 町)

右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行

申出年月 文化十一年五月

朝鮮集

一冊
新板發行申出

畫工 三木探月齋 (唐物町三丁目上中)

板元 淺田屋清兵衛 (北久太郎町四丁目)

右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行

申出年月 文化十一年六月

狂歌選集樂

二冊
新板發行申出

藏板主 三日坊雛丸 (藤馬町四丁目)

賣弘 鹽屋長兵衛 (藤 馬 町)

右賣弘人よりの申出でを本屋
行司にて開届け板行

申出年月 文化十一年六月

芝翫帖

一冊

新板發行申出

作者 濱 松 歌 國 (京町堀二丁目)

板元 河内屋太助 (唐物町四丁目)

右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行

申出年月 文化十一年六月

加賀屋芝翫栗毛

二冊
新板發行申出

作者 濱 松 歌 國 (京町堀二丁目)

板元 河内屋太助 (唐物町四丁目)

右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行

申出年月 文化十一年六月

大成年代記

折本 一冊
再板發行申出

板元 河内屋太介 (唐物町四丁目)

右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行

申出年月 文化十一年七月

陶齋隨筆

一冊
丁數二十八丁 齋 (故人)

作者 陶 齋 (故人)

板元 河内屋嘉介 (博 勢 町)

出願 文化十一年七月
許可 文化十二年三月

狂哥後三栗集

二冊
藏板主 嶋 好 節 (高麗橋二丁目)

賣弘 扇 屋 利 介 (町 百 貫)

出願 文化十一年七月
許可 文化十二年五月三日

花朝顔通

一冊
作者 陸摩屋善兵衛 (藤原中筋町)

板元 河内屋八兵衛 (南久寶寺町五丁目)

出願 文化十一年七月
許可 文化十二年五月三日

萬寶二面鑑

一枚摺
黃楊板 折本 再板發行申出

出願 文化十一年七月
許可 文化十二年五月三日

文通大全

一冊
再板發行申出

板元 吉文字屋市右衛門

右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行

申出年月 文化十一年八月

丸散經驗方

一冊
以前「醫藥家方規矩」と題せし
ものゝ内より抜摺し此度改題
發行申出

板元 吉文字屋市右衛門

右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行

申出年月 文化十一年九月

春秋左氏傳國字辨

十五冊
丁數七百五十七丁

作者 加 藤 正 菴 (尾州名古屋)

賣弘 油屋清右衛門 (信 濃 町)

出願 文化十一年九月
許可 文化十二年七月十三日
(附記) 名古屋の加藤方にて

女大學寶箱

一冊
再板發行申出

作者 貝 原 篤 信 (故人)

板元 柏原屋清右衛門 (藤馬町五丁目)

右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行

申出年月 文化十一年十月

四國道路案内

一冊
新板發行申出

板元 大津屋治郎右衛門

右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行

申出年月 文化十一年十月

西洋醫事集成寶函

九冊
初篇 丁數二百五十一丁

著者 遠西玉函涅斯雅 谷歩伍乙志
譯者 橋 本 宗 吉

<p>板元 河内屋太助 (安堂寺町五丁目) 出願 文化十一年十一月 許可 文化十三年四月三日</p> <p>夕霧書替文章 五冊 丁數一百五十五丁 作者 栗枝亭鬼卯 (遠州日坂) 板元 河内屋嘉助 (博勢町) 出願 文化十一年十一月 許可 文化十二年十二月</p> <p>四書道春點 小本三冊 片假名附 再板發行申出 校合者 鎌田 頑藏 (京 都) 板元 河内屋嘉助 (博勢町) 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 文化十一年十一月</p> <p>役者壁の節 三冊 新板發行申出 作者 八文舎自笑 (京 都) 板元 河内屋太助 (博勢町四丁目)</p>	<p>右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 文化十一年十一月</p> <p>定結納瓜蒨 七冊 前編四冊後編三冊 新板 發行申出 作者 奈川 晴助 板元 河内屋太助 (博勢町四丁目) 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 文化十一年十一月</p> <p>方位三才精義 三冊 (一名天地人之卷) 丁數二百四丁 作者 西岡 玉全 (京 都) 賣弘 藤屋彌兵衛 (高麗橋一丁目) 出願 文化十一年十二月 許可 文化十二年七月十六日 (附記) 京都西岡玉全方にて 新刻發賣せる本書は從來大坂 高麗橋一丁目藤屋彌兵衛方に 所持の家相書及び方位書とは 類板のものなるを以て藤屋方 より西岡方に交渉の結果本書 の板木全部を藤屋方に引取り</p>	<p>賣弘めることを出願し公儀よ りその許可を得たるなり</p> <p>萬年大雜書曆臺箋 一冊 丁數一百一丁 作者 濱 松 歌 國 (北備屋町) 板元 加賀屋善藏 (北久太郎町五丁目) 出願 文化十一年十二月 許可 文化十二年七月十六日 (附記) 本書は文政三年十二 月に至り「永代曆」と改題板行 せり</p> <p>法花惣成佛抄 三冊 附錄法花初心教化抄 作者 僧 日 華 (北久太郎町五丁目) 板元 加賀屋善藏 (北久太郎町五丁目) 出願 文化十一年十二月 許可 文化十二年七月十六日 (附記) 本書板行の義出願し たるが「此書諸宗旨を批議し 畢竟宗論にも似寄りたる書物 ゆゑ御開濟みこれなし」とて 却下せらる</p> <p>繪合大功記 一冊 新板發行申出 板元 本 屋 清 七</p>	<p>右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 文化十二年正月</p> <p>かゝみ山舊錦繪 一冊 新板發行申出 板元 本 屋 清 七 (車 町) 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 文化十二年正月</p> <p>斑鳩夜話問答集 二冊 丁數八十三丁 作者 松 浦 東 鶴 (南瓦屋町) 板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋一丁目) 出願 文化十二年二月 許可 文化十三年四月十二日</p> <p>律呂辨說 一冊 丁數三十六丁 作者 鈴 木 修 敬 (京 都) 板元 河内屋八兵衛 (南久寶寺町五丁目) 出願 文化十二年二月 許可 文化十三年四月十二日</p>
--	--	--	--

<p>卜筮射覆卜淵 二冊 丁數七十七丁 作者 平 澤 左 伸 (江戸西久保) 賣弘 藤屋彌兵衛 (高麗橋一丁目) 出願 文化十二年七月十六日 許可 文化十二年七月十六日 (附記) 本書は江戸西久保平 澤左伸方の新刻なるが大坂高 麗橋一丁目藤屋彌兵衛方に於 て從來所持の易學書類と類板 のものなるを以て藤屋方より 平澤方に交渉し本書の板木を 藤屋方に引取り賣弘むること とし其よし出願に及び公儀の 許可を得たるなり</p> <p>温泉論附録 一冊 作者 拓 中 務 (和州高取) 板元 吉文字屋市右衛門 (木挽町中之丁) 出願 文化十二年七月十六日 許可 文化十二年七月十六日</p> <p>方則指要 一冊 丁數三十六丁 作者 田 宮 朽 索 (河州弓削)</p>	<p>板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋一丁目) 出願 文化十二年二月 許可 文化十二年七月十六日</p> <p>百人一首 女壽蓬萊臺 文章 諸種 積方 女壽蓬萊臺 一冊 丁數八十二丁 作者 加 藤 來 藏 (道修町四丁目) 板元 河内屋喜兵衛 (北久太郎町五丁目) 出願 文化十二年七月十六日 許可 文化十二年七月十六日</p> <p>農家増益百姓往來 一冊 丁數三十三丁 作者 田 宮 朽 索 (河州弓削) 板元 藤 屋 善 七 (高麗橋一丁目) 出願 文化十二年七月十六日 許可 文化十二年七月十六日</p> <p>草 藥 四冊 丁數一百六十六丁 作者 藤 崎 長 兵 衛 (故人) 板元 加賀屋善藏 (北久太郎町五丁目) 出願 文化十二年三月 許可 文化十三年四月十六日</p>	<p>筆者 中 野 良 助 (京 都) 板元 河内屋嘉助 (博勢町) 出願 文化十二年三月 許可 文化十二年十二月</p> <p>芝翫國一覽 小本一冊 新板發行申出 作者 和泉屋彌四郎 板元 河内屋太助 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 文化十二年四月</p> <p>松翁道話二篇 三冊 丁數五十六丁 輯者 八 宮 勳 農 (故人) 板元 本屋吉兵衛 (農人橋一丁目) 出願 文化十二年五月 許可 文化十三年四月十二日 (附記) 本書は此の第二篇よ り第五篇に至る十二冊の板行 につき此年三月一旦出願した るが都合により願ひ下げ更に 此度再願に及びたるなり</p> <p>松翁道話三篇 三冊</p>	<p>丁數四十六丁 作者 八 宮 勳 農 (故人) 板元 本屋吉兵衛 (農人橋一丁目) 出願 文化十二年五月 許可 文化十三年四月十二日</p> <p>松翁道話四篇 三冊 丁數六十四丁 作者 八 宮 勳 農 (故人) 板元 本屋吉兵衛 (農人橋一丁目) 出願 文化十二年五月 許可 文化十三年四月十二日</p> <p>松翁道話五篇 三冊 丁數五十六丁 作者 八 宮 勳 農 (故人) 板元 本屋吉兵衛 (農人橋一丁目) 出願 文化十二年五月 許可 文化十三年四月十二日</p> <p>古今四季類題集 一冊 丁數六十五丁 作者 五 春 莊 井 眉 (木挽町南ノ丁) 板元 鹽屋忠兵衛 (南久太郎町五丁目) 出願 文化十二年五月</p>
--	--	---	---

許可 文化十三年四月十二日
〔附記〕本書も文化十二年三月板行の義出願したるも都合により一旦願ひ下げ更に此度出願したるなり

本教論 一冊

作者 鶴峯左京 (豊後白杵)

板元 海部屋勘兵衛 (小濱町)

出願 文化十二年五月

許可 文化十三年四月十二日

〔附記〕本書も此年三月板行の義出願したるが都合により一旦願ひ下げ更に此度再願したるものなり

生象止観 初編四冊

作者 野呂天然 (京)

蔵板主 右同人

賣弘 河内屋吉兵衛 (南本町五丁目)

出願 文化十二年六月

許可 文化十三年二月廿四日

牽牛花品類圖考 一冊

蔵板主 吉野屋利兵衛

賣弘 淺田屋清兵衛 (南久太郎町)
出願 文化十二年六月
許可 文化十二年七月十日

和哥類葉集 小本二冊

輯者 蓮阿 (京都東山)

板元 河内屋嘉七 (備馬町)

出願 文化十二年六月

許可 文化十三年四月三日

大坂武鑑 小本一冊

集者 綿屋利兵衛 (天満橋尾町)

板元 神崎屋利右衛門 (天満橋尾町)

出願 文化十二年六月

〔附記〕本書板行の出願に對し此年七月更に調査せよとて却下せらる

花壇朝顔通 中本二冊

作者 薩摩屋善兵衛 (薩摩中筋町)

板元 河内屋八兵衛

出願 文化十二年六月
許可 文化十二年七月十日
〔附記〕本書は文化十一年七月出願翌年五月板行を許可せられたるも内容を改め兼に一冊なりしを此度二冊に改めて出願し許可を得たるものなり

願掛重法記 初編 小本一冊

板元 鹽屋長兵衛 (備馬町)

右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行

申出年月 文化十二年七月

大和國筒井清水 六冊

作者 濱松歌國 (南鶴屋町)

板元 河内屋嘉七 (備馬町)

出願 文化十二年七月

許可 文化十三年四月三日

圓珠菴拾遺六帖 一冊

作者 勝岡嘉作 (播磨三木郡鹿野村)

出願 文化十二年七月

許可 文化十三年四月十二日

作者 契沖阿闍梨(故人)
板元 河内屋嘉七 (備馬町)
出願 文化十二年七月
許可 文化十三年四月三日

眞壽加賀美東佛 二冊

作者 加賀屋房丸 (笠屋町)

板元 河内屋太助

右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行

申出年月 文化十二年七月

冠附後の葉 新板發行

輯者 山下巴勢 (吉野屋町)

板元 藤屋徳兵衛 (北久太郎町五丁目)

右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行

申出年月 文化十二年八月二十日

家相本義 一冊

作者 佐藤藏人 (備中早島)

板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋一丁目)

出願 文化十二年八月

許可 文化十三年四月十二日

風水秘録 三冊

作者 西岡玉全 (京)

蔵板主 右同人

賣弘 河内屋八兵衛 (南久太郎町五丁目)

出願 文化十二年八月

許可 文化十三年四月十二日

〔附記〕本書は此年三月板行を出願したるが都合により一旦願ひ下げ更に此度再願したるものなり

拳禪廓大通 七冊

作者 畫師 布屋忠三郎 (安堂寺町五丁目)

板元 河内屋太助 (唐物町四丁目)

右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行

申出年月 文化十二年八月二十日

扇花寶知 二冊

新板發行申出

作者 濱松歌國 (南鶴屋町)

板元 河内屋太助 (唐物町四丁目)

右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行

申出年月 文化十二年八月二十日

芝翫節用百戲通 一冊

作者 和泉屋彌四郎 (福井町)

板元 河内屋太助 (唐物町四丁目)

申出年月 文化十二年八月二十日

子年顔見世評判謎懸論 三冊

板元 河内屋太助 (唐物町四丁目)

右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行

申出年月 文化十二年十一月

後撰集新抄 春之部三冊

作者 中山彌助 (三州吉田家中)

板元 河内屋太助 (唐物町四丁目)

出願 文化十二年十一月

許可 文化十三年四月十二日

商人書 狀箱 一冊

作者 淺野高藏 (本町四丁目)

板元 河内屋太助 (唐物町四丁目)

出願 文化十二年十一月

許可 文化十三年四月十二日

掌中韻鏡口輪 一冊

蔵板主 正覺寺 (備中府中)

賣弘 吉文字屋市右衛門 (木挽町中之丁)

出願 文化十二年十一月

許可 文化十三年四月十二日

四聲字林集韻大全 再刻發行申出

校合者 鎌田環齋 (難波村)

板元 吉文字屋市右衛門 (木挽町中之丁)

右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行

申出年月 文化十二年十一月

龜卜覽膠篇 一冊

作者 勝岡嘉作 (播磨三木郡鹿野村)

蔵板主 堀口寛治 (播州)

賣弘 藤屋彌兵衛 (高麗橋一丁目)

出願 文化十二年十一月

許可 文化十三年四月十二日

狂哥題林集 目錄并大意 一冊

集者 石津井助 (曾根崎村)

板元 扇屋利介 (百貫町)

出願 文化十二年十一月

許可 文化十三年四月十二日

滑稽福笑 五冊

以前「新玉簪」と題せしを此度改題板行申出

板元 河内屋太助

右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行

申出年月 文化十二年十二月二十日

頭書問屋往來 一冊

新板發行申出

板元 河内屋喜兵衛

右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行

申出年月 文化十二年十二月二十日

芝翫鼻負嘶のつる 一冊

作者 小本 新板發行申出
板元 河内屋太助 (前編屋町)

右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行
申出年月 文化十二年十二月

占病軌範 二冊

作者 井上 主殿 (中輪編町)
板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋一丁目)

出願 文化十三年正月
許可 文化十三年三月廿七日

丹後國細見大繪圖 一枚摺

作者 齊藤甚右衛門 (但馬城崎郡湯島)
板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋一丁目)

出願 文化十三年正月
許可 文化十三年三月廿七日

當流小調童子訓 小本一冊

申出年月 文化十三年三月

再開高臺梅 六冊

作者 栗杖亭鬼卯 (遠州日坂)
板元 河内屋嘉助 (博勢町)

出願 文化十三年五月
許可 十三年十月廿九日

紫家七論 丁數五十丁

作者 藤原爲章 (前本町二丁目)
校者 石津平助

出願 文化十三年五月
許可 文化十三年十月廿九日

源氏物語新釋考

作者 加茂眞淵 (故人)
校者 石津平助
以上二種合刻五冊
板元 奈良屋長兵衛 (本町二丁目)

出願 文化十三年五月
許可 文化十三年十月廿九日

水練早合點 一冊

殘取上げ置候所等組明組博組
右三組之業中より抄抄を以て
差戻し則板木差戻し遣し候
事と

文化節用寶來藏 一冊

以前「森羅萬象」と題せしもの
を訂正加除し此度改題發行申
出

板元 河内屋喜兵衛
右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行
申出年月 文化十三年二月

傷寒藥方分量考 二冊

前編六十五丁 續編五十
四丁
作者 岡田 靜默 (前本町五丁目)

出願 文化十三年三月
許可 文化十三年十月廿九日

似顔繪本玉くしげ 一冊

二篇 新板發行申出
代判 鹽屋宇兵衛
右板元よりの申出でを本屋行

丁數六十一丁

生象止觀 二篇 五冊

作者 藤井六兵衛 (故人)
板元 河内屋嘉七 (前馬町)

出願 文化十三年正月
許可 文化十三年三月廿七日

似顔繪本玉くしげ 初篇

代判 宇兵衛
右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行
申出年月 文化十三年二月

出願 文化十三年二月
許可 文化十三年十月廿九日

長野美波留 (五)

作者 吉文字屋市右衛門 (木挽町中之丁)
板元 吉文字屋市右衛門

出願 文化十三年八月
許可 文化十三年十月十四日

宋文天祥書「忠孝」

石刻物二枚
藏板主 三木屋太兵衛 (前馬町)

出願 文化十三年九月
許可 文化十三年九月廿八日

大全早引節用集 一冊

再板發行願出
作者 山下重政 (故人)
板元 柏原屋與左衛門 (前馬町五丁目)

出願 文化十三年九月

和歌新吳竹集 二冊

作者 石津平助 (前本町)
板元 河内屋嘉七 (前馬町)

出願 文化十三年十一月
許可 文化十三年十一月

月並ころへ草 小本一冊

新板發行申出
板元 河内屋太介
右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行
申出年月 文化十三年九月

出願 文化十三年十一月

丑役者評判名物合 三冊

新板發行申出
作者 八文舎自笑
板元 河内屋太助 (前馬町四丁目)

出願 文化十三年十一月

實語教講釋 一冊

附童子教
以前「實語教童子教頭書」と題
せしを此度改題發行申出
右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行
申出年月 文化十三年十一月

申出年月 文化十三年十二月

我儘紳紙

五冊

以前「輕口五色紙」と題せしものを増補し此度改題發行申出

作者 百尺亭

板元 鹽屋定吉

當世紺屋雛形

二冊

以前「都紋羽二重」と題せしを此度改題發行申出

作者 鹽屋定吉

板元 鹽屋定吉

役者道中記

小本三冊

中芝居 子供芝居 新板發行申出

作者 八文舎自笑

板元 河内屋太助

右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行

申出年月 文化十三年十二月二十日

九花姿錦繪

一新帖

新板發行申出

作者 鹽屋長兵衛

板元 鹽屋長兵衛

右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行

申出年月 文化十四年正月

三都初やくら

一新帖

新板發行申出

作者 鹽屋長兵衛

板元 鹽屋長兵衛

右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行

申出年月 文化十四年正月

萬曆兩面鑑

折本一冊

再板發行申出

作者 鹽屋喜助

板元 鹽屋喜助

右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行

申出年月 文化十四年二月

一得錄

一冊

作者 岡田勝興

板元 岡田勝興

右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行

申出年月 文化十四年四月

訓蒙要言錄

三冊

以前「童蒙抄」と題せしを此度改題發行申出

作者 加賀屋善藏

板元 加賀屋善藏

右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行

申出年月 文化十四年四月

謡曲春榮物語

五冊

作者 栗枝亭鬼卯

板元 河内屋嘉七

出願 文化十四年四月

許可 文化十四年四月

復讐警通箭

六冊

作者 南里亭其樂

板元 河内屋嘉七

出願 文化十四年五月

許可 文化十五年四月七日

美作孝民記

十冊

作者 南里亭其樂

板元 河内屋嘉七

出願 文化十四年五月

許可 文化十五年四月七日

板元 藤屋彌兵衛

出願 文化十四年三月

許可 文化十四年八月十九日

三白寶海

翻刻一冊

作者 藤屋彌兵衛

板元 藤屋彌兵衛

出願 文化十四年三月

許可 文化十四年八月十九日

八宅明鏡

翻刻二冊

作者 藤屋彌兵衛

板元 藤屋彌兵衛

出願 文化十四年三月

許可 文化十四年八月十九日

朝顔品

二編一冊

作者 藤屋彌兵衛

板元 藤屋彌兵衛

出願 文化十四年三月

許可 文化十四年八月十九日

發句類林十二月抄

一冊

小本

藏板主 北尾紅翠齋

板元 北尾紅翠齋

出願 文化十四年三月

許可 文化十四年八月十九日

朝顔品

二編一冊

作者 藤屋彌兵衛

板元 藤屋彌兵衛

出願 文化十四年三月

許可 文化十四年八月十九日

八宅明鏡

翻刻二冊

作者 藤屋彌兵衛

板元 藤屋彌兵衛

出願 文化十四年三月

許可 文化十四年八月十九日

三白寶海

翻刻一冊

作者 藤屋彌兵衛

板元 藤屋彌兵衛

出願 文化十四年三月

許可 文化十四年八月十九日

發句類林十二月抄

一冊

小本

藏板主 北尾紅翠齋

板元 北尾紅翠齋

出願 文化十四年三月

許可 文化十四年八月十九日

朝顔品

二編一冊

作者 藤屋彌兵衛

板元 藤屋彌兵衛

出願 文化十四年三月

許可 文化十四年八月十九日

八宅明鏡

翻刻二冊

作者 藤屋彌兵衛

板元 藤屋彌兵衛

出願 文化十四年三月

許可 文化十四年八月十九日

三白寶海

翻刻一冊

作者 藤屋彌兵衛

板元 藤屋彌兵衛

出願 文化十四年三月

許可 文化十四年八月十九日

發句類林十二月抄

一冊

小本

藏板主 北尾紅翠齋

板元 北尾紅翠齋

出願 文化十四年三月

許可 文化十四年八月十九日

朝顔品

二編一冊

作者 藤屋彌兵衛

板元 藤屋彌兵衛

出願 文化十四年三月

許可 文化十四年八月十九日

八宅明鏡

翻刻二冊

作者 藤屋彌兵衛

板元 藤屋彌兵衛

出願 文化十四年三月

許可 文化十四年八月十九日

三白寶海

翻刻一冊

作者 藤屋彌兵衛

板元 藤屋彌兵衛

出願 文化十四年三月

許可 文化十四年八月十九日

發句類林十二月抄

一冊

小本

藏板主 北尾紅翠齋

板元 北尾紅翠齋

出願 文化十四年三月

許可 文化十四年八月十九日

朝顔品

二編一冊

作者 藤屋彌兵衛

板元 藤屋彌兵衛

出願 文化十四年三月

許可 文化十四年八月十九日

八宅明鏡

翻刻二冊

作者 藤屋彌兵衛

板元 藤屋彌兵衛

出願 文化十四年三月

許可 文化十四年八月十九日

三白寶海

翻刻一冊

作者 藤屋彌兵衛

板元 藤屋彌兵衛

出願 文化十四年三月

許可 文化十四年八月十九日

發句類林十二月抄

一冊

小本

藏板主 北尾紅翠齋

板元 北尾紅翠齋

出願 文化十四年三月

許可 文化十四年八月十九日

朝顔品

二編一冊

作者 藤屋彌兵衛

板元 藤屋彌兵衛

出願 文化十四年三月

許可 文化十四年八月十九日

八宅明鏡

翻刻二冊

作者 藤屋彌兵衛

板元 藤屋彌兵衛

出願 文化十四年三月

許可 文化十四年八月十九日

三白寶海

翻刻一冊

作者 藤屋彌兵衛

板元 藤屋彌兵衛

出願 文化十四年三月

許可 文化十四年八月十九日

發句類林十二月抄

一冊

小本

藏板主 北尾紅翠齋

板元 北尾紅翠齋

出願 文化十四年三月

許可 文化十四年八月十九日

朝顔品

二編一冊

作者 藤屋彌兵衛

板元 藤屋彌兵衛

出願 文化十四年三月

許可 文化十四年八月十九日

八宅明鏡

翻刻二冊

作者 藤屋彌兵衛

板元 藤屋彌兵衛

出願 文化十四年三月

許可 文化十四年八月十九日

三白寶海

翻刻一冊

作者 藤屋彌兵衛

板元 藤屋彌兵衛

出願 文化十四年三月

許可 文化十四年八月十九日

發句類林十二月抄

一冊

小本

藏板主 北尾紅翠齋

板元 北尾紅翠齋

出願 文化十四年三月

許可 文化十四年八月十九日

朝顔品

二編一冊

作者 藤屋彌兵衛

板元 藤屋彌兵衛

出願 文化十四年三月

許可 文化十四年八月十九日

八宅明鏡

翻刻二冊

作者 藤屋彌兵衛

板元 藤屋彌兵衛

出願 文化十四年三月

許可 文化十四年八月十九日

三白寶海

翻刻一冊

作者 藤屋彌兵衛

板元 藤屋彌兵衛

出願 文化十四年三月

許可 文化十四年八月十九日

發句類林十二月抄

一冊

小本

藏板主 北尾紅翠齋

板元 北尾紅翠齋

出願 文化十四年三月

許可 文化十四年八月十九日

朝顔品

二編一冊

作者 藤屋彌兵衛

板元 藤屋彌兵衛

出願 文化十四年三月

許可 文化十四年八月十九日

八宅明鏡

翻刻二冊

作者 藤屋彌兵衛

板元 藤屋彌兵衛

出願 文化十四年三月

許可 文化十四年八月十九日

三白寶海

翻刻一冊

作者 藤屋彌兵衛

板元 藤屋彌兵衛

出願 文化十四年三月

許可 文化十四年八月十九日

發句類林十二月抄

一冊

小本

藏板主 北尾紅翠齋

板元 北尾紅翠齋

出願 文化十四年三月

許可 文化十四年八月十九日

朝顔品

二編一冊

作者 藤屋彌兵衛

板元 藤屋彌兵衛

出願 文化十四年三月

許可 文化十四年八月十九日

八宅明鏡

翻刻二冊

作者 藤屋彌兵衛

板元 藤屋彌兵衛

出願 文化十四年三月

許可 文化十四年八月十九日

三白寶海

翻刻一冊

作者 藤屋彌兵衛

板元 藤屋彌兵衛

最附十五丁新板發行申出
藏板主 荒物屋幸兵衛 (龜州豐嶋郡長嶋村)
賣弘 河内屋屋太助 (唐物町四丁目)
右賣弘人よりの申出でを本屋
行司にて開届け板行
申出年月 文政二年四月

周易翼傳 三冊
序文二章と跋文二章とを増加
發行願出
作者 井上 主殿 (中船場町)
板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋一丁目)
出願 文政二年四月
許可 文政二年五月九日

淺瀬の志るべ 一冊
丁敷四十丁
作者 藤井長門守 (中宮内)
藏板主 奴豆能舍 (京 都)
賣弘 河内屋武松 (北久太郎町五丁目)
代判 茂兵衛 (平野町三丁目)
出願 文政二年四月
許可 文政二年七月二十六日

清詩別裁選 一冊

丁敷一百五十三丁
作者 清、沈、德、潜
集者 荒井半蔵 (和州五條)
板元 河内屋八兵衛 (南久寶寺町五丁目)
出願 文政二年四月
許可 文政二年八月

萬葉二聖集 二冊
作者 石津平助 (南本町三丁目)
藏板主 右同人
賣弘 奈良屋長兵衛 (本町二丁目)
出願 文政二年四月
許可 文政二年七月二十六日

占病軌範 二冊
序文跋文附言等十二丁増
補發行願出
作者 井上主殿 (中船場町)
板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋一丁目)
出願 文政二年四月
許可 文政二年七月二十六日

西洋醫事集成寶函 九冊
初篇 序文凡例九丁増加
開板願出

著者 遠西玉函 涅斯雅谷
譯者 橋本宗吉 (安堂寺町五丁目)
板元 河内屋太助 (唐物町四丁目)
出願 文政二年五月
許可 文政二年八月十一日

文政三年月吉方表折本 一冊
作者 福田燕洲 (津村南之丁)
藏板主 右同人
賣弘 教賀屋九兵衛 (錦屋町)
出願 文政二年五月
許可 文政二年六月十四日
〔附記〕本書に關し此の以後は毎年唯引之内正月より十二月迄の方位吉凶ばかりを影替え賣出すことに致したしとの願出に對し惣年寄より「年々吉凶替りの義は行司手元にて相改め候やう」と申渡さる

朝顔品初篇 一冊
序文凡例その他八丁増加
開板願出
作者 峰岸啓藏 (藤波村)

板元 河内屋八兵衛 (南久寶寺町五丁目)
出願 文政二年六月
許可 文政二年六月十四日
〔附記〕此の出願に對し此書は往々御上林の事も文中に有之且は無用の書に候間板行相やめ候やうと申渡さる

志禮多言の葉 三冊
丁敷七十八丁
作者 歡味齋非徳 (長堀橋本町)
板元 大和屋四郎兵衛 (長堀橋本町)
出願 文政二年六月
〔附記〕此の出願に對し此書は往々御上林の事も文中に有之且は無用の書に候間板行相やめ候やうと申渡さる

拾葉百人一首寶雅
畫工 春川五七 (京 都)
板元 阿波屋文藏 (菊屋町)
出願 文政二年六月
〔附記〕この願出に對し惣年寄よりの注意あり改題板行の願書に改む

徳本上人行狀和讃 一冊
作者 極樂寺 (和州吉野郡新原村)
藏板主 右同人

賣弘 大津屋治郎右衛門 (木挽町南之丁)
出願 文政二年六月
許可 文政二年九月十九日

商人買物獨案内 一冊
作者 川崎屋吉郎兵衛 (天満五丁目)
板元 播磨屋五兵衛 (藤木町)
出願 文政二年七月
許可

痢病論 最附二十五丁
作者 中西支瑞 (龜州廣嶋)
藏板主 右同人
賣弘 小川屋市兵衛 (平野町三丁目)
出願 文政二年七月
許可 三年四月初

靜文館詩集 三冊
最附一百十六丁
作者 劉元高 (龜州廣嶋)
藏板主 右同人
賣弘 小川屋市兵衛 (平野町三丁目)
出願 文政二年八月
許可 文政三年四月初

芝翫百人一首玉文庫
新板發行申出 一冊
作者 畫師 嶋成 (本町四丁目)
板元 河内屋太助 (唐物町四丁目)
右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行
申出年月 文政二年八月五日

增補掌中以呂波韻大成 折本一冊
作者 鎌田頑藏 (藤波村)
板元 教賀屋九兵衛 (錦屋町)
出願 文政二年八月
許可 文政三年四月初

三國力こぶ 小本一冊
新板發行申出
作者 藤田あし丸 (藤波村)
板元 鹽屋平助 (南久寶寺町五丁目)
右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行
申出年月 文政二年九月

式例小調松葉袋 一冊

畫面増補發行申出
板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋一丁目)
右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行
申出年月 文政二年九月

長唄舞さらへ
輯者 近松嘉藏 (故人)
板元 柏原屋藤助 (藤波町五丁目)
出願 文政二年九月
許可 文政二年十二月十一日

方家圖說 三冊
最附一百十丁
作者 加茂保久 (肥前草野庄玉嶋)
藏板主 右同人
賣弘 藤屋彌兵衛 (高麗橋一丁目)
出願 文政二年十月
許可 文政三年四月五日

繪本黄金鑑 七冊
作者 和泉屋彌四郎 (本町四丁目)
畫工 春好齋治兵衛 (藤木町)
板元 河内屋太助 (唐物町四丁目)

右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行
申出年月 文政二年十月

臨在家帳 三冊
作者 當陽軒高捷 (北野村)
藏板主 右同人
賣弘 播磨屋九兵衛 (高麗橋一丁目)
出願 文政二年十一月
許可 文政三年四月五日

古易斷外編 六冊
最附二百四十一丁
作者 新井白蟻 (故人) (加 州)
板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋一丁目)
出願 文政二年十一月
許可 文政三年四月初

展年役者開帳
新刊發行申出
作者 八文舍自笑
板元 河内屋太助
右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行
申出年月 文政二年十一月

驪嶽日記 一冊

<p>最附二十五丁 作者 河崎 印 佐(故人) 藏板主 山口角太夫 (伊勢山田) 賣弘 河内屋儀助 (北久太郎町五丁目) 出願 文政二年十一月 許可 文政三年四月朔</p> <p>掌中禮法秘傳 折本 一冊 作者 橫塚 明 融 (東 郡)</p> <p>藏板主 河内屋善兵衛 (南久太郎町六丁目) 賣弘 播磨屋九兵衛 (高麗橋二丁目) 出願 文政二年十一月 許可 文政三年四月朔</p> <p>滑稽道中雲助噺 三冊 新板發行申出</p> <p>作者 和泉屋彌四郎 (木町四丁目) 板元 河内屋太助 (唐物町四丁目) 申出年月 文政二年十一月 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行</p> <p>經典餘師易經 七冊 以前「周易經典餘師」と題し開</p>	<p>板の御許しを得たれど此度序 文二丁と跋文二丁とを増加し 改題發行願出</p> <p>作者 溪 代 祿 (四州鳥取) 板元 河内屋太助 (唐物町四丁目) 出願 文政二年十一月 許可 文政三年正月二十六日</p> <p>大愛海神陀羅尼經 一冊 折本 新板發行申出</p> <p>調點句讀 觀音寺興春 (津 州) 板元 河内屋八兵衛 (南久太郎町五丁目) 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 文政三年二月廿日</p> <p>竹取物語管見 二冊 最附五十二丁</p> <p>作者 三 宅 公 輔 (京都室町九太町上々) 板元 河内屋木兵衛 (北久太郎町五丁目) 出願 文政三年二月 許可 文政三年四月朔</p> <p>遊女爪志るし 一冊 新板發行申出</p>	<p>校合者 吉田理三郎 板元 藤屋得兵衛 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 文政三年二月廿日</p> <p>浪花のしほり 一枚摺 二つ折 新板發行申出</p> <p>校合者 吉田理三郎 板元 藤屋得兵衛 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 文政三年二月廿日</p> <p>唐宋元明變體偽集 一冊 最附三十五丁</p> <p>作者 谷 立 榮 (江 戸) 藏板主 天満屋久兵衛 (淡路町二丁目) 賣弘 藤屋彌兵衛 (高麗橋二丁目) 出願 文政三年三月 許可 文政三年五月四日</p> <p>流行七部集 二冊 最附一百十五丁</p> <p>輯者 大黒菴奇淵 (難波村) 板元 河内屋源七 (難波村)</p>	<p>出願 文政三年三月 許可 文政三年五月四日</p> <p>女壽智惠袋 小本 一冊 最付六十九丁</p> <p>作者 和泉屋彌四郎 (木町四丁目) 板元 小刀屋六兵衛 (津村東之丁) 出願 文政三年三月 許可 文政三年五月四日</p> <p>入用文章大福帳 一冊 以前「商人取引狀」と題せしも の、内二十二丁抜摺 此度改題發行申出</p> <p>板元 鹽屋 季 助 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 文政三年四月五日</p> <p>商人買物獨案内 横本 一冊 最付二百廿九丁</p> <p>作者 川崎屋吉郎兵衛 (天満五丁目) 板元 播磨屋五兵衛 (橋 木 町) 出願 文政三年四月 許可 文政三年五月四日</p> <p>俳諧近世發句類題集</p>
---	---	--	---

<p>最付一百六十九丁 四冊</p> <p>選者 來 會 (江 戸)</p> <p>板元 河内屋源七 (橋 木 町) 出願 文政三年四月 許可 文政三年五月四日</p> <p>狂歌新後三栗集 一冊 丁數六十丁</p> <p>集者 薦 好 節 (高麗橋二丁目) 藏板主 右 同 人 賣弘 扇屋 利 助 (百 貫 町)</p> <p>出願 文政三年四月 許可 文政三年七月二十九日</p> <p>西洋醫事集成寶函 十ノ卷より二十ノ卷まで 十一冊丁數二百八十七丁</p> <p>著者 遠西玉函 涅斯雅谷 譯者 橋本 宗 吉 (車 町)</p> <p>板元 河内屋太助 (唐物町四丁目) 出願 文政三年四月 許可 文政三年七月十九日</p> <p>三教童諭 四冊 丁數一百十丁</p>	<p>作者 四恩堂非得 (長洲橋本町) 板元 大和屋四郎兵衛 (長洲橋本町) 出願 文政三年四月 許可 文政三年七月十九日</p> <p>中將綦絹節 合刻 三冊 丁數八十八丁</p> <p>作者 鶴 峯 戊 申 (鹽 屋 後) 板元 鹽屋 季 助 (南久太郎町六丁目) 出願 文政三年五月 許可 文政三年七月二十日</p> <p>農家益附錄 二冊 丁數五十一丁</p> <p>作者 大藏十九兵衛 (小 西 町) 板元 河内屋太助 (唐物町四丁目) 出願 文政三年五月 許可 文政三年七月二十日</p> <p>万曆兩面鑑 折本 一冊 再板發行申出</p> <p>板元 鹽屋 季 助 (南久太郎町六丁目) 右板元よりの申出でを本屋行</p>	<p>司にて開届け板行 申出年月 文政三年六月</p> <p>班鳩夜話問答集 二冊 二丁増補發行願出</p> <p>作者 松 浦 東 鶴 (南瓦屋町) 板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋二丁目) 出願 文政三年六月 許可 文政三年七月十九日</p> <p>大成四書字引 小本 一冊 再板發行申出</p> <p>板元 河内屋儀介 (北久太郎町五丁目) 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 文政三年六月</p> <p>風牀小詩 一冊 丁數二十三丁</p> <p>作者 觀龍寺教存 (中 郡) 藏板主 右 同 人 賣弘 河内屋儀介 (北久太郎町五丁目) 出願 文政三年六月 許可 文政三年七月十九日</p> <p>蓮坡詩話 二冊</p>	<p>丁數五十六丁</p> <p>作者 安田住右衛門 (貴州高松) 板元 河内屋儀助 (北久太郎町五丁目) 出願 文政三年六月 許可 文政三年七月十九日</p> <p>四書白文 四冊 丁數二百四丁</p> <p>校正者 吉文字屋市兵衛 (木挽町中之丁) 板元 鹽屋 季 助 (南久太郎町六丁目) 出願 文政三年六月 許可 文政三年七月十九日</p> <p>新增字林玉篇大全 一冊 再板發行申出</p> <p>校合者 鎌田 環 齋 (難波村) 板元 教賀屋九兵衛 (橋 木 町) 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 文政三年七月</p> <p>易學早指南 小本 一冊 丁數一百丁</p> <p>作者 古 澤 白 泉 (尾 州)</p>
---	---	---	---

<p>賣弘 藤屋彌兵衛 (高麗橋一丁目) 出願 文政三年八月 許可 文政三年十一月廿七日 〔附記〕本書は尾州名護屋古澤白泉方の板行なるが大版高麗橋一丁目藤屋彌兵衛方に於て從來所持の易書と類板なるを以て藤屋方より右古澤方に懸合ひ本書の板木を藤屋方に引取り賣弘むることに示談調ひその旨出願して許可を得たるなり</p>	<p>近人小詩 二冊 丁數六十五丁 作者 牧 熊太郎 (豐 較) 藏板主 右 同人 賣弘 河内屋儀助 (北久太郎町五丁目) 出願 文政三年九月 許可 文政三年十二月十四日</p>	<p>出願 文政三年八月 許可 文政三年九月二十五日 選書狀大全 一冊 最附一百八十八丁再板發行 筆者 戸田 榮治(故人) 板元 吉文字屋市右衛門 右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行 申出年月 文政三年十月</p>	<p>出願 文政三年八月 許可 文政三年九月二十五日 選書狀大全 一冊 最附一百八十八丁再板發行 筆者 戸田 榮治(故人) 板元 吉文字屋市右衛門 右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行 申出年月 文政三年十月</p>	<p>補正行戦功圖會前編 五冊 丁數一百七十六丁 作者 山田 圭藏 (阿波橋町) 板元 河内屋源七 (馬馬町) 出願 文政三年十月 許可 文政三年十二月十四日</p>	<p>再補和漢書畫一覽 一冊 最附七十一丁 増補再板 作者 高 荻屋(故人) 増補人 鶴峯 戊申 (豐後白杵) 板元 加賀屋善藏 (北久太郎町五丁目) 出願 文政三年十月 許可 文政四年五月十一日 〔附記〕本書は京都書林仲間額田正三郎方に於て天明六年開板したるものなるが此度大坂北久太郎町五丁目加賀屋善藏方に右板木を買取り増補再板の義を出願して許可を得たるなり</p>	<p>作者 市原 啓 齋 (立賣場二丁目) 板元 加賀屋善藏 (北久太郎町五丁目) 出願 文政三年十一月 許可 文政四年五月十一日</p>	<p>法華經要品注解抄 二冊 作者 日 華(故人) 板元 加賀屋善藏 (北久太郎町五丁目) 出願 文政三年十一月 〔附記〕本書板行の義願ひ出での後文政四年五月十三日都合により出願を取消す</p>	<p>頭書釋氏要覽 一冊 最附八十五丁 作者 宋、道 誠 校者 鶴峯 戊申 (豐後白杵) 板元 奈良屋長兵衛 (本町二丁目) 出願 文政三年十一月 許可 文政四年五月十一日</p>	<p>成蹟錄 二冊 最附六十三丁 作者 中川 修亭 (京 都) 板元 奈良屋長兵衛 (本町二丁目)</p>	<p>易學階梯 二冊 右は既に板行を許されあるも此度序文凡例跋文等にて丁數十丁増加開板願出 作者 眞勢彦右衛門 (高麗橋一丁目) 板元 藤屋彌兵衛</p>	<p>卅石體始 六冊 畫工 鳴 鐘 成 作者 和泉屋彌四郎 (本町四丁目) 板元 河内屋太助 (唐物町四丁目) 新板發行申出 右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け發行 申出年月 文政三年十月</p>	<p>手相即座考續篇 一冊 丁數七十六丁 作者 蘆 塚 齋 (落東下川原) 板元 敦賀屋九兵衛 (鶴屋町) 出願 文政三年十月 許可 文政三年十二月十四日</p>	<p>名判速成 一冊 最附一百八丁 作者 鶴峯 戊申 (豐後白杵) 板元 藤屋 定七 (南久太郎町六丁目) 出願 文政三年十一月 許可 文政四年五月十一日 〔附記〕本書は文政五年八月「名判集成」と改題發行を出願し許可さる</p>	<p>四書白文 中本形二冊 最附二百四十丁 校正者 本屋吉兵衛 (農人橋一丁目) 板元 鹽屋 季助 (南久太郎町六丁目) 出願 文政三年十一月 許可 文政四年五月十一日</p>	<p>琴山琴錄 一冊 最附四十一丁 作者 琴山 琴士 (肥 後) 藏板主 右 同人 賣弘 加嶋屋休兵衛 (四軒町) 出願 文政三年十一月 許可 文政四年五月十一日</p>	<p>標註外科正宗 四冊 最附三百八十九丁 作者 明、陳 實功 校者 中川 修亭 (京 都) 板元 奈良屋長兵衛 (本町五丁目) 出願 文政三年十一月 許可 文政四年五月十一日</p>	<p>古文眞寶後集 二冊 作者 三 千 磨 (京 都) 板元 河内屋八兵衛 (南久太郎町五丁目) 出願 文政三年十一月 許可 文政四年五月十一日</p>	<p>増補要字箋 折本一帖 作者 鎌田 環齋 (城州御崎村) 板元 吉文字屋市右衛門 (本橋町中之丁) 出願 文政三年十一月 許可 文政四年五月十一日</p>	<p>桃花園狂文集 一冊 最附二十八丁 作者 三 千 磨 (京 都) 板元 河内屋八兵衛 (南久太郎町五丁目) 出願 文政三年十一月 許可 文政四年五月十一日</p>	<p>大成無雙節用集中本 一冊 最附三百廿三丁 集者 鶴峯 戊申 (豐後白杵) 板元 河内屋源七 (馬馬町) 出願 文政三年十一月 許可 文政四年五月十一日 〔附記〕原本此の所に左の附箋あり 此願寫本字引之處他板株に差構候ニ付何分此儘ニ而は彫刻不相成候趣願入へ申開置有之</p>	<p>萬葉梯 二冊 最附一百三十一丁 作者 橋本 稻彦 (島州廣嶋) 板元 奈良屋長兵衛 (本町二丁目) 出願 文政三年十二月 許可 文政四年五月十三日</p>	<p>歌文類葉初篇 二冊 最附五十八丁 作者 鶴峯 戊申 (豐後白杵) 板元 奈良屋長兵衛 (本町二丁目) 出願 文政三年十二月 許可 文政四年五月十一日</p>
--	---	---	---	---	--	---	---	--	---	---	--	---	--	--	---	--	--	---	---	---	--	---

<p>候以後元株通り字引之所書替願出候はゞ其旨早速追願いたし可遺候事先夫迄は此願寫本當組へ預り置候也 已五月 明組</p>	<p>新板商人取引狀 小本一冊 最附七十五丁 作者 西川 源 祐 (京 都) 板元 鹽屋 平助 (南久太郎町五丁目) 出願 文政三年十一月 許可 文政四年五月十一日</p>	<p>萬葉梯 二冊 最附一百三十一丁 作者 橋本 稻彦 (島州廣嶋) 板元 奈良屋長兵衛 (本町二丁目) 出願 文政三年十二月 許可 文政四年五月十三日</p>	<p>歌文類葉初篇 二冊 最附五十八丁 作者 鶴峯 戊申 (豐後白杵) 板元 奈良屋長兵衛 (本町二丁目) 出願 文政三年十二月 許可 文政四年五月十一日</p>	<p>大成無雙節用集中本 一冊 最附三百廿三丁 集者 鶴峯 戊申 (豐後白杵) 板元 河内屋源七 (馬馬町) 出願 文政三年十一月 許可 文政四年五月十一日 〔附記〕原本此の所に左の附箋あり 此願寫本字引之處他板株に差構候ニ付何分此儘ニ而は彫刻不相成候趣願入へ申開置有之</p>	<p>四書白文 中本形二冊 最附二百四十丁 校正者 本屋吉兵衛 (農人橋一丁目) 板元 鹽屋 季助 (南久太郎町六丁目) 出願 文政三年十一月 許可 文政四年五月十一日</p>	<p>名判速成 一冊 最附一百八丁 作者 鶴峯 戊申 (豐後白杵) 板元 藤屋 定七 (南久太郎町六丁目) 出願 文政三年十一月 許可 文政四年五月十一日 〔附記〕本書は文政五年八月「名判集成」と改題發行を出願し許可さる</p>	<p>琴山琴錄 一冊 最附四十一丁 作者 琴山 琴士 (肥 後) 藏板主 右 同人 賣弘 加嶋屋休兵衛 (四軒町) 出願 文政三年十一月 許可 文政四年五月十一日</p>	<p>標註外科正宗 四冊 最附三百八十九丁 作者 明、陳 實功 校者 中川 修亭 (京 都) 板元 奈良屋長兵衛 (本町五丁目) 出願 文政三年十一月 許可 文政四年五月十一日</p>	<p>増補要字箋 折本一帖 作者 鎌田 環齋 (城州御崎村) 板元 吉文字屋市右衛門 (本橋町中之丁) 出願 文政三年十一月 許可 文政四年五月十一日</p>	<p>古文眞寶後集 二冊 作者 三 千 磨 (京 都) 板元 河内屋八兵衛 (南久太郎町五丁目) 出願 文政三年十一月 許可 文政四年五月十一日</p>	<p>桃花園狂文集 一冊 最附二十八丁 作者 三 千 磨 (京 都) 板元 河内屋八兵衛 (南久太郎町五丁目) 出願 文政三年十一月 許可 文政四年五月十一日</p>
---	--	--	---	---	--	--	---	--	---	--	---

古調梯

許可 文政四年五月十三日
作者 鶴峯 戊申
藏板主 右 同人
出願 文政三年十二月
許可 文政四年五月十三日

新改攝州大坂全圖

一枚物
校正者 赤松善應(故人)
板元 播磨屋九兵衛
出願 文政三年十二月
許可 文政四年五月十三日

事類全書總目錄

丁敷
二十丁新板發行申出
板元 播磨屋九兵衛
右板元よりの申出で本屋行
司にて開届け板行
申出年月 文政三年十二月
袖中正燈世譜 小本 一冊
墨附四十一丁

作者 七釜屋文助
藏板主 右 同人
出願 文政三年十二月
許可 文政四年五月十一日

掌中十三經註疏篇目

墨附七十一丁 小本 一冊
以前「十三經篇次」と題せしを
此度丁敷十九丁彫足し改題發
行願出

滑稽部郭枕

二冊
新板發行申出
作者 丹波屋李兵衛
畫工 泉屋彌四郎
板元 河内屋太助
右板元よりの申出で本屋行
司にて開届け板行
申出年月 文政三年十二月

西洋醫事集成寶函

二十一卷より二十四卷ま
で四冊墨附一百五十六丁
著者 遠西玉函 涅斯雅谷
譯者 橋本宗吉
板元 河内屋太助
出願 文政四年二月
許可 文政四年五月十三日

周易本筮指南

二冊
墨付八十九丁
作者 谷川久亮
板元 藤屋彌兵衛
出願 文政四年二月
許可 文政四年五月十三日

五行易指南

十冊
墨附二百九十五丁
作者 櫻田周輔
藏板主 右 同人
出願 文政四年二月
許可 文政四年五月十三日

天のみはしら

一冊

墨附四十三丁
作者 鶴峯 戊申
藏板主 右 同人
出願 文政四年二月
許可 文政四年五月十三日

後撰集新抄

五冊
夏秋冬之部
作者 中山彌介
板元 河内屋太助
出願 文政四年三月
許可 文政四年七月十四日

補正行戦功圖會前編

五冊
作者 山田圭藏
板元 河内屋源七
出願 文政四年四月
許可 文政四年十一月六日

幼學千字文

小本 一冊
作者 南里亭其樂
板元 河内屋儀助

出願 文政四年五月
許可 文政四年七月十四日

松島圖誌

一冊
作者 櫻田周輔
藏板主 右 同人
出願 文政四年五月
許可 文政四年七月十四日

新板商人取引狀

小本 一冊
丁敷四丁増補板行申出
作者 西川源祐
板元 鹽屋平助
右板元よりの申出で本屋行
司にて開届け板行
申出年月 文政四年八月

古義神代考

三冊
作者 鶴峯 戊申
藏板主 右 同人
出願 文政四年七月
許可 文政五年七月十六日

麻疹約説

一冊
作者 加古昌壽
板元 敦賀屋九兵衛
出願 文政四年七月
許可 文政四年十一月廿八日

蘭室詩文集

五冊
丁敷二百三十三丁
作者 赤松大業
藏板主 赤松孟貢
出願 文政四年八月
許可 文政五年七月二十六日

亞辣比亞國幣駝之圖

折本 一枚
畫工 丹羽桃溪
板元 茶椀屋吉兵衛
出願 文政四年九月
許可 文政四年九月

意あり依つて此の出願を取消す

療治茶談翼

一冊
作者 林玄碩
板元 加賀屋善藏
出願 文政四年十月
許可 文政五年七月十六日

温泉津日記

二冊
作者 篤老園
藏板主 右 同人
出願 文政四年十月
許可 文政五年正月七日

篤老園自撰句帖初篇

二冊
作者 篤老園
藏板主 右 同人
出願 文政四年十月
許可 文政五年正月七日

亮々草紙

三冊
墨附一百四丁
作者 木下民藏
板元 河内屋儀助
出願 文政四年十一月
許可 文政五年正月十四日

御家流道の話

折本 一冊
新板發行申出
筆者 吉岡殿造
藏板主 右 同人
出願 文政四年十二月五日

近江國大繪圖

再板發行申出
作者 山下重政(故人)
板元 河内屋儀助
右板元よりの申出で本屋行
司にて開届け板行
申出年月 文政四年十二月二十日

役者早料理

文政四

<p>新板發行申出 作者 和泉屋彌四郎 (本町四丁目) 板元 河内屋太助 (唐物町四丁目) 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 文政四年十二月</p>	<p>復古周易正文 二冊 作者 眞勢彦右衛門 校者 橋原性齋 (江戸) 藏板主 右 同人 賣弘 藤屋彌兵衛 (高麗橋二丁目) 出願 文政五年閏正月 許可 文政五年七月十六日</p>	<p>萬曆兩面鑑 再割發行申出 板元 鹽屋季助 (南久太郎町六丁目) 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 文政五年閏正月二十日</p>	<p>新板商人取引狀 中本一冊 此度本書の内「小野篁歌字 盡」を加へて發行の旨申出 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 文政五年二月廿日</p>	<p>板元 藤屋彌兵衛 (横石衛町) 出願 文政五年三月 許可 文政五年七月十六日</p>
<p>入 船 嘯 新板發行申出 作者 和泉屋彌四郎 (本町四丁目) 板元 河内屋太助 (唐物町四丁目) 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 文政四年十二月</p>	<p>正齋書籍考經之部 三冊 作者 近藤守重 (江戸) 板元 河内屋源七 (高麗橋二丁目) 出願 文政五年三月 許可 文政五年十一月十四日</p>	<p>當流小語種玉大成 一冊 作者 南里亭其樂 (南米屋町) 板元 河内屋儀助 (北久太郎町五丁目) 出願 文政五年二月 許可 文政五年七月十六日</p>	<p>増補永曆小笈 折本一冊 輯者 崔峰 戊申 (豊後白杵) 板元 鹽屋季助 (南久太郎町六丁目) 出願 文政五年三月 許可 文政五年三月十一日</p>	<p>攝生論 二冊 作者 近藤隆昌 (麻州堺) 藏板主 右 同人 賣弘 河内屋木兵衛 (北久太郎町五丁目) 幼少に付 代判 宗兵衛</p>
<p>冠附塵手水 小本一冊 丁數七十二丁新板發行申出 作者 民村羅山 (大和町) 板元 藤屋定七 (南久太郎町六丁目) 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 文政五年正月十一日</p>	<p>古今立花指南大全 一冊 作者 桑原正齋 (故人) 板元 加賀屋善藏 (北久太郎町五丁目) 出願 文政五年閏正月 許可 文政五年七月十六日</p>	<p>必用八宅明鏡便覽 一冊 折本 作者 吉田徳謙</p>	<p>増字早引節用集眞字附一冊 再割發行願出 作者 山下重政 (故人) 板元 柏原屋與左衛門 (高麗橋二丁目)</p>	<p>麻疹約説 一冊 序文五丁跋文二丁増補發行願出 作者 加古昌壽 (高麗橋二丁目) 板元 敦賀屋九兵衛 (高麗橋二丁目) 出願 文政五年三月 許可 文政五年三月十一日</p>

<p>出願 文政五年四月許可 許可 文政五年十一月十四日</p>	<p>畫本道の手引 二冊 作者 思恩堂非得 (長崎橋本町) 板元 播磨屋本三郎 (車町) 出願 文政五年四月 許可 文政五年七月六日</p>	<p>小倉百首類題話 三冊 作者 畫工 和泉屋彌四郎 (本町四丁目) 板元 河内屋平七 (南久太郎町六丁目) 出願 文政五年九月 許可 文政六年四月</p>	<p>古易病斷 中本二冊 作者 小林左傳 (江戸) 板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋二丁目) 出願 文政六年正月 許可 文政六年四月</p>	<p>道二翁道話 六篇 三冊 丁數四十八丁 輯者 八宮觀農 板元 本屋吉兵衛 (黒人橋一丁目) 出願 文政六年二月 許可 文政七年七月九日</p>
<p>出願 文政五年五月 許可 文政五年十一月十四日</p>	<p>四國尋聞記 三冊 作者 萬歳樓拙彦 (筑前博多) 板元 大津屋治郎右衛門 (木挽町南之丁) 出願 文政五年九月 許可 文政五年十二月十六日</p>	<p>狂歌一橙集 一冊 作者 鳥好 (高麗橋二丁目) 藏板主 右 同人 賣弘 鹽屋長兵衛 (南久太郎町六丁目) 出願 文政六年正月 許可 文政六年四月</p>	<p>腹證奇覽翼 二編 二冊 丁數八十三丁 作者 和久田要人 (遠州濱松) 板元 河内屋木兵衛 (北久太郎町五丁目) 出願 文政六年二月 許可 文政六年九月二十九日</p>	<p>女壽蓬萊臺 口繪四丁</p>
<p>出願 文政五年四月許可 許可 文政五年十一月十四日</p>	<p>麻疹輯要 一冊 作者 西田耕悦 (播磨町) 板元 敦賀屋九兵衛 (高麗橋二丁目) 出願 文政五年六月 許可 文政五年十月二十一日</p>	<p>繪本三山草紙 五冊 墨附一百六丁 作者 一柳嘉言 (北久太郎町三丁目)</p>	<p>狂歌拾遺三栗集 二冊 墨附七十八丁 作者 鳥好 (高麗橋二丁目) 藏板主 右 同人 賣弘 鹽屋長兵衛 (南久太郎町六丁目)</p>	<p>澄月法師千首和歌 一冊 校正 徹 (山城木津) 藏板主 右 同人 賣弘 河内屋吉兵衛 (南本町五丁目) 出願 文政六年二月 許可 文政六年九月二十九日</p>

増加發行申出
 作者 加藤 來藏 (鹽町一丁目)
 板元 河内屋木兵衛 (北久太郎町五丁目)
 右板元よりの申出でを本屋行
 司にて開届け板行
 申出年月 文政六年二月

折句今様調 一冊
 新板發行申出
 作者 民色 羅山
 板元 藤屋九兵衛
 右板元よりの申出でを本屋行
 司にて開届け板行
 申出年月 文政六年二月

相學三書 三冊
 墨附九十九丁
 作者 柴田 恆齋 (江戸)
 賣弘 教賀屋九兵衛 (鶴屋町)
 出願 文政六年五月
 許可 文政六年九月二十九日
 (附記) 本書は江戸柴田恆齋
 方の板行なるが大坂鶴屋町教
 賀屋九兵衛方に於て從來所持
 の「人相書」と類板なるを以て
 教賀屋方より柴田方に懸合ひ
 本書の板木を教賀屋に引取り

賣弘むることしその旨出願
 して許可を得たるなり

題畫詩削 二冊
 丁數八十六丁
 輯者 森川 會吾 (高麗橋三丁目)
 板元 河内屋源七 (傳馬町)
 出願 文政六年五月
 許可 文政六年九月二十九日

補正行戦功圖會後編 六冊
 丁數一百八十四丁
 作者 山田 圭藏 (阿波橋町)
 板元 河内屋源七 (傳馬町)
 出願 文政六年五月
 許可 文政七年七月九日

續建殊錄
 作者 武貞 玄二
 板元 加賀屋善藏 (北久太郎町五丁目)
 出願 文政六年十月
 許可 文政七年四月五日

歸去來辭 一冊
 丁數十一丁
 筆者 明、董 其昌

板元 今津屋辰三郎 (江戸堀二丁目)
 出願 文政六年六月
 許可 文政六年九月二十九日

春霞帖 一冊
 丁數二十一丁
 筆者 無 (幻(故人))
 板元 今津屋辰三郎 (江戸堀二丁目)
 出願 文政六年六月
 許可 文政六年九月二十九日

三落葉集 小本一冊
 墨付一百十六丁
 作者 室町 一扇 (江戸)
 賣弘 藤屋彌兵衛 (高麗橋一丁目)
 出願 文政六年七月
 許可 文政六年九月二十九日
 (附記) 本書は江戸室町一扇
 方の板行なるが大坂高麗橋一
 丁目藤屋彌兵衛方に於て從來
 所持の「易書類」と類板なるを
 以て藤屋より先方に懸合ひ右
 板行を藤屋方に引取り賣弘む
 ることとしその旨出願に及び
 許可を得たるなり

精要男女相生龜鑑 一冊

折本
 作者 東湖 觀月 (江戸康草)
 板元 秋田屋良助 (南瓦屋町)
 出願 文政六年十月
 許可 文政七年四月五日

繪入冠附塵手水 小本一冊
 丁數七十八丁
 以前「冠附塵手水」と題し南久
 太郎町六丁目藤屋定七方の藏
 板なりしが此度板木を譲りう
 け繪面八丁差加へ改題發行申
 出
 新板元 鹽屋季助
 右板元よりの申出でを本屋行
 司にて開届け板行
 申出年月 文政六年十月

傾城飛馬始
 新刊發行申出
 畫工 和泉屋彌四郎 (本町四丁目)
 板元 河内屋太助 (唐物町四丁目)
 右板元よりの申出でを本屋行
 司にて開届け板行
 申出年月 文政六年十一月五日

役者神事競

新刊發行申出
 畫工 和泉屋彌四郎 (本町四丁目)
 板元 河内屋太助 (唐物町四丁目)
 右板元よりの申出でを本屋行
 司にて開届け板行
 申出年月 文政六年十一月五日

孝義末のさかへ 一冊
 作者 岡田 勝興 (故人)
 藏板主 壽松菴智貞 (福住吉)
 賣弘 鹽屋季助 (南久太郎町六丁目)
 出願 文政六年十一月
 許可 文政七年二月二十一日

諸禮童子訓 小本一冊
 丁數五十七丁
 作者 播磨屋小六 (南米屋町)
 板元 播磨屋九兵衛 (高麗橋一丁目)
 出願 文政六年十一月
 許可 文政七年二月二十一日

世話千字文 小本一冊
 作者 泉屋彌四郎 (本町四丁目)
 板元 河内屋平七 (本町四丁目)

出願 文政六年十一月
 許可 文政七年二月二十一日

書翰大成 一冊
 輯者 筒井 一堂 (平野町四丁目)
 作者 泉屋彌四郎 (本町四丁目)
 板元 河内屋平七 (南久太郎町六丁目)
 出願 文政六年十一月
 許可 文政七年二月二十一日

女早見案文 一冊
 筆者 西川 正造 (京)
 板元 教賀屋九兵衛 (鶴屋町)
 出願 文政六年十一月
 許可 文政七年二月二十一日

八刺精要 三冊
 丁數五十一丁
 作者 大槻 茂實 (江戸)
 板元 河内屋儀助 (北久太郎町五丁目)
 出願 文政六年十一月
 許可 文政七年八月十三日
 (附記) 本書は翻譯物なるを

以て公儀の調査は多くの時日
 を要したり

懷中算法智恵輪 開板申出
 校正者 本屋吉兵衛 (唐人橋一丁目)
 板元 鹽屋季助 (南久太郎町六丁目)
 右板元よりの申出でを本屋行
 司にて開届け板行
 申出年月 文政六年十一月

滑稽漫畫 一冊
 以前「狂紋帳」と題せしを此度
 二丁割替へ改題發行申出
 板元 鹽屋季助
 右板元よりの申出でを本屋行
 司にて開届け板行
 申出年月 文政六年十二月五日

女粧ますかゞみ 小本一冊
 以前「容顏美觀考」と題せしも
 の、内より抜摺し此度改題發
 行申出
 板元 鹽屋季助
 右板元よりの申出でを本屋行
 司にて開届け板行
 申出年月 文政六年十二月五日

續士朗七部集 小本三冊
 墨付一百五十七丁

輯者 菊舎 其成 (京)
 板元 鹽屋忠兵衛 (北久太郎町五丁目)
 出願 文政六年十二月
 許可 文政七年二月二十一日

瘡精要國字解 一冊
 以前「瘡疹例辨」と題せしを此
 度改題發行申出
 板元 教賀屋九兵衛
 右板元よりの申出でを本屋行
 司にて開届け板行
 申出年月 文政六年十二月

新板手形便覽 一枚摺
 開板申出
 板元 河内屋宗兵衛 (南本町五丁目)
 右板元よりの申出でを本屋行
 司にて開届け板行
 申出年月 文政七年正月

瘡療要訣 小本一冊
 作者 安藤 良平
 藏板主 右 同人
 賣弘 教賀屋九兵衛
 右藏板主より教賀屋九兵衛に
 賣弘めを依頼し教賀屋より賣
 弘めたとの事を申出でし

に本屋行司に於てこれを開届
けたり

申出年月 文政七年正月

天柱考證

作者 鶴峯 戊申

藏板主 右 同人

賣弘 鹽屋長兵衛

出願 文政七年正月

許可 文政七年九月

初學算法智惠輪

小本 一冊

編者 和泉屋彌四郎

板元 鹽屋 季助

出願 文政七年二月

許可 文政七年七月九日

英雄圖會

一冊

丁數 二十八丁

畫工 近藤 周次

板元 河内屋長兵衛

出願 文政七年二月

許可 文政七年七月九日

繪入冠附花目鏡

一冊

新板發行申出

編者 園田 萩風

板元 鹽屋 季助

右板元よりの申出で本屋行
司にて開届け板行

申出年月 文政七年二月五日

畫圖珍選

三冊

新板發行申出

畫工 越鳥 齋

板元 鹽屋 季助

右板元よりの申出で本屋行
司にて開届け板行

申出年月 文政七年二月五日

千秋小謡常盤松

一冊

以前「常流小謡種玉大成」と題
せしもの、内より抜出し此度
改題板行申出

作者 南里亭 其樂

板元 河内屋儀介

右板元よりの申出で本屋行
司にて開届け板行

申出年月 文政七年二月五日

麻疹方箋

折本 一冊

作者 平野 耕菴

藏板主 右 同人

賣弘 敦賀屋九兵衛

右賣弘人よりの申出で本屋
行司にて開届け板行

申出年月 文政七年二月廿日

墨色早指南

一冊

丁數 二十九丁

作者 朝見 五通

藏板主 右 同人

賣弘 鹽屋 季助

出願 文政七年三月

許可 文政七年閏八月十三日

庭訓往來

小本 一冊

丁數 七十七丁

筆者 西川 正造

板元 鹽屋 季介

出願 文政七年三月

許可 文政七年七月九日

南畝帖

一冊

丁數 四十丁

編者 谷清

藏板主 右 同人

賣弘 秋田屋太右衛門

出願 文政七年四月

許可 文政七年閏八月十三日

一筆畫譜

一冊

丁數 二十九丁

畫工 葛飾 北齋

藏板主 永樂屋東四郎

賣弘 柏原屋清右衛門

出願 文政七年四月

許可 文政七年閏八月十三日

占景盤圖式

一冊

丁數 二十四丁

集者 武

板元 河内屋太助

出願 文政七年五月

許可 文政七年閏八月十三日

周易序卦斷法

二冊

作者 高松 辰榮

板元 藤屋彌兵衛

出願 文政七年六月

許可 文政七年十二月八日

冠附手引艸

此度繪面六丁増補板行申
出

板元 鹽屋 季助

右板元よりの申出で本屋行
司にて開届け板行

申出年月 文政七年六月廿日

冠附神酒ノ口

此度繪面六丁増補板行申
出

板元 鹽屋 季助

右板元よりの申出で本屋行
司にて開届け板行

申出年月 文政七年六月廿日

冠附挿草

此度繪面六丁増補板行申
出

板元 鹽屋 季助

右板元よりの申出で本屋行
司にて開届け板行

申出年月 文政七年六月廿日

合書童子訓

一冊

作者 和泉屋彌四郎

板元 河内屋平七

出願 文政七年七月

許可 文政七年十二月八日

南北相法極意拔萃

作者 水野 南北

藏板主 右 同人

賣弘 扇屋利助

出願 文政七年七月

許可 文政七年十二月八日

道二翁道話

此度序文二丁増補發行申
出

作者 上河 惟一

板元 本屋吉兵衛

右板元よりの申出で本屋行
司にて開届け板行

申出年月 文政七年八月廿日

狂歌水魚集

一冊

編者 鶴酒合手佐丸

藏板主 右 同人

賣弘 扇屋利助

出願 文政七年八月

許可 文政七年十二月八日

醫範

編者 岩田 一二三

板元 秋田屋太右衛門

出願 文政七年閏八月

（附記）本書板行の義出願に
對し「先願ひ下ぐべし」と申
渡さる

消閑雜記

作者 一時軒 惟中

板元 河内屋義助

出願 文政七年十二月

許可 文政八年三月二十七日

袖三體詩選

選者 宋、周、彌

板元 河内屋源七郎

出願 文政七年九月

許可 文政七年十二月八日

早引紋帳大全

一冊

編者 伊勢屋次郎兵衛

板元 鹽屋 季助

出願 文政七年九月

許可 文政七年十二月八日

隅田春妓容性

開板申出

畫工 和泉屋彌四郎

板元 河内屋太助

右板元よりの申出で本屋行
司にて開届け板行

申出年月 文政七年閏八月

相觀必用記

以前「相觀秘記」と題せしを此
度改題發行願出

板元 伊丹屋善兵衛

出願 文政七年九月

許可 文政七年十二月八日

閑窓筆記

以前「庭の落葉」と題せしを此
度改題發行願出

板元 鹽屋長兵衛

出願 文政七年十月

許可 文政八年三月二十七日

六字寶號萬德抄

作者 開成院見佛 (攝津島上郡神峯山寺)
藏板主 見佛院 (江州野洲郡南櫻村)
賣弘 松本屋平四郎 (高麗橋二丁目)
出願 文政八年正月
許可 文政八年五月十日

俳諧今四家發句集 二冊

輯者 醉室其成 (京 都)
板元 鹽屋忠兵衛 (北久太郎町五丁目)
出願 文政七年十二月
許可 文政八年三月二十七日

眞言暗誦要文 一冊

輯者 淺野清左衛門 (根木町)
藏板主 右 同人
賣弘 鹽屋長兵衛 (南久太郎町六丁目)
出願 文政七年十一月
許可 文政八年三月二十七日

醫範 附錄 非方議 醫道二千
年眼日篇評 答武藤生書 西
說醫事辨 陰陽與神經同辨
合一冊

出願 文政八年四月
許可 文政九年五月十九日

再發發行申出

板元 鹽屋季助 (大坂南瓦屋町)
右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行
申出年月 文政七年十二月

四季花のしをり

集者 千里亭葦虎
新板發行申出
板元 扇屋利助 (百貫町)
右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行
申出年月 文政七年十二月

校正金蘭方 三冊

校合者 岩田一二三 (紀州新宮郡東三谷村)
板元 吉文字屋庄助 (木挽町中之町)
出願 文政八年二月
許可 文政八年八月

富士大峯講修法錄 一冊

輯者 無動熟頌容
小本
出願 文政八年二月
許可 文政八年八月

日本往來 一冊

筆者 西川正造 (京 都)
板元 鹽屋季助 (南久太郎町六丁目)
出願 文政八年四月
許可 文政八年五月十日

萬寶智惠海 一冊

作者 山田屋平藏 (鹽町三丁目)
板元 吉文字屋庄助 (木挽町中之町)
出願 文政八年四月
許可 文政九年八月二十八日

寺兒世話千字文繪抄 一冊

作者 和泉屋彌四郎 (木町四丁目)
板元 河内屋平七 (南久太郎町六丁目)

釜師名匠考 一枚

藏板主 釜屋庄兵衛 (京都三條通小川)
賣弘 柏原屋清右衛門 (扇屋町五丁目)
出願 文政八年九月
許可 文政九年五月十九日

文政増補廣益好文節用集 一冊

丁數一百二丁
今回從來のものに世話字盡二
十四丁増補發行願出
校合者 鶴峯戊申 (豊後白井)
板元 加賀屋善藏 (淨覺町)
出願 文政八年九月
許可 文政九年六月晦

長山堂茶話 一冊

丁數二十六丁
作者 阿部屋良平 (長濱町)
藏板主 右 同人
賣弘 河内屋儀助 (北久太郎町五丁目)
出願 文政八年十月
許可 文政九年六月晦

續建殊錄

本書は文政七年四月板行を許
されしが此度跋二丁刻足し増
補刊行願出
板元 加賀屋善藏 (淨覺町)
出願 文政八年八月

辨梅帖 一冊

輯者 谷清好 (安土町二丁目)
藏板主 右 同人
賣弘 加賀屋善藏 (淨覺町)
出願 文政八年八月
許可 文政九年正月二十二日

早引年代記 折本一冊

輯者 和泉屋彌四郎 (木町四丁目)
板元 鹽屋季助 (南久太郎町六丁目)
出願 文政八年八月
許可 文政八年八月

近世騎遊傳 五冊

以前「當世癡人傳」と題せしを
此度改題板行申出
板元 加賀屋彌助
右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行
申出年月 文政八年七月

冠附腕くらべ 一冊

新板發行申出
板元 河内屋儀助 (北久太郎町五丁目)
右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行
申出年月 文政八年八月

大諸禮集大全 九冊

丁數八十四丁
校合者 木村利厚 (京西橋左衛門町)
板元 加賀屋彌助 (博勢町)

唐詩選字引

再刻板行申出
板元 鹽屋季助
右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行
申出年月 文政八年五月

大門口鑑製 七冊

作者 和泉屋彌四郎 (木町四丁目)
畫工 河内屋太助 (唐物町四丁目)
板元 河内屋太助
出願 文政八年六月
許可 文政八年六月

占景盤圖式附錄 一冊

輯者 墨江武禪 (故人)
板元 河内屋太助
出願 文政八年六月
許可 文政九年正月十九日

増補内科撰要 全部九冊

初篇二篇三篇
著者 遠西玉函 涅斯埜我
爾爾德兒

民家育草

三冊

作者 大藏 永常 (上野波町)
板元 秋田屋太右衛門 (安室寺町五丁目)
出願 文政九年正月
許可 文政九年三月十七日

經典餘師 蒙求之部

三冊

作者 桃花園三千磨 (遠州見付宿)
板元 河内屋 太助 (唐物町四丁目)
出願 文政八年十二月
許可 文政九年五月十九日

晝夜重寶萬年曆 折本一冊

再板刊行申出

板元 鹽屋 季助
右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行を許したる
も「文言中に間違ひなど相見
え候に付篤と相改め申すべ
し」と惣年寄の言葉に従ひ販
賣を見合すことゝなれり

風流手引の園

三冊

作者 岡本 啓藏
新板發行申出

板元 絹屋卯兵衛 (堀川丁)

右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行

藝苑名言

従來のものに跋二丁増補
板行申出

作者 篠崎長左衛門
板元 右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行

日本往來

一冊

作者 西川 庄造 (京 都)
板元 鹽屋 季助 (南久太郎町六丁目)
出願 文政九年二月
許可 文政九年五月十九日

慶長泰平年代記 折本一冊

輯者 和泉屋彌四郎 (本町四丁目)
藏板主 右 同人
賣弘 鹽屋 季助 (南久太郎町六丁目)
出願 文政九年二月

許可 文政九年八月二十八日

校正金蘭方

五冊

校正者 岩田三谷 (肥前野賀郡徳田)
藏板主 右 同人
賣弘 河内屋末兵衛 (北久太郎町五丁目)
出願 文政九年二月
許可 文政九年八月二十八日

陶齋隨筆

一冊

集者 村上 恒菴 (油掛町)
板元 河内屋菊次郎 (唐物町)
出願 文政九年五月
許可 文政九年八月二十八日

日本第一和布苜神事

七冊

作者 竝木 正三 (故人)
校合畫工 和泉屋彌四郎 (本町四丁目)
板元 河内屋 太助 (唐物町四丁目)
出願 文政九年五月
許可 文政九年十月十四日

酒呑童子昔話 三段目

大字五行本新板發行申出

出願 文政九年五月
許可 文政九年十月十四日

酒呑童子昔話 四段目

大字五行本新板發行申出

出願 文政九年五月
許可 文政九年十月十四日

薰樹累物語 城生村之段

大字五行本新板發行申出

出願 文政九年五月
許可 文政九年十月十四日

薰樹累物語 土橋之段

大字五行本新板發行申出

出願 文政九年五月
許可 文政九年十月十四日

戀女 房櫓古屋之段

大字五行本新板發行申出

出願 文政九年五月
許可 文政九年十月十四日

増補天川屋 人形廻しの

段大字五行本新板發行申出

出願 文政九年五月
許可 文政九年十月十四日

歌枕秋の寢覺

二冊

再板發行申出
板元 敦賀屋九兵衛
右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行

晝夜重寶萬年曆

一冊

以前京都に於て板行を許され
しを此度板本を譲り受け増補
改板願出

改増者 鹽屋 季助 (南久太郎町六丁目)

板元 右 同人

出願 文政九年五月

許可 文政九年八月二十八日

切形割紋帳

一冊

新板發行申出
作者 河内屋長七 (故人)

板元 鹽屋 季助 (南久太郎町六丁目)

右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行

申出年月 文政九年五月

教訓 輸入心のゆくゑ

二冊

作者 板屋宇右衛門 (長濱町)

板元 鹽屋宇兵衛 (南久太郎町六丁目)

出願 文政九年六月

許可 文政九年十月

龍章堂董帖

一冊

此度賣弘申出
藏板主 春田 尙平 (本天満町)

賣弘 河内屋吉兵衛 (南本町五丁目)

右賣弘人よりの申出でを本屋

行司にて開届く

申出年月 文政九年七月五日

佛説俱利迦羅經 折本一冊

并應護曼荼羅 一枚摺

藏板主 七寶 謙寺 (泉州大嶋山)

賣弘 秋田屋良助 (泉州大嶋山)

右賣弘人よりの申出でを本屋
行司にて開届く

申出年月 文政九年七月五日

艸行集字句選

二冊

筆者 森川 曾吾 (高麗橋三丁目)

板元 河内屋末兵衛 (北久太郎町五丁目)

出願 文政九年九月

許可 文政九年十二月九日

常用疊字節用大成

一冊

作者 村田 嘉言 (北久太郎町三丁目)

板元 加賀屋彌助 (唐物町)

出願 文政九年八月

許可 文政九年八月

日本往來

一冊

繪圖八面増補願出

作者 西川 正造 (京 都)

畫工 藤 關 牛 (助右衛門町)

板元 鹽屋 季助 (南久太郎町六丁目)

出願 文政九年十月

許可 文政九年十二月三日

八刺精要

三冊

此度序七丁と跋一丁を増
補板行願出

作者 大槻 茂 質 (江 戸)

板元 河内屋儀助 (北久太郎町五丁目)

出願 文政九年九月

覆 韻 帖

一冊

此度賣弘申出
賣弘人 敦賀屋九兵衛
右賣弘人よりの申出でを本屋
行司にて開届く

申出年月 文政九年十一月

作者 菅 太 仲 (備 後)

板元 加賀屋善藏 (唐物町)

出願 文政九年十一月

許可 文政九年十一月

花 月 吟

一冊

出願 文政九年十二月

許可 文政十年五月九日

訂正校本庭訓往來

一冊

校合者 峰 岸 啓藏 (難波村)

板元 河内屋茂兵衛 (唐物町)

出願 文政九年十二月

許可 文政十年十月四日

日本二千年袖鑑 折本一冊

新板發行申出

右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行

申出年月 文政九年十二月五日

教訓 童草

二冊

作者 藤屋 豊藏 (福州武庫郡今津村)

畫工 泉屋彌四郎 (南本町五丁目)

藏板主 播磨屋清右衛門 (南堀江五丁目)

賣弘 土佐屋太郎兵衛 (宮川町)

出願 文政九年十二月

許可 文政九年十二月

寺庭訓往來

一冊

<p>筆者 西川 正造 (京 都)</p> <p>板元 鹽屋 季助 (南久太郎町六丁目)</p> <p>出願 文政十年二月</p> <p>許可 文政十年六月二十八日</p> <p>萬船往來 一冊</p> <p>作者 和泉屋彌四郎 (本町四丁目)</p> <p>藏板主 播磨屋清右衛門 (南堀江五丁目)</p> <p>賣弘 土佐屋多郎兵衛 (宮川町)</p> <p>出願 文政十年六月二十八日</p> <p>許可 文政十年六月二十八日</p> <p>佛足石和歌集解 一冊</p> <p>作者 大和屋大三郎 (攝津池田)</p> <p>藏者主 右 同人</p> <p>賣弘 播磨屋九兵衛 (高麗橋二丁目)</p> <p>出願 文政十年三月</p> <p>許可 文政十年五月九日</p> <p>商人取引狀 一冊</p> <p>此度口繪一丁増加給面八丁書改め發行申出</p> <p>板元 鹽屋 季助</p> <p>右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行</p>	<p>申出年月 文政十年四月</p> <p>競伊勢物語 七冊</p> <p>作者 和泉屋彌四郎</p> <p>畫工 河内屋太助 (本町四丁目)</p> <p>板元 河内屋太助 (本町四丁目)</p> <p>出願 文政十年五月</p> <p>許可 文政十年七月三日</p> <p>西國略打順禮記大全 出</p> <p>此度二十八丁増補發行願出</p> <p>增補 和泉屋彌四郎</p> <p>作者 藤屋 善七 (本町四丁目)</p> <p>板元 藤屋 善七 (高麗橋二丁目)</p> <p>出願 文政十年五月</p> <p>許可 文政十年七月三日</p> <p>掌中三帖和讃 折本 一冊</p> <p>再板發行申出</p> <p>板元 播磨屋五郎兵衛</p> <p>右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行</p> <p>申出年月 文政十年五月</p> <p>挿花跡河柳 天地人三冊</p> <p>藏板主 片野東四郎</p>	<p>賣弘 伊丹屋重吉 (尾州名古屋)</p> <p>代判 河内屋源七 (博 勢 町)</p> <p>出願 文政十年五月</p> <p>許可 文政十年六月二十八日</p> <p>算法便覽 七冊</p> <p>藏板主 武田篤之進 (中船場町)</p> <p>賣弘 河内屋太助 (唐物町四丁目)</p> <p>出願 文政十年六月</p> <p>許可</p> <p>蘭齋先生文抄 二冊</p> <p>經者 仁科 源藏 (備 前)</p> <p>板元 吉文字屋卯野 (本橋町中之丁)</p> <p>代判 源十郎 (本橋町中之丁)</p> <p>出願 文政十年閏六月</p> <p>許可 文政十一年八月十五日</p> <p>産畫國風 二冊</p> <p>畫工 大石 眞虎 (尾 張)</p> <p>板元 河内屋木兵衛 (北久太郎町五丁目)</p> <p>出願 文政十年七月</p> <p>許可 文政十一年正月十八日</p>	<p>日月卦傳鈔 二冊</p> <p>此度再板發行申出</p> <p>板元 藤屋彌兵衛</p> <p>右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行</p> <p>申出年月 文政十年七月五日</p> <p>家相方鑿精義大成 二冊</p> <p>再板發行申出</p> <p>板元 藤屋彌兵衛</p> <p>右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行</p> <p>申出年月 文政十年七月廿日</p> <p>女教大全姫文庫 一冊</p> <p>此度從來の口繪二丁を除き書繪繪并表袋模樣書改め發行申出</p> <p>板元 敦賀屋九兵衛</p> <p>右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行</p> <p>申出年月 文政十年八月五日</p> <p>千秋選方明鑑 折本 一冊</p> <p>再板發行申出</p> <p>板元 藤屋彌兵衛</p> <p>右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行</p> <p>申出年月 文政十年十月五日</p>
---	--	---	--

西醫新書

<p>作者 高 良 齋 (阿波幡島)</p> <p>板元 河内屋儀助 (博 勢 町)</p> <p>出願 文政十年十月</p> <p>許可 文政十一年正月十八日</p> <p>西醫新書附錄 一冊</p> <p>作者 高 良 齋 (阿波幡島)</p> <p>板元 河内屋儀助 (博 勢 町)</p> <p>出願 文政十年十月</p> <p>許可 文政十一年正月十八日</p> <p>早命掌中方位選折本一枚摺</p> <p>作者 井 上 主 税 (中船場町)</p> <p>板元 河内屋八兵衛 (南久寶寺町五丁目)</p> <p>出願 文政十年十月</p> <p>許可 文政十一年五月七日</p>	<p>堪忍修身齊家之礎 折本</p> <p>一枚摺</p> <p>作者 板屋宇右衛門 (長 濱 町)</p> <p>藏板主 右 同人</p> <p>賣弘 鹽屋宇兵衛 (南久太郎町六丁目)</p> <p>出願 文政十年十一月</p> <p>許可 文政十一年五月七日</p> <p>諷吉便覽指南 一冊</p> <p>作者 前 田 東 齋 (江 戶)</p> <p>板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋二丁目)</p> <p>出願 文政十年十一月</p> <p>許可 文政十一年五月七日</p> <p>庭訓往來繪抄 一冊</p> <p>作者 藤 田 牛 (助右衛門町)</p> <p>畫工 藤 田 牛</p> <p>板元 鹽屋忠兵衛 (北久太郎町五丁目)</p> <p>出願 文政十年十一月</p> <p>許可 文政十一年五月七日</p> <p>曹大家女誡圖會 一冊</p> <p>解者 太 田 晉 齋 (京町堀二丁目)</p> <p>藏板主 右 同人</p>	<p>賣弘 加賀屋彌助 (博 勢 町)</p> <p>出願 文政十年十一月</p> <p>許可 文政十一年五月七日</p> <p>商人日用書狀宮</p> <p>筆者 西川 正 藏 (京 都)</p> <p>板元 鹽屋 平 助 (博 勢 町)</p> <p>出願 文政十年十二月</p> <p>許可 文政十一年五月七日</p> <p>早引年曆通覽 折本 一冊</p> <p>兩面摺</p> <p>輯者 藤 田 牛 (助右衛門町)</p> <p>板元 鹽屋 喜 助 (安堂寺町五丁目)</p> <p>出願 文政十一年二月</p> <p>許可 文政十一年九月十四日</p> <p>袖珍三體詩選 出</p> <p>此度序跋三丁増補發行申出</p> <p>板元 河内屋源七 (備 馬 町)</p> <p>右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行</p> <p>申出年月 文政十一年二月</p> <p>良山堂茶話 二篇 一冊</p>	<p>作者 高松屋良平 (長 濱 町)</p> <p>板元 河内屋儀助 (博 勢 町)</p> <p>出願 文政十一年二月</p> <p>許可 文政十一年八月十五日</p> <p>三のしるべ 一冊</p> <p>作者 藤井松齋 (備中宮内)</p> <p>板元 鹽屋長兵衛 (南久太郎町六丁目)</p> <p>出願 文政十一年八月</p> <p>許可 文政十一年九月十一日</p> <p>龍門漫錄 三冊</p> <p>作者 龍 門 子 (紀伊國若山)</p> <p>板元 秋田屋太右衛門 (安堂寺町五丁目)</p> <p>出願 文政十一年三月</p> <p>許可</p> <p>歸去來兮辭 一帖</p> <p>藏板主 平野屋甚右衛門 (南久寶寺町三丁目)</p> <p>賣弘 京屋淺次郎</p> <p>右賣弘人よりの申出でを本屋行司にて開届け</p>
--	--	---	--

<p>申出年月 文政十一年三月 百家文章大全 一冊 編輯者 西川 正造 (京 都) 板元 鹽屋 喜助 (安堂寺町五丁目) 出願 文政十一年四月 許可 文政十一年五月廿五日</p> <p>本屋往來 一冊 作者 西川 正造 (京都六角通野屋町) 藏板主 右 同人 賣弘 鹽屋 喜助 (安堂寺町五丁目) 出願 文政十一年四月 許可 文政十一年五月廿五日</p> <p>百千鳥鳴門白波 八冊 作者 米屋尉太郎 (本町三丁目) 板元 河内屋 太助 (唐物町四丁目) 出願 文政十一年五月 許可 文政十一年九月十四日</p> <p>西醫新書 三冊 本書及び西醫新書附録一冊は既に板行の許可を得たるも此</p>	<p>の四冊を三冊に改め所々文言を改竄して板行致したき旨願ひ出づ 作者 高 良 齋 (阿波徳島) 板元 河内屋 儀助 (津 豊 町) 出願 文政十一年八月 許可 文政十一年十月 (附記) 本書の板行に關し文政十一年十月板元より板行相止め候との願ひを出したり</p> <p>新増年曆掌箋 訂正年曆 三冊 編輯者 蔀 屋 仙三 (助右衛門町) 板元 鹽屋 喜助 (安堂寺町五丁目) 出願 文政十一年七月 許可 文政十一年九月十四日</p> <p>詞源音局 一冊 作者 服部 半十郎 (奥州二本松) 板元 柏原屋清右衛門 (順慶町五丁目) 出願 文政十一年八月 許可 文政十二年三月十日</p> <p>範圍圖 一枚</p>	<p>範圍圖說 一冊 丁數四十一丁 作者 眞勢彦右衛門 板元 藤屋 彌兵衛 (高麗橋一丁目) 出願 文政十一年八月 許可 文政十二年三月十日</p> <p>魏鄭公諫續錄 二冊 校合者 齋藤 五郎 (阿波 國) 板元 京屋 淺次郎 (丹 波 町) 出願 文政十一年八月 許可 文政十二年三月十日</p> <p>商人書翰便覽 一冊 作者 西川 正造 (京 都) 板元 河内屋 太助 (唐物町四丁目) 出願 文政十一年九月 許可 文政十一年十二月十七日</p> <p>早引節用集 小本 一冊 再板發行申出 板元 柏原屋與左衛門 右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行</p>	<p>女大學寶箱 一冊 再板發行申出 板元 柏原屋清右衛門 右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行</p> <p>鄭氏女孝經圖會 一冊 校合者 村田 嘉言 (南久寶寺町二丁目) 板元 加賀屋 彌助 (博 勢 町) 出願 文政十一年十月 許可 文政十一年十二月十七日</p> <p>曹大家女論語圖會 一冊 校合者 村田 嘉言 (南久寶寺町二丁目) 板元 加賀屋 彌助 (博 勢 町) 出願 文政十一年十月 許可 文政十一年十二月十七日</p> <p>明孝慈列女圖會 二冊 校合者 村田 嘉言 (南久寶寺町二丁目) 板元 加賀屋 彌助 (博 勢 町) 出願 文政十一年十月 許可 文政十一年十二月十七日</p>
--	---	---	--

<p>女 大 學 大字 一冊 附録 女今川 (信 濃 人) 作者 貝 原 篤 (信 濃 人) 板元 柏原屋清右衛門 (順慶町五丁目) 出願 文政十一年十月 許可 文政十一年十二月十七日</p> <p>紅塵集類題 二冊 再板發行申出 作者 蓮 阿 法 師 (落 重) 板元 加賀屋 彌助 右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行</p> <p>鯉 玉 集 二冊 作者 加納 諸 平 (紀州和歌山) 藏板主 右 同人 賣弘 加賀屋 彌助 (博 勢 町) 出願 文政十一年十月 許可 文政十一年十二月十七日</p> <p>日本二千年袖鑑三編 一冊 開板發行申出 板元 鹽屋 喜助 右板元よりの申出でを本屋行</p>	<p>司にて開届け板行 申出年月 文政十一年十月五日 日本早引道中記 折本 一冊 作者 藤 島 軒 秋 里 (京 都) 板元 吉文字屋市兵衛 (木挽中之丁) 出願 文政十一年十一月 許可 文政十二年三月十日</p> <p>大日本道中行程細見記 折本一枚摺補刻再板願出 作者 鳥 飼 洞 齋 (信 濃 人) 板元 吉文字屋市兵衛 (木挽中之丁) 出願 文政十一年十二月 許可 文政十二年三月十日</p> <p>大同類聚方 十二冊 校合者 岩田 三 谷 (紀州郡寶町三谷村) 板元 鹽屋 平 助 (博 勢 町) 出願 文政十一年十二月 許可 文政十二年三月十日 (附記) 本書板行の義出願したるが「誤字衍文多分に有之」として板元に仰聞けられしも當時本書の作者は既に故人となりしを以て改正補足のこと容</p>	<p>易ならざるが故に文政十三年八月五日に至り一先づ願ひ下げとす 懷中吉方選 一紙 作者 宇仁 館 富 元 (勢州山田) 板元 藤屋 彌兵衛 (高麗橋一丁目) 出願 文政十一年十二月 許可 文政十一年十二月十六日</p> <p>茶山集序 一冊 作者 額 久 太 郎 (京 都) 板元 河内屋 儀助 (津 豊 町) 出願 文政十一年十二月 許可 文政十二年四月廿六日</p> <p>松陽講義 序四丁と跋一丁とを増補刊行申出 板元 加賀屋 彌助 (博 勢 町) 右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行</p> <p>農家用文字盡 一冊 申出年月 文政十一年十二月</p>	<p>新撰百姓往來 一冊 右兩書を合本一冊とし賣弘の儀申出 板元 藤 屋 善 七 右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行</p> <p>文章蕪菴辨 一冊 作者 旭 道 一 (高麗橋三丁目) 藏板主 右 同人 賣弘 秋田屋 太右衛門 (安堂寺町五丁目) 出願 文政十二年正月 許可 文政十二年正月十八日</p> <p>三魚堂文集 唐本翻刻 外集附録共八冊 丁數五百八十丁 點者 源 後 素 (大 坂) 板元 小川屋 市兵衛 (本町五丁目) 出願 文政十二年正月 許可 文政十二年正月十八日</p> <p>本朝編年小史 七冊 校合者 橋 本 稻 彦 (信 濃 人)</p>
---	--	---	--

板元 奈良屋長兵衛 (安 惠) 增補再板願出 出願 文政十二年正月 許可 文政十二年二月 〔附記〕本書の増補再板願出に對し右板元求板の年月申出でよとあり依て寛政三年七月京都書林唐本屋吉左衛門方より求板せし旨を回答したり	撰者 源 後 素 (浪 華) 板元 河内屋太助 (唐物町四丁目) 出願 文政十二年二月 許可 十二年二月廿五日	藏板主 野 梅 園 (常盤町二丁目) 賣弘 河内屋源七郎 (備 馬 町) 出願 文政十二年四月 許可 文政十二年五月	出願 文政十二年五月 許可 文政十二年九月二日
袖玉御和讃 一冊 増補再期願出 作者 釋 解 山(故人) 板元 柏原屋清右衛門 (福慶町五丁目) 出願 文政十二年二月 許可 文政十二年五月十八日 〔附記〕本書板行の出願に對し、曩に板行を許されたる年月を申出でよとの御尋ねあり即ち以前京都に於て板行を許され板元は善屋勘兵衛なりしを去る寛政六年十月右善屋より當大坂順慶町五丁目柏原屋清右衛門方へ求板爾來賣弘めしことを回答したり	大同類聚方 十二冊 校合者 岩田三谷 (紀州郡寶郡東三谷村) 板元 鹽 屋 平 助 (博 勢 町) 出願 文政十二年三月	富士百首 一冊 丁數八丁 作者 鳥 越 常 成 (備中國足守) 藏板主 右 同 人 賣弘 鹽屋長兵衛 (南久太郎町六丁目) 出願 文政十二年五月 許可 文政十二年七月十九日	出願 文政十二年八月 許可 文政十二年十月七日
呂新吾先生語錄序 一冊 丁數九丁	改補字典節用集 一冊 再板發行申出 作者 高 田 政 度(故人) 板元 吉文字屋市兵衛 右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行 申出年月 文政十二年三月二十日	禧三升栗毛 二冊 新板發行申出 作者 濱 村 輔 (江 戶) 板元 河内屋太助 右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行 申出年月 文政十二年五月十一日	出願 文政十二年十月 許可 文政十三年二月七日
	天真坤元靈符傳 一冊 再板發行申出 板元 京屋淺次郎 右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行 申出年月 文政十二年四月五日	早 蕨 帖 一冊 藏板主 嶋田正朝 (福州西宮) 賣弘 河内屋儀助	出願 文政十三年六月 許可 文政十三年八月廿八日
	梅園奇賞 一冊	佛說善生經和解 一冊 解者 櫻井寺無形 (和州五條) 藏板主 右 同 人 賣弘 秋田屋太右衛門 (安堂寺町五丁目) 出願 文政十三年四月 許可 天保二年四月二十四日	出願 文政十三年三月 許可 文政十三年五月
		三世相日用寶鑑 小本一冊 作者 和泉屋彌四郎 (博 勢 町) 板元 河内屋菊次郎 (博 勢 町) 出願 文政十三年閏三月 許可 天保二年四月二十四日	出願 文政十三年閏三月 許可 天保二年四月二十四日
		刪定詩學貫珠 小本五冊 作者 尾 崎 春 造 板元 敦賀屋九兵衛 (錦 屋 町) 出願 文政十三年六月 許可 文政十三年八月廿八日	出願 文政十三年閏三月 許可 天保二年四月二十四日
		役行者遺德傳 二冊 同 附錄 作者 大 善 院 (豐後院宮崎境内) 板元 秋田屋良助 (南瓦屋町) 出願 文政十三年閏三月 許可 天保二年四月二十四日	出願 文政十三年閏三月 許可 天保二年四月二十四日
		辨慶異傳 五冊 作者 濱田屋村助 (江 戶) 板元 河内屋茂兵衛 (博 勢 町) 出願 文政十三年閏三月 許可 天保二年四月二十四日	出願 文政十三年閏三月 許可 天保二年四月二十四日
		大 學 一冊 開板發行申出 板元 河内屋太助 右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行 申出年月 文政十三年三月二十日	出願 文政十三年三月 許可 文政十三年八月廿八日
		製 葛 錄 一冊 作者 扇屋十九兵衛 (五右衛門町) 板元 河内屋菊次郎 (博 勢 町) 出願 文政十三年三月 許可 文政十三年八月廿八日	出願 文政十三年三月 許可 文政十三年八月廿八日
		狂言松下嘉平次連歌評判 二冊 開板申出 作者 金 澤 龍 玉 板元 河内屋太助 右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行 申出年月 文政十三年正月	出願 文政十二年十二月 許可 文政十三年二月
		寶曆雜書萬々歳 一冊 再期發行申出 板元 河内屋源七 右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行 申出年月 文政十二年十一月	出願 文政十二年十二月 許可 文政十三年五月廿八日
		宅相風水園筆草 二冊 作者 松 浦 國 祐 (京 都) 板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋二丁目) 出願 文政十二年十二月	出願 文政十二年十月 再出願 文政十三年二月 許可 文政十三年五月廿八日
		新紅塵集類題 二冊 作者 村 田 嘉 言 (輪 船 町) 板元 加賀屋彌助 (博 勢 町) 出願 文政十二年十二月 許可 文政十三年閏三月	出願 文政十二年十月 再出願 文政十三年二月 許可 文政十三年五月廿八日
		古詩大觀 二冊 藏板主 津坂貫之進 (勢 州 津) 賣弘 河内屋儀助 (博 勢 町) 出願 文政十二年十二月 許可 文政十三年閏三月	出願 文政十二年十月 再出願 文政十三年二月 許可 文政十三年五月廿八日
		增補内科撰要四編 三冊 著者 遠西玉函 涅斯垣我 我爾德兒 藏板主 宇田川玄隨 (津 山) 賣弘 河内屋太助 (唐物町四丁目)	出願 文政十二年正月 許可 文政十二年二月 〔附記〕本書の増補再板願出に對し右板元求板の年月申出でよとあり依て寛政三年七月京都書林唐本屋吉左衛門方より求板せし旨を回答したり

作者 西川 正 造 (京 都) 板元 藤屋吉兵衛 (安堂寺町五丁目) 出願 文政十二年十月 再出願 文政十三年二月 許可 文政十三年五月廿八日	出願 文政十二年十二月 許可 文政十三年五月廿八日	出願 文政十二年十二月 許可 文政十三年五月廿八日	出願 文政十二年十二月 許可 文政十三年五月廿八日
作者 村 田 嘉 言 (輪 船 町) 板元 加賀屋彌助 (博 勢 町) 出願 文政十二年十二月 許可 文政十三年閏三月	出願 文政十二年十二月 許可 文政十三年五月廿八日	出願 文政十二年十二月 許可 文政十三年五月廿八日	出願 文政十二年十二月 許可 文政十三年五月廿八日
藏板主 津坂貫之進 (勢 州 津) 賣弘 河内屋儀助 (博 勢 町) 出願 文政十二年十二月 許可 文政十三年閏三月	出願 文政十二年十二月 許可 文政十三年五月廿八日	出願 文政十二年十二月 許可 文政十三年五月廿八日	出願 文政十二年十二月 許可 文政十三年五月廿八日
著者 遠西玉函 涅斯垣我 我爾德兒 藏板主 宇田川玄隨 (津 山) 賣弘 河内屋太助 (唐物町四丁目)	出願 文政十二年正月 許可 文政十二年二月 〔附記〕本書の増補再板願出に對し右板元求板の年月申出でよとあり依て寛政三年七月京都書林唐本屋吉左衛門方より求板せし旨を回答したり	出願 文政十二年正月 許可 文政十二年二月 〔附記〕本書の増補再板願出に對し右板元求板の年月申出でよとあり依て寛政三年七月京都書林唐本屋吉左衛門方より求板せし旨を回答したり	出願 文政十二年正月 許可 文政十二年二月 〔附記〕本書の増補再板願出に對し右板元求板の年月申出でよとあり依て寛政三年七月京都書林唐本屋吉左衛門方より求板せし旨を回答したり
撰者 源 後 素 (浪 華) 板元 河内屋太助 (唐物町四丁目) 出願 文政十二年二月 許可 十二年二月廿五日	大同類聚方 十二冊 校合者 岩田三谷 (紀州郡寶郡東三谷村) 板元 鹽 屋 平 助 (博 勢 町) 出願 文政十二年三月	富士百首 一冊 丁數八丁 作者 鳥 越 常 成 (備中國足守) 藏板主 右 同 人 賣弘 鹽屋長兵衛 (南久太郎町六丁目) 出願 文政十二年五月 許可 文政十二年七月十九日	出願 文政十二年八月 許可 文政十二年十月七日
袖玉御和讃 一冊 増補再期願出 作者 釋 解 山(故人) 板元 柏原屋清右衛門 (福慶町五丁目) 出願 文政十二年二月 許可 文政十二年五月十八日 〔附記〕本書板行の出願に對し、曩に板行を許されたる年月を申出でよとの御尋ねあり即ち以前京都に於て板行を許され板元は善屋勘兵衛なりしを去る寛政六年十月右善屋より當大坂順慶町五丁目柏原屋清右衛門方へ求板爾來賣弘めしことを回答したり	改補字典節用集 一冊 再板發行申出 作者 高 田 政 度(故人) 板元 吉文字屋市兵衛 右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行 申出年月 文政十二年三月二十日	禧三升栗毛 二冊 新板發行申出 作者 濱 村 輔 (江 戶) 板元 河内屋太助 右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行 申出年月 文政十二年五月十一日	出願 文政十二年十月 許可 文政十三年二月七日
呂新吾先生語錄序 一冊 丁數九丁	梅園奇賞 一冊	佛說善生經和解 一冊 解者 櫻井寺無形 (和州五條) 藏板主 右 同 人 賣弘 秋田屋太右衛門 (安堂寺町五丁目) 出願 文政十三年四月 許可 天保二年四月二十四日	出願 文政十三年六月 許可 文政十三年八月廿八日
		三世相日用寶鑑 小本一冊 作者 和泉屋彌四郎 (博 勢 町) 板元 河内屋菊次郎 (博 勢 町) 出願 文政十三年閏三月 許可 天保二年四月二十四日	出願 文政十三年閏三月 許可 天保二年四月二十四日
		刪定詩學貫珠 小本五冊 作者 尾 崎 春 造 板元 敦賀屋九兵衛 (錦 屋 町) 出願 文政十三年六月 許可 文政十三年八月廿八日	出願 文政十三年閏三月 許可 天保二年四月二十四日
		役行者遺德傳 二冊 同 附錄 作者 大 善 院 (豐後院宮崎境内) 板元 秋田屋良助 (南瓦屋町) 出願 文政十三年閏三月 許可 天保二年四月二十四日	出願 文政十三年閏三月 許可 天保二年四月二十四日
		辨慶異傳 五冊 作者 濱田屋村助 (江 戶) 板元 河内屋茂兵衛 (博 勢 町) 出願 文政十三年閏三月 許可 天保二年四月二十四日	出願 文政十三年閏三月 許可 天保二年四月二十四日
		大 學 一冊 開板發行申出 板元 河内屋太助 右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行 申出年月 文政十三年三月二十日	出願 文政十三年三月 許可 文政十三年八月廿八日
		製 葛 錄 一冊 作者 扇屋十九兵衛 (五右衛門町) 板元 河内屋菊次郎 (博 勢 町) 出願 文政十三年三月 許可 文政十三年八月廿八日	出願 文政十三年三月 許可 文政十三年八月廿八日
		狂言松下嘉平次連歌評判 二冊 開板申出 作者 金 澤 龍 玉 板元 河内屋太助 右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行 申出年月 文政十三年正月	出願 文政十二年十二月 許可 文政十三年二月
		寶曆雜書萬々歳 一冊 再期發行申出 板元 河内屋源七 右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行 申出年月 文政十二年十一月	出願 文政十二年十二月 許可 文政十三年五月廿八日
		宅相風水園筆草 二冊 作者 松 浦 國 祐 (京 都) 板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋二丁目) 出願 文政十二年十二月	出願 文政十二年十月 再出願 文政十三年二月 許可 文政十三年五月廿八日
		新紅塵集類題 二冊 作者 村 田 嘉 言 (輪 船 町) 板元 加賀屋彌助 (博 勢 町) 出願 文政十二年十二月 許可 文政十三年閏三月	出願 文政十二年十月 再出願 文政十三年二月 許可 文政十三年五月廿八日
		古詩大觀 二冊 藏板主 津坂貫之進 (勢 州 津) 賣弘 河内屋儀助 (博 勢 町) 出願 文政十二年十二月 許可 文政十三年閏三月	出願 文政十二年十月 再出願 文政十三年二月 許可 文政十三年五月廿八日
		增補内科撰要四編 三冊 著者 遠西玉函 涅斯垣我 我爾德兒 藏板主 宇田川玄隨 (津 山) 賣弘 河内屋太助 (唐物町四丁目)	出願 文政十二年正月 許可 文政十二年二月 〔附記〕本書の増補再板願出に對し右板元求板の年月申出でよとあり依て寛政三年七月京都書林唐本屋吉左衛門方より求板せし旨を回答したり

<p>算法稽古圖會大成 一冊 作者 和泉屋彌四郎 (博勢町) 板元 河内屋佐介 (備馬町) 出願 文政十三年四月 許可 天保二年三月二十二日</p>	<p>北禪詩抄 二冊 以前「昨非集」と題し京都の書肆植村藤右衛門は其の板元なりしを此度大坂南久太郎町六丁目鹽屋長兵衛方に其の板木を譲りうけ増補改題願出 作者 釋 顯 常 (旅人) 板元 鹽屋長兵衛 (南久太郎町六丁目) 出願 文政十三年四月 許可 天保二年三月二十二日</p>	<p>醫要略説 三冊 作者 岡 敬 安 (内兩替町) 板元 河内屋佐助 (備馬町) 出願 文政十三年五月 許可 天保二年三月二十二日</p>	<p>けいせい素袍瓊 七冊 作者 和泉屋卯八</p>	<p>畫工 山口屋其次郎 (津村中之町) 板元 河内屋太助 (三ツ寺町) 出願 文政十三年五月 許可 天保二年三月二十二日</p>	<p>宅相風水園筆草 二冊 作者 松浦 國 祐 (京 都) 板元 藤屋得兵衛 (北久太郎町五丁目) 出願 文政十三年六月 許可 天保二年四月二十四日</p>	<p>よしの山つと 一冊 作者 藍屋彌平次 (富田屋町) 畫工 森 一 風 (大川町) 畫工 熊谷 三 嶺 (四軒町) 板元 鹽屋長兵衛 (南久太郎町六丁目) 出願 文政十三年六月 許可 天保二年三月二十二日 (附記) 本書板行を許された</p>	<p>るがその許可に先だち願ひ下げを申出づ 増補書翰大成 一冊 作者 西川 正 藏 (京都六角御幸町) 板元 河内屋平七 (南久太郎町六丁目) 出願 文政十三年六月 許可 天保二年三月二十二日</p>	<p>御蔭まふての日記 一冊 作者 本居 茂 穂 (紀州若山) 藏板主 天満屋武兵衛 (阿州備島) 賣弘 敦賀屋爲七 (本町四丁目) 出願 文政十三年六月 許可 天保二年三月二十二日</p>	<p>本命的繁精義 三冊 作者 柏木 覺 源 (高津新地) 藏板主 右 同 人 賣弘 秋田屋良助 (南瓦屋町) 出願 文政十三年七月</p>	<p>小倉山房文鈔 四冊 調點者 齋藤五郎</p>	<p>板元 河内屋吉兵衛 (河州備島) 出願 文政十三年七月 許可 天保二年四月二十四日</p>	<p>癖 史 一冊 點者 京屋淺次郎 (升屋町) 板元 右 同 人 出願 文政十三年七月 許可 天保二年四月二十四日</p>	<p>早引節用集 眞字附 一冊 再板發行申出 板元 柏原屋與左衛門 代判 得 兵 衛 右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行 申出年月 文政十三年十月</p>	<p>曝書亭文集 四冊 點者 篠崎長左衛門 (備馬町) 板元 京屋淺次郎 (升屋町) 出願 文政十三年十一月 許可 天保二年九月初</p>	<p>日記故事大全 三冊 校合者 鎌田環齋</p>
---	---	---	---------------------------------------	---	---	--	---	--	---	--------------------------------------	--	---	--	--	--------------------------------------

<p>板元 敦賀屋九兵衛 (備馬町) 出願 文政十三年十一月 再願 天保三年六月</p>	<p>今才調集 小本十冊 作者 田之村行藏 (豐後町) 藏板主 右 同 人 賣弘 河内屋太助 (備馬町四丁目) 出願 文政十三年十一月 再願 天保二年二月 許可 天保二年八月十日</p>	<p>日本二千年袖鑑五編 折本 新板發行申出 一冊 板元 鹽 屋 喜 助 (安堂寺町五丁目) 右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行 申出年月 文政十三年十二月五日</p>	<p>早字節用集大全 眞字付 一冊 藏板主 永樂屋東四郎 (尾州名吉屋) 賣弘 柏原屋與左衛門 (備馬町五丁目) 出願 文政十三年十二月 許可 天保二年七月</p>	<p>蘇黃題跋 五冊 點者 齋藤 五 郎 (可 波) 板元 京屋淺次郎 (升屋町) 出願 文政十三年十二月 許可 天保三年正月二十日</p>	<p>和漢年契 一冊 補正再板發行願出 作者 齋 屋 山 人 (旅人) 補正 荒井 公 廉 (山城邊) 板元 奈良屋長兵衛 (本町二丁目) 出願 天保二年正月</p>	<p>易原圖略説 一冊 作者 谷 川 久 亮 (天満谷屋町) 板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋二丁目) 出願 天保二年正月 許可 天保二年八月十日</p>	<p>商人買物獨案内後編 一冊 作者 和泉屋俊藏 (備左衛門町) 板元 播磨屋五郎兵衛 (長 濱 町) 出願 天保二年正月</p>	<p>再願 天保二年七月 許可 天保二年九月初</p>	<p>楳園和歌集 一冊 作者 小寺 清 光 (備中笠原) 藏板主 右 同 人 賣弘 河内屋儀助 (津 曼 町) 出願 天保二年正月 許可 天保二年七月</p>	<p>奇 正 方 一冊 作者 賀 古 公 山 (北備屋町) 藏板主 右 同 人 賣弘 河内屋喜兵衛 (北久太郎町五丁目) 出願 天保二年二月 許可 天保二年八月十日</p>	<p>續諸家人物誌 小本三冊 作者 青 柳 文 藏 (東郡津草) 藏板主 右 同 人 賣弘 柏原屋與左衛門 (備馬町五丁目) 出願 天保二年二月 許可 天保三年正月二十日</p>	<p>通俗西遊記 五編 六冊 申出年月 天保二年四月</p>	<p>作者 岳 亭 丘 山 (東 郡) 板元 河内屋菊次郎 (備馬町) 出願 天保二年二月 許可 天保二年七月</p>	<p>於染久松色讀販 三冊 作者 香蝶樓國貞 (東 郡) 畫工 河内屋太助 右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行 申出年月 天保二年三月廿日</p>	<p>増訂醫道便易 二冊 作者 平 澤 左 伸 (江戸西久保廣小路) 板元 藤屋得兵衛 (北久太郎町五丁目) 出願 天保二年四月 許可 天保二年七月</p>	<p>泡 茶 訣 序一丁と跋一丁と首書とを增加刊行申出 板元 河内屋吉兵衛 右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行 申出年月 天保二年四月</p>
--	--	---	---	---	--	---	--	---------------------------------	--	---	--	---	---	--	---	--

<p>易卦占法要略 二冊 作者 高松芳孫 (京 都) 板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋二丁目) 出願 天保二年五月 許可 天保二年八月</p> <p>國恩湊のさかえ 二冊 作者 和泉屋彌四郎 (博 勢 町) 板元 鹽屋喜助 (安堂寺町五丁目) 出願 天保二年五月 許可 天保二年六月</p> <p>聯詩礎 二冊 作者 横山冲融 (東 武) 板元 河内屋喜兵衛 (北久太郎町五丁目) 出願 天保二年七月 許可 天保二年八月十二日</p> <p>誹諧月並發句集 一冊 新板發行申出 作者 岡井 眉 板元 井筒屋榮藏 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行</p>	<p>申出年月 天保二年七月</p> <p>陶犬新書 三冊 作者 加嶋屋藤十郎 (廣 丁) 板元 河内屋吉兵衛 (南本町五丁目) 出願 天保二年八月 再願 天保三年六月 許可 天保三年九月</p> <p>鎮西菊池軍記 後編 五冊 作者 和泉屋彌四郎 (博 勢 町) 板元 河内屋平七 (南久太郎町六丁目) 出願 天保二年八月 (附記) 本書の前編は本屋宗七板元にて文政九年京都に於て板行を許されたるが翌年河内屋平七方に板木を譲りたるにより今回復編板行を河内屋方より出願せり然るに事情ありて此の板行を中止することゝなれり</p> <p>滑稽發句類題集 二編 三冊 新板發行申出 作者 素行堂社 鱈 (江 戸) 板元 鹽屋喜助</p>	<p>右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行</p> <p>申出年月 天保二年九月十一日</p> <p>竹取翁物語解 六冊 作者 田中 大秀 (飛騨高山) 藏板主 服部八太郎 (尾州名古屋) 寶弘 河内屋喜兵衛 (北久太郎町五丁目) 出願 天保二年十月 許可 天保三年四月七日</p> <p>和漢年契 一冊 再板發行申出 板元 奈良屋長兵衛 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 天保二年十月廿日</p> <p>誹諧花實發句集 六冊 輯者 菅 長 成 (江戸淺草橋田原) 藏板主 石津平助 (唐物町三丁目) 寶弘 河内屋源七郎 (備 馬 町) 出願 天保二年十月</p> <p>大全童子往來百家通</p>	<p>集者 和泉屋彌四郎 (博 勢 町) 板元 海部屋勤兵衛 (小 濱 町) 出願 天保二年十一月 (附記) 天保四年八月に至り板行出願を取消す</p> <p>増補童子往來百家通 一冊 集者 和泉屋彌四郎 (博 勢 町) 板元 海部屋勤兵衛 (小 濱 町) 出願 天保二年十一月 (附記) 天保四年八月に至り 本書の板行出願を取消す</p> <p>年中狂詩 一冊 新板發行申出 板元 河内屋吉兵衛 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 天保二年十一月二十日</p> <p>松の落葉 五冊 作者 藤井 松齋 (備中宮内) 藏板主 右 同 人 寶弘 鹽屋吉兵衛</p>
---	--	--	--

<p>出願 天保二年十一月 再願 天保三年六月 許可 天保三年十二月</p> <p>四書 十冊 (道春點安永板)再板發行 申出 板元 柏原屋清右衛門 (南本町五丁目) 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 天保二年十一月</p> <p>狂句梅柳 新板發行申出 板元 鹽屋喜助 (安堂寺町五丁目) 右板元よりの申出でを本屋行 司駕組にて開届け板行 申出年月 天保二年十二月五日</p> <p>四書 十冊 (道春點竹林堂)再校發行 申出 板元 河内屋喜兵衛 (北久太郎町五丁目) 右板元よりの申出でを本屋行 司駕組にて開届け板行 申出年月 天保二年十二月五日</p>	<p>狂歌新類題 二冊 新板發行申出 輯者 便々館湖鯉鱒 板元 敦賀屋爲七 右板元よりの申出でを本屋行 司駕組にて開届け板行 申出年月 天保二年十二月五日</p> <p>蓮猿狂句集 一冊 新板發行申出 板元 河内屋太助 右板元よりの申出でを本屋行 司駕組にて開届け板行 申出年月 天保二年十二月二十日</p> <p>大全早引節用集 一冊 再板發行申出 板元 柏原屋與左衛門 幼少に付 代判 柏原屋得兵衛 右板元よりの申出でを本屋行 司駕組にて開届け板行 申出年月 天保二年十二月</p> <p>正楷字覽 一冊 作者 宇田 在中 (阿州德島) 板元 河内屋儀助 (津 曼 町) 出願 天保三年二月</p>	<p>許可 天保三年九月四日</p> <p>今様五子稿 二冊 輯者 林 三 志 (阿 州) 板元 河内屋儀助 (津 曼 町) 出願 天保三年二月 許可 天保三年九月四日</p> <p>瑣質疑篇 合刻 三冊 再板發行申出 板元 敦賀屋九兵衛 右板元よりの申出でを本屋行 司慎組にて開届け板行 申出年月 天保三年二月</p> <p>將棊精妙 二冊 作者 大橋 英 俊 (江 戸) 板元 鹽屋忠次郎 (北久太郎町五丁目) 出願 天保三年二月 許可 天保三年九月</p> <p>方鑿秘笈全書 六冊 作者 多田 包 輔 (淡 路) 板元 藤屋彌兵衛</p>	<p>出願 天保三年二月 再願 天保三年閏十一月</p> <p>年中狂詩 二月之部 一冊 丁數二十二丁 新板發行申出 作者 加島屋藤十郎 (淡 路 町) 板元 河内屋吉兵衛 (南本町五丁目) 右板元よりの申出でを本屋行 司慎組にて開届け板行 申出年月 天保三年三月五日</p> <p>俳諧花實發句集 小本 六冊 輯者 蕙 誠 長 成 (京都三條河原町) 藏板主 石津平助 (唐物町三丁目) 寶弘 河内屋源七郎 (備 馬 町) 出願 天保三年三月 許可 天保三年五月</p> <p>大坂堀江魚市場之圖 新板發行申出 一枚摺 畫工 和泉屋彌四郎 (博 勢 町) 板元 鹽屋喜助 (博 勢 町) 右板元よりの申出でを本屋行</p>
---	---	---	---

<p>司にて開届け板行 申出年月 天保三年四月</p> <p>安治川口築立地面圖 一枚摺 板元 鹽屋喜助 (安堂寺町五丁目) 出願 天保三年四月 (附記) 本書板行の出願は開 届けられず</p> <p>新政攝州大坂全圖 (安治川 口新地増補) 折本一枚摺 増補發行願出 板元 播磨屋九兵衛 (備井町) 出願 天保三年四月 (附記) 本書板行の出願は開 届けられず</p> <p>畫乘要略 二冊 作者 白井廣 (京都東洞院四條) 板元 柏原屋清右衛門 (順慶町五丁目) 出願 天保三年五月 (附記) 本書の板行出願の後 同年九月願ひ下げをなす</p>	<p>司にて開届け板行 申出年月 天保三年四月</p> <p>義仲勲功圖繪 前編 五冊 作者 山田圭藏 (佐渡島町) 板元 河内屋喜兵衛 (北久太郎町五丁目) 出願 天保三年五月 許可 天保三年九月十二日</p> <p>俳諧文政發句集 二冊 輯者 内海屋忠兵衛 (内木町三丁目) 藏板主 右同人 板元 鹽屋忠次郎 (北久太郎町五丁目) 出願 天保三年五月 許可 天保三年十二月十日</p> <p>掌中歴代要覽 折本一冊 輯者 蔀屋仙三 (立賣堀一丁目) 板元 鹽屋喜助 (安堂寺町五丁目) 出願 天保三年六月 許可 天保三年十二月十日</p> <p>本命的煞精義 三冊 作者 柏木屋覺源 (高津新地四丁目) 藏板主 右同人 板元 秋田屋良助 (南瓦屋町)</p>	<p>出願 天保三年六月</p> <p>鍛冶鎖鑰分録 一冊 作者 秋田屋良助 (南瓦屋町) 藏板主 長野屋佐兵衛 (南本町二丁目) 板元 秋田屋源兵衛 (備馬町)</p> <p>萬代方位吉凶一覽 一冊 兩面摺 折本 作者 能勢嘉門 (江戶) 板元 河内屋八兵衛 (南久賣寺町五丁目) 出願 天保三年七月 許可 天保三年十二月十日</p> <p>百人一首一夕話 九冊 作者 尾崎春造 (故人) 板元 敦賀屋九兵衛 (鈴屋町) 出願 天保三年七月 許可 天保三年十二月十日</p> <p>俳諧いろはわけ 二冊 輯者 奇淵</p>	<p>司にて開届け板行 申出年月 天保三年四月</p> <p>狂歌三十六歌仙 一冊 集者 龜屋經藏</p> <p>日記故事大全 三冊 校合者 鎌田環齋 (故人) 板元 敦賀屋九兵衛 (鈴屋町) 出願 天保三年四月十一日 許可 天保四年七月十二日</p> <p>古能花帖 一冊 筆者 加藤又左衛門 (江戶) 藏板主 後藤八四郎 (豊州) 板元 河内屋徳兵衛 (丹屋町) 出願 天保三年四月十一日 許可 天保四年七月十二日</p> <p>醫轍 一冊 作者 中川量平 (尾上町) 藏板主 右同人 板元 敦賀屋九兵衛 (鈴屋町) 出願 天保三年十一月 許可 天保四年十月十二日</p> <p>狂歌菱花集 一冊 集者 越屋藤左衛門 (京都新町小路七上) 藏板主 右同人 板元 扇屋利助 (百貫町) 出願 天保三年四月十一日 許可 天保四年七月十二日</p> <p>増補掌中冠辭例 一冊 作者 熊谷直好 (天王寺村) 板元 柏原屋清右衛門 (順慶町五丁目) 出願 天保三年四月十一日 許可 天保四年七月十二日</p> <p>星翁花月吟 一冊 作者 泉川喜一良 (讃州) 藏板主 右同人 板元 海部屋勘兵衛 (小湊町) 右板元よりの申出でを本屋行</p>
<p>司にて開届け板行 申出年月 天保三年四月</p> <p>女小學教紳 一冊 増補再板發行願出 校合者 大石眞虎 (尾州名古屋) 板元 敦賀屋九兵衛 (鈴屋町) 出願 天保三年十一月 許可 天保四年十一月廿一日</p> <p>けいせい會稽山前編 七冊 新板發行申出 作者 山口屋甚次郎 (三ツ寺町) 板元 河内屋太助 (三ツ寺町) 右板元よりの申出でを本屋行 司慎組にて開届け板行 申出年月 天保三年四月</p> <p>附合雙玉集 二冊 輯者 月窓秋崖 (浪花) 板元 河内屋儀助 (淨覺町) 出願 天保三年十二月 許可 天保四年七月十二日</p> <p>けいせい天羽衣 一冊 新板發行申出</p>	<p>右板元よりの申出でを本屋行 申出年月 天保三年九月廿日</p> <p>早字節用集 眞寫附一冊 作者 永樂屋東四郎 (尾州名古屋) 藏板主 右同人 板元 河内屋太助 (唐物町四丁目) 出願 天保三年八月 許可 天保三年十二月十日</p> <p>二千年袖鑑 七冊 新板發行申出 折本 一冊 板元 鹽屋喜助 右板元よりの申出でを本屋行 司慎組にて開届け板行 申出年月 天保三年十月</p> <p>大坂御藏屋敷所附 折本一冊 輯者 和泉屋敬三 (南草屋町) 板元 播磨屋九兵衛 (高麗橋一丁目) 出願 天保四年二月 再願 天保四年三月</p> <p>正續詩話 二冊</p>	<p>新板發行申出 (難波村)</p> <p>藏板主 右同人 板元 鹽屋忠治郎 (北久太郎町五丁目) 右板元よりの申出でを本屋行 司慎組にて開届け板行 申出年月 天保三年七月廿日</p> <p>瘡科醫談 二冊 作者 小林綱平 (播州馬場)</p> <p>藏板主 右同人 板元 河内屋喜兵衛 (北久太郎町五丁目) 出願 天保三年八月 許可 天保三年十二月十日</p> <p>新増年曆掌箋 折本一冊 輯者 蔀屋仙三 (立賣堀一丁目) 板元 鹽屋喜助 (安堂寺町五丁目) 出願 天保三年九月 許可 天保四年十月十二日</p> <p>選方明鑑 折本一冊 再板發行申出 板元 藤屋彌兵衛 右板元よりの申出でを本屋行</p>	

<p>司慎組にて開届け板行 申出年月 天保三年十月五日</p> <p>古能花帖 一冊 筆者 加藤又左衛門 (江戶) 藏板主 後藤八四郎 (豊州) 板元 河内屋徳兵衛 (丹屋町) 出願 天保三年四月十一日 許可 天保四年七月十二日</p> <p>醫轍 一冊 作者 中川量平 (尾上町) 藏板主 右同人 板元 敦賀屋九兵衛 (鈴屋町) 出願 天保三年十一月 許可 天保四年十月十二日</p> <p>日記故事大全 三冊 校合者 鎌田環齋 (故人) 板元 敦賀屋九兵衛 (鈴屋町) 出願 天保三年四月十一日 許可 天保四年七月十二日</p> <p>狂歌三十六歌仙 一冊 集者 龜屋經藏</p>	<p>司慎組にて開届け板行 申出年月 天保三年四月</p> <p>女小學教紳 一冊 増補再板發行願出 校合者 大石眞虎 (尾州名古屋) 板元 敦賀屋九兵衛 (鈴屋町) 出願 天保三年十一月 許可 天保四年十一月廿一日</p> <p>けいせい會稽山前編 七冊 新板發行申出 作者 山口屋甚次郎 (三ツ寺町) 板元 河内屋太助 (三ツ寺町) 右板元よりの申出でを本屋行 司慎組にて開届け板行 申出年月 天保三年四月</p> <p>附合雙玉集 二冊 輯者 月窓秋崖 (浪花) 板元 河内屋儀助 (淨覺町) 出願 天保三年十二月 許可 天保四年七月十二日</p> <p>けいせい天羽衣 一冊 新板發行申出</p>	<p>右板元よりの申出でを本屋行 申出年月 天保三年九月廿日</p> <p>早字節用集 眞寫附一冊 作者 永樂屋東四郎 (尾州名古屋) 藏板主 右同人 板元 河内屋太助 (唐物町四丁目) 出願 天保三年八月 許可 天保三年十二月十日</p> <p>二千年袖鑑 七冊 新板發行申出 折本 一冊 板元 鹽屋喜助 右板元よりの申出でを本屋行 司慎組にて開届け板行 申出年月 天保三年十月</p> <p>大坂御藏屋敷所附 折本一冊 輯者 和泉屋敬三 (南草屋町) 板元 播磨屋九兵衛 (高麗橋一丁目) 出願 天保四年二月 再願 天保四年三月</p> <p>正續詩話 二冊</p>
--	--	---

<p>作者 村田 庫山 (攝州武庫郡駒林村) 藏板主 右 同人 賣弘 京屋 淺次郎 (升屋町) 出願 天保四年二月 許可 天保四年十月十二日</p> <p>發句新類集 五冊 輯者 清水 松鱗 (浪華) 板元 河内屋 儀助 (淨覺町) 出願 天保四年二月 許可 天保四年七月十二日</p> <p>今様發句集 初篇至三篇 新板發行申出 全部六冊 輯者 八日 卷万和 (浪華) 藏板主 右 同人 賣弘 鹽屋 忠兵衛 (北久太郎町五丁目) 右賣弘人よりの申出でを本屋行司明組にて開届け板行 申出年月 天保四年二月</p> <p>俳諧流行發句集 五冊 輯者 菅 長藏 (江戸淺草堀田原) 板元 河内屋 源七郎</p>	<p>出願 天保四年三月 許可 天保四年七月十二日</p> <p>倭語圖機活法 六冊 作者 宮川 一翠子(故人) 藏板主 岡 敬安 (内兩替町) 賣弘 河内屋 茂兵衛 (博勢町) 出願 天保四年三月 許可 天保四年七月十二日</p> <p>插花筑紫百瓶 二冊 作者 龜齡軒 富上 (浪華) 藏板主 右 同人 賣弘 柏原屋 清右衛門 (龜岡町五丁目) 出願 天保四年四月 許可 天保四年十月</p> <p>生華水壺百瓶 二冊 作者 龜齡軒 富上 (浪華) 藏板主 右 同人 賣弘 柏原屋 清右衛門 (龜岡町五丁目) 出願 天保四年四月 許可 天保四年十月</p>	<p>作者 龜齡軒 富上 (浪華) 藏板主 右 同人 賣弘 柏原屋 清右衛門 (龜岡町五丁目) 出願 天保四年四月 許可 天保四年十月</p> <p>東肥群芳百瓶 二冊 藏板主 右 同人 賣弘 柏原屋 清右衛門 (龜岡町五丁目) 出願 天保四年四月 許可 天保四年十月</p> <p>插花竹田百瓶 二冊 作者 龜齡軒 富上 (浪華) 藏板主 右 同人 賣弘 柏原屋 清右衛門 (龜岡町五丁目) 出願 天保四年四月 許可 天保四年十月</p> <p>三十六花選相老帖 一冊 作者 龜齡軒 富上 (浪華) 藏板主 右 同人 賣弘 柏原屋 清右衛門 (龜岡町五丁目) 出願 天保四年四月 許可 天保四年十月</p> <p>算學稽古大全 一冊 再板發行申出 板元 河内屋 太助 右板元よりの申出でを本屋行</p>	<p>司明組にて開届け板行 申出年月 天保四年三月</p> <p>醫療瑣談 三冊 作者 宇井 謙菴 (肥州若山) 藏板主 右 同人 賣弘 河内屋 喜兵衛 (北久太郎町五丁目) 出願 天保四年五月 許可 天保四年十月</p> <p>百人一首一夕話 跋四丁 增補發行願出 作者 香川 景樹 (京 都) 板元 敦賀屋 九兵衛 (鈴屋町) 出願 天保四年六月 〔附記〕同年七月此の出願を取消す</p> <p>諏吉便覽 二冊 補刻發行申出 板元 藤屋 彌兵衛 右板元よりの申出でを本屋行司明組にて開届け板行 申出年月 天保四年六月</p> <p>日本二千年袖鑑 八編 折本</p>
--	---	--	---

<p>新板發行申出 一冊 板元 錢屋 佐兵衛 右板元よりの申出でを本屋行司明組にて開届け板行 申出年月 天保四年六月廿日</p> <p>日本輿地路程全圖 一冊 再板發行申出 折本 板元 藤屋 彌兵衛 右板元よりの申出でを本屋行司明組にて開届け板行 申出年月 天保四年六月</p> <p>俳諧名家類題集 四冊 輯者 阿波 三四 板元 鹽屋 忠次郎 (北久太郎町五丁目) 出願 天保四年七月 許可 天保四年十月</p> <p>腹證奇覽 二編 序者 甲 柳 菴 (天福橋之上丁) 板元 河内屋 喜兵衛 (北久太郎町五丁目) 出願 天保四年二月 許可 天保四年七月十二日</p> <p>眞草世話千字文 一冊 再板發行申出</p>	<p>筆者 尼崎屋 吉兵衛 (内右衛門町) 板元 河内屋 喜兵衛 (北久太郎町五丁目) 出願 天保四年七月 許可 天保四年十月</p> <p>袖珍古言梯 一冊 校合者 石津 平助 (唐物町三丁目) 板元 河内屋 源七郎 (馬場町) 出願 天保四年七月 許可 天保四年十月</p> <p>百人一首一夕話 跋四丁增補板行願出 作者 香川 景樹 (京 都) 板元 敦賀屋 九兵衛 (鈴屋町) 出願 天保四年九月 許可 天保四年十月</p> <p>改攝州大坂圖 折本 一冊 安治川口新田廻船目印山増補 板元 播磨屋 九兵衛 (高麗橋二丁目) 出願 天保四年九月</p> <p>懷用御和讃 横本 一冊</p>	<p>再板發行申出 板元 伊丹屋 善兵衛 代判 河内屋 源七郎 右板元よりの申出でを本屋行司明組にて開届け板行 申出年月 天保四年十月五日</p> <p>方鑑圖解 五冊 三元本命的殺圖 一紙 方鑑口訣書 一冊 以上三種 作者 松浦 筑後 (希登町) 藏板主 右 同人 賣弘 敦賀屋 九兵衛 (鈴屋町) 出願 天保四年十月 〔附記〕本書板行の義出願したるが都合により取消す</p> <p>天保大雜書万年曆 一冊 作者 大和屋 圭藏 (木挽中之町) 板元 河内屋 菊次郎 (博勢町) 出願 天保四年十月 再願 天保五年二月</p> <p>桂百人一首五免 一冊 再板發行申出</p>	<p>板元 秋田屋 太右衛門 右板元よりの申出でを本屋行司明組にて開届け板行 申出年月 天保四年十一月</p> <p>孝經集傳 一冊 藏板主 紀藤 學習館 賣弘 敦賀屋 九兵衛 (鈴屋町) 出願 天保四年十二月</p> <p>けいせい浦朝霧 七冊 新板發行申出 板元 河内屋 太助 右板元よりの申出でを本屋行司明組にて開届け板行 申出年月 天保四年</p> <p>冠附若分道 一冊 以上二種 新板發行申出 賣弘 秋田屋 市五郎 右賣弘人よりの申出でを本屋行司明組にて開届け板行 申出年月 天保四年十二月二十日</p> <p>增補孝經彙注 三冊 輯者 源 俊素 藏板主 間五郎兵衛</p>
--	---	---	---

<p>賣弘 河内屋吉兵衛 (南木町五丁目) 出願 天保六年四月</p> <p>國性命忠義傳 後編 十冊 作者 大和屋圭藏 (木挽町中之丁) 藏板主 右 同人 賣弘 柏原屋源兵衛 (心齋町)</p> <p>出願 天保五年正月 許可 天保五年六月</p> <p>狂句梅柳 二篇 一冊 狂句梅柳 三篇 一冊 狂句梅柳 四篇 一冊 以上三種 新板發行申出 作者 松 鱧 (江戸)</p> <p>藏板主 右 同人 賣弘 錢屋佐兵衛 (石灰町)</p> <p>右賣弘人よりの申出でを本屋行司明組にて開届け板行 申出年月 天保五年正月</p> <p>浪華狂吟 一冊 新板發行申出 作者 近江屋武兵衛 (天満南本橋屋町)</p>	<p>藏板主 右 同人 賣弘 河内屋喜兵衛 (北久太郎町五丁目) 右賣弘人よりの申出でを本屋行司明組にて開届け板行 申出年月 天保五年正月</p> <p>弊帚集 一冊 作者 佐伯屋孫右衛門 (濱州高松) 藏板主 右 同人 賣弘 河内屋儀助 (淨覺町)</p> <p>出願 天保五年正月 許可 天保五年九月</p> <p>嚴島扁額縮本 初篇 五冊 撰者 丸茂數右衛門 (豊州實島) 藏板主 右 同人 賣弘 河内屋太助 (唐物町四丁目)</p> <p>出願 天保五年正月 許可 天保五年四月</p> <p>早引定紋鑑 一冊 集者 藤屋仙三 (立賣堀一丁目) 板元 鹽屋次兵衛 (安堂寺町四丁目)</p> <p>出願 天保五年二月</p>	<p>許可 天保五年四月</p> <p>天保大雜書万年曆 一冊 作者 大和屋桂藏 (木挽町中之丁) 板元 河内屋菊次郎 (傳馬町)</p> <p>幼少に付 代判 彦兵衛 出願 天保五年二月 許可 天保五年七月十一日</p> <p>大成五經字引 一冊 再板發行申出 板元 河内屋八兵衛 代判 加嶋屋源七 右板元よりの申出でを本屋行司明組にて開届け板行 申出年月 天保五年二月廿日</p> <p>大坂御藏屋敷所附 輯者 和泉屋敬三 (南本町) 板元 播磨屋九兵衛 (高麗橋一丁目)</p> <p>出願 天保五年二月 許可 天保五年七月十一日</p> <p>聽訟彙案 三冊 〔附記〕本書の板行は更に願ひ直しとなる</p>	<p>輯者 津坂貫之進 (勢州津) 藏板主 右 同人 賣弘 京屋淺次郎 (升屋町)</p> <p>出願 天保五年二月 許可 天保五年九月</p> <p>稽高野詣 二冊 新板發行申出 編者 紀の 運道 (浪花木挽町中之丁)</p> <p>板元 綿屋新兵衛 (御池通二丁目)</p> <p>右板元よりの申出でを本屋行司明組にて開届け板行 申出年月 天保五年二月</p> <p>續文章大全 一冊 作者 藤屋仙三 (立賣堀一丁目) 板元 秋田屋市五郎 (南久太郎町六丁目)</p> <p>出願 天保五年三月 許可 天保五年九月</p> <p>孝經集傳 一冊 藏板主 紀清學習館 賣弘 敦賀屋九兵衛 (鶴屋町)</p> <p>出願 天保五年三月</p>
---	---	---	--

<p>許可 天保五年五月</p> <p>摺印補正 二冊 再板發行申出 板元 河内屋喜兵衛 右板元よりの申出でを本屋行司明組にて開届け板行 申出年月 天保五年四月</p> <p>高野詣二編 三編 以上二種 新板發行申出 板元 秋田屋源兵衛 右板元よりの申出でを本屋行司明組にて開届け板行 申出年月 天保五年四月五日</p> <p>神祇兩部祓 折本 一冊 以前「鎮鏡分録」と題せしもの中より抜摺改題發行申出 板元 秋田屋源兵衛 右板元よりの申出でを本屋行司明組にて開届け板行 申出年月 天保五年四月五日</p> <p>幼童寺子式目 一冊 作者 笹山梅菴(故人) 板元 秋田屋良介 (紀州)</p>	<p>出願 天保五年四月 許可 天保五年九月</p> <p>繪本初心道しるべ 以前「繪本心の種」と題せしを此度改題發行申出 板元 本屋吉兵衛 右板元よりの申出でを本屋行司明組にて開届け板行 申出年月 天保五年四月</p> <p>修驗要文 折本 一冊 輯者 大學院(故人) 板元 秋田屋良助 (帶屋町)</p> <p>出願 天保五年四月 許可 天保五年七月十一日</p> <p>新學異見辨 一冊 作者 業合右仲 (徳前西大寺) 藏板主 右 同人 賣弘 河内屋儀助 (淨覺町)</p> <p>出願 天保五年四月 許可 天保五年七月十一日</p> <p>笠附卯の花衣 一冊 〔附記〕本書の板行は更に願ひ直しとなる</p>	<p>集者 李窓 (漢花)</p> <p>算學提要 三冊 作者 井筒屋作太郎 (備中玉島) 藏板主 右 同人 賣弘 河内屋太助 (唐物町四丁目)</p> <p>出願 天保五年五月 許可 天保五年十月朔</p> <p>韻學楷梯 二冊 作者 三浦道齋 (柏原町)</p> <p>藏板主 右 同人 賣弘 秋田屋良助 (九之助町一丁目)</p> <p>出願 天保五年六月五日 許可 天保五年七月十一日</p> <p>公長畫譜 二冊 畫工 紀伊國屋順藏 (南久太郎町四丁目) 藏板主 淺羽隼人 (御城南)</p>	<p>賣弘 本屋吉兵衛 (墨人橋一丁目)</p> <p>出願 天保五年六月 許可 天保五年七月十一日</p> <p>改正大道神祇太祓 折本 作者 玉田永敬 (京都)</p> <p>板元 秋田屋良助 (九之助町一丁目)</p> <p>出願 天保五年七月 許可 天保五年十月朔</p> <p>新世話千字文 一冊 著者 筆者 織田蕭齋 (大賣寺町)</p> <p>板元 河内屋喜兵衛 (北久太郎町五丁目)</p> <p>出願 天保五年六月 許可 天保五年十月朔</p> <p>桐陽詩鈔 一冊 作者 尾池榮寛 (濱州九龜)</p> <p>藏板主 右 同人 賣弘 河内屋儀助 (淨覺町)</p> <p>出願 天保五年六月 許可 天保五年十月朔</p> <p>古今和歌集序 折本 一冊</p>
--	---	--	--

附論語序
筆者 大乘院宮尊親王
藏板主 尙德堂 (京 都)
賣弘 藤屋彌兵衛 (高麗橋一丁目)
出願 天保五年七月
許可 天保五年十月朔

紫式部日記釋 五冊
作者 清 水 宣 昭 (尾州名古屋本町)
藏板主 右 同 人
賣弘 河内屋儀助 (淨 覺 町)
出願 天保五年七月
許可 天保五年十一月

掌中和漢年契 一冊
再板發行申出
作者 葛 城 基 成 (故人)
板元 奈良屋長兵衛 (本町二丁目)
右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行
申出年月 天保五年八月五日

出世塵功記
再板發行申出
板元 秋田屋太右衛門
右板元よりの申出でを本屋行

司にて開届け板行
申出年月 天保五年八月五日

司にて開届け板行
申出年月 天保五年八月
許可 天保五年十一月

女訓浪花名所 一冊
作者 郡 屋 仙 三 (立賣堀二丁目)
板元 河内屋徳兵衛 (升 屋 町)
出願 天保五年八月
許可 天保五年十一月

生花早まなひ 一冊
著者 播磨屋喜六
板元 伊丹屋善兵衛
幼少に付
代判 河内屋源七郎 (博 勢 町)

藥方規矩 一冊
再板發行申出
板元 河内屋直助
右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行
申出年月 天保五年八月

略解千字文 一冊
作者 蝦 衛 齋 (尾州名古屋)

藏板主 播磨屋清七郎 (南堀江五丁目)
賣弘 土佐屋喜兵衛 (宮 川 町)
出願 天保五年十月

農稼業事後編 五冊
作者 大藏徳兵衛 (東 都)
丁數八十五丁半
板元 河内屋長兵衛 (博 勢 町)
出願 天保五年九月
許可 天保五年十月

春草堂詩鈔 四冊
作者 額 杏 坪 (龜 州 廣 島)
藏板主 額 佐 一 郎 (龜 州 廣 島)
賣弘 河内屋徳兵衛 (升 屋 町)
出願 天保五年九月
許可 天保五年十月朔

切門齋文鈔 學術三冊
藏板主 尼崎又右衛門 (天滿三丁目)
賣弘 河内屋喜兵衛 (北久太郎町五丁目)
出願 天保五年九月
許可 天保五年十月

校博物箋 一冊
校正者 播磨屋小六 (南米屋町)
板元 河内屋新次郎 (北久太郎町四丁目)
出願 天保五年九月
許可 天保五年十一月四日

鶴堂畫譜 一冊
畫師 鹽 路 雀 堂 (紀州若山)
板元 河内屋喜兵衛 (北久太郎町五丁目)
出願 天保五年十月
許可 天保五年十一月

大全童子往來百家通 一冊
集者 和泉屋彌四郎 (博 勢 町)
板元 秋田屋太右衛門 (安堂寺町五丁目)
出願 天保五年十月
(附記) 本書のうち「江戸往來」のことにつき御尋ねありたるにより左の口上書を差出した
午俣口上
一 江戸往來之儀御尋に付左に申上候此書御當地にては未開

板御願不奉申上候京都にては開板御免相成申候則
一 査調往來新大成 全一冊
此内に江戸往來入り御座候
一 江戸往來 全一冊 龍草堂筆
右等京都にて開板御免の書に御座候此段奉申上候 以上
天保五年十月
本屋年行司
(高麗橋一丁目)
藤屋彌兵衛 (升 屋 町)
京屋淺次郎

斯くして結局天保七年六月に至り願ひ下げとなれり

大坂袖鑑 一冊
集者 播磨屋喜六 (本京橋町)
板元 正本屋利兵衛 (内本町二丁目)
出願 天保五年十月
許可 天保五年十二月

家塾蒙求 四冊
唐本翻刻
作者 唐 基 淵
板元 河内屋吉兵衛 (南本町五丁目)

出願 天保五年十一月
許可 天保七年三月

五子近思錄 六冊
唐本翻刻
藏板主 山口 秋 桂 (松 江 町)
賣弘 加賀屋善藏 (淨 覺 町)
出願 天保五年十一月
許可 天保六年二月

四ツ谷怪談後篇 五冊
新板發行申出
板元 河内屋太助
右板元よりの申出でを本屋行
司駕組にて開届け板行
申出年月 天保五年十一月五日

冠附類題集
新板發行申出
編者 柳 生 範 策 (京 都)
板元 鹽 屋 平 助
右板元よりの申出でを本屋行
司駕組にて開届け板行
申出年月 天保五年十一月五日

萬曆兩面鑑 折本一冊
増補永曆大成 折本一冊
以上四種 再板發行申出
板元 奈良屋長兵衛
右板元よりの申出でを本屋行
司駕組にて開届け板行
申出年月 天保五年十一月

神祇宗源十二諸祓 折本一冊
吹葦神祝詞 折本一冊
以上二種 開板願出
作者 玉 田 永 敬 (京市田島町守道橋)
板元 秋田屋良助 (九之助一丁目)
出願 天保五年十二月
許可 天保六年二月

萬葉梯 二冊
此度序文六丁増加發行願出
板元 奈良屋長兵衛 (本町二丁目)
出願 天保六年正月
許可 天保六年三月朔

播州大坂目標山勝景一覽 一冊
畫工 八 島 五 岳

板元 鹽屋治兵衛 (東 都)
右板元よりの申出でを本屋行
司駕組にて開届け板行
申出年月 天保六年正月十一日

播州大坂目印山細見圖 一枚摺
新板發行申出
畫工 秋田城右衛門 (道 官 町)
板元 鹽屋治兵衛 (生 玉 社 地)
右板元よりの申出でを本屋行
司駕組にて開届け板行
申出年月 天保六年正月十一日

萬葉考三編 四冊
藏板主 長瀬眞幸 (肥後熊本)
賣弘 柏原屋源兵衛 (心 齋 町)
出願 天保六年正月
許可 天保六年

發句草野集 中本二冊
新板發行申出
編者 藤 波 奇 淵
藏板主 右 同 人
賣弘 鹽屋忠次郎 (北久太郎町五丁目)

右賣弘人よりの申出でを本屋
行司慎組にて開届け板行
申出年月 天保六年二月廿日

麓の艸わけ

作者 半田 周 藏
藏板主 右 同人
賣弘 河内屋長兵衛
出願 天保六年三月
許可 天保六年六月

再割發行申出
板元 播磨屋九兵衛
右板元よりの申出でを本屋行
司慎組にて開届け板行
申出年月 天保六年三月廿日

改攝州大坂圖

再割發行申出
板元 播磨屋九兵衛
右板元よりの申出でを本屋行
司慎組にて開届け板行
申出年月 天保六年三月廿日

渡海便覽

作者 秋 里(故人)
板元 秋田屋良助
出願 天保六年三月
許可 天保六年閏七月

歌日記

一冊

作者 野々口 正作
藏板主 右 同人
賣弘 藤屋 善七
出願 天保六年三月
許可 天保六年六月

增補寺子用文章

作者 藤屋 仙三
板元 秋田屋市五郎
出願 天保六年四月
許可 天保六年六月

儒門空虛聚語

輯者 源 後 素
藏板主 齋藤 方策
賣弘 河内屋喜兵衛
出願 天保六年四月
許可 天保六年五月朔

月次書札集

筆者 長 玄海 堂(故人)
板元 網屋茂兵衛
出願 天保六年四月
許可 天保六年六月

攝津國大繪圖

校正 都屋 仙三
板元 河内屋喜兵衛
出願 天保六年六月
許可 天保七年二月

朗詠帖

筆者 橋 千 蔭
藏板主 樋口 勝助
賣弘 藤屋 喜七
出願 天保六年七月五日
許可 天保六年七月五日

四書本義滙參

輯者 王 步 青
板元 河内屋喜兵衛
出願 天保六年七月
許可 天保七年二月

畫畫百物

畫工 大石 眞 虎
一冊

目標山名所圖會 二冊
作者 和泉屋彌四郎
板元 鹽屋治兵衛
出願 天保六年五月
許可 天保六年五月十四日

早引節用集眞字付

再板發行申出
板元 柏原屋與右衛門
右板元よりの申出でを本屋行
司慎組にて開届け板行
申出年月 天保六年五月

神祇御蔭太祓

集者 矢野左倉太夫
板元 秋田屋良助
出願 天保六年五月
許可 天保六年閏七月

唯一神道太祓

集者 矢野左倉太夫
板元 秋田屋良助
出願 天保六年五月
許可 天保六年閏七月

傷寒全論寸珍本

作者 中川 脩 藏
藏板主 右 同人
賣弘 秋田屋良助
出願 天保六年五月
許可 天保六年五月

洗心洞割記

輯者 源 後 素
藏板主 間五郎兵衛
賣弘 河内屋喜兵衛
出願 天保六年五月
許可 天保六年五月

方鑑秘藏全書

作者 多 田 包 輔
前編 後編
板元 藤屋彌兵衛
出願 天保六年五月
許可 天保六年五月

右賣弘人よりの申出でを本屋
行司慎組にて開届け板行
申出年月 天保六年二月廿日

傷寒全論寸珍本

作者 中川 脩 藏
藏板主 右 同人
賣弘 秋田屋良助
出願 天保六年五月
許可 天保六年五月

洗心洞割記

輯者 源 後 素
藏板主 間五郎兵衛
賣弘 河内屋喜兵衛
出願 天保六年五月
許可 天保六年五月

方鑑秘藏全書

作者 多 田 包 輔
前編 後編
板元 藤屋彌兵衛
出願 天保六年五月
許可 天保六年五月

街の噂

板行賣弘申出
作者 平 亭 銀 鷗
藏板主 右 同人
賣弘 河内屋太助
出願 天保六年八月
許可 天保六年八月

國花万葉記

校合者 近江屋永藏
板元 河内屋太助
出願 天保六年八月
許可 天保六年八月

日本海陸記

折本一冊
右兩書は以前「日本海陸兩道
中獨案内」と題せしもの、抜
摺なるが此度兩書とし改題發
行申出
板元 秋田屋良助

增補日本海陸細見記

折本一冊
右兩書は以前「日本海陸兩道
中獨案内」と題せしもの、抜
摺なるが此度兩書とし改題發
行申出
板元 秋田屋良助

に御座候間御覽奉申上候と
書添へあり

本命的煞精義

作者 柏木屋覺源(故人)
藏板主 柏木屋大吉
賣弘 秋田屋良助
出願 天保六年五月
許可 天保六年五月

儒門空虛聚語

增補十四丁板行願出
輯者 源 後 素
藏板主 齋藤 方策
賣弘 河内屋喜兵衛
出願 天保六年五月
許可 天保六年六月四日

修正傷寒全論

作者 中川 脩 藏
藏板主 右 同人
賣弘 秋田屋良助
出願 天保六年五月
許可 天保六年六月四日

修正傷寒全論

作者 中川 脩 藏
藏板主 右 同人
賣弘 秋田屋良助
出願 天保六年五月
許可 天保六年六月四日

修正傷寒全論

作者 中川 脩 藏
藏板主 右 同人
賣弘 秋田屋良助
出願 天保六年五月
許可 天保六年六月四日

修正傷寒全論

作者 中川 脩 藏
藏板主 右 同人
賣弘 秋田屋良助
出願 天保六年五月
許可 天保六年六月四日

修正傷寒全論

作者 中川 脩 藏
藏板主 右 同人
賣弘 秋田屋良助
出願 天保六年五月
許可 天保六年六月四日

右板元よりの申出でを本屋行
司慎組にて開届け板行
申出年月 天保六年九月十一日

一ノ宮附八部太祓

板行賣弘申出 折本一帖
作者 玉田 永教 (吉田聖神學館主)

藏板主 右 同人

賣弘 秋田屋良助
右賣弘人よりの申出でを本屋
行司慎組にて開届け板行
申出年月 天保六年九月十一日

心の行衛二編 二冊

作者 板屋宇右衛門
(南久太郎町六丁目)

板元 鹽屋卯兵衛
(南久太郎町六丁目)

出願 天保六年十月
許可 天保七年二月

浪華詩話 一冊

作者 兼康 百濟 (浪華)

藏板主 右 同人

賣弘 柏原屋清右衛門
(藤原町五丁目)

出願 天保六年十月
許可 天保七年二月

消息往來 一冊

筆者 藤村青雲堂

板元 秋田屋市五郎 (浪華)

出願 天保六年十月
許可 天保七年二月

米穀内味附 一枚摺

集者 紀 應明

板元 教賀屋九兵衛

右板元よりの申出でを本屋行
司慎組にて開届け板行
申出年月 天保六年十月五日

秋風文集 二冊

板行賣弘申出

作者 豊後 月化

藏板主 右 同人

賣弘 鹽屋忠次郎
右賣弘人よりの申出でを本屋
行司慎組にて開届け板行
申出年月 天保六年十一月五日

女大學寶箱 半紙形一冊

作者 貝原 篤信 (故人)

板元 柏原屋清右衛門
(藤原町五丁目)

右板元よりの申出でを本屋行
司慎組にて開届け板行
申出年月 天保六年十一月五日

米相場休日録 一枚摺

此度開板發行申出
板元 道明寺屋卯右衛門
(金崎中一丁目)

右板元よりの申出でを本屋行
司慎組にて開届け板行
申出年月 天保六年十一月五日

普原繪本不知火草紙 後編 五冊

作者 馬田 昌調 (浪華)

板元 播磨屋五郎兵衛 (長濱町)

出願 天保六年十二月
許可 天保六年十二月

以呂波歌教箋 一冊

集者 郡 屋仙三

板元 今津屋辰三郎
(江戸堀二丁目)

出願 天保六年十二月
許可 天保六年十二月

五十連音麻會鏡 一冊

作者 木村 豊平 (浪華)

出願 天保六年十二月
許可 天保六年十二月

藏板主 右 同人
賣弘 今津屋辰三郎
(江戸堀二丁目)

日本海陸案内記

以前「増補日本海陸案内記」と
題せしもの中より抜摺し此
度改題板行申出
集者 秋田屋良助

板元 右 同人
右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行
申出年月 天保六年十二月五日

永曆大雜書天文大成 一冊

再板發行申出

板元 教賀屋九兵衛
右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行
申出年月 天保六年十二月

繪本琉球軍記 十冊

作者 健屋宗兵衛 (播州三木)

板元 天満屋安兵衛 (徳島町)

出願 天保六年十二月
許可 天保六年十二月

(附記) 最初に本書板行の出
願につき文中に「仲間にては
差構これなく候へ共御差障も
可有御座哉難相計奉存候に付
此段奉寛上候」と書添へあり
しが「別に差障も無之」と仰せ
あり普通願書に書改めて出願
せり

和州法隆寺靈寶目錄

此度板行賣弘申出

藏板主 法隆寺

賣弘 河内屋宗兵衛

右賣弘人よりの申出でを本屋
行司慎組にて開届け板行
申出年月 天保六年十二月

四書派参り翻刻の儀に付御
答

一四書派参り翻刻の儀に付唐本新
渡之御直合に抱り候哉御尋被
爲成候得共右ハ當時拂底之書
柄ニ付翻刻ニ出来候とも唐本
和本之差別も有之候得は強テ直
合等ニ差障り候義無御座候様
様奉存候右御尋ニ付奉申上候
已上

天保六年十二月
本屋年行司
南久太郎町六丁目

秋田屋市五郎

永瀬七郎右衛門殿
安井九兵衛殿
薩摩屋仁兵衛殿

一家塾蒙求翻刻の儀に付唐本新
渡之御直合ニ抱り候哉御尋被
爲成候得共右は當時拂底之書
柄ニ付翻刻ニ出来候共唐本和
本之差別も有之候得は強テ直
合等ニ差障り候義無御座候様
奉存候右御尋ニ付奉申上候
以上

天保六年十二月
本屋年行司
南久太郎町六丁目

秋田屋市五郎

永瀬七郎右衛門殿
安井九兵衛殿
薩摩屋仁兵衛殿

一家塾蒙求翻刻の儀に付唐本新
渡之御直合ニ抱り候哉御尋被
爲成候得共右は當時拂底之書
柄ニ付翻刻ニ出来候共唐本和
本之差別も有之候得は強テ直
合等ニ差障り候義無御座候様
奉存候右御尋ニ付奉申上候
以上

天保六年十二月
本屋年行司
南久太郎町六丁目

秋田屋市五郎

永瀬七郎右衛門殿
安井九兵衛殿
薩摩屋仁兵衛殿

一家塾蒙求翻刻の儀に付唐本新
渡之御直合ニ抱り候哉御尋被
爲成候得共右は當時拂底之書
柄ニ付翻刻ニ出来候共唐本和
本之差別も有之候得は強テ直
合等ニ差障り候義無御座候様
奉存候右御尋ニ付奉申上候
以上

天保六年十二月
本屋年行司
南久太郎町六丁目

秋田屋市五郎

永瀬七郎右衛門殿
安井九兵衛殿
薩摩屋仁兵衛殿

琴曲三津のしらべ 一冊

集者 中嶋 金十郎 (浪華)

板元 今津屋辰三郎
(江戸堀二丁目)

出願 天保七年正月
許可 天保七年五月

浪華一覽圖 一枚摺

藏板主 瀧澤 健藏 (北野村)

賣弘 河内屋吉兵衛
(南本町五丁目)

出願 天保七年二月
(附記) 本書板行の義出願し
たるが同年三月十九日に至り
願ひ下げとなる

大日増補海陸行程細見記

本國増補海陸行程細見記
作者 稻富中右衛門 (泉州信達)

藏板主 右 同人

賣弘 秋田屋良助
(九之助町一丁目)

出願 天保七年二月
許可 天保七年八月十八日

日本海陸通覽 折本一冊

本書は以前吉文字屋市兵衛所
有の板本なりしが此度秋田屋

繪引年代記 折本一冊

以前「本朝年代記」と題せしを
此度改題發行申出

板元 鹽屋喜兵衛
右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行
申出年月 天保七年三月廿日

合書童子訓 一冊

再板發行申出 丁數五十二丁

板元 綿屋喜兵衛
右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行
申出年月 天保七年四月五日

浪華醉咏 一冊

新板發行申出

板元 加賀屋吉兵衛
右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行
申出年月 天保七年四月

天保大坂之圖 一枚摺

新板發行申出

板元 加賀屋吉兵衛
右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行
申出年月 天保七年四月

天保大坂之圖 一枚摺

新板發行申出

板元 加賀屋吉兵衛
右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行
申出年月 天保七年四月

板元 播磨屋九兵衛
右板元よりの申出でを本屋行
司明組にて開届け板行
申出年月 天保七年五月十一日

目標山俳諧句集 二冊
板行賣弘申出
賣弘 鹽屋彌七
右賣弘人よりの申出でを本屋
行司明組にて開届け板行
申出年月 天保七年六月六日

繪本琉球軍記 後篇 十冊
作者 鍵屋惣兵衛
板元 天満屋安兵衛 (備馬町)

出願 天保七年七月
許可 天保七年十一月

醫療衆方規矩大成
再板發行申出
板元 網屋茂兵衛
右板元よりの申出でを本屋行
司明組にて開届け板行
申出年月 天保七年七月五日

英傑畫府
以前「繪本文武敷島臺」と題せ
しを此度改題發行申出

板元 秋田屋良助
右板元よりの申出でを本屋行
司明組にて開届け板行
申出年月 天保七年七月五日

目標山柳樽 一冊
板行賣弘申出
賣弘 鹽屋喜兵衛
右賣弘人よりの申出でを本屋
行司明組にて開届け板行
申出年月 天保七年七月廿日

諸流茶人略譜 一紙
集者 接霞亭眠翁
板元 今津屋辰三郎 (阿州)

出願 天保七年七月
許可 天保七年十二月廿八日

兼好法師傳記考證 五冊
作者 野々口正作 (江戸)

藏板主 右同人
賣弘 藤屋善七 (高麗橋一丁目)

出願 天保七年七月
許可 天保八年二月

本會勲功圖會後編 五冊
義仲

作者 山田圭藏 (次郎兵衛町)
板元 河内屋喜兵衛 (北久太郎町五丁目)

出願 天保七年七月
許可 天保七年十一月

學庸考 二冊
作者 龜井鐵五郎 (筑前)

藏板主 右同人
賣弘 加賀屋善藏 (淨覺町)

出願 天保七年八月
許可 天保七年十二月廿八日

秘傳衛生論 後篇 二冊
作者 本井子承(故人)
板元 加賀屋善藏 (淨覺町)

出願 天保七年八月
許可 天保七年十二月廿八日

大坂袖鑑 一冊
諸役人名前改正板行申出
板元 正本屋利兵衛
右板元よりの申出でを本屋行
司明組にて開届け板行
申出年月 天保七年八月五日

茶道筌蹄 五冊

集者 稻垣休(故人)
板元 今津屋辰三郎 (江戸橋一丁目)

出願 天保七年八月

灸穴早合點
開板發行申出
板元 秋田屋良助
右板元よりの申出でを本屋行
司明組にて開届け板行
申出年月 天保七年八月廿日

時粧玉ノ簪 二冊
開板發行申出
板元 秋田屋良助
右板元よりの申出でを本屋行
司明組にて開届け板行
申出年月 天保七年八月廿日

増補早引節用集 小本
再板發行申出
板元 柏原屋與左衛門
右板元よりの申出でを本屋行
司明組にて開届け板行
申出年月 天保七年九月十一日

つま志るし
再板發行申出
板元 藤屋善七

右板元よりの申出でを本屋行
司明組にて開届け板行
申出年月 天保七年九月十一日

四書集注 (小松板) 五冊
再板發行申出
板元 河内屋喜兵衛
右板元よりの申出でを本屋行
司明組にて開届け板行
申出年月 天保七年九月廿日

遠思樓詩集 二冊
作者 廣瀬求馬 (豐後肥田)

板元 名田屋佐七 (南久太郎町六丁目)

出願 天保七年十月
〔附記〕本書板行は斯く出願
したるも天保九年六月願ひ下
げとなる

製油錄 二冊
作者 大藏永常 (三州田原)

藏板主 右同人
賣弘 河内屋長兵衛 (備馬町)

出願 天保七年十一月
〔附記〕本書板行の義出願し
たるも賣弘御免これなく天保
十年正月却下せらる

作者 大和屋圭藏 (次郎兵衛町)
板元 河内屋長兵衛 (備馬町)

出願 天保七年十一月

芝居敵討義戀欄 五冊
以上二種 開板發行申出
板元 河内屋太助 (備馬町)

右板元よりの申出でを本屋行
司明組にて開届け板行
申出年月 天保七年十月

登船獨案内 一冊
再板發行申出
板元 藤屋九兵衛
右板元よりの申出でを本屋行
司明組にて開届け板行
申出年月 天保七年十月

米相場休日錄 一枚摺
開板發行申出
板元 道明寺屋卯右衛門
右板元よりの申出でを本屋行
司明組にて開届け板行
申出年月 天保七年十一月

忠臣蔵二度目清書

以前は五行本なりしを此度四
行本に書改め板行申出
右板元よりの申出でを本屋行
司明組にて開届け板行
申出年月 天保七年十二月

四國道路しるべ 一冊
再板發行申出
板元 天満屋安兵衛
右板元よりの申出でを本屋行
司明組にて開届け板行
申出年月 天保七年十二月

日本古義 五冊
作者 高木尙三郎 (肥州)

板元 本屋信兵衛 (賣人橋一丁目)

出願 天保七年十二月

農具便利論 三冊
作者 大藏永常 (三州田原)

藏板主 右同人
賣弘 河内屋長兵衛 (備馬町)

出願 天保七年十二月
再板發行申出

大全早引節用集 一冊

板元 柏原屋與左衛門
右板元よりの申出でを本屋行
司明組にて開届け板行
申出年月 天保八年二月五日

枕上集 四冊
作者 柴野平次郎 (阿州備前佐古町)

藏板主 右同人
賣弘 京屋淺次郎 (淨覺町)

出願 天保八年三月
許可 天保八年十二月

續浪華郷友錄 一冊
作者 大坂屋左一郎 (油掛町)

藏板主 右同人
賣弘 播磨屋五郎兵衛 (長濱町)

出願 天保八年四月

天保大坂之圖 一枚摺
原板焼失に付再刻發行申出
板元 播磨屋九兵衛
右板元よりの申出でを本屋行
司明組にて開届け板行
申出年月 天保八年三月

女万歳寶文庫 一冊

再板發行申出
板元 柏原屋清右衛門
右板元よりの申出でを本屋行
司駕組にて開届け板行
申出年月 天保八年四月五日

大坂方角略圖 一枚摺一紙
開板發行申出
板元 播磨屋九兵衛
右板元よりの申出でを本屋行
司駕組にて開届け板行
申出年月 天保八年四月

教訓極樂住居 二編 三冊
作者 板屋宇右衛門
板元 河内屋太助
出願 天保八年四月
許可 天保八年四月
(唐物町四丁目)

四造り物趣向種 一冊
作者 松川 半山
藏板主 右 同人
賣弘 秋田屋良介
新板發行申出
右板元よりの申出でを本屋
行司駕組にて開届け板行
申出年月 天保八年五月十一日

東船路名所記 一冊
附題船針直路之圖
作者 小川 美啓
板元 秋田屋良介
出願 天保八年五月
(九之助丁二丁目)

改正日本圖 五采分國
再板發行申出 折本 一冊
板元 播磨屋九兵衛
右板元よりの申出でを本屋行
司駕組にて開届け板行
申出年月 天保八年七月

渡海便覽 一冊
此度諸大名御船印入丁數六丁
増補發行願出
増補作者 小川美啓
板元 秋田屋良助
出願 天保八年七月
(九之助町二丁目)

春秋左氏傳列國君臣系譜 一冊
作者 福岡 政成
藏板主 右 同人
賣弘 柏原屋清右衛門

出願 天保八年七月
春秋年代一瞥 一冊
作者 福岡 政成
藏板主 右 同人
賣弘 柏原屋清右衛門
出願 天保八年七月

米相場休日録
新板發行申出
板元 道明寺屋卯右衛門
幼少に付
代判 阿波屋藤助
右板元よりの申出でを本屋行
司駕組にて開届け板行
申出年月 天保八年十月五日

大坂全圖
再板發行申出
板元 播磨屋九兵衛
右板元よりの申出でを本屋行
司駕組にて開届け板行
申出年月 天保八年九月

大坂中圖 一枚摺
再板發行申出
板元 播磨屋九兵衛
右板元よりの申出でを本屋行
司駕組にて開届け板行

申出年月 天保八年十月
大坂指掌圖 一枚摺
再板發行申出
板元 播磨屋九兵衛
右板元よりの申出でを本屋行
司駕組にて開届け板行
申出年月 天保八年十月

米相場休日録 大小入
大中小 開板發行申出
板元 安賣屋善右衛門
板元 今津屋辰三郎
板元 河内屋宗兵衛
板元 道明寺屋卯右衛門
板元 鹽屋喜兵衛
右板元よりの申出でを本屋行
司駕組にて開届け板行
申出年月 天保八年十二月五日

天保三十三家絶句 三冊
作者 梁川 新十郎
藏板主 右 同人
賣弘 河内屋儀助
出願 天保八年十二月
(淨覺町)

猫間川堀淺繪圖 一枚摺
新板發行申出

板元 右板元よりの申出でを本屋行
司駕組にて開届け板行
申出年月 天保九年二月

扇面道中記 (宿屋物)
板行賣弘申出
作者 小川 新助
藏板主 右 同人
賣弘 秋田屋良介
右板元よりの申出でを本屋
行司駕組にて開届け板行
申出年月 天保九年三月五日

身家盛衰循環圖 一冊
板行賣弘申出
賣弘 今津屋辰三郎
右板元よりの申出でを本屋
行司駕組にて開届け板行
申出年月 天保九年三月五日

大玉造繁榮之圖 一枚摺
開板發行申出
板元 正本屋利兵衛
右板元よりの申出でを本屋行
司駕組にて開届け板行
申出年月 天保九年三月廿日

東海道中圖 一紙
開板發行申出
板元 秋田屋良介

板元 右板元よりの申出でを本屋行
司駕組にて開届け板行
申出年月 天保九年三月廿日

伊勢参宮道中圖 一枚摺
開板發行申出
畫工 灘屋高次郎
板元 鹽屋喜兵衛
右板元よりの申出でを本屋行
司駕組にて開届け板行
申出年月 天保九年四月二十日

三十石夜舟便覽 一紙
開板發行申出
板元 秋田屋良介
右板元よりの申出でを本屋行
司駕組にて開届け板行
申出年月 天保九年五月十一日

日本國々道法一覽 一紙
開板發行申出
板元 秋田屋良介

右板元よりの申出でを本屋行
司駕組にて開届け板行
申出年月 天保九年五月十一日

大相撲繪本 一冊
作者 一
板元 河内屋長兵衛
右天保九年六月五日板元よりの
申出により本屋行司駕組にて

右板元よりの申出でを本屋行
司駕組にて開届け板行
申出年月 天保九年五月十一日

大坂中圖 一枚摺
再板發行申出
板元 播磨屋九兵衛
右板元よりの申出でを本屋行
司駕組にて開届け板行
申出年月 天保九年五月十一日

大坂全圖
再板發行申出
板元 播磨屋九兵衛
右板元よりの申出でを本屋行
司駕組にて開届け板行
申出年月 天保九年五月十一日

大坂指掌圖 一枚摺
再板發行申出
板元 播磨屋九兵衛
右板元よりの申出でを本屋行
司駕組にて開届け板行
申出年月 天保九年五月十一日

大相撲繪本 一冊
作者 一
板元 河内屋長兵衛
右天保九年六月五日板元よりの
申出により本屋行司駕組にて

右板元よりの申出でを本屋行
司駕組にて開届け板行
申出年月 天保九年六月五日

大相撲繪本 一冊
作者 一
板元 河内屋長兵衛
右天保九年六月五日板元よりの
申出により本屋行司駕組にて

右板元よりの申出でを本屋行
司駕組にて開届け板行
申出年月 天保九年六月廿日

海内用文章 一冊
作者 小川屋辰藏
板元 秋田屋市兵衛

て開届けたるが後都合により
此の申出を取消したり

作者 高島 春松
板元 播磨屋九兵衛
出願 天保九年六月
許可 天保十年二月三日
(高麗橋二丁目)

大坂新田細見圖 折本一冊
校正者 松尾 華堂
板元 播磨屋九兵衛
出願 天保九年十二月
許可 天保十年二月十六日
(高麗橋二丁目)

大坂指掌圖
此度「目標山」を増補發行の旨
申出
板元 播磨屋九兵衛
右板元よりの申出でを本屋行
司駕組にて開届け板行
申出年月 天保九年六月廿日

<p>出願 天保九年七月 許可 天保十年二月三日</p> <p>金毘羅道中記 一冊 作者 小川新助 (泉州)</p> <p>藏板主 右 同人 賣弘 秋田屋良介 發行賣弘申出 右賣弘人よりの申出で本屋 行司明組にて開届け板行 申出年月 天保九年七月廿日</p> <p>茶人系傳 一冊 開板發行申出 板元 今津屋辰三郎 右板元よりの申出で本屋行 司明組にて開届け板行 申出年月 天保九年八月五日</p> <p>校正四書 十冊 再板發行申出 板元 秋田屋太右衛門 右板元よりの申出で本屋行 司明組にて開届け板行 申出年月 天保九年八月</p> <p>源平拾遺 二冊 板行賣弘申出</p>	<p>賣弘 河内屋儀助 右賣弘人よりの申出で本屋 行司明組にて開届け板行 申出年月 天保九年九月</p> <p>庭訓往來かな付 一冊 開板發行申出 板元 今津屋辰三郎 右板元よりの申出で本屋行 司明組にて開届け板行 申出年月 天保九年九月</p> <p>判者俳諧松の葉 一冊 板行賣弘申出 賣弘 藤屋善七 右賣弘人よりの申出で本屋 行司明組にて開届け板行 申出年月 天保九年九月廿日</p> <p>船隻西陸海上記 一冊 板行賣弘申出 板元 秋田屋良助 右板元よりの申出で本屋行 司明組にて開届け板行 申出年月 天保九年九月廿日</p> <p>大日本道中案見圖 改訂 植田亭我 (四軒町)</p>	<p>板元 檜皮屋善作 (四軒町) 出願 天保九年十二月 許可 天保十年六月十五日</p> <p>萬曆兩面鏡 折本一冊 再板發行申出 板元 奈良屋長兵衛 右板元よりの申出で本屋行 司明組にて開届け板行 申出年月 天保十年正月十一日</p> <p>梅玉餘響 三冊 開板發行申出 板元 河内屋太助 右板元よりの申出で本屋行 司明組にて開届け板行 申出年月 天保十年二月五日</p> <p>本朝編年小史 七冊 補刻發行申出 板元 奈良屋長兵衛 右板元よりの申出で本屋行 司明組にて開届け板行 申出年月 天保十年二月廿日</p> <p>詩韻含英異同辨 四冊 再板發行申出 板元 堺屋利兵衛 右板元よりの申出で本屋行</p>	<p>司明組にて開届け板行 申出年月 天保十年二月廿日</p> <p>自畫題語 四冊 作者 田能村行藏 (豊後國)</p> <p>藏板主 帆足熊太郎 (豊後國) 賣弘 河内屋儀助 (淨覺町) 出願 天保十年二月 許可 天保十年六月十五日</p> <p>古風三體考 一冊 作者 田中晉一郎 (長州藩)</p> <p>藏板主 右 同人 賣弘 河内屋儀助 板行賣弘申出 右賣弘人よりの申出で本屋 行司明組にて開届け板行 申出年月 天保十年四月廿日</p> <p>經驗日新錄 二冊 作者 尾道屋孫兵衛 (海部郡町)</p> <p>藏板主 右 同人 賣弘 敦賀屋爲七 (木町四丁目) 出願 天保十年五月</p>
--	---	---	---

(附記) 天保十年七月二十八日願ひ下げとなる

<p>伊勢參宮道案内 二編 板行申出 畫工 瀬屋高次郎 (備前郡)</p> <p>板元 秋田屋良介 (備前郡)</p> <p>右板元よりの申出で本屋行 司明組にて開届け板行 申出年月 天保十年五月十一日</p> <p>女今川艶姿 一冊 集者 利作 (曾根町)</p> <p>板元 今津屋辰三郎 (江戸堀一丁目) 出願 天保十年五月 許可 天保十年八月十九日</p> <p>大清廣輿圖 折本一冊 板行賣弘申出 校正者 田中屋赤三郎 (豊町二丁目) 藏板主 右 同人 賣弘 伊丹屋善兵衛 右賣弘人よりの申出で本屋 行司明組にて開届け板行 申出年月 天保十年六月</p>	<p>改難波丸 七冊 補刻發行申出 校合者 陰山三郎兵衛 板元 河内屋太助 右板元よりの申出で本屋行 司明組にて開届け板行 申出年月 天保十年六月廿日</p> <p>冠附あふむ石 板行賣弘申出 作者 四徳菴梅州 藏板主 右 同人 賣弘 秋田屋市兵衛 右賣弘人よりの申出で本屋 行司明組にて開届け板行 申出年月 天保十年六月</p> <p>大坂細見之圖 一紙 畫工 松川半山 開板發行申出 申出年月 天保十年七月五日</p> <p>大坂夕陽廓の賑 一紙 畫工 松川半山</p>	<p>板元 秋田屋良助 右板元よりの申出で本屋行 司明組にて開届け板行 申出年月 天保十年七月五日</p> <p>大坂新田細見圖 序文を添へ發行申出 板元 はりまや九兵衛 右板元よりの申出で本屋行 司明組にて開届け板行 申出年月 天保十年七月五日</p> <p>集古浪華帖 五冊 板行賣弘申出 作者 森川宗吾 (高麗橋一丁目)</p> <p>藏板主 右 同人 賣弘 今津屋辰三郎 右賣弘人よりの申出で本屋 行司明組にて開届け板行 申出年月 天保十年八月五日</p> <p>帖外御文 五冊 板行賣弘申出 藏板主 淨教寺 (天満八丁目) 賣弘 河内屋儀助 右賣弘人よりの申出で本屋 行司明組にて開届け板行</p>	<p>出年月申 天保十年八月五日</p> <p>大坂袖鑑 役人附改正板行申出 板元 右板元よりの申出で本屋行 司明組にて開届け板行 申出年月 天保十年八月五日</p> <p>近思錄餘師 十五冊 作者 濱百 (讃州)</p> <p>板元 河内屋太助 (讃州)</p> <p>出願 天保十年八月 許可 天保十年十月二十五日</p> <p>導窺私錄 五冊 著者 小出龍 (備後郡州領西城)</p> <p>藏板主 小出立主 (北久賀寺町三丁目) 賣弘 河内屋源七郎 (備馬町) 出願 天保十年八月 許可 天保十年十月二十五日</p> <p>大坂新田細見圖 序文添加願出 校合者 松尾華堂</p>
---	---	---	---

<p>板元 はりまや九兵衛 (城州伏見)</p> <p>出願 天保十年八月 (高麗橋一丁目)</p> <p>許可 天保十年八月十九日</p> <p>繪本徴瘡談 六冊</p> <p>作者 船越敬祐 (北久寶寺町四丁目)</p> <p>藏板主 右 同人</p> <p>賣弘 播磨屋五郎兵衛 (長濱町)</p> <p>板行賣弘申出</p> <p>右賣弘人よりの申出でを本屋行司明組にて開届け板行</p> <p>申出年月 天保十年九月十一日</p>	<p>申出年月 天保十年十月</p> <p>隨一小調</p> <p>再板發行申出</p> <p>板元 はりまや九兵衛</p> <p>右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行</p> <p>申出年月 天保十年八月</p> <p>雅百人一首姫鑑 小本一冊</p> <p>集者 利作 (北城村)</p> <p>板元 今津屋辰三郎 (江戸堀一丁目)</p> <p>出願 天保十年十月</p> <p>許可 天保十年十月二十七日</p> <p>諸商人道中記 一冊</p> <p>作者 松屋甚四郎 (玉造上清水町)</p> <p>藏板主 右 同人</p> <p>賣弘 秋田屋良助 (九之助町一丁目)</p> <p>出願 天保十年十一月</p> <p>(附記) 本書板行の出願に對し同年十二月四日北組惣會所にて惣年寄永瀬七郎右衛門より「本書は御差障りの書に付絶板仰付らる」と申渡され</p>	<p>板本を沒收せられたり</p> <p>大日本海陸勝景一覽 折本一冊</p> <p>畫工 岡田春燈齋 (京郡)</p> <p>藏板主 右 同人</p> <p>賣弘 秋田屋良助 (九之助町一丁目)</p> <p>出願 天保十年十一月</p> <p>許可 天保十一年正月廿一日</p> <p>けいせい遊山櫻 後篇 六冊</p> <p>新板發行申出</p> <p>畫工 大和屋信兵衛 (南桑屋町)</p> <p>板元 河内屋太助</p> <p>右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行</p> <p>申出年月 天保十年十一月五日</p> <p>子年判役者金剛力 三冊</p> <p>新板發行申出</p> <p>板元 河内屋太助</p> <p>右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行</p> <p>申出年月 天保十年十一月五日</p> <p>誠意伯詩抄 四冊</p> <p>作者 垣内淡采</p>	<p>藏板主 右 同人 (紀州)</p> <p>賣弘 秋田屋太右衛門 (安堂寺町五丁目)</p> <p>出願 天保十年十一月</p> <p>許可 天保十一年正月廿一日</p> <p>讀辨道 一冊</p> <p>作者 龜井鐵次郎 (菰野)</p> <p>藏板主 右 同人</p> <p>賣弘 加賀屋善藏 (淨覺町)</p> <p>出願 天保十年十一月</p> <p>許可 天保十一年正月廿一日</p> <p>驅梅要方 三冊</p> <p>作者 高良齋 (北久太郎町四丁目)</p> <p>藏板主 右 同人</p> <p>賣弘 河内屋太助 (唐物町四丁目)</p> <p>出願 天保十年十一月</p> <p>河内 十一年二月</p> <p>金錢相場早割便覽</p> <p>作者 小川成藏 (泉州堺)</p> <p>藏板主 右 同人</p> <p>賣弘 秋田屋良介</p> <p>板行賣弘申出</p>
---	---	--	--

<p>右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行</p> <p>申出年月 天保十年十一月二十日</p> <p>經驗日新録 二冊</p> <p>作者 奥田信齋 (海部堀川町)</p> <p>藏板主 尾道屋孫兵衛 (海部堀川町)</p> <p>賣弘 敦賀屋爲七 (本町四丁目)</p> <p>出願 天保十年十二月</p> <p>改正日本輿地路程全圖</p> <p>再割發行申出 折本一冊</p> <p>板元 藤屋徳兵衛</p> <p>右板元よりの申出でを本屋行司明組にて開届け板行</p> <p>申出年月 天保十年十二月五日</p> <p>改正 經後藝點 十冊</p> <p>再板發行申出</p> <p>板元 炭屋五郎兵衛</p> <p>右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行</p> <p>申出年月 天保十一年正月</p> <p>俳諧浦の玉藻 一冊</p> <p>開板發行申出</p> <p>板元 今津屋辰三郎</p>	<p>右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行</p> <p>申出年月 天保十一年正月</p> <p>三帖和讃歡喜鈔 初篇より六篇まで 十九冊</p> <p>板行賣弘申出</p> <p>藏板主 大行寺 (海部)</p> <p>賣弘 松屋宅兵衛 (海部)</p> <p>右賣弘人よりの申出でを本屋行司にて開届け板行</p> <p>申出年月 天保十一年正月</p> <p>正信偈一言鈔 四冊</p> <p>板行賣弘申出</p> <p>藏板主 大行寺</p> <p>賣弘 松屋宅兵衛 (海部)</p> <p>右賣弘人よりの申出でを本屋行司にて開届け板行</p> <p>申出年月 天保十一年正月</p> <p>驅梅要方 三冊</p> <p>作者 高良齋 (阿州)</p> <p>藏板主 右 同人</p> <p>賣弘 河内屋太助 (唐物町四丁目)</p> <p>出願 天保十一年二月</p> <p>(附記) 本書板行の義出願の</p>	<p>文中「何方にも差構無之板行に御座候得共阿蘭陀書籍翻譯物と相見え候間右は先達て被仰出も有之義に付別段御覽奉申上候」と書き添へあり</p> <p>神の御蔭の日記 二冊</p> <p>作者 藤井高尙 (備中宮内)</p> <p>板元 河内屋儀助 (淨覺町)</p> <p>出願 天保十一年三月</p> <p>津ノ國北山廻り繪圖</p> <p>新板發行申出</p> <p>板元 河内屋喜兵衛</p> <p>右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行</p> <p>申出年月 天保十一年三月二十日</p> <p>増補永曆小笠</p> <p>同 大成</p> <p>以上二種 再板發行申出</p> <p>板元 奈良屋長兵衛</p> <p>右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行</p> <p>申出年月 天保十一年三月二十日</p> <p>女諸禮綾錦 一冊</p> <p>作者 郡屋仙三</p>	<p>板元 河内屋喜兵衛 (立賣堀一丁目)</p> <p>出願 天保十一年四月</p> <p>(北久太郎町五丁目)</p> <p>攝津國大繪圖 一帖</p> <p>此度「猫間川」並に「天滿新堀川」増補發行申出</p> <p>板元 河内屋喜兵衛</p> <p>右板元よりの申出でを本屋行司明組にて開届け板行</p> <p>申出年月 天保十一年四月二十日</p> <p>年歴掌箋 折本一冊</p> <p>再板發行申出</p> <p>板元 奈良屋長兵衛</p> <p>右板元よりの申出でを本屋行司明組にて開届け板行</p> <p>申出年月 天保十一年四月</p> <p>清書畫人名續録 二冊</p> <p>作者 宮崎青谷 (伊勢)</p> <p>板元 柏原屋清右衛門 (藤原町五丁目)</p> <p>出願 天保十一年五月</p> <p>醫療早指南 一冊</p> <p>作者 天王寺屋秋山(故人)</p> <p>板元 柏原屋清右衛門</p>
--	--	---	--

出願 天保十一年五月 (願野町五丁目)

錦西隨筆 四冊 作者 中嶋文信 (京都二條川東)

板元 本屋信之助 (農人橋二丁目)

幼少に付 代判 大和屋伊兵衛 出願 天保十一年五月

女大學 中本一冊 開板發行申出 板元 柏原屋清右衛門

右板元よりの申出でを本屋行 司駕組にて開届け板行 申出年月 天保十一年五月二十日

神變大菩薩報恩式 以前「報恩經」と題せしものを 此度改題發行申出 板元 秋田屋良助 (九之助町一丁目)

右板元よりの申出でを本屋行 司駕組にて開届け板行 申出年月 天保十一年八月七日

増大坂町鑑 一冊 作者 播磨屋喜六

板元 柏原屋清右衛門 (本京橋町) 出願 天保十二年閏正月 (願野町五丁目)

復讐高音鼓 十冊 開板發行申出 板元 河内屋太助

右板元よりの申出でを本屋行 司駕組にて開届け板行 申出年月 天保十一年九月十一日

正四書 後藤點 十冊 再板發行申出 板元 炭屋五郎兵衛

右板元よりの申出でを本屋行 司駕組にて開届け板行 申出年月 天保十一年九月

いろは節用集大成 一冊 作者 蕙 (洲人) 板元 柏原屋與左衛門 (願野町五丁目)

代判 藤助 出願 天保十一年十月 (附記) 本書は尾州名古屋美濃屋伊六方の新刊發行なるが從來大坂願野町五丁目柏原屋與左衛門方に於て板行の「早

引節用集」の類板に付柏原屋方より先方に交渉し右板行を柏原屋に引取り此度賣弘めたしとて出願に及びたるなり

板元 柏原屋清右衛門 (本京橋町) 出願 天保十二年閏正月 (願野町五丁目)

誹諧七草 二冊 作者 反古菴天來 (西下橋講所) 藏板主 右同人

浮世畫手本 中本一冊 新板發行申出 板元 柏原屋清右衛門

右板元よりの申出でを本屋行 司駕組にて開届け板行 申出年月 天保十二年閏正月二十日

妙見大菩薩神咒經 折本一冊 板元 藤屋善七

右板元よりの申出でを本屋行 司駕組にて開届け板行 申出年月 天保十二年閏正月

増大坂町鑑 一冊 作者 播磨屋喜六

板元 柏原屋清右衛門 (本京橋町) 出願 天保十二年閏正月 (願野町五丁目)

増補金錢相場早割便覽 一冊 金錢相場早割便覽 二編錢之部 一冊

金錢相場早割一覽 折本一冊 以上四種 新板發行願出 撰者 加賀屋平七

板元 河内屋記一兵衛 (本町四丁目) 出願 天保十二年二月 (附記) 南本町五丁目

諸通文鑑 二冊 再板發行申出 板元 秋田屋太右衛門

右板元よりの申出でを本屋行 司駕組にて開届け板行 申出年月 天保十二年二月五日

藏板主 右同人 (阿州徳島内町) 賣弘 河内屋太助 (唐物町四丁目)

頭書女當用文章 一冊 再板發行申出 板元 河内屋源七郎

右板元よりの申出でを本屋行 司駕組にて開届け板行 申出年月 天保十二年二月

驅梅要方 三冊 作者 高良齋 (阿州徳島内町)

藏板主 右同人 (唐物町四丁目) 賣弘 河内屋太助 (唐物町四丁目)

再願 天保十二年三月 (附記) 此の再願の時の願書の文言は左の通りなりき

右之書板行先達で別段御覽申上候處和解の誤も有之全編文義通兼候處多く并藥名等穿鑿届兼且誤字多く相見え候に付得と校訂之上可差出様被仰付奉畏候依之作者へ其趣申聞處此節校訂出来仕候に付差出し申候此段宜敷被仰上可被下候 已上

當時の本屋行司は江戸堀一丁目今津屋辰三郎 南本町五丁目河内屋記一兵衛 惣年寄は

永瀬七郎右衛門 安井九兵衛 薩摩屋仁兵衛の人々なり

慶賀寫眞草 初編 二冊 畫者 田口登與助 (長崎今下町)

藏板主 右同人 (北久太郎町五丁目) 賣弘 河内屋喜兵衛 (附記) 右出願に及びたるも翌天保十三年六月却下せらる

正校法曹至要鈔 三冊 校合者 橋村彈正 板元 加賀屋善藏 (淨覺町)

出願 天保十二年五月 (附記) 本書板行の出願も天保十三年六月に至り却下せらる

増大坂町鑑 一冊 作者 播磨屋喜六 (本京橋町)

板元 柏原屋清右衛門 (願野町五丁目) 出願 天保十二年五月 (附記) 天保十三年正月十九日許可

四書白文 四冊

再板發行申出 板元 加賀屋善藏

右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 天保十二年

風流俄天狗 二編 五冊 新板發行申出 板元 河内屋直助

右板元よりの申出でを本屋行 司駕組にて開届け板行 申出年月 天保十二年五月二十日

源氏歌合 折本一冊 新板發行申出 板元 播磨屋五郎兵衛

右板元よりの申出でを本屋行 司駕組にて開届け板行 申出年月 天保十二年五月

信仰記三ノ口 一冊 上候屋之段 大半紙形 板元 加賀屋清助

右板元よりの申出でを本屋行 司駕組にて開届け板行 申出年月 天保十二年五月

驅梅要方 三冊 作者 高良齋

藏板主 右同人 (阿州徳島内町) 賣弘 河内屋太助 (唐物町四丁目)

(附記) 本書は天保十二年六月三たび板行の義出願に及びたるが其の願書の文言は左の通りなりき

右之書兼而御沙汰之趣ヲ以昨子年別段御覽申上候處和解の誤等も有之候に付得と校訂止差出し候様被仰渡相改候處猶又不行届に付當閏正月再改候様被仰付御下ヶ被成下奉畏候依之又々得と相改させ校訂出来仕候に付差出し申候此段宜敷被仰上可被下候以上

鈞玄全書 初篇 二篇 著者 奥田万里之進 (善左衛門町)

板元 教賀屋九兵衛 (錦屋町) 出願 天保十二年六月 (附記) 本書板行の儀出願したるも翌天保十三年六月に至り却下せらる

清朝古文所見集 五冊

<p>唐本翻刻 選者 清、陳兆麒 校正 齋藤五郎 板元 藤屋善七 出願 天保十二年六月 (附記) 本書翻刻の儀出願したるも翌天保十三年六月に至り却下せらる</p> <p>類題和哥浪花集 新板發行申出 集者 津多 迺屋 藏板主 右 同人 右賣弘人よりの申出でを本屋行司にて開届け板行 申出年月 天保十二年七月</p> <p>年中難波めぐり 新板發行申出 三ツ切本 板元 河内屋太助 右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行 申出年月 天保十二年七月</p> <p>女大學寶箱 再板發行申出 板元 柏原屋清右衛門</p>	<p>右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行 申出年月 天保十二年七月二十日</p> <p>文字以呂波歌 板行賣弘申出 作者 鬼 谷 藏板主 貴嶋市郎右衛門 賣弘 播磨屋五郎兵衛 右賣弘人よりの申出でを本屋行司にて開届け板行 申出年月 天保十二年八月五日</p> <p>懷寶永代藏 再板發行申出 板元 敦賀屋九兵衛 右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行 申出年月 天保十二年八月五日</p> <p>手嶋堵菴先生事跡 板行賣弘申出 藏板主 河内屋六右衛門 賣弘 本屋信之助 代判 大和屋伊兵衛 右賣弘人よりの申出でを本屋行司にて開届け板行</p>	<p>行司にて開届け板行 申出年月 天保十二年八月五日</p> <p>他力法の礎 開板發行申出 板元 今津屋辰三郎 右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行 申出年月 天保十二年八月</p> <p>誹諧文章車 板行賣弘申出 作者 龜 梅 左 藏板主 右 同人 右賣弘人よりの申出でを本屋行司にて開届け板行 申出年月 天保十二年九月二十日 (附記) 本書板行賣弘めこのとを開届くと共に、尤右書を以て用文章類俳諧物附合等出来不申」と申渡さる</p> <p>妹脊山三段目 大形床本 丁敷五十一丁 開板發行申出 板元 加嶋屋清助 右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行</p>	<p>行司にて開届け板行 申出年月 天保十二年十月五日</p> <p>金相場早割便覧 三編 錢之部 作者 加賀屋平七 板元 河内屋記一兵衛 出願 天保十二年十月 許可 天保十三年正月十九日</p> <p>畫本柳樽 二編 一冊 板行賣弘申出 賣弘 鹽屋彌七 右賣弘人よりの申出でを本屋行司にて開届け板行 申出年月 天保十二年十一月 (附記) 本書板行賣弘の申出に對し「別段印形取之」にて開届く</p> <p>永代過去帳 再板發行并昇形一丁増補申出 板元 河内屋太助 右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行 申出年月 天保十二年十一月五日</p> <p>畫本柳樽 三編 一冊 板行賣弘申出</p>
--	--	--	--

<p>賣弘 河内屋茂兵衛 右賣弘人よりの申出でを本屋行司にて開届け板行 申出年月 天保十二年十一月 (附記) 本書板行賣弘の申出に對し「別段印形取之」にて開届く</p> <p>實語教童子教 中本 一冊 開板發行申出 板元 今津屋辰三郎 右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行 申出年月 天保十二年十二月</p> <p>女諸禮綾錦 半紙形二冊 文章人 以前「女諸禮綾錦」と題せし一冊物を右兩種に緩分け板行賣弘申出 右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行 申出年月 天保十二年十二月</p> <p>畫本柳樽 四編 板行賣弘申出 賣弘 鹽屋喜兵衛 右賣弘人よりの申出でを本屋行司にて開届け板行</p>	<p>行司にて開届け板行 申出年月 天保十二年十二月</p> <p>金錢早割便覽大成 一冊 相場早繰一覽 一枚摺 兩面折本 金錢胸算用 折本 相場近道 一冊 半紙三ツ切</p> <p>三徳相場二面鑑 折本 金錢相場割 小本 一冊 以上六種 開板發行申出 板元 河内屋記一兵衛 右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行 申出年月 天保十二年十二月</p> <p>金錢相場早割兩面鑑 増補板行申出 折本 板元 右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行 申出年月 天保十二年十二月</p>	<p>行司にて開届け板行 申出年月 天保十二年八月五日</p> <p>幼童畫手本 中本 一冊 板行賣弘申出 板元 柏原屋清右衛門 右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行 申出年月 天保十二年十二月</p> <p>千秋小謠万歳樂 一冊 口繪九丁増補板行申出 板元 右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行 申出年月 天保十三年正月十一日</p> <p>宴樂小調新大成 一冊 新板發行申出 板元 河内屋喜兵衛 右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行 申出年月 天保十三年二月五日</p> <p>古狀揃精註鈔 一冊 集者 藤屋仙三 板元 堺屋新兵衛 出願 天保十三年二月 (附記) 本書板行の儀出願したるも翌天保十三年六月に至り却下せらる</p>	<p>行司にて開届け板行 申出年月 天保十二年十月五日</p> <p>葛城山上道筋 一枚摺 板行賣弘申出 賣弘 秋田屋良介 右賣弘人よりの申出でを本屋行司にて開届け板行 申出年月 天保十三年三月五日</p> <p>商賣往來雅寶 中本 一冊 開板發行申出 板元 河内屋長兵衛 右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行 申出年月 天保十三年三月</p> <p>廣用小謠袋繪入小本 一冊 以前「小謠」と題せしものを此度補刻し挿圖を増し改題發行申出 板元 綿屋喜兵衛 右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行 申出年月 天保十三年三月</p> <p>經典餘師 十冊 四書之部 再板發行申出 板元 柏原屋與左衛門 右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行 申出年月 天保十三年三月</p>
--	---	---	--

いろは節用集大成 一冊

再板發行申出
板元 柏原屋興左衛門
右板元よりの申出でを本屋行
司明組にて開届け板行
申出年月 天保十三年三月

判者併諸竹の茂り 一冊

板行賣弘申出
賣弘 藤屋 善七
右賣弘人よりの申出でを本屋
行司明組にて開届け板行
申出年月 天保十三年三月

養生辨 三冊

作者 水野澤齋 (信濃町)
藏板主 右 同人
賣弘 播磨屋利介 (安堂寺町五丁目)
出願 天保十三年四月
(附記) 本書板行の義出願し
たるも開届けられず天保十三
年六月却下せらる

懷寶小調觀世扇 中本一冊

板行賣弘申出
賣弘 河内屋源七郎
右賣弘人よりの申出でを本屋
行司明組にて開届け板行

申出年月 天保十三年五月

天保十三年壬寅五月書林
仲間停止に付嘉永四年辛
亥十二月に至る九箇年餘
の間出版書目の記録を缺
く

浪花の賑 三冊

作者 鹿の屋一禪 (難波村北之町)
板元 河内屋喜兵衛 (北久太郎町五丁目)
出願 嘉永四年十二月
許可 安政二年二月二十二日

四書 竹林板 十冊

再板發行申出
板元 河内屋喜兵衛
右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行
申出年月 嘉永四年十二月五日

寸珍實語教繪抄 一冊

板元 河内屋太助
右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行
申出年月 嘉永四年十二月五日

許可 嘉永五年八月二十二日

茶道開書集 二冊
開書 川上 不白(故人)
傍註 稻垣 休叟(故人)
板元 河内屋太助 (唐物町四丁目)
出願 嘉永四年十二月
許可 嘉永七年六月二十七日

錦囊智術全書 七冊

再板發行申出
板元 河内屋新次郎
右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行
申出年月 嘉永四年十二月

生花早まなび 二篇 一冊

(天保十三年十月二日許可)
作者 和泉屋彌四郎 (天王寺南野町十丁目)
板元 伊丹屋善兵衛

生花早まなび 三篇 四篇 各一冊

(弘化二年二月六日許可)
作者 和泉屋彌四郎
板元 伊丹屋善兵衛

出願 嘉永四年十二月

再板發行申出
板元 河内屋喜兵衛
(附記) 本書は江戸表英大助
方の新板發行なるが従来大坂
北久太郎町五丁目河内屋喜兵
衛方に於て板行の併諸歳時
記の類板に付河内屋方より
先方に懸合ひ右板行を河内屋
方に引取り賣弘めたとて此
度出願に及びたるなり

大増補 大全早引節用集 三冊

作者 淺田 觀三 (伊豫西條)
板元 柏原屋すみ (伊豫西條)
代判 吉右衛門
本書は諸仲間御差止中に町内
年寄の奥印にて板行願ひ出で
許可になりしものなるが此度
本屋仲間再興に付先規の通り
記載ありたしと板元よりの申
出でにより其旨開届け置く

櫛の嬌手 三冊

作者 掛取 魚彦(故人) (下總)
板元 奈良屋長兵衛 (本町二丁目)
本書は諸仲間御差止中に町内

西國三拾三所名所圖會 八冊

作者 鹿之屋一禪 (難波村北之町)
板元 河内屋太助
年寄の奥印にて板行願ひ出で
許可になりしものなるが此度
本屋仲間再興に付先規の通り
記載ありたしと板元よりの申
出でにより其旨開届け置く

延命地藏和調圖會 三冊

作者 大坂屋太助 (備後町三丁目)
板元 藤屋 善七 (高麗橋一丁目)
出願 嘉永五年正月
許可 嘉永五年十二月三日
(附記) 本書板行に對しては
江戸表御改相濟

網鑑易知錄 四十八冊

作者 篠崎 長平 (尼ヶ崎町)
校點 篠崎 長平
板元 河内屋太助 (唐物町四丁目)
本書は江戸表須原屋茂兵衛方
の新板發行なるが従来大坂唐
物町四丁目河内屋太助方に於
て板行の「歴史綱鑑」の類板に
付河内屋方より先方に懸合ひ
右板行を河内屋に引取り此度
賣弘めたとし旨申出でしにより
本屋行司に於て其旨開届け置
く

増補 繪圖 繪圖師 細川才三郎 (堺南宮寺境内)

藏板主 河内屋久三郎 (堺九間町)
賣弘 河内屋源七郎 (傳馬町)
出願 嘉永五年二月

西國三拾三所名所圖會 八冊

作者 鹿之屋一禪 (難波村北之町)
板元 河内屋太助

延命地藏和調圖會 三冊

作者 大坂屋太助 (備後町三丁目)
板元 藤屋 善七 (高麗橋一丁目)
出願 嘉永五年正月
許可 嘉永五年十二月三日
(附記) 本書板行に對しては
江戸表御改相濟

網鑑易知錄 四十八冊

作者 篠崎 長平 (尼ヶ崎町)
校點 篠崎 長平
板元 河内屋太助 (唐物町四丁目)
本書は江戸表須原屋茂兵衛方
の新板發行なるが従来大坂唐
物町四丁目河内屋太助方に於
て板行の「歴史綱鑑」の類板に
付河内屋方より先方に懸合ひ
右板行を河内屋に引取り此度
賣弘めたとし旨申出でしにより
本屋行司に於て其旨開届け置
く

増補 繪圖 繪圖師 細川才三郎 (堺南宮寺境内)

藏板主 河内屋久三郎 (堺九間町)
賣弘 河内屋源七郎 (傳馬町)
出願 嘉永五年二月

許可 嘉永五年八月二十二日

唐宋詩醇 初帙六冊

乾隆帝御選 唐本翻刻
點者 橋本 半助 (攝州伊丹)

板元 河内屋吉兵衛 (攝州)

本書は江戸表須原屋茂兵衛方の
新板發行なるが從來大坂鶴
屋町河内屋吉兵衛方に於て板
行のものとの差構これあるに
り先方に懸合ひ右板行を河内
屋に引取り此度賣弘めたき旨
申出でしにより其旨本屋行司
に於て開届け置く

申出年月 嘉永五年閏二月五日

人相千百年眼 六冊

作者 平澤 白翁 (北久太郎町五丁目)

板元 敦賀屋九兵衛 (攝州)

本書は京都越後屋治兵衛方の
新板發行なるが從來大坂鶴屋
町敦賀屋九兵衛方に於て板行
のものとの差構これあるに
先方に懸合ひ右板行を敦賀屋
に引取り此度賣弘めたき旨申
出でしにより其旨本屋行司に
於て開届け置く

申出年月 嘉永五年六月廿日

漢箋注蒙求校本 三冊

作者 唐、李 翰
再板増補發行願出
箋註 岡 白 胸(故人)

調點 佐々木 竝枝 (長門)

板元 河内屋吉兵衛 (攝州)

出願 嘉永五年七月
許可 嘉永五年十月十一日
(附記) 本書板行に對しては
江戸表御改濟

女小學教草 一冊

再板發行申出
板元 敦賀屋九兵衛

右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行

申出年月 嘉永五年七月五日

掌中秋のねざめ 折本一冊

再板發行申出
板元 敦賀屋九兵衛

右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行

申出年月 嘉永五年七月五日

小文規則 一冊

作者 頼 久太郎 (京都)

板元 河内屋吉兵衛 (攝州)

出願 嘉永五年閏二月五日
許可 嘉永五年十二月三日
(附記) 本書の板行に對して
は江戸表御改濟

養生辨二篇 三冊

作者 水野 澤齋 (豫州)

藏板主 水野 晉齋 (信濃町)

賣弘 河内屋和助 (升屋町)

出願 嘉永五年閏二月

腹證奇覽翼三編 二冊

作者 和久田 叔虎(故人)

板元 河内屋喜兵衛 (遠江濱松)

出願 嘉永五年四月
許可 嘉永六年三月二十三日
(附記) 本書の板行に對して

腹證奇覽翼四編 二冊

以上二種

板元 敦賀屋九兵衛

右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行

申出年月 嘉永五年五月廿日

大坂地圖

(天保十五年板行許可)

大坂細見之圖

(弘化二年板行許可)

大坂全圖

(弘化四年板行許可)

大坂中繪圖

(弘化四年板行許可)

大坂指掌圖

(弘化四年に板行許可)

以上五種

板元 今木屋市太郎

代判 藤兵衛

以上五種の書は先年大坂の書
肆播磨屋九兵衛方に於て板行せ
しも當時諸仲間御差止の御趣
意中なりき其後右板木を今木
屋市太郎方に買取りたるが此
度仲間再興に付先規の通り記
帳ありたしとの申出でにより
其旨開届け置く

申出年月 嘉永五年五月二十三日

新增字林玉篇大全 一冊

再校發行申出 大半紙本

校正 大全新童子往來 一冊

增益 大全新童子往來 一冊

本居宣長本末の歌畫像 一枚摺

新板發行申出

板元 今津屋辰三郎

右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行

申出年月 嘉永五年四月廿日

本末歌解 一冊

作者 岩 政要 吉 (周防柳井)

藏板主 右 同人

賣弘 柏原屋清右衛門 (攝州)

出願 嘉永五年十一月五日
許可 嘉永六年九月六日
(附記) 本書板行に對しては
江戸表御改濟

小竹齋消息帖 折本一冊

板行賣弘申出

藏板主 篠崎 長平 (尾ヶ崎町二丁目)

賣弘 藤屋 禹三郎 (升屋町)

右賣弘人よりの申出でを本屋
行司にて開届け板行

申出年月 嘉永五年十一月五日

俳諧冬籠 中本二冊

集者 八木 篤農 (平野町二丁目)

藏板主 右 同人

板行賣弘申出

賣弘 鹽屋 忠兵衛 (北久太郎町五丁目)

許可 嘉永五年五月十四日

本末歌解 一冊

作者 岩 政要 吉 (周防柳井)

藏板主 右 同人

賣弘 柏原屋清右衛門 (攝州)

出願 嘉永五年十一月五日
許可 嘉永六年九月六日
(附記) 本書板行に對しては
江戸表御改濟

小竹齋消息帖 折本一冊

板行賣弘申出

藏板主 篠崎 長平 (尾ヶ崎町二丁目)

賣弘 藤屋 禹三郎 (升屋町)

右賣弘人よりの申出でを本屋
行司にて開届け板行

申出年月 嘉永五年十一月五日

俳諧冬籠 中本二冊

集者 八木 篤農 (平野町二丁目)

藏板主 右 同人

板行賣弘申出

賣弘 鹽屋 忠兵衛 (北久太郎町五丁目)

女教大全姫文庫 一冊

再板發行申出

板元 敦賀屋九兵衛

右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行

申出年月 嘉永五年十二月二十日

今世名家文鈔 八冊

輯者 妙圓寺月性 (周防大崎郡遠崎村)

板元 河内屋吉兵衛 (攝州)

出願 嘉永六年正月
再願 嘉永七年閏七月
許可 安政二年九月十日
(附記) 本書板行に對しては
學問所御改

古文典刑 三冊

再願 安政二年十一月五日

出願 安政二年十一月五日

再願 安政二年十一月五日

出願 安政二年十一月五日

再願 安政二年十一月五日

出願 安政二年十一月五日

再願 安政二年十一月五日

出願 安政二年十一月五日

再願 安政二年十一月五日

出願 安政二年十一月五日

再願 安政二年十一月五日

出願 安政二年十一月五日

再願 安政二年十一月五日

出願 安政二年十一月五日

再願 安政二年十一月五日

出願 安政二年十一月五日

<p>輯者 額 久太郎 (京 都)</p> <p>藏板主 額 又次郎 (京都富小路下町)</p> <p>賣弘 河内屋吉兵衛 (龜 屋 町)</p> <p>出願 嘉永六年三月</p> <p>許可 嘉永七年閏七月三日</p> <p>(附記) 本書板行に對しては 江戸表御改濟</p>	<p>菅茶山翁筆のすさひ 四冊</p> <p>作者 菅 太 仲 (備後神邊)</p> <p>板元 河内屋和助 (升屋町)</p> <p>出願 嘉永六年六月</p> <p>許可 安政三年二月十四日</p> <p>(附記) 本書板行に對しては 江戸學問所御改濟</p>	<p>金錢相場早割便覽附錄 横本一冊</p> <p>新板發行申出</p> <p>作者 平野屋惣助 (伏見町)</p> <p>板元 河内屋吉兵衛 (龜 屋 町)</p> <p>右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行</p> <p>申出年月 嘉永六年十二月二十日</p>	<p>俊成卿賀帖 一帖</p> <p>申出年月 嘉永六年十二月二十日</p> <p>筆者 上田理兵衛(故人) (京 都)</p> <p>藏板主 樽屋逸太郎 (福州伊丹)</p> <p>賣弘 河内屋吉兵衛 (龜 屋 町)</p> <p>出願 嘉永七年六月</p> <p>許可 嘉永七年七月十二日</p>
<p>難波職人歌合 二冊</p> <p>作者 黒澤八左衛門 (武藏忍藩中)</p> <p>藏板主 櫻 毅 負 (座敷宮祝部)</p> <p>賣弘 河内屋和助 (升屋町)</p> <p>出願 嘉永六年三月</p> <p>再願 嘉永七年六月</p> <p>許可 嘉永七年七月十二日</p> <p>(附記) 再願の時藏板主を大坂立賣堀帶屋町大和屋忠一郎と變更</p>	<p>小學 片假名付 中本 二冊</p> <p>校合者 内山 牧山 (京都御幸町小路)</p> <p>板元 河内屋太助 (唐物町四丁目)</p> <p>出願 嘉永六年七月</p> <p>許可 嘉永六年十二月十七日</p> <p>(附記) 本書板行に對しては 江戸表御改濟</p>	<p>會玉篇大全 十二冊</p> <p>再板發行申出</p> <p>板元 敦賀屋九兵衛</p> <p>右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行</p> <p>申出年月 嘉永六年十二月五日</p>	<p>昇天和莊兵衛續編 四冊</p> <p>新板發行申出</p> <p>作者 高齋堂胡蝶 (大手松屋町東へ入)</p> <p>板元 藤 屋 善 七 (高麗橋二丁目)</p> <p>右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行</p> <p>申出年月 嘉永六年三月五日</p>
<p>備中國巡覽大繪圖一枚摺</p> <p>作者 關 立 輔 (備中小田郡栗園村)</p> <p>板元 河内屋喜兵衛 (大坂北久太郎町五丁目)</p> <p>出願 嘉永六年五月</p> <p>許可 嘉永六年十一月朔</p>	<p>俳諧種類 横本一冊</p> <p>作者 大文字屋九兵衛 (西高津町)</p> <p>藏板主 右 同 人</p> <p>板行賣弘申出</p> <p>賣弘 藤 屋 善 七 (高麗橋二丁目)</p> <p>右賣弘人よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行</p> <p>申出年月 嘉永六年十一月五日</p>	<p>浙西六家詩抄 六冊</p> <p>新板發行申出</p> <p>板元 河内屋茂兵衛</p> <p>右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行</p> <p>申出年月 嘉永七年正月廿日</p>	<p>鬼子母神靈驗和訓圖會 三冊</p> <p>作者 近松門左衛門 (京 都)</p> <p>板元 藤 屋 善 七 (高麗橋二丁目)</p> <p>出願 嘉永七年七月</p> <p>定注小學句讀 四冊</p>

<p>再板發行申出</p> <p>板元 河内屋源七郎</p> <p>右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行</p> <p>申出年月 嘉永七年十月五日</p>	<p>校宋板傷寒論 三冊</p> <p>再板發行申出</p> <p>板元 伊丹屋善兵衛</p> <p>右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行</p> <p>申出年月 嘉永七年九月廿日</p>	<p>詩韻含英異同辨 四冊</p> <p>再板發行申出</p> <p>板元 伊丹屋善兵衛</p> <p>右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行</p> <p>申出年月 嘉永七年十月五日</p>	<p>增早見節用集大全</p> <p>以前「懷寶手引節用集」と題せしを此度改題發行申出</p> <p>板元 敦賀屋九兵衛</p> <p>右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行</p> <p>申出年月 嘉永七年十一月五日</p>
<p>新板發行申出</p> <p>作者 貝原 益 軒(故人)</p> <p>板元 敦賀屋九兵衛</p> <p>右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行</p> <p>申出年月 嘉永七年十一月</p>	<p>武用辨略 八冊</p> <p>再板發行申出</p> <p>板元 河内屋喜兵衛</p> <p>右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行</p> <p>申出年月 嘉永七年十二月</p>	<p>入木抄釋義 三冊</p> <p>本朝能書傳</p> <p>輯者 巽 詩 菴 (京都油小路佛光寺)</p> <p>藏板主 右 同 人</p> <p>賣弘 河内屋吉兵衛 (龜 屋 町)</p> <p>出願 嘉永七年十二月</p> <p>(附記) 都合により安政二年八月三日出願を取消す</p>	<p>和歌拍 傳 一冊</p> <p>再板發行申出</p> <p>板元 河内屋源七郎</p> <p>右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行</p>
<p>浪花五百題初篇 二冊</p> <p>浪花五百題二篇 二冊</p> <p>以上二種 新板發行申出</p> <p>輯者 花屋 平三郎 (前久太郎町六丁目)</p> <p>板元 河内屋源七郎 (龜 屋 町)</p> <p>右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行</p> <p>申出年月 安政二年三月五日</p>	<p>後藤點五經 十一冊</p> <p>再板發行申出</p> <p>板元 炭屋五郎兵衛</p> <p>右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行</p> <p>申出年月 安政二年四月</p>	<p>寶曆雜書萬々載 一冊</p> <p>再板發行申出</p> <p>板元 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行</p> <p>申出年月 安政二年五月十一日</p>	<p>新編大増補字林玉篇大全 一冊</p> <p>增補新到發行願出</p> <p>輯者 三浦 道 齋</p>
<p>秋田屋市兵衛 (龜谷二丁目)</p> <p>出願 安政二年五月</p> <p>再願 安政二年六月</p> <p>許可 安政二年七月六日</p>	<p>御家流庭訓往來 一冊</p> <p>新板發行申出</p> <p>板元 敦賀屋九兵衛</p> <p>右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行</p> <p>申出年月 安政二年五月廿日</p>	<p>風流照葉狂言集 一冊</p> <p>新板發行申出</p> <p>板元 藤屋徳兵衛</p> <p>右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行</p> <p>申出年月 安政二年五月二十七日</p>	<p>風流照葉狂言集二篇 一冊</p> <p>新板發行申出</p> <p>作者 湯淺治三郎 (京 都)</p> <p>板元 藤屋徳兵衛</p> <p>右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行</p> <p>申出年月 安政二年七月五日</p>

〔附記〕本書板行に對しては
江戸御何濟

傷寒論正文復聖解 四冊

作者 古 矢 純 輔(故人)

出願 文久二年二月
許可 文久二年閏八月六日
〔附記〕本書板行に對しては
江戸御何濟

板元 秋田屋市兵衛 (鶴屋町)

出願 文久二年九月
許可 文久三年七月二十一日
〔附記〕本書板行に對しては
江戸御何濟

輯者 佐々木重藏 (伊勢國石藥師)

出願 文久二年九月
許可 文久三年七月二十一日
〔附記〕本書板行に對しては
江戸御何濟

板元 河内屋源七郎 (備馬町)

出願 文久二年九月
許可 文久三年七月二十一日
〔附記〕本書板行に對しては
江戸御何濟

輯者 佐々木重藏 (伊勢國石藥師)

出願 文久二年九月
許可 文久三年七月二十一日
〔附記〕本書板行に對しては
江戸御何濟

板元 河内屋源七郎 (備馬町)

出願 文久二年九月
許可 文久三年七月二十一日
〔附記〕本書板行に對しては
江戸御何濟

輯者 佐々木重藏 (伊勢國石藥師)

出願 文久二年九月
許可 文久三年七月二十一日
〔附記〕本書板行に對しては
江戸御何濟

板元 河内屋源七郎 (備馬町)

出願 文久二年九月
許可 文久三年七月二十一日
〔附記〕本書板行に對しては
江戸御何濟

輯者 佐々木重藏 (伊勢國石藥師)

出願 文久二年九月
許可 文久三年七月二十一日
〔附記〕本書板行に對しては
江戸御何濟

板元 河内屋源七郎 (備馬町)

出願 文久二年九月
許可 文久三年七月二十一日
〔附記〕本書板行に對しては
江戸御何濟

輯者 佐々木重藏 (伊勢國石藥師)

出願 文久二年九月
許可 文久三年七月二十一日
〔附記〕本書板行に對しては
江戸御何濟

板元 河内屋源七郎 (備馬町)

出願 文久二年九月
許可 文久三年七月二十一日
〔附記〕本書板行に對しては
江戸御何濟

輯者 佐々木重藏 (伊勢國石藥師)

出願 文久二年九月
許可 文久三年七月二十一日
〔附記〕本書板行に對しては
江戸御何濟

板元 河内屋源七郎 (備馬町)

出願 文久二年九月
許可 文久三年七月二十一日
〔附記〕本書板行に對しては
江戸御何濟

輯者 佐々木重藏 (伊勢國石藥師)

出願 文久二年九月
許可 文久三年七月二十一日
〔附記〕本書板行に對しては
江戸御何濟

板元 河内屋源七郎 (備馬町)

出願 文久二年九月
許可 文久三年七月二十一日
〔附記〕本書板行に對しては
江戸御何濟

輯者 佐々木重藏 (伊勢國石藥師)

出願 文久二年九月
許可 文久三年七月二十一日
〔附記〕本書板行に對しては
江戸御何濟

板元 河内屋源七郎 (備馬町)

出願 文久二年九月
許可 文久三年七月二十一日
〔附記〕本書板行に對しては
江戸御何濟

輯者 佐々木重藏 (伊勢國石藥師)

出願 文久二年九月
許可 文久三年七月二十一日
〔附記〕本書板行に對しては
江戸御何濟

板元 河内屋源七郎 (備馬町)

出願 文久二年九月
許可 文久三年七月二十一日
〔附記〕本書板行に對しては
江戸御何濟

輯者 佐々木重藏 (伊勢國石藥師)

出願 文久二年九月
許可 文久三年七月二十一日
〔附記〕本書板行に對しては
江戸御何濟

板元 河内屋源七郎 (備馬町)

出願 文久二年九月
許可 文久三年七月二十一日
〔附記〕本書板行に對しては
江戸御何濟

輯者 佐々木重藏 (伊勢國石藥師)

出願 文久二年九月
許可 文久三年七月二十一日
〔附記〕本書板行に對しては
江戸御何濟

板元 河内屋源七郎 (備馬町)

出願 文久二年九月
許可 文久三年七月二十一日
〔附記〕本書板行に對しては
江戸御何濟

輯者 佐々木重藏 (伊勢國石藥師)

出願 文久二年九月
許可 文久三年七月二十一日
〔附記〕本書板行に對しては
江戸御何濟

板元 河内屋源七郎 (備馬町)

出願 文久二年九月
許可 文久三年七月二十一日
〔附記〕本書板行に對しては
江戸御何濟

輯者 佐々木重藏 (伊勢國石藥師)

出願 文久二年九月
許可 文久三年七月二十一日
〔附記〕本書板行に對しては
江戸御何濟

板元 河内屋源七郎 (備馬町)

出願 文久二年九月
許可 文久三年七月二十一日
〔附記〕本書板行に對しては
江戸御何濟

輯者 佐々木重藏 (伊勢國石藥師)

出願 文久二年九月
許可 文久三年七月二十一日
〔附記〕本書板行に對しては
江戸御何濟

板元 河内屋源七郎 (備馬町)

出願 文久二年九月
許可 文久三年七月二十一日
〔附記〕本書板行に對しては
江戸御何濟

輯者 佐々木重藏 (伊勢國石藥師)

出願 文久二年九月
許可 文久三年七月二十一日
〔附記〕本書板行に對しては
江戸御何濟

板元 河内屋源七郎 (備馬町)

出願 文久二年九月
許可 文久三年七月二十一日
〔附記〕本書板行に對しては
江戸御何濟

輯者 佐々木重藏 (伊勢國石藥師)

出願 文久二年九月
許可 文久三年七月二十一日
〔附記〕本書板行に對しては
江戸御何濟

板元 河内屋源七郎 (備馬町)

出願 文久二年九月
許可 文久三年七月二十一日
〔附記〕本書板行に對しては
江戸御何濟

輯者 佐々木重藏 (伊勢國石藥師)

出願 文久二年九月
許可 文久三年七月二十一日
〔附記〕本書板行に對しては
江戸御何濟

板元 河内屋源七郎 (備馬町)

出願 文久二年九月
許可 文久三年七月二十一日
〔附記〕本書板行に對しては
江戸御何濟

輯者 佐々木重藏 (伊勢國石藥師)

出願 文久二年九月
許可 文久三年七月二十一日
〔附記〕本書板行に對しては
江戸御何濟

板元 河内屋源七郎 (備馬町)

出願 文久二年九月
許可 文久三年七月二十一日
〔附記〕本書板行に對しては
江戸御何濟

輯者 佐々木重藏 (伊勢國石藥師)

出願 文久二年九月
許可 文久三年七月二十一日
〔附記〕本書板行に對しては
江戸御何濟

板元 河内屋源七郎 (備馬町)

出願 文久二年九月
許可 文久三年七月二十一日
〔附記〕本書板行に對しては
江戸御何濟

代判 伊兵衛

四書集註校本 十冊

校點 藤川 太郎 (土佐藩中)

板元 河内屋喜兵衛 (北久太郎町五丁目)

代判 太 助

出願 文久二年九月
許可 文久三年七月二十一日

作者 大隈屋言造 (天福十二丁目)

藏板主 右 同人

賣弘 河内屋惣兵衛 (唐物町四丁目)

出願 文久三年三月
許可 文久四年正月二十八日
〔附記〕本書板行に對しては
江戸御何濟

傷寒論正文復聖解序跋 一冊

附錄

作者 古 矢 純 輔(故人)

板元 秋田屋市兵衛 (鶴屋町)

出願 文久三年十一月

野史列傳之部 初帙 五冊

著者 飯田 左 馬(故人)

藏板主 飯田 右近

賣弘 河内屋吉兵衛 (備馬町)

出願 文久四年正月

輯者 佐々木重藏 (伊勢國石藥師)

藏板主 右 同人

賣弘 河内屋源七郎 (備馬町)

出願 元治元年二月
許可 慶應四年七月二日
〔附記〕この許可は裁判所に
於て申渡さる

末代奇特鑑 一枚摺

作者 木屋藤四郎 (西高津新堀三丁目)

藏板主 右 同人

賣弘 津國屋安兵衛 (立慶町)

出願 元治元年六月

玉窓の小篋 三冊

作者 中 嶋 太 良 (備馬町)

板元 秋田屋太右衛門 (安堂寺町五丁目)

〔附記〕本書板行に對しては
江戸御何濟

類題千船集二編 二冊

輯者 佐々木重藏 (伊勢國石藥師)

板元 河内屋源七郎 (備馬町)

出願 文久二年三月
許可 文久二年閏八月六日
〔附記〕本書板行に對しては
江戸御何濟

用藥便覽 一冊

以上二種

作者 日 高 涼 臺 (安藝國竹原)

板元 河内屋源三郎 (本町四丁目)

代判 平野屋伊兵衛

出願 文久二年二月
〔附記〕本書板行出願の文中
には「阿蘭陀書籍翻譯物と相
見え候間右は先達て被仰出も
有之候儀に付別段御覽申上
候」と書添へあり

運筆秘法 一冊

集者 織田 太 伸 (在 町)

板元 河内屋新次郎 (北久太郎町四丁目)

出願 文久二年九月
許可 文久三年七月二十一日

寒松堂庸言 一冊

著者 清、 魏 敏

調點者 吉村信之助 (和州徳本)

板元 河内屋新次郎 (北久太郎町四丁目)

出願 文久二年九月
許可 文久三年七月二十一日
〔附記〕本書板行に對しては
江戸御何濟

繪本琉球軍記 後編 十冊

作者 宮 田 南 北 (播州三木)

板元 河内屋源三郎 (本町五丁目)

翻譯 ハルトリー (英 國)

藏板主 右 同人

賣弘 小嶋屋伊兵衛 (前久賣寺町五丁目)

出願 慶應四年六月
許可 慶應四年七月二日
〔附記〕此の以後書籍板行の
許可は凡て大坂府裁判所の取
扱ふ所となる

孫子評註 二冊

作者 吉田寅次郎 (長門藩中)

藏板主 杉 梅 太郎 (長門藩中)

賣弘 河内屋吉兵衛 (備馬町)

出願 慶應四年七月九日
許可 慶應四年七月九日

東北遊日記 二冊

作者 吉田寅次郎 (長門藩中)

藏板主 杉 梅 太郎 (長門藩中)

賣弘 河内屋吉兵衛 (備馬町)

出願 慶應四年七月九日
許可 慶應四年七月九日

投獄集 一冊

作者 高 杉 晉 作 (長門藩中)

藏板主 右 同人

賣弘 河内屋吉兵衛 (備馬町)

出願 慶應四年七月九日
許可 慶應四年七月九日

新令字解 一冊

作者 萩 田 長 三 (備中七日市井原村)

藏板主 右 同人

梅外詩抄 三冊

作者 長 南 梁 (長門藩中)

藏板主 右 同人

賣弘 河内屋吉兵衛 (備馬町)

出願 慶應四年十月十五日
許可 明治元年十月二十五日

商社分利算 一冊

作者 細川 潤次郎 (土佐藩中)

藏板主 右 同人

賣弘 河内屋吉兵衛 (備馬町)

出願 慶應四年十月十五日
許可 明治元年十月二十五日

大坂繁昌詩 後篇 三冊

作者 田 中 内 記 (安土町三丁目)

藏板主 右 同人

賣弘 河内屋吉兵衛 (備馬町)

出願 慶應四年十月十五日
許可 明治元年十月二十五日

各國新聞紙 各一冊

著者 ウ イ セ ヒ (英 國)

初集、第二集

淡路嶋名所圖會初編 二冊

輯者 曉 晴 翁(故人)

板元 河内屋喜兵衛 (北久太郎町五丁目)

代判 太 助

出願 慶應元年閏五月
許可 慶應二年四月七日
〔附記〕本書板行に對しては
江戸學問所何濟

水馬千金編 一冊

作者 小 堀 長 順 (肥後藩中)

板元 河内屋喜兵衛 (北久太郎町五丁目)

代判 太 助

出願 慶應元年閏五月
許可 慶應二年四月七日
〔附記〕本書板行の義願ひ出
でたるも都合ありて慶應元年
十一月二日出願を取下げたり

各國新聞紙 各一冊

著者 ウ イ セ ヒ (英 國)

初集、第二集

淡路嶋名所圖會初編 二冊

輯者 曉 晴 翁(故人)

板元 河内屋喜兵衛 (北久太郎町五丁目)

代判 太 助

出願 慶應元年閏五月
許可 慶應二年四月七日
〔附記〕本書板行に對しては
江戸學問所何濟

水馬千金編 一冊

作者 小 堀 長 順 (肥後藩中)

板元 河内屋喜兵衛 (北久太郎町五丁目)

代判 太 助

出願 慶應元年閏五月
許可 慶應二年四月七日
〔附記〕本書板行の義願ひ出
でたるも都合ありて慶應元年
十一月二日出願を取下げたり

各國新聞紙 各一冊

著者 ウ イ セ ヒ (英 國)

初集、第二集

淡路嶋名所圖會初編 二冊

輯者 曉 晴 翁(故人)

板元 河内屋喜兵衛 (北久太郎町五丁目)

代判 太 助

出願 慶應元年閏五月
許可 慶應二年四月七日
〔附記〕本書板行に對しては
江戸學問所何濟

水馬千金編 一冊

作者 小 堀 長 順 (肥後藩中)

板元 河内屋喜兵衛 (北久太郎町五丁目)

代判 太 助

出願 慶應元年閏五月
許可 慶應二年四月七日
〔附記〕本書板行の義願ひ出
でたるも都合ありて慶應元年
十一月二日出願を取下げたり

各國新聞紙 各一冊

著者 ウ イ セ ヒ (英 國)

初集、第二集

淡路嶋名所圖會初編 二冊

輯者 曉 晴 翁(故人)

板元 河内屋喜兵衛 (北久太郎町五丁目)

代判 太 助

出願 慶應元年閏五月
許可 慶應二年四月七日
〔附記〕本書板行に對しては
江戸學問所何濟

水馬千金編 一冊

作者 小 堀 長 順 (肥後藩中)

板元 河内屋喜兵衛 (北久太郎町五丁目)

代判 太 助

出願 慶應元年閏五月
許可 慶應二年四月七日
〔附記〕本書板行の義願ひ出
でたるも都合ありて慶應元年
十一月二日出願を取下げたり

各國新聞紙 各一冊

著者 ウ イ セ ヒ (英 國)

初集、第二集

淡路嶋名所圖會初編 二冊

輯者 曉 晴 翁(故人)

板元 河内屋喜兵衛 (北久太郎町五丁目)

代判 太 助

出願 慶應元年閏五月
許可 慶應二年四月七日
〔附記〕本書板行に對しては
江戸學問所何濟

水馬千金編 一冊

作者 小 堀 長 順 (肥後藩中)

板元 河内屋喜兵衛 (北久太郎町五丁目)

代判 太 助

出願 慶應元年閏五月

江月齋稿

作者 久坂儀介 (長門藩中) 一冊
 藏板主 右 同人
 賣弘 河内屋吉兵衛 (藤屋町)
 出願 明治元年十月二十五日
 許可 明治元年十月二十五日

布令筆辨 一冊
 作者 友 鳴松旭 (上野町九丁目)
 板元 河内屋喜兵衛 (北久太郎町五丁目)
 出願 明治元年十月十五日
 許可 明治元年十一月五日

英國步兵練法 九冊
 譯者 赤松小三郎
 藏板主 薩摩軍局
 賣弘 秋田屋確藏 (安堂寺町五丁目)
 出願 明治元年十一月二日
 許可 明治元年十一月七日

松島廓之圖
 藏板主 西田屋作兵衛 (梅本町)
 賣弘 河内屋喜兵衛 (北久太郎町五丁目)
 出願 明治元年十一月廿九日

交易心得

許可 明治元年十二月十四日
 作者 加藤祐一 (外國事務局)
 藏板主 右 同人
 賣弘 河内屋喜兵衛 (北久太郎町五丁目)
 出願 明治元年十二月廿四日
 許可 明治元年十二月廿九日

赤穂義人錄 二冊
 作者 室鳩巢 (故人)
 板元 河内屋喜兵衛 (北久太郎町五丁目)
 出願 明治元年十二月十七日
 許可 明治元年十二月廿五日

攝津兵庫圖 折本 一冊
 作者 若林良助 (兵庫津町)
 板元 河内屋喜兵衛 (北久太郎町五丁目)
 出願 明治二年二月二十日
 許可 明治二年三月八日

蘇長公論策 三冊
 校正者 丹羽象太郎 (丹州郡山藩士)
 板元 河内屋喜兵衛 (北久太郎町五丁目)

慶應新選詩鈔

出願 明治二年二月二十日
 許可 明治二年五月十二日
 作者 谷口謙藏 (彦根藩)
 藏板主 右 同人
 賣弘 河内屋和三郎 (升屋町)
 出願 明治二年二月晦
 許可 明治二年五月十二日

和英通辨階梯 各一冊
 作者 品川英輔 (長崎西中町)
 藏板主 山本屋半二郎 (高麗橋通四軒町)
 賣弘 河内屋喜兵衛 (北久太郎町五丁目)
 代判 太助
 出願 明治二年三月
 許可 明治二年三月十二日

正金早見便覽 一冊
 著述者 藤屋積三 (南疊屋町)
 板元 河内屋吉兵衛 (藤屋町)
 出願 明治二年三月十二日
 許可 明治二年三月十二日

平野國臣歌集

作者 平野次郎 (故人) 一冊
 板元 柏原屋武助
 出願 明治二年四月
 許可 明治二年五月十二日

五經 小本 十一冊
 板元 伊丹屋善兵衛 (南久寶寺町五丁目)
 以前大本なりしを此度小本に仕立て板行願出
 出願 明治二年六月二十四日
 許可 明治二年十一月十一日 (大坂にて)

重英國步兵練法號令詞 全一冊
 自第一編至第三編
 譯者 赤松小三郎 (故人)
 藏板主 薩摩軍局
 賣弘 秋田屋確藏 (安堂寺町五丁目)
 代判 幸助
 出願 明治二年六月三日
 許可 明治二年十二月十日

金陵突甲搥談 一冊
 唐本翻刻

懷中朋友

點者 高見猪之助 (伊賀上野藩中) 一冊
 板元 河内屋眞七 (本町四丁目)
 出願 明治二年六月
 許可 明治二年十二月十日

懷中朋友 一冊
 作者 品川英輔 (長崎西中町)
 藏板主 山本屋半治郎 (高麗橋通四軒町)
 賣弘 河内屋喜兵衛 (北久太郎町五丁目)
 代判 太助
 出願 明治二年六月
 許可 明治二年十二月十日

五月雨抄 二冊
 作者 三浦安貞 (故人)
 板元 教賀屋爲七 (南本町四丁目)
 出願 明治元年十月十五日
 許可 明治二年十二月(大坂にて)
 許可 明治二年十二月二十日 (東京にて)

大坂町名一覽 一枚摺
 四組町名一覽
 板元 豐田屋宇左衛門 (南米屋町)

皇道要略

出願 明治二年十一月十七日
 許可 明治二年十二月二十日
 著述者 金本顯造 (京都二條角倉馬場屋舖)
 藏板主 綿屋孫三郎 (伊丹新町)
 賣弘 秋田屋確藏 (安堂寺町五丁目)
 代判 幸助
 出願 明治二年十一月
 許可 明治三年二月二十二日

樂山堂詩鈔 二冊
 著述者 金本顯造 (京都二條角倉馬場屋舖)
 藏板主 綿屋孫三郎 (伊丹新町)
 賣弘 秋田屋確藏 (安堂寺町五丁目)
 代判 幸助
 出願 明治二年十一月
 許可 明治三年二月二十二日

鼎鋸遺編 一冊
 輯者 雄軒 (羅屋町)
 板元 小嶋屋伊兵衛 (南久寶寺町五丁目)
 出願 明治二年十一月
 許可 明治二年十二月二十日

增補大坂町鑑 一冊
 板元 豐田屋宇左衛門 (南米屋町)
 出願 明治二年十一月十七日
 許可 明治二年十二月二十日

文天祥指南錄

著述者 金本顯造 (京都二條角倉馬場屋舖) 四冊
 藏板主 綿屋孫三郎 (伊丹新町)
 賣弘 秋田屋確藏 (安堂寺町五丁目)
 代判 幸助
 出願 明治二年十一月
 許可 明治三年二月二十二日

翰林筆道大意 一冊
 作者 大塚屋完齋 (三軒石衛門町)
 藏板主 右 同人
 賣弘 河内屋吉兵衛 (藤屋町)
 出願 明治三年二月
 許可 明治三年四月四日

文天祥指南錄 四冊
 著者 安達清一郎 (四州藩)
 藏板主 右 同人
 賣弘 河内屋眞七 (本町四丁目)
 出願 明治三年二月
 許可 明治三年四月四日

教民童蒙詞

東京御何濟 一冊
 作者 末田麗藏 (龜州廣島藩)
 板元 秋田屋確藏 (安堂寺町五丁目)
 出願 明治三年二月二十二日
 許可 明治三年四月四日

布令字辨 三編 一冊
 作者 佐野屋吉兵衛 (南米屋町九丁目)
 板元 河内屋喜兵衛 (北久太郎町五丁目)
 出願 明治三年二月二十二日
 許可 明治三年四月四日

註解用文章 一冊
 作者 岡本屋作藏 (難波新橋町)
 板元 秋田屋市兵衛 (藤屋町)
 出願 明治三年二月二十二日
 許可 明治三年四月四日

增補新令字解

著述者 荻田屋長三 (備中井原村)
板元 河内屋喜兵衛 (北久太郎町五丁目)
出願 明治三年四月二十二日
許可 明治三年四月四日
(附記) 本書板行に對しては東京御何濟

勸業修養粗話

作者 備後屋喜六 (立賣堀三丁目)
板元 河内屋和助 (升屋町)
出願 明治三年三月二十二日

盡忠錄

著述者 齋藤順治 (仙臺藩)
藏板主 伊藤軍八 (土浦藩)
賣弘 河内屋喜兵衛 (北久太郎町五丁目)
出願 明治三年三月二十二日

正諸證文定則鑑

板元 河内屋正助 (北久太郎町四丁目)
出願 明治三年四月九日
(附記) 本書の賣價は金一朱

(通貨六錢二厘五毛)の定めな

五經一齋點

點者 佐藤捨藏 (東宮)
再板發行願出
板元 山内屋五郎助 (南基屋町)
出願 明治三年四月十五日

會玉篇大全

再板發行願出
板元 敦賀屋九兵衛 (鎗屋町)
輯者 毛利貞齋 (故人)
賣弘 象牙屋治郎兵衛 (金田町)
賣弘 豐田屋卯左衛門 (南米屋町)
賣弘 秋田屋市兵衛 (鎗屋町)
賣弘 伊丹屋善兵衛 (南久寶寺町五丁目)
賣弘 河内屋喜兵衛 (北久太郎町五丁目)
賣弘 河内屋吉兵衛 (鎗屋町)
賣弘 河内屋和助 (升屋町)
賣弘 敦賀屋彦七 (安堂寺町五丁目)

賣弘 小島屋伊兵衛 (南久寶寺町五丁目)

賣弘 近江屋平助 (升屋町)

賣弘 山内屋五郎助 (南基屋町)

出願 明治三年四月十五日

新増補字林玉篇大全

再板發行願出
輯者 三浦道齋 (故人)
板元 敦賀屋九兵衛 (鎗屋町)
賣弘 象牙屋治郎兵衛 (金田町)
賣弘 豐田屋字左衛門 (南米屋町)
賣弘 秋田屋市兵衛 (鎗屋町)
賣弘 伊丹屋善兵衛 (南久寶寺町五丁目)
賣弘 河内屋喜兵衛 (北久太郎町五丁目)
賣弘 鹽屋佐吉 (北久太郎町四丁目)
賣弘 近江屋平助 (升屋町)
出願 明治三年四月十五日

新訂新増字林玉篇大全

再板發行願出
輯者 藤田環齋 (故人)

板元 敦賀屋九兵衛 (鎗屋町)

賣弘 象牙屋治郎兵衛 (金田町)

賣弘 豐田屋字左衛門 (南米屋町)

賣弘 秋田屋市兵衛 (鎗屋町)

賣弘 伊丹屋善兵衛 (南久寶寺町五丁目)

賣弘 河内内喜兵衛 (北久太郎町五丁目)

賣弘 鹽屋佐吉 (北久太郎町四丁目)

出願 明治三年四月十五日

増補字林集韻大全

再板發行願出
輯者 藤田環齋 (故人)
板元 敦賀屋九兵衛 (鎗屋町)
賣弘 象牙屋治郎兵衛 (金田町)
賣弘 豐田屋字左衛門 (南米屋町)
賣弘 秋田屋市兵衛 (鎗屋町)
賣弘 伊丹屋善兵衛 (南久寶寺町五丁目)
賣弘 河内屋喜兵衛 (北久太郎町五丁目)

賣弘 鹽屋佐吉 (北久太郎町四丁目)

賣弘 近江屋平助 (升屋町)

出願 明治三年四月十五日

廣益正字通

再板發行願出
輯者 藤田環齋 (故人)
板元 敦賀屋九兵衛 (鎗屋町)
賣弘 象牙屋治郎兵衛 (金田町)
賣弘 豐田屋字左衛門 (南米屋町)
賣弘 秋田屋市兵衛 (鎗屋町)
賣弘 伊丹屋善兵衛 (南久寶寺町五丁目)
賣弘 河内屋喜兵衛 (北久太郎町五丁目)
賣弘 鹽屋佐吉 (北久太郎町四丁目)
賣弘 近江屋平助 (升屋町)
出願 明治三年四月十五日

交易心得紳後編

作者 加藤大佑
藏板主 右同人
賣弘 河内屋喜兵衛
出願 明治三年四月十五日

許可 明治三年四月二十日

春秋左氏傳校本

再板發行願出
作者 秦 鼎 (故人)
板元 河内屋喜兵衛 (北久太郎町五丁目)
賣弘 象牙屋治郎兵衛 (金田町)
賣弘 秋田屋覺藏 (安堂寺町五丁目)
賣弘 敦賀屋彦七 (安堂寺町五丁目)
賣弘 河内屋吉兵衛 (鎗屋町)
賣弘 河内屋茂兵衛 (博勢町)
賣弘 河内屋太助 (唐物町四丁目)
賣弘 河内屋和助 (升屋町)
賣弘 内田屋宗三郎 (道修町一丁目)
出願 明治三年四月十八日

文章軌範評林

再板發行願出
輯者 藍田東龜年 (東宮)
板元 河内屋茂兵衛 (博勢町)

出願 明治三年四月

文選字引

再板發行願出
著述者 本屋庄左衛門 (京)
板元 秋田屋市兵衛 (鎗屋町)
賣弘 敦賀屋彦七 (安堂寺町五丁目)
賣弘 象牙屋治郎兵衛 (金田町)
賣弘 河内屋茂兵衛 (博勢町)
賣弘 伊丹屋善兵衛 (南久寶寺町五丁目)
賣弘 河内屋太助 (唐物町四丁目)
賣弘 河内屋和助 (升屋町)
賣弘 山内屋五郎助 (南基屋町)
出願 明治三年四月二十五日

箋注蒙求校本

著述者 岡白駒 (故人)
板元 秋田屋市兵衛 (鎗屋町)
賣弘 河内屋吉兵衛 (鎗屋町)
賣弘 山内屋五郎助 (南基屋町)

賣弘 河内屋喜兵衛 (北久太郎町五丁目)

賣弘 河内屋和助 (升屋町)

賣弘 河内屋源七郎 (博馬町)

賣弘 河内屋太助 (唐物町四丁目)

出願 明治三年四月二十五日

四經典餘師

大學孟子壹冊宛 再板發行願出
著述者 谷百年 (高松藩)
板元 秋田屋市兵衛 (鎗屋町)
賣弘 豐田屋字左衛門 (南米屋町)
賣弘 象牙屋治郎兵衛 (金田町)
賣弘 敦賀屋彦七 (安堂寺町五丁目)
賣弘 河内屋喜兵衛 (北久太郎町五丁目)
賣弘 山内屋五郎助 (南基屋町)
出願 明治三年四月二十五日

早引節用集真字附

再板發行願出
作者 山下重政 (故人)

板元 象牙屋治郎兵衛 (金田町)
板元 豊田屋宇左衛門 (南米屋町)
出願 明治三年五月九日

大全早引節用集 一冊

再板發行願出
作者 山下重政(故人)
板元 象牙屋治郎兵衛 (金田町)
板元 豊田屋宇左衛門 (南米屋町)
出願 明治三年五月九日

早引節用集 小本一冊

再板發行願出
作者 山下重政(故人)
板元 象牙屋治郎兵衛 (金田町)
板元 豊田屋宇左衛門 (南米屋町)
出願 明治三年五月九日

數引節用集 一冊

再板發行願出
作者 高田政度(故人)
板元 象牙屋治郎兵衛 (金田町)
板元 豊田屋宇左衛門 (金田町)

出願 明治三年五月九日 (南米屋町)
再板發行申出 唐本翻刻
點者 三雲新四郎(故人) (京都)
板元 豊田屋宇左衛門 (南米屋町)

再板發行願出
作者 高田政度(故人)
板元 象牙屋治郎兵衛 (金田町)
板元 豊田屋宇左衛門 (南米屋町)
出願 明治三年五月九日

草數引節用集 一冊

再板發行願出
作者 山下重政(故人)
板元 象牙屋治郎兵衛 (金田町)
板元 豊田屋宇左衛門 (南米屋町)
出願 明治三年五月九日

法朗西熟語箋 一冊

再板發行願出
作者 山下重政(故人)
板元 象牙屋治郎兵衛 (金田町)
板元 豊田屋宇左衛門 (南米屋町)
出願 明治三年五月九日

日本外史 二十二冊

再板發行願出
作者 山下重政(故人)
板元 象牙屋治郎兵衛 (金田町)
板元 豊田屋宇左衛門 (南米屋町)
出願 明治三年五月九日

四書正解 三十冊

再板發行願出
作者 高田政度(故人)
板元 象牙屋治郎兵衛 (金田町)
板元 豊田屋宇左衛門 (南米屋町)
出願 明治三年六月七日

日本外史 二十二冊

再板發行願出
作者 山下重政(故人)
板元 象牙屋治郎兵衛 (金田町)
板元 豊田屋宇左衛門 (南米屋町)
出願 明治三年六月七日

文章軌範評林 大本六冊

再板發行願出
作者 山下重政(故人)
板元 象牙屋治郎兵衛 (金田町)
板元 豊田屋宇左衛門 (南米屋町)
出願 明治三年六月七日

日本外史 二十二冊

再板發行願出
作者 山下重政(故人)
板元 象牙屋治郎兵衛 (金田町)
板元 豊田屋宇左衛門 (南米屋町)
出願 明治三年六月七日

勸業修養粗話 二冊

再板發行願出
作者 山下重政(故人)
板元 象牙屋治郎兵衛 (金田町)
板元 豊田屋宇左衛門 (南米屋町)
出願 明治三年六月七日

法朗西熟語箋 一冊

再板發行願出
作者 山下重政(故人)
板元 象牙屋治郎兵衛 (金田町)
板元 豊田屋宇左衛門 (南米屋町)
出願 明治三年六月七日

早引節用集 小本一冊

再板發行願出
作者 山下重政(故人)
板元 象牙屋治郎兵衛 (金田町)
板元 豊田屋宇左衛門 (南米屋町)
出願 明治三年六月七日

數引節用集 一冊

再板發行願出
作者 山下重政(故人)
板元 象牙屋治郎兵衛 (金田町)
板元 豊田屋宇左衛門 (南米屋町)
出願 明治三年六月七日

日本外史 二十二冊

再板發行願出
作者 山下重政(故人)
板元 象牙屋治郎兵衛 (金田町)
板元 豊田屋宇左衛門 (南米屋町)
出願 明治三年六月七日

日本外史 二十二冊

再板發行願出
作者 山下重政(故人)
板元 象牙屋治郎兵衛 (金田町)
板元 豊田屋宇左衛門 (南米屋町)
出願 明治三年六月七日

法朗西熟語箋 小本一冊

再板發行願出
作者 山下重政(故人)
板元 象牙屋治郎兵衛 (金田町)
板元 豊田屋宇左衛門 (南米屋町)
出願 明治三年六月七日

早引節用集 小本一冊

再板發行願出
作者 山下重政(故人)
板元 象牙屋治郎兵衛 (金田町)
板元 豊田屋宇左衛門 (南米屋町)
出願 明治三年六月七日

早引節用集 小本一冊

再板發行願出
作者 山下重政(故人)
板元 象牙屋治郎兵衛 (金田町)
板元 豊田屋宇左衛門 (南米屋町)
出願 明治三年六月七日

（東京御覽濟）
〔附記〕本書は享保十九甲寅年の原刻にして其後寶曆五年天明三年寛政八年文化十一年天保二年天保十二年弘化四年安政二年文久二年と板を重ね更に今回又板を重ねるに至りしなり

箋注蒙求校本

三冊

著述者 岡白 胸（故人）
板元 秋田屋市兵衛（鈔屋町）

出願 明治三年六月八日
許可 明治三年七月十九日

（附記）本書は明和四丁亥年の原刻にして其後寛政四年天保三年安政五年と板を重ね更に今回又板を重ねるに至りしなり

四書經典餘師

十冊

著述者 谷百 年（故人）
板元 秋田屋市兵衛（鈔屋町）

出願 明治三年六月八日
許可 明治三年七月十九日

（東京御覽濟）
〔附記〕本書は天明六丙午年の原刻にして其後寛政六年文政七年天保十三年嘉永五年と板を重ね更に今回又板を重ねるに至りしなり

詩韻含英異同辨

中本四冊

再板發行願出 唐本翻刻
板元 伊丹屋善兵衛（南久寶寺町五丁目）

出願 明治三年六月十二日
許可 明治三年七月十九日

（附記）本書は文化十四丁丑年の原刻にして其後天保十一年嘉永三年と板を重ね更に今回又板を重ねるに至りしなり

盡忠錄

一冊

再板發行願出
著述者 齋藤順治（仙臺藩）
藏板主 伊藤軍八（土浦藩）
賣弘 河内屋善兵衛（北久太郎町五丁目）

出願 明治三年八月八日
許可 明治三年十月九日

（附記）本書板行出願の文中には「右は寛文年中仙臺伊達内胤之節家臣安藤の精忠等を記載仕候書にて一切御條例に相背き候條條更に無之」と書添へあり

五經一齋點

十一冊

再板發行願出
點者 佐藤拾 藏（故人）
板元 山内屋五郎助（南本町）

出願 明治三年八月八日
許可 明治三年十月九日

（附記）本書は文化十癸酉年の原刻にして其後天保十二年板を重ね更に今回又板を重ねるに至りしなり

會玉篇大全

十二冊

再板發行願出
輯者 毛利貞 齋（故人）
板元 敦賀屋九兵衛（鈔屋町）

出願 明治三年八月八日
許可 明治三年十月九日

の原刻にして其後享保二十年安政九年天保六年嘉永七年と板を重ね更に今回又板を重ねるに至りしなり

新刻大増補字林玉篇大全

一冊

再板發行願出
輯者 三浦道 齋（故人）
板元 敦賀屋九兵衛（鈔屋町）

出願 明治三年八月八日
許可 明治三年十月九日

（附記）本書は安政三丙辰年の原刻にして今回初めて刻を重ねることなれり

新刻新増字林玉篇大全

一冊

再板發行願出
輯者 録田環 齋（故人）
板元 敦賀屋九兵衛（鈔屋町）

出願 明治三年八月八日
許可 明治三年十月九日

（附記）本書は安永九庚子年の原刻にして其後寛政三年寛政九年文化五年文政四年文政

十三年天保八年弘化元年嘉永元年嘉永七年安政七年と板を重ね更に今回又板を重ねるに至りしなり

増補字林集韻大全

一冊

再板發行願出
輯者 録田環 齋（故人）
板元 敦賀屋九兵衛（鈔屋町）

出願 明治三年八月八日
許可 明治三年十月九日

（附記）本書は享保十乙巳年の原刻にして其後元文二年寛延元年寶曆七年明和四年安永七年天明四年寛政三年享和二年文化十二年文政十一年天保十二年弘化四年嘉永七年と板を重ね更に今回又板を重ねるに至りしなり

廣益正字通

一冊

再板發行願出
輯者 録田環 齋（故人）
板元 敦賀屋九兵衛（鈔屋町）

出願 明治三年八月八日
許可 明治三年十月九日

（東京御覽濟）
〔附記〕本書は文化七庚午年板行の許可を得安政二乙卯年開刻し今回再刻發行するに至りしなり

春秋左氏傳校本

十五冊

再板發行願出
校輯者 秦 册（尾張）
板元 河内屋喜兵衛（北久太郎町五丁目）

出願 明治三年八月八日
許可 明治三年十月九日

（附記）本書は文化九壬申年の原刻にして嘉永三年に板を重ね更に今回又板を重ねるに至りしなり

和英比言

一冊

輯者 醫師 元長（備前岡山）
藏板主 右 同人
賣弘 河内屋吉兵衛（鈔屋町）

出願 明治三年八月八日
許可 明治三年十月九日

漢語便覽

一冊

輯者 醫師 元長（備前岡山）
藏板主 右 同人
賣弘 河内屋喜兵衛（北久太郎町五丁目）

出願 明治三年八月八日
許可 明治三年十月九日

（東京御覽濟）
〔附記〕の内首尾二冊 從來大本形なりしを小本形とし新刻發行願出

名節錄

小本三冊

作者 岡田周 助（德島藩）
藏板主 右 同人
賣弘 河内屋吉兵衛（鈔屋町）

出願 明治三年八月八日
許可 明治三年十月九日

（東京御覽濟）
〔附記〕の内首尾二冊 從來大本形なりしを此度小本形に改め新刻發行願出

日本政記

小本十六冊

著述者 頼久太郎（故人）
藏板主 頼復次郎
賣弘 河内屋吉兵衛

出願 明治三年八月八日
許可 明治三年十月九日

日本外史補

小本九冊

作者 岡田周 助（德島藩）
藏板主 右 同人
賣弘 河内屋吉兵衛（鈔屋町）

出願 明治三年八月八日
許可 明治三年十月九日

（東京御覽濟）
〔附記〕の内首尾二冊 從來大本形なりしを此度小本形に改め新刻發行願出

和漢年契

折本一冊

西洋入銅板
從來大本形なりしを此度西洋年號を増加し咄中を二十行に縮め天地を五寸横二寸に縮め仕立を折本に改め發行願出

著述者 蛇草屋種五郎（越中町二丁目）
板元 敦賀屋喜藏（本町五丁目）

出願 明治三年八月八日
許可 明治三年十月九日

（東京御覽濟）
〔附記〕の内首尾二冊 從來大本形なりしを此度小本形に改め新刻發行願出

出願 明治三年八月
許可 明治三年十月九日
(東京御何濟)

續注解用文章 一冊

以前「注解用文章」と題せしもの續篇

作者 岡本屋作藏(故人)

板元 秋田屋市兵衛(鶴屋町)

出願 明治三年八月
許可 明治三年十月九日
(東京御何濟)

増補河内國細見圖

補圖再板願出 折本 一冊

補圖校正人 鳴晴翁(故人)

板元 河内屋喜兵衛(北久太郎町五丁目)

出願 明治三年八月二十五日
許可 明治三年十月九日
(東京御何濟)

古道或問 一冊

作者 柴田花守(肥前國小城)

板元 秋田屋登藏(安堂寺町五丁目)

出願 明治三年八月二十七日
許可 明治三年十月九日
(東京御何濟)

許可 明治三年十月九日
(東京御何濟)

〔附記〕本書の内容は高札に書かれし御文を平易に説明したるもの

本教初學 一冊

作者 西川須賀雄(肥前國小城八坂社神職)

板元 秋田屋登藏(安堂寺町五丁目)

出願 明治三年十月二十四日
許可 明治三年十月二十四日
(東京御何濟)

箋註蒙求 三冊の内

從來大本形なりしを此度半紙本に改め新刻發行願出

註者 岡白駒(故人)

板元 秋田屋市兵衛(鶴屋町)

出願 明治三年十月二十四日
許可 明治三年十一月二十二日
外七人

(東京御何濟)

布令字辨四編 一冊

作者 佐野屋吉兵衛(南平野町九丁目)

板元 河内屋喜兵衛(北久太郎町五丁目)

出願 明治三年十月二十四日
許可 明治三年十一月二十二日
(東京御何濟)

續大道神祇大祓 折本一冊

作者 佐野屋吉兵衛(南平野町九丁目)

板元 綿屋徳太郎(南平野町九丁目)

出願 明治三年十月二十四日
許可 明治三年十一月二十二日
(東京御何濟)

醫道日用綱目 一冊

著述者 本郷介之允

板元 豊田屋宇左衛門(南米屋町)

出願 明治三年十月二十四日
許可 明治三年十一月二十二日
(東京御何濟)

大道神祇大祓 折本一冊

再刻發行願出

輯者 玉田永教(南平野町九丁目)

板元 綿屋徳太郎(南平野町九丁目)

出願 明治三年十月二十四日
許可 明治三年十一月二十二日
(東京御何濟)

同又板を重ねるに至りしなり

増補掌中以呂波韻大成

再刻發行願出 折本 一冊

作者 鎌田環齋(故人)

板元 敦賀屋九兵衛(鶴屋町)

出願 明治三年十月二十四日
許可 明治三年十一月二十二日
(東京御何濟)

續大道神祇大祓 折本一冊

作者 佐野屋吉兵衛(南平野町九丁目)

板元 綿屋徳太郎(南平野町九丁目)

出願 明治三年十月二十四日
許可 明治三年十一月二十二日
(東京御何濟)

〔附記〕本書は寛政己酉年の原則にして其後文政四年天保五年安政二年慶應元年と板を重ね更に今回又板を重ねるに至りしなり

文章軌範評林 中本六冊

の内二冊

從來大本形なりしを此度中本形とし新に彫刻發行願出

輯者 東龜年(故人)

板元 河内屋茂兵衛(博勢町)

出願 明治三年十月廿三日
許可 明治三年十一月二十三日
(東京御何濟)

四書片假名付

寸珍形銅板四冊の内二冊

從來中本形なりしを此度寸珍小形に改め新に彫刻發行願出

校正 蛇草屋種五郎(道中町二丁目)

板元 敦賀屋喜藏(本町五丁目)

出願 明治三年十月廿三日
許可 明治三年十一月二十三日
(東京御何濟)

名乗字叢 一冊

訂正人 荻田長三(備中井原村)

板元 河内屋喜兵衛(北久太郎町五丁目)

出願 明治三年十月廿三日
許可 明治三年十一月二十三日
(東京御何濟)

古文眞寶 二冊

(東京御何濟)

再板發行願出

改正 後藤藤春藏(故人)

板元 敦賀屋九兵衛(鶴屋町)

出願 明治三年十月廿三日
許可 明治三年十一月二十三日
(東京御何濟)

四書後藤點

再板發行願出 十冊

點者 後藤彌兵衛(故人)

板元 山内屋五郎助(南平野町)

出願 明治四年正月
許可 明治四年四月五日
(東京御何濟)

勸業修養粗話附録 一冊

作者 備後屋喜六(立賣場三丁目)

〔附記〕本書は寛政六甲寅年の原則にして其後文政三年天保六年天保十一年嘉永三年安政五年文久四年と板を重ね更に今回又板を重ねるに至りしなり

藏板主 右 同人

賣弘 河内屋和助(升屋町)

出願 明治四年正月
許可 明治四年四月五日
(東京御何濟)

地方大概 全十七冊

前編上軌四冊 同下軌五冊

後編上軌四冊 同下軌四冊

作者 加藤治郎兵衛(福州綱干)

藏板主 右 同人

賣弘 河内屋喜兵衛(北久太郎町五丁目)

出願 明治四年正月
許可 明治四年四月五日
(東京御何濟)

經濟莢言 一冊

作者 長江謙介(阿州河波郡伊月村)

藏板主 右 同人

賣弘 河内屋喜七(御堂前町)

出願 明治四年二月二十八日
許可 明治四年三月二十二日
(東京御何濟)

遺言類記 三冊

作者 吉村隆藏(廣嶋)

板元 秋田屋登藏(安堂寺町五丁目)

出願 明治四年二月二十八日
許可 明治四年三月二十二日
(東京御何濟)

幼學初入門 一冊

編者 大塚屋完齋(三郎右衛門町)

藏板主 右 同人

賣弘 河内屋喜七(御堂前町)

出願 明治四年二月二十八日
許可 明治四年三月二十二日
(東京御何濟)

遺言類記 三冊

作者 吉村隆藏(廣嶋)

板元 秋田屋登藏(安堂寺町五丁目)

出願 明治四年二月二十八日
許可 明治四年三月二十二日
(東京御何濟)

遺言類記 三冊

作者 吉村隆藏(廣嶋)

板元 秋田屋登藏(安堂寺町五丁目)

出願 明治四年二月二十八日
許可 明治四年三月二十二日
(東京御何濟)

〔附記〕本書板行出願の文中には「右の書は明末名臣殉難の遺言を輯録致候書にて」と書添へあり

掌中尺牘楷梯 折本 一冊

銅板
作者 市原啓齋(故人)
板元 加賀屋善藏
出願 明治四年二月二十八日
許可 明治四年三月二十二日
〔附記〕本書は從來中本形にて板行せしを此度折本として發行を願ひ出でしなり

劍 活字板 一冊

作者 平山行藏(故人)
藏板主 高井國幹(若山藩)
賣弘 秋田屋市兵衛(新潟町)
出願 明治四年二月二十八日
許可 明治四年三月二十二日
(東京御何濟)

夕日岡月次集 一冊

輯者 青木吉五郎(宮崎町)
藏板主 河内屋喜兵衛

板元 右同(北久太郎町五丁目)
出願 明治四年二月二十八日
許可 明治四年三月二十二日
(東京御何濟)

布令字辨五編 一冊

作者 佐野屋吉兵衛(南平野町九丁目)
板元 河内屋喜兵衛(北久太郎町五丁目)
出願 明治四年三月二十日
許可 明治四年五月七日
(東京御何濟)

皇國一新詩 二冊

作者 田中内記(安土町三丁目)
藏板主 右同人
賣弘 藤屋卯三郎(升屋町)
出願 明治四年三月二十四日
〔附記〕此の出願に對し明治四年五月七日「草稿御取上げに相成彫刻相成らざる旨」申渡さる

西遊遺稿 一冊

作者 橋本半助(故人)
板元 河内屋吉兵衛

出願 明治四年三月二十四日
許可 明治四年五月七日
(東京御何濟)

大全漢語解 一冊

著述者 岩井眞次郎(平野町二丁目)
板元 河内屋喜兵衛(北久太郎町五丁目)
出願 明治四年三月二十四日
許可 明治四年五月七日
(東京御何濟)

增補四聲玉篇字林大全 一冊

訂正者 中村源八郎(故人)
板元 敦賀屋九兵衛(新潟町)
出願 明治四年三月二十四日
許可 明治四年五月七日
(東京御何濟)

算法大全指南車 一冊

再板發行願出
訂正者 藤屋宗兵衛(南平野町)
板元 藤屋宗兵衛(南平野町)
出願 明治四年三月二十四日
許可 明治四年五月七日

(東京御何濟)
〔附記〕本書は享和年間の原刻にして其後文政年間天保年間板を重ねたるが更に今回又板を重ねることとなりしなり

五經 後藤點 十一冊

再板發行願出
點者 後藤彌兵衛(故人)
板元 山内屋五郎助(南平野町)
出願 明治四年三月二十四日
許可 明治四年五月七日
(東京御何濟)

回天詩和韻 二冊

作者 宇都宮眞名介(西京興正教寺)
藏板主 右同人
賣弘 伊豫屋屋七(本町四丁目)
出願 明治四年四月十日
〔附記〕本書板行の出願に對

し明治四年六月八日「開板不相成事」と申渡さる

權輿歌 一冊

作者 宇都宮眞名介(西京興正教寺)
藏板主 右同人
賣弘 伊豫屋屋七(本町四丁目)
出願 明治四年四月二十五日
〔附記〕本書板行の出願に對し東京御何の上明治四年八月二十八日「開板不相成事」と申渡さる

白蓮池館詩抄 一冊

著述者 河野角藏(本天満町二丁目)
藏板主 右同人
賣弘 河内屋正助(坂本町)
出願 明治四年五月十三日
再願 明治四年八月二十七日
改願 明治五年四月
許可 明治五年六月二十日
〔附記〕本書板行出願の文中には「右詩集の儀は風月述懐或は諸國漫遊中の吟詠にて」と書添へあり

圓光大師拔萃法語 一冊

明治四

著述者 圓通寺(生玉中寺町)
藏板主 右同人
賣弘 豐田宇左衛門(南平野町)
出願 明治四年五月十三日
再願 明治四年八月二十七日
〔附記〕斯く再願に及びたるが明治五年六月二十日「草稿本書き改むべし」との御沙汰あり書き改めて差出したるに同年八月二十日「御免許難相成事」とて却下せらる

布令字辨和訓章 一冊

作者 佐野屋吉兵衛(南平野町九丁目)
板元 秋田屋市兵衛(新潟町)
出願 明治四年五月二十八日

有間星 一冊

作者 中井履軒(故人)
藏板主 中井修治(尾ヶ崎町二丁目)
賣弘 伊豫屋屋七(本町四丁目)
出願 明治四年六月二日
〔附記〕本書板行の出願に對し東京御何の上「御免許不相成」と申渡さる

再板發行願出
作者 尾田玄古(故人)
板元 山内五郎助(南平野町)
出願 明治四年六月十八日
許可 明治四年八月二十八日
(東京御何濟)

圖解五經 十一冊

〔附記〕本書は享保二丁酉年の原刻なり

詰込四書 後藤點 十冊

再板發行願出
點者 後藤彌兵衛(故人)
板元 山内五郎助(南平野町)
出願 明治四年六月十八日
許可 明治四年八月二十八日
(東京御何濟)

日記故事大全 三冊

再板發行願出
點者 鎌田環齋(安堂寺町五丁目)
板元 敦賀屋屋七(外一人)
出願 明治四年八月二日

再願 明治四年八月二十七日
許可 明治五年六月二十日

增訂喪儀略 一冊

著述者 古川射行(南平野町)
藏板主 右同人
賣弘 河内屋忠七(本町四丁目)
出願 明治四年八月二十七日
〔附記〕本書板行出願の文中には「右は神葬之式并に觸穢假服葬具等の考を記載仕候書にて」と書添へあり

宋詩評選 三冊

評點 賴子成
增評 後藤世張
板元 敦賀屋九兵衛(心齋橋通一丁目)
出願 明治四年八月二十七日
〔附記〕本書板行の出願の後都合により出願を取消す

布令字辨 六編 一冊

著述者 佐野屋吉兵衛(南平野町九丁目)
板元 河内屋吉兵衛(北久太郎町五丁目)
出願 明治四年九月五日
許可 明治四年十一月

(東京御何濟)

増訂古語拾遺

校正人 古川 躬行 一冊

板元 河内屋喜兵衛 (北久太郎町五丁目)

出願 明治四年十一月十二日

許可 明治五年正月十二日

(東京御何濟)

續詳註用文章

著述者 岡本屋作造(故人)

板元 秋田屋市兵衛 (鶴屋町)

出願 明治四年十一月十二日

許可 明治五年二月三日

(東京御何濟)

女中庸瑪瑙箱

著述者 植村玉枝子(故人)

再板發行願出 板元 河内屋源七郎 (傳馬町)

出願 明治四年十二月廿三日

許可 明治五年二月三日

(東京御何濟)

院民問答末の極楽

作者 長江謙介 (河州河渡部)

藏板主 右同人

賣弘 今津屋榮藏 (立賣場南重町)

出願 明治五年二月

許可 明治五年四月五日(大坂府)

(附記) 本書板行の出願文中には「此書は今回御新製之折柄版府において大貧院を設けさせられ御仁政の御手厚き事を感戴し日本國中億兆の民に天意の厚き御恩召の御冥加を知らしめんとす自問自答にて書つり且儉勤の二字を書して農工商賈の子弟に家治むるの術を書加へたる書にて」と書添へあり

新刻新增字林玉編大全

重刻發行願出 輯者 鎌田環齋(故人)

板元 敦賀屋九兵衛 (鶴屋町)

出願 明治五年二月三十日

許可 明治五年四月五日(大坂府)

(附記) 本書は安永九庚子年の原刻にして其後寛政三年寛政九年文化五年文政四年文政十三年天保八年弘化八年嘉永三年嘉永七年安政七年明治三年と刻を重ね更に今回又刻を重ねるに至れり

世界風俗往來

著述者 中金正衛 (伊豫)

藏板主 井上廉平 (尾州名古屋)

賣弘 秋田屋市兵衛 (鶴屋町)

出願 明治五年二月三十日

許可 明治五年四月五日(大坂府)

(附記) 本書板行出願の文中には「右之書は五大洲土地の廣狭人口の多寡風俗の異同政事の得失等を概著し兒女手習の手に可相成にて」と書添へあり

英吉通俗會話篇第一篇一冊

合譯者 小林好謙 (備中倉敷)

藏板主 井上廉平 (尾州名古屋)

賣弘 秋田屋市兵衛 (鶴屋町)

出願 明治五年二月三十日

許可 明治五年四月五日(大坂府)

(附記) 本書板行出願の文中には「右之書は原と佛國ベルレンセル氏著す所の英佛對譯會話書の内英語のみを抜萃し加ふるに其音と義とを翻譯し其師友に乏しきもの及兒童等

之獨學に便なる書にて」と書添へあり

洋繪引節用集 一冊

著述者 井上廉平 (尾州名古屋)

藏板主 右同人

賣弘 秋田屋市兵衛 (鶴屋町)

出願 明治五年二月三十日

許可 明治五年四月五日(大坂府)

(附記) 本書板行出願の文中には「右之書は平生所用の事物を集め圖畫を設け傍ら洋字と其音義とを載記し加ふるにいろは四十八字を以て其部類を分ち兒童の自ら彼字を暗記せしむるに便なる書にて」と書添へあり

リードル第一 銅版一冊

原書翻譯 板元 敦賀屋喜藏 (木町五丁目)

出願 明治五年三月二十日

許可 明治五年五月九日

(附記) 本書翻出願の文中には「右は西曆一千八百六十六年英國サアセント氏の著書にして初學必用の書に御座候所舶來本拂底にて志學の失望

不少依て流布之爲此度翻刻仕」と書添へあり

英學辭訓

翻譯者 浦谷三平 (英木町)

板元 河内屋太助 (唐物町四丁目)

出願 明治五年三月二十日

許可 明治五年五月九日

(附記) 本書板行出願の文中には「右之原書は英國ウエブストル氏著述スベルリンドグ對譯仕兒童等之獨學に便なる書にて」と書添へあり

英學捷解

翻譯者 浦谷三平 (英木町)

板元 河内屋太助 (唐物町四丁目)

出願 明治五年三月二十日

許可 明治五年五月九日

(附記) 本書板行出願の文中には「右之書は英國サアルゼイント氏著述第一リイドル對譯仕兒童等之獨學に便なる書にて」と書添へあり

集社詩

點者 内村友輔 (出賣場南重町)

板元 河内屋正助 (坂本町)

出願 明治五年三月二十日

許可 明治五年五月九日

氣海觀瀾義解

翻譯者 浦谷三平 (傳馬町三丁目)

板元 柏原屋武助 (長堀橋二丁目)

(附記) 「右は以前裕軒川本先生著述に基き英國カッケンボス氏カノット氏等の書中より拔萃仕理學の微妙を幼童に解易き書にて」と書添へあり

應用文章集半紙本一冊

作者 佐野屋吉兵衛 (南平野町九丁目)

板元 秋田屋市兵衛 (心齋橋通二丁目)

出願 明治五年三月

許可 明治五年五月九日

(附記) 本書板行出願の文中には「右の書は應用向の文字を相集め用文章に相綴り兒童

輩等の手習手本に可相成書にて」と書添へあり

西洋新藥方選抽珍本

翻譯者 浦谷三平 (傳馬町三丁目)

藏板主 右同人

賣弘 森本太助 (唐物町四丁目)

出願 明治五年四月

再願 明治五年六月十日

(附記) 本書板行出願の文中には「右之原書は米國エルリス氏方劑錄其他マイネス氏ウード氏等の藥劑書より拔萃仕掌中簡便の方符に致し刀圭の分量を逐一記載致し候書にて」と書添へあり而して本書の翻譯者兼藏板主たる浦谷三平は醫學所内の醫師なりき

明治用文章

編者 松川半山 (東大郡第十五區道徳町五丁目)

板元 岡田茂兵衛 (東大郡第二十三區傳馬町四丁目)

出願 明治五年六月十五日

許可 明治五年九月二十日

(附記) 本書板行出願の文中には「右之書は四季の案文時

候の詞本朝國名處三府七十二縣郡名萬國物産時計劃理の略說潮汐の満干を記載仕候」と書添へあり

懷中必携

彩色入銅版 輯者 吉古樹正太郎 (東大郡第十二區今禮通二丁目)

板元 梶田喜藏 (東大郡第十九區本町通四丁目六九)

出願 明治五年七月

(附記) 斯く出願したるが後出願を見合ふこと、す最初出願の文中には「右の書は御改正の御國旗を上段とし府縣名目を中段とし下段に全國の圖を顯はし候書にて」と書添へあり

四民教諭

藏板主 神戸藤次郎 (三州吉田)

板元 田中太右衛門 (南大郡第六區安堂寺町通第四番)

出願 明治五年七月三日

許可 明治五年八月二十日

太醇辭考 一冊

著述 柴田花守 (肥前伊万里郡)

板元 田中太右衛門
出願 明治五年八月十二日
〔附記〕本書板行出願の文中には「右之書は世に三種敵と唱候トフカミエミタメと申す詞の本を解し候書にて」と書添へあり

幼童訓 一冊
手習女訓 一冊
以上二種は幼童兒女生立の教導を諭示したるもの
著述 柴田花守
板元 田中太右衛門
出願 明治五年八月十二日

窮理早合點 小本二冊
著述人 鳥山啓
板元 田中太右衛門
出願 明治五年八月十二日

〔附記〕本書板行出願の文中には「右之書は蒸氣發明之原始來歴を記載仕候書にて」と書添へあり

〔附記〕本書板行出願の文中には「右之書は府縣郡名廣邑地名等を習字に記載仕候書にて」と書添へあり

〔附記〕本書板行出願の文中には「右之書は三都府往昔より今日御盛代に到る迄の沿革を記載仕候書にて」と書添へあり

中大論語

以上三種本文九行大字
校正 日柳政 勲
校正 石村貞章
板元 書林會社
出願 明治五年八月

網鑑要略 半紙本一冊
校正 石村貞章
板元 書林會社
出願 明治五年八月

三府沿革概言 中本一冊
編者 石村貞章
板元 書林會社
出願 明治五年八月

五十韻の原由

著述 加藤祐一
藏板主 右同人
寶弘 柳原喜兵衛
出願 明治五年九月

〔附記〕本書板行出願の文中には「右之書は我所生音の縱横延約活用を記載仕候書にて」と書添へあり

〔附記〕本書板行出願の文中には「右之書は皇國旗章を首に擧げ次に外國表旗を記載し候」と書添へあり

越里斯藥法全書

著者 エリス
譯者 森鼻宗次
板元 淺井吉兵衛
出願 明治五年九月

〔附記〕本書板行出願の文中には「右之書は府縣郡名廣邑地名等を習字に記載仕候書にて」と書添へあり

日本地理往來半紙本一冊
編者 征木正太郎
板元 書林會社
出願 明治五年八月

化學初階 大本二冊
口譯 嘉約 翰
筆述 何 瞭
點者 高見猪之助
板元 書林會社
出願 明治五年八月

〔附記〕本書板行出願の文中には「右之書は支那に於て同治九年刊彫相成候原本に加點仕圖畫等相加へ候書にて」と書添へあり

〔附記〕本書板行出願の文中には「右之書は支那に於て同治九年刊彫相成候原本に加點仕圖畫等相加へ候書にて」と書添へあり

〔附記〕本書板行出願の文中には「右之書は點茶の雜話を基として古今の珍説少々差加へ格草栽培の方法會社の規則に従て本朝紙品の良能及び其來歴を粗載仕候隨筆にて」と書添へあり

英和對譯通辨書 一冊
板元 淺井吉兵衛
出願 明治五年八月

〔附記〕本書板行出願の文中には「右は西曆一千八百六十七年米國リグジンの著書にして初學必用の書にて御座候處本拂底にて志學の失望少なからず依て流布のため此度翻刻致し」と書添へあり

〔附記〕本書板行出願の文中には「右之書は支那に於て同治九年刊彫相成候原本に加點仕圖畫等相加へ候書にて」と書添へあり

〔附記〕本書板行出願の文中には「右之書は支那に於て同治九年刊彫相成候原本に加點仕圖畫等相加へ候書にて」と書添へあり

〔附記〕本書板行出願の文中には「右之書は支那に於て同治九年刊彫相成候原本に加點仕圖畫等相加へ候書にて」と書添へあり

〔附記〕本書板行出願の文中には「右之書は支那に於て同治九年刊彫相成候原本に加點仕圖畫等相加へ候書にて」と書添へあり

〔附記〕本書板行出願の文中には「右之書は支那に於て同治九年刊彫相成候原本に加點仕圖畫等相加へ候書にて」と書添へあり

〔附記〕本書板行出願の文中には「右之書は支那に於て同治九年刊彫相成候原本に加點仕圖畫等相加へ候書にて」と書添へあり

〔附記〕本書板行出願の文中には「右之書は支那に於て同治九年刊彫相成候原本に加點仕圖畫等相加へ候書にて」と書添へあり

〔附記〕本書板行出願の文中には「右之書は支那に於て同治九年刊彫相成候原本に加點仕圖畫等相加へ候書にて」と書添へあり

〔附記〕本書板行出願の文中には「右之書は支那に於て同治九年刊彫相成候原本に加點仕圖畫等相加へ候書にて」と書添へあり

〔附記〕本書板行出願の文中には「右之書は支那に於て同治九年刊彫相成候原本に加點仕圖畫等相加へ候書にて」と書添へあり

〔附記〕本書板行出願の文中には「右之書は支那に於て同治九年刊彫相成候原本に加點仕圖畫等相加へ候書にて」と書添へあり

〔附記〕本書板行出願の文中には「右之書は支那に於て同治九年刊彫相成候原本に加點仕圖畫等相加へ候書にて」と書添へあり

〔附記〕本書板行出願の文中には「右之書は支那に於て同治九年刊彫相成候原本に加點仕圖畫等相加へ候書にて」と書添へあり

〔附記〕本書板行出願の文中には「右之書は支那に於て同治九年刊彫相成候原本に加點仕圖畫等相加へ候書にて」と書添へあり

〔附記〕本書板行出願の文中には「右之書は支那に於て同治九年刊彫相成候原本に加點仕圖畫等相加へ候書にて」と書添へあり

〔附記〕本書板行出願の文中には「右之書は支那に於て同治九年刊彫相成候原本に加點仕圖畫等相加へ候書にて」と書添へあり

〔附記〕本書板行出願の文中には「右之書は支那に於て同治九年刊彫相成候原本に加點仕圖畫等相加へ候書にて」と書添へあり

〔附記〕本書板行出願の文中には「右之書は支那に於て同治九年刊彫相成候原本に加點仕圖畫等相加へ候書にて」と書添へあり

〔附記〕本書板行出願の文中には「右之書は支那に於て同治九年刊彫相成候原本に加點仕圖畫等相加へ候書にて」と書添へあり

萬國掌覽 一枚摺

輯者 山本與助 (南大區第六區豐町三丁目)
板元 山本與七 (南大區第六區豐町三丁目)
出願 明治五年九月
〔附記〕本書板行出願の文中には、右は首に各國沿革同人、口同鐵路同國債及び海陸表等を記載仕候一枚摺にて」と書添へあり

庶人喪儀式 大本一冊

編輯 古川射行 (津縣管下菅原社同官)
板元 鹿田靜七 (東大區第十九區安土町四丁目)
出願 明治五年十月
〔附記〕本書板行出願の文中には「右之書は神喪式を貧民と雖も執行ひ易きよう記載仕候書にて」と書添へあり

帝系年號略頌 半紙本一冊

編輯 佐々木義周 (大阪府下御堂社同官東町方寄留)
板元 鹿田靜七 (東大區第十九區安土町四丁目)
出願 明治五年十月
〔附記〕本書板行出願の文中には「右之書は皇祖より當代

に至る年號を加へ時變美事等を記載仕候書にて」と書添へあり

藥劑新書 半紙本二冊

著述 森鼻宗次 (文部省出仕)
板元 松村九兵衛 (南大區第六區心齋橋筋一丁目)
出願 明治五年十月
〔附記〕本書板行出願の文中には「右の書は西洋藥品酸酢丁幾の功能主治用法を記載仕候書にて」と書添へあり

華氏日用新法 半紙本三冊

著述 森鼻宗次 (文部省出仕)
板元 松村九兵衛 (南大區第六區心齋橋筋一丁目)
出願 明治五年十月
〔附記〕本書板行出願の文中には「右之書は西洋藥品の調和和功能用法等を記載仕候書にて」と書添へあり

内外概表 半紙本二冊

編輯 松村九兵衛 (南大區第六區心齋橋筋一丁目)
板元 松村九兵衛 (南大區第六區心齋橋筋一丁目)
出願 明治五年十月
〔附記〕本書板行出願の文中

には「右之書は皇國々名郡名開港地外客人員戶數各國名幅員人口都府縣章等記載仕候書にて」と書添へあり

府下必携 每部一冊宛

輯者 松村九兵衛 (南大區第六區心齋橋筋一丁目)
板元 松村九兵衛 (南大區第六區心齋橋筋一丁目)
出願 明治五年十月
〔附記〕本書板行出願の文中には「右の書は當御府より時々御布告に相成候内最も要務なるものを採萃仕これを編輯し」と書添へあり斯くて出願後都合ありて板行を取消した

解剖必携初秩 中本三冊

翻譯 岡澤貞一郎 (石川縣加州)
板元 大野木市兵衛 (南大區第七區心齋橋筋二丁目)
出願 明治五年十月
〔附記〕本書板行出願の文中には「右之書は亞國醫官ヘイスエグニニ氏著す所にして彼紀元一千八百六十八年の再録を翻譯仕候書にて」と書添へあり

拜神略辭 一冊

著述 瀬戸清次郎 (南大區第九區豊町百五十五番)
藏板主 右同人
板元 大野木市兵衛 (南大區第七區心齋橋筋二丁目六十一番)
出願 明治五年十月
〔附記〕本書板行出願の文中には「右之書は敬神の大道を婦女童蒙に解し易きよう記載仕候書にて」と書添へあり

和英字典 横本一冊

譯者 岡先 (文部省十一等出仕)
板元 書林會社 (安土町四丁目)
出願 明治五年十月
〔附記〕本書板行出願の文中には「右は米國ウエブストル氏著大辭書之内初學必用文字を採萃致し日本翻譯を附し候書にて」と書添へあり

府管轄一覽 小本一冊

編者 小西松三 (備中小田縣第二區小十四區四百十九番屋敷)

板元 書籍會社
出願 明治五年十月

官名志 大本一冊

板元 書籍會社 (東大區第十九區本町四丁目)
出願 明治五年九月
〔附記〕本書板行出願の文中には「右之書は皇國官名を大字に仕幼童兒女の習字を主と致候書にて」と書添へあり

開化往來 半紙本一冊

著述人 宇多田小一郎 (下京第十四區四條通河原町西へ入真町)
板元 前川善兵衛 (南大區第六區心齋橋筋一丁目)
出願 明治五年九月二十五日
〔附記〕本書板行出願の文中には「右之書は和漢百物之名唱を兒童の習字に仕候書にて」と書添へあり

貨殖傳正文 大本一冊

點者 東井八郎兵衛 (南大區第十區東清水町下之町)
板元 松村九兵衛 (南大區第六區心齋橋筋一丁目)
出願 明治五年十月

輯者 外川秀次郎 (南大區第十九區南本町三丁目)
藏板主 右同人
板元 堀田喜藏 (南大區第十九區南本町三丁目)
出願 明治五年十月

五大洲國名盡 半紙本一冊

著述 佐々木義周 (大阪府下御堂社同官東町方寄留)
板元 鹿田靜七 (東大區第十九區安土町四丁目)
出願 明治五年十月
〔附記〕本書は板行出願後都合により願ひ下げとなる

三事忠告解 半紙本三冊

著述 佐々木義周 (大阪府下御堂社同官東町方寄留)
板元 鹿田靜七 (東大區第十九區安土町四丁目)
出願 明治五年十月
〔附記〕本書は往昔我が皇室に忠勤ありし人物の言行を録したるもの

皇朝靖獻遺事 中本三冊

著述人 横尾謙七 (播磨縣豐前縣實茂)
藏板主 右同人
板元 田中太右衛門 (南大區第六區安堂寺通四丁目第四番)
出願 明治五年十月
〔附記〕本書は往昔我が皇室に忠勤ありし人物の言行を録したるもの

古事記略注 四冊

作者 奈良松莊 (香川縣管下豊井村)
藏板主 右同人
板元 松村九兵衛 (南大區第六區心齋橋筋一丁目)
出願 明治五年十月

對譯者 小西松三 (備中小田縣第二區小十四區四百十九番屋敷)
板元 淺井吉兵衛 (備中井原)
出願 明治五年十月

和英書狀 中本一冊

譯者 外川秀次郎 (南大區第十九區南本町三丁目)
藏板人 右同人
板元 堀田喜藏 (南大區第十九區南本町三丁目)
出願 明治五年十一月

英單語字類 横本一冊

著述 種子島三三 (内木町馬場町森田津兵衛方 寄留 鹿兒島七族)
板元 梅原龜七 (東大區第十七區船場町四丁目)
出願 明治五年十一月

洋算近道獨稽古 一冊

著述 梅原龜七 (東大區第十七區船場町四丁目)
板元 梅原龜七 (東大區第十七區船場町四丁目)
出願 明治五年十一月

改農業往來 半紙本一冊

原撰人 江藤彌七 (故人)
改正人 萩田長三 (備中井原)
板元 大野木市兵衛 (南大區第七區心齋橋筋一丁目)
出願 明治五年十一月

原撰者 佐野屋吉兵衛 (南平野町九丁目)
增補者 萩田長三 (備中井原)
板元 大野木市兵衛 (南大區第七區心齋橋筋一丁目)
出願 明治五年十一月

增補布令字辨 小本一冊

編者 浮田小十郎 (西京下京六區四條通寺町西へ入)
板元 細谷市松 (西京下京六區四條通寺町西へ入)
出願 明治五年十一月

開化世話千字文

編者 浮田小十郎 (西京下京六區四條通寺町西へ入)
板元 細谷市松 (西京下京六區四條通寺町西へ入)
出願 明治五年十一月

新選漢語消息案文

編者 浮田小十郎 (西京下京六區四條通寺町西へ入)
板元 細谷市松 (西京下京六區四條通寺町西へ入)
出願 明治五年十一月

日本圖 扇面摺

板元 細谷市松 (西京下京六區四條通寺町西へ入)
出願 明治五年十一月

旗章圖 扇面摺

板元 細谷市松 (西京下京六區四條通寺町西へ入)
出願 明治五年十一月

潮月一覽表 一枚摺

編者 松村九兵衛 (南大區第六區心齋橋筋一丁目)
出願 明治五年十一月

板元 前田 德太郎 (東大編第十九區安土町四丁目)
出願 明治五年十一月 (南大編第六區豐町四丁目)

太陽略曆 一枚摺
板元 小谷 卯三郎 (東大編第十七區備後町四丁目)
出願 明治六年 (二千五百三十三
年)一月十日

太陽略曆石摺 一枚摺
板元 金尾 爲七 (東大編第十九區南本町四丁目)
出願 明治六年 (二千五百三十三
年)一月十日

奉書一枚摺略曆
板元 金尾 爲七
出願 明治六年 (二千五百三十三
年)一月十日

習字必用半紙本 一冊
著者 荻田 長七 (備中井原)

板元 大野木市兵衛 (備中井原)
出願 明治六年一月十三日

太陽略曆 二種
板元 辻本安兵衛 (東大編第十九區北邊通町)
出願 明治六年一月

太陽略曆 大半紙

三ツ切摺
太陽略曆 寸珍本銅鏤
太陽略曆 扇面摺
但潮時附 銅鏤
板元 北尾 禹三郎 (東大編第十九區安土町四丁目)
出願 明治六年一月
許可 明治六年一月二十日

産業道連紳 半紙本二冊
著述人 伊藤 猛 (西成郡第三區第十番組合
上福島村井上東助方書留
北條勝士撰)

板元 岡田 茂兵衛 (大阪東大編第廿三區南本町四丁目)
出願 明治六年一月
(附記) 本書板行出願の文中
には「右之書は商法職業品物
の原由會社商社の論說等を記
載仕候書にて」と書添へあり

世界の富 一冊
輯者 荻田 長七 (備中井原)

板元 大野木市兵衛
出願 明治六年一月
(附記) 本書板行出願の文中
には「右之書は五大洲各國の
産物を往來文に綴り候書に
て」と書添へあり

て」と書添へあり
世界郡都往來 一冊
譯者 小林 謹吉 (備中會敷)

板元 小島 伊兵衛 (東大編第二十三區南久寶寺町四丁目)
出願 明治六年一月
(附記) 本書板行出願の文中
には「右之書は原本一千八百
七十年佛人ニルタンヘル氏の
地理書を翻譯仕候書にて」と
書添へあり

獨和節用集 二冊
翻譯人 漆原 雙藏 (香川縣下)

藏板主 竹内 義一
寶弘 丸家 善藏 (東大編第廿三區北久寶寺町四丁目)
出願 明治六年一月
(附記) 本書板行出願の文中
には「右は一千八百七十一年
獨國ケール氏の著書英獨對
譯仕候書にて」と書添へあり

語調往來 横本一冊
著述 小川 悅
板元 松村 九兵衛

出願 明治六年一月
(附記) 本書板行出願の文中
には「右之書は五十韻橋邊府
縣名皇諡年號を記載仕候書に
て」と書添へあり

育英新論 半紙本二冊
纂輯 石村 貞一
板元 松村 九兵衛
出願 明治六年一月
(附記) 本書板行出願の文中
には「右之書は富國強兵は其
人民の品行に關係するを解き
各國有名家の行狀を彙録候書
にて」と書添へあり

日用藥劑分量考 中本一冊
著述 森 宗次
板元 松村 九兵衛
出願 明治六年一月
(附記) 本書板行出願の文中
には「右之書は西洋各國有名
家の藥劑をイロハ部分に彙録
仕候書にて」と書添へあり

自然理學圖解 半紙本三冊
著述 村上 眞助
板元 松村 九兵衛
出願 明治六年一月
(附記) 本書板行出願の文中

には「右之書は空氣天然自然
の理沐氣鐵磁石等の原質に天
然人造の理を示し圖畫を加へ
候書にて」と書添へあり

筆算新書 中本二冊
著述人 山崎 好謙
板元 岡 眞七
出願 明治六年二月二十一日

増補英語差附錄 中本一冊
著述 卜部 精一
板元 岡 眞七
出願 明治六年二月二十一日

西洋早學圖解 折本
板元 大野木市兵衛
出願 明治六年二月二十一日

全體新論譯解 四冊
譯者 高木 熊三郎
板元 前川 善兵衛
出願 明治六年二月二十一日

改題初心傳 一冊
著述人 勝山 力松 (東大編第十七區橋本三丁目)
板元 右 同人
出願 明治六年二月二十一日

知恵のおだ巻 一冊
輯者 廣瀬 白李
板元 西村 治助 (東大編第十九區南本町四丁目)
出願 明治六年二月二十一日

皇國三字經 一冊
副補人 高見猪之助
板元 松田 喜藏
出願 明治六年二月二十一日

藥物新論 初篇三冊
著者 森 鼻 宗次
板元 眞部 武助
出願 明治六年二月二十一日

洋算指南車 一冊
著者 天 岡 毅 (福州三田土族)

板元 眞部 武助
出願 明治六年二月二十一日

鐵道 扇面摺
板元 川邊 新七 (南大編第十一區大寶寺町東之丁)
出願 明治六年三月六日
(附記) 本書板行出願の文中
には「右は東京高輪鐵道に汽
車往來之圖を纂し候扇面摺に
て」と書添へあり

西洋天文圖說 中本三冊
譯者 中條 澄清 (名東縣土族)

板元 大野木市兵衛
出願 明治六年三月六日
(附記) 本書板行出願の文中
には「右之書は一千八百六十
六年ダンドネル氏テイト氏ゴ
ールドスシツ氏等の天文書を
翻譯仕候書にて」と書添へあ
り

文明開化 初篇二冊
半紙本
著述 加藤 祐一
藏板主 右 同人
賣弘 柳原喜兵衛
出願 明治六年三月十六日
(附記) 本書板行出願の文中
には「右之書は散髪衣服居宅
等を始め肉食は穢に非ざる事
故を述べ童蒙に解し易きよう
俗語を以て記載仕候書にて」と
書添へあり

世界の大陸 半紙本二冊
著述人 荻田 長三
板元 柳原喜兵衛
出願 明治六年三月十六日
(附記) 本書板行出願の文中

には「右之書は世界五大洲の
國名及び人口並に其事情を文
章に綴り習字に記載仕候書に
て」と書添へあり

窮理早合點 小本二冊
著述 鳥山 啓 (和歌山縣等而下第二區田邊中屋敷町土)
板元 田中 太右衛門
出願 明治六年三月二十六日

勸商往來 半紙本一冊
著述人 横尾 謙七 (福州藤原野屋)

板元 田中 太右衛門
出願 明治六年三月二十六日
(附記) 本書板行出願の文中
には「右之書は西洋物品を彙
録し糊書に會社辨の俗解を記
載仕候書にて」と書添へあり

文明千字文 半紙本一冊
校 大塚 完齋
著述 柳原喜兵衛
板元 柳原喜兵衛
出願 明治六年三月二十六日
(附記) 本書板行出願の文中
には「右之書は方今の形勢將
口實の漢語を解め綴文に記載
仕候書にて」と書添へあり

和言孝經 半紙本 一冊
著述者 横尾 謙七
板元 小島伊兵衛
出願 明治六年三月二十六日
〔附記〕本書板行出願の文中には「右之書は孝經を和言俗解仕候書にて」と書添へあり

大黒書 扇面摺
木板 但し月の大小を記載
板元 桐山 喜六
出願 明治六年三月二十六日
〔附記〕南大坂第五區藤町通二丁目

坂府奇觀七圖 扇面摺 銅版
板元 桐山 喜六
出願 明治六年三月二十六日
〔附記〕南大坂第五區藤町通二丁目

生徒の心得 半紙本 一冊
著述 新井 居敬
板元 三木 平七
出願 明治六年三月二十六日
〔附記〕和泉國第十區大島郡堺寺地町西四丁番千太郎方寄附

世界婦女往來 中本 一冊
著述 山本 與助
板元 大野木市兵衛
出願 明治六年三月二十六日
〔附記〕本書板行出願の文中には「右之書は兒女縁竹を専らとし遊惰に生育するを諷め

新藥摘要 初篇 二冊
譯述 森 鼻宗次
板元 眞部 武助
出願 明治六年三月二十八日
〔附記〕本書板行出願の文中には「右之書は近來英亞出版薬性書より抄出翻譯仕候書にて」と書添へあり

民家養生新論 中本 三冊
附録付
輯者 江間 敬壽
譯者 大川 涉吉
藏板主 江間 敬壽
板元 眞部 武助
出願 明治六年三月二十六日
〔附記〕本書板行出願の文中には「右之書はコストル人身窮理及び理學化學書より摘要仕候書にて」と書添へあり

皇國産物往來 半紙本 二冊
板元 前川 善兵衛
出願 明治六年四月六日

内國大概 半紙本 二冊
板元 大野木市兵衛
出願 明治六年四月六日

教訓手引草 中本 一冊
板元 大野木市兵衛
出願 明治六年四月六日

解剖必携 二冊
板元 大野木市兵衛
出願 明治六年四月六日

習字あゆみそめ 半紙本 二冊
輯者 荻田 長三
板元 大野木市兵衛
出願 明治六年三月二十六日
〔附記〕本書板行出願の文中には「右之書は天地山川方角地上の諸件を習字文に記載仕候書にて」と書添へあり

大坂築港 扇面摺
板元 書籍會社
出願 明治六年四月六日

啓蒙理智惠の海 中本 五冊
板元 書籍會社
出願 明治六年四月六日

洋算初學 横本 六冊
板元 書籍會社
出願 明治六年四月六日

洋算學びそめ 中本 一冊
板元 書籍會社
出願 明治六年四月六日

俗語内國三字經 半紙本 一冊
板元 書籍會社
出願 明治六年四月六日

開化地方往來 半紙本 一冊
板元 書籍會社
出願 明治六年四月六日

孝經纂注 一冊
著述 横尾 謙七
板元 小島伊兵衛

出願 明治六年四月十六日
開普通商賣往來 一冊
著述人 住 正太郎
板元 此村 庄助
出願 明治六年四月十六日
〔附記〕南六區藤町通四丁目

西洋教草 三冊
譯者 永田 方正
板元 岡田 茂兵衛
出願 明治六年四月十六日
〔附記〕東三區藤町通四丁目

洋算手引草 中本 一冊
輯者 井上 廉平
板元 大野木市兵衛
出願 明治六年四月二十六日

禁関の圖 扇面摺
板元 高増 彌助
出願 明治六年四月二十六日
〔附記〕博多町四丁目

禁関後園林泉の圖 扇面摺
以上二種

外科新論 半紙本 二冊
譯者 森 鼻宗次

藏板主 右 同人
寶弘 柳原 喜兵衛
〔附記〕本書板行出願の文中には「右之書は英國クラーク原書より翻譯仕候書にて」と書添へあり
出願 明治六年四月二十六日

開化の入口 中本 二冊
作者 横河 秋濤
板元 松村 九兵衛
出願 明治六年五月六日
〔附記〕本書板行出願の文中には「右之書は肉食散髪等に未進の者を教諭に擬仕候問答文にて」と書添へあり

大日本郡名盡 半紙本 一冊
著述 小西 松三
板元 書籍會社
出願 明治六年五月六日

王代一覽
増補再板發行願出
補正 後藤 堯爾
板元 新 譽治
出願 明治六年五月

〔附記〕本書の増補項目は天神七代地神五代の御傳統を書加ふるにあり
出願 明治六年六月六日

地球四字經 一冊
著述 横尾 謙七
寶弘 三木 平兵衛
出願 明治六年六月六日
〔附記〕本書板行出願の文中には「右之書は乾坤都府土産有名人等を四字文に記載仕候書にて」と書添へあり

訓地學問答 中本 三冊
譯者 ト部 精一
板元 梅原 龜七
出願 明治六年六月六日
〔附記〕此の出願に對し題名を改むべしとの指令ありしを以て同年七月二十六日「地理初學」と改題の旨届け出でたり又本書板行出願の文中には「右之書は一千八百五十八年亞國コルネル氏の原書を幼童に解し易きよう問答文に記載仕候書にて」と書添へあり

大日本往來 三冊
出願 明治六年六月六日

輯者 島 有三
板元 森本 太助
出願 明治六年六月六日
〔附記〕本書板行出願の文中には「右之書は内國府縣郡名産物風土の概略を記載仕候書にて」と書添へあり

珊瑚の蟲 中本 一冊
譯者 前田 泰一
板元 大野木市兵衛
出願 明治六年六月六日
〔附記〕本書板行出願の文中には「右之書は一千八百七十一年亞國開板サンドルス氏ニランリートルといふ書名の原書を抜譯仕専ら幼童論旨に記載仕候書にて」と書添へあり

窮理啓蒙 初篇 二冊
譯者 江馬 春熙
板元 大野木市兵衛
出願 明治六年六月六日
〔附記〕本書板行出願の文中には「右之書は一千八百七十一年亞國人ガノット氏の小究理書を抜譯仕候書にて」と書添へあり

商社往來 半紙本二冊

編者 加藤祐一 (原伊助方寄書)
板元 柳原喜兵衛
出願 明治六年六月六日
(附記) 本書板行出願の文中には「右之書は諸會社規則パシタ銀行の方法を贈答文に記載仕候書にて」と書添へあり

英吉利語初學編 中本一冊

編者 加納陰太郎 (東組第廿三區博野町四丁目 鳥井茂一郎方寄書)
板元 岡田茂兵衛
出願 明治六年六月六日
(附記) 本書板行出願の文中には「右之書は洋文字にて二十六文字を始めイロハ四十七文字五十韻を記載仕候書にて」と書添へあり

筆算早學び 中横本一冊

著述 山本謙吉 (東十九區南本町四丁目)
板元 三木平七
出願 明治六年六月六日
(東十九區南本町四丁目)

變異辨 中本一冊

著述 島山啓

板元 石田和介
出願 明治六年六月六日
(附記) 本書板行出願の文中には「右之書は天變の諸件先きに刊行の『天變地異』に不記載の各件を記録仕候書にて」と書添へあり

窮理人體論 半紙本一冊

著述人 加納陰太郎 (東京府實業)
板元 岡田茂兵衛
出願 明治六年六月十六日
(附記) 本書板行出願の文中には「右之書は衣食住の三ツ養生を専らと記載仕候書にて」と書添へあり

世界新名數初篇 二篇

編者 松川安信
板元 鹿田静七
出願 明治六年六月十六日
(附記) 本書板行出願の文中には「右之書は天地人の諸件を名數部門に集録仕候書にて」と書添へあり

學校語誦心の種 半紙本一冊

編者 若林長榮

板元 廣瀬藤助 (京十七區備後町三丁目東)
出願 明治六年六月十六日
(附記) 本書板行出願の文中には「右之書は府縣名國郡名各地名單語辨皇諱年號等を集録仕候書にて」と書添へあり

だいよちのよみほん

第一上下 第二上下 全四冊
著述 坂本秀岱
板元 布日雄藏 (廿一區南久太郎町四丁目)
出願 明治六年六月十日
(附記) 本書板行出願の文中には「右之書はテニヲハの遣ひ方語學を専らとし活字板を以て幼童の讀誦に集録仕候書にて」と書添へあり

必讀文明往來 半紙本一冊

著述 高木二郎 (伊賀)
板元 吉田善藏
出願 明治六年六月十六日
(附記) 本書板行出願の文中には「右之書は當今の諸件上は太政諸省寮植物禽獸の名案にて童蒙讀誦仕候書にて」と書添へあり

單語拾遺 前編 一冊

著述 豐田正哉 (兵庫縣西宮市)
板元 松本善助
出願 明治六年六月二十六日
(附記) 本書板行出願の文中には「右之書は乾坤人倫其他諸件の單語を集録仕候書にて」と書添へあり

教之近道 半紙本一冊

著述 加藤祐一
板元 赤志忠七
出願 明治六年六月二十六日
(附記) 本書板行出願の文中には「右之書は幼童學問に就ては修身齊家は更なり愛國敬神を簡易に論じ候書にて」と書添へあり

訓蒙健全のさとし 半紙本一冊

著述 坂本秀岱 (紀州田邊)
板元 田中太右衛門
出願 明治六年六月二十六日
(附記) 本書板行出願の文中には「右之書は養生の法を幼幼に解し易きよう記載仕候書にて」と書添へあり

世界風俗往來 一冊

再板發行願出
著述者 中正衡
板元 大野木市兵衛
出願 明治六年六月二十六日

童蒙習字本 半紙本一冊

編者 荻田長三
板元 大野木市兵衛
出願 明治六年六月二十六日
(附記) 本書板行出願の文中には「右之書は度量名を記し金錢受取の文體を記載仕候書にて」と書添へあり

博物捷徑 半紙本三冊

譯者 豐島正徳 (西大區第四區江戸橋下河三丁目 吉川文七宛寄書)
板元 岡田茂兵衛
出願 明治六年六月二十六日
(附記) 本書板行出願の文中には「右之書は一千八百六十七年英國ロベルトセームスマーソン氏著述レツンインゼネラルノレッジといふ原書より翻譯仕候氣動物植物等數種の件々を記載仕候書にて」と書添へあり

筆算うひ育 中本一冊

明治六

測地新法 中本二冊

譯者 中條澄清 (名東縣土族)
板元 大野木市兵衛
出願 明治六年六月二十六日
(附記) 本書板行出願の文中には「右之書は一千八百六十九年米國イトン氏著述ニユープリマリアアリゾメチツクといふ原書より抄譯仕候書にて」と書添へあり

皇朝三字經譯解 一冊

譯者 村上俊平 (名東縣下流三原郡村野)
板元 梶田喜藏
出願 明治六年六月二十六日

増字早引節用集 百信

明治六

用字概略 半紙本一冊

作者 山下重政 (旅人)
板元 豐田宇左衛門
出願 明治六年六月二十六日
(附記) 從來七行本なりしを此度八行本とし板行を出願したるなり

内國往來 半紙本一冊

著述 坂本秀岱
板元 石田和助
出願 明治六年七月六日
(附記) 本書板行出願の文中には「右之書は内國名産物人口船車有名の山河温泉等を文章に記載仕候書にて」と書添へあり

西畫早學 中本一冊

畫作 松川半山
板元 梅原龜七
出願 明治六年七月六日
(附記) 本書板行出願の文中には「右之書は西洋畫器を始め平線圓角滴等の畫法を記載

三歳文章 半紙本一冊

明治六

仕候書本にて」と書添へあり

女心得草

板元 大野木市兵衛
出願 明治六年七月六日

實用幾何學

譯者 中條 澄清
板元 梅原 龜七
出願 明治六年七月六日

〔附記〕本書板行出願の文中には「右之書は英國テニート氏著述ブラクチカールゼゾメトリ」といふ幾何學原書を譯述仕候書にて」と書添へあり

哥洛氏外科新論

譯者 森 鼻 宗 次
板元 淺井 吉兵衛
出願 明治六年六月十二日

〔附記〕本書板行出願の文中には「右之書は一千八百七十年英國ロンドングラーク氏原撰を以て翻譯仕候書にて」と書添へあり

頭博物早合點

著述 横尾 謙七
板元 眞部 武助
出願 明治六年七月十六日

〔附記〕本書板行出願の文中には「右之書は五星名廣徳各名山川府縣名を集録仕候書にて」と書添へあり

語誦一覽

著述 新井 雪
板元 三木 平七
出願 明治六年七月十六日

〔附記〕本書板行出願の文中には「右之書は五十韻七星府縣名皇諡年號官名誌等諸家の書より拔萃仕候書にて」と書添へあり

算術點算早合點

著述 坂本 秀 尙
板元 明治六年七月十六日

〔附記〕本書板行出願の文中には「右之書は洋算加減乗除を記載仕候書にて」と書添へあり

進歩の近道

著述 加藤 祐一

綴字篇

著述 坂本 秀 尙
板元 石田 和助
出願 明治六年七月十六日

〔附記〕本書板行出願の文中には「右之書は和漢洋學經濟商法百工の目的たる事件を童蒙に解し易きよう平假名文に記載仕候書にて」と書添へあり

窮理往來

編者 今井 元 雄
板元 大野木市兵衛
出願 明治六年七月十六日

〔附記〕本書板行出願の文中には「右之書は空気が酸素窒素の混淆を始め他人畜諸般の窮理を記載仕候書にて」と書添へあり

皮下注射要略

著述 高田 萬助
板元 明治六年八月十六日

〔附記〕本書板行出願の文中には「右之書は生理の諸論を大坂府病院教師エルメレンス氏口述を翻譯仕候書にて」と書添へあり

内科新撰

譯者 森 鼻 宗 次
藏板主 右 同 人
板元 淺井 吉兵衛
出願 明治六年七月十六日

〔附記〕本書板行出願の文中には「右之書は一千八百六十八年著書ウード氏藥論並に同年著書スチール氏藥論書等より抄譯仕候書にて」と書添へあり

横文字獨稽古

板元 富士 政 七
出願 明治六年七月二十六日

〔附記〕本書板行出願の文中には「右之書は紀元一千八百七十年タンネル氏著書内科書を抄譯仕候書にて」と書添へあり

詰込四書

板元 山内 五郎助
出願 明治六年七月二十六日

〔附記〕本書板行出願の文中には「右之書は皇國に生ずる

四書 後藤點

再板發行願出
板元 山内 五郎助
出願 明治六年七月二十六日

說教手引草

板元 大野木市兵衛
出願 明治六年七月二十六日

洋算近道

板元 梅原 龜七
出願 明治六年七月二十六日

三則童論

著述 上田 及 雲
板元 田中 太右衛門
出願 明治六年八月十六日

〔附記〕本書板行出願の文中には「右之書は三則御教示を幼童に解し易きよう俗解仕候書にて」と書添へあり

皇統傳略

著述 東城 苑 幾雄
板元 赤志 忠 七
出願 明治六年八月十六日

〔附記〕本書板行出願の文中には「右之書は第一に皇系を記載し續て禁中の典故稱號の起源等を集録仕候書にて」と書添へあり

書添へあり

理學實語教 半紙本一冊
著述 鳥山 啓
板元 中島 徳兵衛
出願 明治六年八月十六日

〔附記〕本書板行出願の文中には「右之書は理學の諸件を俗文體に綴り頭書に圖畫を加へ標注仕候書にて」と書添へあり

童洋算圖解

編輯人 伴 源 兵衛
板元 鹿田 靜 七
出願 明治六年八月十六日

大教管窺

著者 名 和 大 年
板元 鹿田 靜 七
出願 明治六年八月十六日

〔附記〕本書板行出願の文中には「右之書は御教則に基き皇國の人民尊奉すべきは神道たるを俗解致し候書にて」と書添へあり

童蒙學びぞめ

著者 名 和 大 年
板元 鹿田 靜 七
出願 明治六年八月十六日

〔附記〕本書板行出願の文中には「右之書は御教則に基き皇國の人民尊奉すべきは神道たるを俗解致し候書にて」と書添へあり

訂正再板發行願出

輯者 証 木 正 太郎
板元 赤志 忠 七
出願 明治六年八月十六日

筆算早學

著述 坂本 秀 尙
板元 三木 平 七
出願 明治六年八月十六日

窮理三字教

著述 安代 良 輔
板元 鹿田 靜 七
出願 明治六年八月十六日

有獨七藥新書

譯者 横井 信 之
板元 淺井 吉兵衛
出願 明治六年八月十六日

〔附記〕本書板行出願の文中には「右之書は一千八百七十一年亞國醫官有獨氏の著述治療藥物學書より翻譯仕候書にて」と書添へあり

年 號

扇面摺

新藥摘要

著述 森 鼻 宗 次
藏板主 右 同 人
板元 眞部 武助
出願 明治六年八月二十六日

〔附記〕本書板行出願の文中には「右之書は生理の諸論を大坂府病院教師エルメレンス氏口述を翻譯仕候書にて」と書添へあり

生理新論

口述 越爾 墨連士
譯者 (東第九十四區平野町二丁目 池村兵衛方書館)

國學初入門

著述 井口 敬 守
板元 三木 平 七
出願 明治六年九月十六日

〔附記〕本書板行出願の文中には「右之書は皇國に生ずる

は産靈の御靈を受けて生じたれば敬神愛國は更なり上の告示は有りがたく進奉すべきを童蒙に解し易きよう綴文仕候書にて」と書添へあり

究理 發明記事 二編

編輯者 東井八郎兵衛
板元 梶田喜藏
出願 明治六年九月
中本三冊

三府往來 半紙本一冊

著述人 山本與助
板元 大野木市兵衛
出願 明治六年十月
〔附記〕本書板行出願の文中には「右之書は三府方今の形勢且横濱神港首書に名所舊跡各万里程等を記載仕候書にて」と書添へあり

獨徠氏外科新説初篇 二冊

譯述者 森鼻宗次
編輯者 右 同人
板元 前川善兵衛
出願 明治六年十月
〔附記〕本書板行出願の文中には「右之書は一千八百七十年發行英國醫官ドロイ氏著述

外科書より翻譯仕候書にて」と書添へあり

化學往來 一冊

編輯者 今井元雄
板元 大野木市兵衛
出願 明治十年六月
〔附記〕本書板行出願の文中には「右之書は太陽星辰其他地球の諸件空氣窒酸水素炭元引歴張重等の化學を文章に編綴仕候書にて」と書添へあり

三則童論目安 一冊

著述人 一人人間心得草
板元 大野木市兵衛
出願 明治六年十月
〔附記〕本書板行出願の文中には「右之書は人間の出世より學問業體交際等より三教則を記載仕候書にて」と書添へあり

説教しるべ 第二號 中本一冊

著述人 山本與助
板元 大野木市兵衛
出願 明治六年十月十六日
萬國公法彙管 初篇一冊

著述 高谷龍洲

編輯者 右 同人

〔附記〕本書板行出願の文中には「右之書は流布本萬國公法に註釋等を附し候書にて」と書添へあり

地球儀

畫圖銅鑄張附緯度尺付大周圍曲尺二尺一寸五分 小周圍曲尺一尺九寸五分
以上二種 但原書ヘルマンベルコーズ氏(英國)一千八百七十一年刊行地圖に依る

板元 水口龍之助

出願 明治六年十月二十六日

眞行單語五千字 半紙本一冊

編輯者 小川弘藏
板元 柳原喜兵衛
出願 明治六年十月二十六日
〔附記〕本書板行出願の文中には「右之書は方形色天文地理宅服人倫草木禽獸魚介蟲の諸件單語輯録仕候書にて」と

書添へあり

開知往來

以前「化學往來」と題せしものを此度改題發行願出
編輯者 今井元雄
板元 大野木市兵衛
出願 明治六年十月二十六日

今三府往來

以前「三府往來」と題せしものを此度改題發行願出
著述人 山本與助
板元 大野木市兵衛
出願 明治六年十月二十六日

勸善新論 半紙本一冊

著述人 高木熊太郎
板元 岡田茂兵衛
出願 明治六年十月二十六日
〔附記〕本書板行出願の文中には「右之書は専ら孝悌忠信の諸件を童蒙にも解し易きよう記載仕候書にて」と書添へあり

女教諭養種 半紙本一冊

畫工 松川半山

板元 岡田茂兵衛
出願 明治六年十月二十六日
〔附記〕本書板行出願の文中には「右之書は婦女幼年より教諭養方を女大學の體裁に倣ひ記載仕候書にて」と書添へあり

開大日本往來後篇 半紙本三冊

編輯者 島本多助
板元 森本多助
出願 明治六年十一月六日

明文書畫帖 初篇中本一帖

著述 田中内記
編輯者 右 同人
板元 北尾禹三郎
出願 明治六年十一月六日
〔附記〕本書板行出願の文中には「右之書は大坂府下各所當今文明の景況詩畫を以て記録仕候書にて」と書添へあり

西洋千字文 半紙本一冊

著述 田中内記
編輯者 右 同人

賣捌 北尾禹三郎
出願 明治六年十一月六日
〔附記〕本書板行出願の文中には「右之書は西洋各國の富強山川政體其他の諸件を千字文に編綴仕候書にて」と書添へあり

實中語讀早學 折本一帖

編輯者 小西松三
板元 書籍會社
出願 明治六年十一月六日
〔附記〕本書板行出願の文中には「右之書は天文度量動植諸件の單語を簡便に記載仕候書にて」と書添へあり

世話千字文 二冊

著述 卷菱湖(楷書)
筆者 村田海石(行書書畫)
板元 柳原喜兵衛
出願 明治六年十一月十六日
〔西成區第一區種波町〕

童蒙地方の文 半紙本一冊

編輯者 島本多助
板元 森本多助

出願 明治六年十一月十六日
〔附記〕本書板行出願の文中には「右之書は農業耕作の諸件或は諸御省及び諸工廠等を輯録仕候書にて」と書添へあり

開化自慢初篇 中本二冊

著述 山口赤市良
板元 山口赤市良
出願 明治六年十二月六日
〔附記〕本書板行出願の文中には「右之書は從來流布の戲作本八笑人の體裁に倣ひ戲語を以て開化の景況を俗談戲作候書にて」と書添へあり

西畫早學 二篇 三篇 各一冊

著述並畫 松川半山
板元 梅原龜七
出願 明治六年十二月六日
〔東區六區内本町一丁目〕

新改正大日本輿地細圖 銅板一枚

考正人 水口龍之助
板元 吉田善藏
出願 明治六年十二月六日

〔附記〕本書板行出願の文中には「右の圖は五畿七道其他北海道琉球置府縣所證明臺等舊圖の遺漏を考正し官國幣社山陵府縣表國產物鑛山等を記入仕候銅板摺にて」と書添へあり

説教しるべ草 三編

著述者 山本與助
板元 大野木市兵衛
出願 明治六年十二月八日

年中敬神錄 半紙本一冊

編輯者 浮田小十郎
板元 梶田喜藏
出願 明治六年十二月十六日
〔附記〕本書板行出願の文中には「右之書は一月一日四方拜より大祓まで御歴代御祭日官幣社祭日等を輯録仕候書にて」と書添へあり

童蒙説教心のかなめ

著述者 平澤傳吾郎
板元 北尾禹三郎
出願 明治六年十二月十六日
〔西區四區京町通四丁目〕

〔附記〕本書板行出願の文中には「右の書は故人石田手嶋兩氏の道話に倣ひ専ら善惡勸懲を記載仕候書にて」と書添へあり

教義要宗半紙本一冊

著述人 渡邊助信

(天滿社内)

板元 松村九兵衛

出願 明治六年十二月十六日

〔附記〕本書板行出願の文中には「右之書は三條御教則中敬神愛國の旨を譯文仕候書にて」と書添へあり

童畫引單語篇初篇

中本一冊

著述 松川半山

并畫 (東區六區内本町二丁目)

板元 梅原龜七

出願 明治六年十二月十六日

〔附記〕本書板行出願の文中には「右の書は卷首に五十韻より方形色度量貨金玉天地時令の字義に畫圖を附し童蒙に知得し易きよう記載仕候書にて」と書添へあり

説教あるべ草 四編五編

著述者 山本與助

(南大區第六區豊町三丁目)

板元 大野木市兵衛

出願 明治六年十二月十六日

書名索引

書名索引

あ

相生松樹箋	一六五	吾妻の都登	二〇三	按摩導引指南秘傳抄	二二六	醫事客難	一三三
相生百人一首千歳文	一四三	檀原辨	一九二	安樂集	一五二	和泉國繪圖	一一
相田消息	四九	阿房宮賦	二二	按摩導引指南秘傳抄	二二六	出雲路日記	二四八
愛蓮説	二二	天のみはしら	二二	醫案千金要方	一〇八	いせおんど戀の寐軼	一八六
青鶴原夢語	二七	天柱考證	二二	醫一古	一〇八	伊勢參宮名所圖會	一五六
問答青根か峯	二七	阿彌陀經	二二	家つと	一〇六	伊勢參宮道中圖	二六九
赤穂義人録	二八	阿彌陀秘訣	三三	家土産拾遺	一〇六	伊勢道中繪圖	二七一
縣居歌集	二八	阿彌陀佛説林	九〇	醫王者婆傳	一〇六	伊勢道中行程記	二二
秋のねさめ	一五三	操年代記	二二	醫學原論	一〇六	伊勢道中行程記	二二
あきはぎ帖	一五三	あやはとり	二二	醫學掌珠	一〇六	伊勢道中兩面鑑	二二
握機經	一六〇	習あゆみそめ	二二	醫學天則	一〇六	伊勢國大繪圖	二二
輕あくびどめ	一四〇	附洗米	一九五	醫學童子問	一〇六	伊勢土産漬菰	二二
花朝類通	二二二	亞辣比亞國駱駝之圖	二二	爲學要説	一〇六	伊勢物語	二二
花朝類集	二二二	有間屋	二二	醫家名數	一〇六	伊勢物語教訓文	二二
花朝類通	二二二	有馬細見圖	二二	醫家蒙求	一〇六	伊勢物語章甫鈔	二二
朝顔品	二二二	有馬勝景圖	二二	斑鳩夜話問答集	二二	伊勢物語女訓大全	二二
牽牛花品類圖考	二二二	淡路嶋名所圖會	二二	異境樂	二二	伊勢物語抄	二二
淺瀬のしるべ	二二二	合書童子調	二二	英吉利語初學編	二二	一字類題抄	二二
足利實錄	二二二	合筆下江草	二二	育英新論	二二	一念多念分別事人觀	二二
葦牙草紙	二二二	諸語一覽	二二	嚮子	二二	一ノ宮附八部大成	二二
安治川口築立地面圖	二二二	諸語往來	二二	幾難鉤解	二二	一枚起請還源要術	二二
安土問答繪抄	二二二	學問諸語心の種	二二	生入花菘芽	二二	一夜百首	二二
安土問答謄注	二二二	入門諸語早學	二二	生花野山のにしき	二二	一類腋	二二
		銅鑄諸語早學	二二	生花早まなひ	二二	逸畫史	二二
		按摩指南大成	二二	生華水菘百瓶	二二	市川市紅一河の流れ	二二
				醫事軌範	二二	一休幼辨	二二

思花街客性	二五	和蘭醫話	一八〇	和蘭新譯地球全圖	二〇六	和蘭文字早讀傳授	二〇六	阿蘭陀藥名考	八六	折々吟	一三三	折句今様調	一三六	折句さかし	一三六	折句式大成	一三六	折句趣向帳	一三六	折句小茶	一三六	折句大全	一三六	折句題林集	一三六	折句智恵袋	一三六	折句誦諧小茶	一三六	折句柱	一三六	御流義名玉帖	一〇七・一三三	温疫發微	一三三	温疫論正誤	一三〇	音曲商賈往來	一三〇	音曲ちから草	一三〇	音曲鼻毛拔	一三〇	音曲早合點	一三〇	音調假名遣	一三〇						
和蘭新譯地球全圖	二〇六	和蘭文字早讀傳授	二〇六	阿蘭陀藥名考	八六	折々吟	一三三	折句今様調	一三六	折句さかし	一三六	折句式大成	一三六	折句趣向帳	一三六	折句小茶	一三六	折句大全	一三六	折句題林集	一三六	折句智恵袋	一三六	折句誦諧小茶	一三六	折句柱	一三六	御流義名玉帖	一〇七・一三三	温疫發微	一三三	温疫論正誤	一三〇	音曲商賈往來	一三〇	音曲ちから草	一三〇	音曲鼻毛拔	一三〇	音曲早合點	一三〇	音調假名遣	一三〇										
女武勇性鏡	七〇	女文苑榮花	七〇	女文會百首寶鑑	一〇六	女文章指南車	一〇六	女文章大成	一〇六	女文章玉櫛笥	一〇六	女文章都織	一〇六	女文章綾袋	一〇六	女文通算圖	一〇六	女文寶全書	一〇六	女萬歳寶文庫	一〇六	女萬歳湖景	一〇六	女萬歳操鑑	一〇六	女萬歳花月臺	一〇六	女萬歳品定	一〇六	女文選料紙箱	一〇六	女文要悉皆叢	一〇六	女文要抽視	一〇六	女有職艶文箱	一〇六	女有職學文庫	一〇六	女用小倉文庫	一〇六	女用小倉文臺	一〇六	女用歌學選	一〇六	女要訓和歌文庫	一〇六	女用御令川	一〇六	女用智恵鑑寶	一〇六	女用智恵鑑錦織	一〇六
女武勇性鏡	七〇	女文苑榮花	七〇	女文會百首寶鑑	一〇六	女文章指南車	一〇六	女文章大成	一〇六	女文章玉櫛笥	一〇六	女文章都織	一〇六	女文章綾袋	一〇六	女文通算圖	一〇六	女文寶全書	一〇六	女萬歳寶文庫	一〇六	女萬歳湖景	一〇六	女萬歳操鑑	一〇六	女萬歳花月臺	一〇六	女萬歳品定	一〇六	女文選料紙箱	一〇六	女文要悉皆叢	一〇六	女文要抽視	一〇六	女有職艶文箱	一〇六	女有職學文庫	一〇六	女用小倉文庫	一〇六	女用小倉文臺	一〇六	女用歌學選	一〇六	女要訓和歌文庫	一〇六	女用御令川	一〇六	女用智恵鑑寶	一〇六	女用智恵鑑錦織	一〇六
女武勇性鏡	七〇	女文苑榮花	七〇	女文會百首寶鑑	一〇六	女文章指南車	一〇六	女文章大成	一〇六	女文章玉櫛笥	一〇六	女文章都織	一〇六	女文章綾袋	一〇六	女文通算圖	一〇六	女文寶全書	一〇六	女萬歳寶文庫	一〇六	女萬歳湖景	一〇六	女萬歳操鑑	一〇六	女萬歳花月臺	一〇六	女萬歳品定	一〇六	女文選料紙箱	一〇六	女文要悉皆叢	一〇六	女文要抽視	一〇六	女有職艶文箱	一〇六	女有職學文庫	一〇六	女用小倉文庫	一〇六	女用小倉文臺	一〇六	女用歌學選	一〇六	女要訓和歌文庫	一〇六	女用御令川	一〇六	女用智恵鑑寶	一〇六	女用智恵鑑錦織	一〇六

女武勇性鏡	七〇	女文苑榮花	七〇	女文會百首寶鑑	一〇六	女文章指南車	一〇六	女文章大成	一〇六	女文章玉櫛笥	一〇六	女文章都織	一〇六	女文章綾袋	一〇六	女文通算圖	一〇六	女文寶全書	一〇六	女萬歳寶文庫	一〇六	女萬歳湖景	一〇六	女萬歳操鑑	一〇六	女萬歳花月臺	一〇六	女萬歳品定	一〇六	女文選料紙箱	一〇六	女文要悉皆叢	一〇六	女文要抽視	一〇六	女有職艶文箱	一〇六	女有職學文庫	一〇六	女用小倉文庫	一〇六	女用小倉文臺	一〇六	女用歌學選	一〇六	女要訓和歌文庫	一〇六	女用御令川	一〇六	女用智恵鑑寶	一〇六	女用智恵鑑錦織	一〇六
女武勇性鏡	七〇	女文苑榮花	七〇	女文會百首寶鑑	一〇六	女文章指南車	一〇六	女文章大成	一〇六	女文章玉櫛笥	一〇六	女文章都織	一〇六	女文章綾袋	一〇六	女文通算圖	一〇六	女文寶全書	一〇六	女萬歳寶文庫	一〇六	女萬歳湖景	一〇六	女萬歳操鑑	一〇六	女萬歳花月臺	一〇六	女萬歳品定	一〇六	女文選料紙箱	一〇六	女文要悉皆叢	一〇六	女文要抽視	一〇六	女有職艶文箱	一〇六	女有職學文庫	一〇六	女用小倉文庫	一〇六	女用小倉文臺	一〇六	女用歌學選	一〇六	女要訓和歌文庫	一〇六	女用御令川	一〇六	女用智恵鑑寶	一〇六	女用智恵鑑錦織	一〇六
女武勇性鏡	七〇	女文苑榮花	七〇	女文會百首寶鑑	一〇六	女文章指南車	一〇六	女文章大成	一〇六	女文章玉櫛笥	一〇六	女文章都織	一〇六	女文章綾袋	一〇六	女文通算圖	一〇六	女文寶全書	一〇六	女萬歳寶文庫	一〇六	女萬歳湖景	一〇六	女萬歳操鑑	一〇六	女萬歳花月臺	一〇六	女萬歳品定	一〇六	女文選料紙箱	一〇六	女文要悉皆叢	一〇六	女文要抽視	一〇六	女有職艶文箱	一〇六	女有職學文庫	一〇六	女用小倉文庫	一〇六	女用小倉文臺	一〇六	女用歌學選	一〇六	女要訓和歌文庫	一〇六	女用御令川	一〇六	女用智恵鑑寶	一〇六	女用智恵鑑錦織	一〇六
女武勇性鏡	七〇	女文苑榮花	七〇	女文會百首寶鑑	一〇六	女文章指南車	一〇六	女文章大成	一〇六	女文章玉櫛笥	一〇六	女文章都織	一〇六	女文章綾袋	一〇六	女文通算圖	一〇六	女文寶全書	一〇六	女萬歳寶文庫	一〇六	女萬歳湖景	一〇六	女萬歳操鑑	一〇六	女萬歳花月臺	一〇六	女萬歳品定	一〇六	女文選料紙箱	一〇六	女文要悉皆叢	一〇六	女文要抽視	一〇六	女有職艶文箱	一〇六	女有職學文庫	一〇六	女用小倉文庫	一〇六	女用小倉文臺	一〇六	女用歌學選	一〇六	女要訓和歌文庫	一〇六	女用御令川	一〇六	女用智恵鑑寶	一〇六	女用智恵鑑錦織	一〇六

怪妖故事談	二七	郭有道碑	一五〇	和歌柏傳	二八三	脚氣辨正	二〇三
楷林	二七	學庸解考證	六九	歌人傳	二〇八	葛子琴詩抄	二〇九
書英	二九	學庸考	二六六	書園伊勢物語	二二	葛城山上道筋	二七
再開高臺梅	二八	學庸德性說	二五	春日山記	二四	葛城百首(似雲上人遺跡)	二七
雅遊醉狂集	七	書翠書	三	書園珍選	九七・三六	桂百人一首玉兔	二七・九・一七
類寫口訣	四	花月吟	三	可國美墨跡	一〇	霞亭詩抄	二〇九
花王百人一首都綴	一〇	花月文章	六	字數引節用集	二九・三三	家庭指南	二〇九
加賀繪紋帳	六	花幻往來	六	見之風の沙汰	一〇	嘉點孝經	二〇
化學往來	六	畫巧書	六	哥仙朝日帳	六六	歌道人物志	二一
化學初階	三三	花月文章	六	哥仙百人一首大成	九〇	假名附消息	二一
化學新論	三三	花月文章	六	歌仙二葉抄	二〇	かな文章	二一
かみ山蔭錦繪	二二	笠附卯の花衣	二八	家相故唐歷傳	二〇八	金屋金五郎全傳	二〇
書初機嫌の海	二二	笠附小柴垣	二八	家相全書	二〇八	鐵輪仲直	二〇
雅興春の行術	二二	笠附清鑑	二八	家相大全	二〇八	かはごろも紀行	二〇
新歌曲時習考	二二	飾馬考	二八	家相手引草	二〇八	家彪集	二〇
哥曲若美登里	二二	鑄屋雛形	二八	家相早合點	二〇八	歌文用例	二〇
樂毅論	二二	名畫畫贊	二八	家相本義	二〇八	歌文類葉	二〇
學啓	二二	畫譜常野山	二八	家相本義	二〇八	蕪樹果物語	二〇
各國新聞紙	二二	畫志	二八	家相本義	二〇八	鎌倉軍記	二〇
郭氏古圖書	二二	畫史會要	二八	家相本義	二〇八	茶師名匠考	二〇
廓中一覽	二二	華氏日用新法	二八	家相本義	二〇八	神方占	二〇
廓中覽譜	二二	加志のしづ枝	二八	家相本義	二〇八	紙漉調法記	二〇
樂洋集	二二	家塾蒙求	二八	家相本義	二〇八	上難波宮祭禮行列記	二〇
學半臨書帖	二二	賀章豎文手本	二八	家相本義	二〇八	神の御蔭の日記	二〇
畫引單語篇	二二	嘉祥文章	二八	家相本義	二〇八	冠附分道	二〇
畫引六體千字文	二二	畫乘要略	二八	家相本義	二〇八	冠附あふむ石	二〇
學問源流	二二	貨殖傳正文	二八	家相本義	二〇八		

冠附隨くらへ	二二	輕口依金袋	八八	動化花賞抄	九三	(諸國順拜廿五ヶ所)	
冠附鏡磨	二〇	輕口勝が茶	一五五	動化願主正儀編	九三	冠注分別六合釋	二五九
冠附五色墨	二〇	かる口耳勝手	四〇	動化甘露談	九七	關帝疏文	二九
冠附挿草	二〇	輕口桃の流	五七	動化讀題抄	七	關帝靈應篇	二二
冠附たわれ梅	二〇	輕口開鐵炮	五七	動化世事談	七	關東廿四輩巡詣記	二二
冠附座手水	二〇	花例百人一首玉締	五七	動化白狐通	六七	漢土諸家人物誌	二二
冠附手引舞	二〇	花曆詩	二二	動化翼	六七	菅原奉獻詩	二二
冠附手引種	二〇	河内國細見小圖	二二	動孝篇	六三	監本四書集註	二二
冠附名附親	二〇	河内國細見圖	二二	廿谷先生遺稿	六三	監本無點四書集註	二二
冠附後の采	二〇	感悅堂詩文集	二二	漢語便覽	六三	官名志	二二
冠附早道車	二〇	觀音經繪抄	二二	菅茶山翁筆のすまひ	六三	漢隸字源	二二
冠附神酒ノ口	二〇	觀音經繪本	二二	丸散經驗方	六三	漢隸字源目錄漢隸畫引	二二
冠附水加減	二〇	寶海禪師詩	二二	元三大師御覽	二二		
冠附蟲目鏡	二〇	卷懷四書	二二	韓詩外傳	二二		
冠附類頭集	二〇	卷懷四聲字林集韻	二二	韓詩外傳引詩篇日	二二		
花葉百人一首姫鑑	二〇	韓寄治驗	二二	冠辭考	二二		
哥洛氏外科新論	二〇	顧掛重法記	二二	冠辭考續編	二二		
今古唐のよし野	二〇	眼科心法要訣	二二	菅氏文房錄	二二		
哥林百人一首大成	二〇	眼科大全	二二	動商往來	二二		
輕口浮風草	二〇	醫管轄一覽	二二	寒松堂庸言	二二		
輕口五くぼ種	二〇	眼科良方大成	二二	廿諸記	二二		
輕口新玉筍	二〇	眼科龍木論	二二	寛政孔方鑑	二二		
輕口大平樂	二〇	勸業修養粗話	二二	勸善新論	二二		
輕口東方朔	二〇	勸業修養粗話附錄	二二	勸善惡集	二二		
輕口飛出駒	二〇	勸化委況抄	二二	漢曹全碑	二二		
輕口初寶買	二〇	長柄人柱勸化演慈辨	二二	閑窓筆記	二二		
輕口腹太鼓	二〇			元祖圓光大師御遺跡詠歌	二二		

義之義陣圖	二二	顯意日記	三七	狂歌一燈集	二二五	狂歌三十六歌仙	二二五
鬼子母神靈驗和調國會	二六・二八	龜卜覺腸篇	三七	狂歌一人十首	二〇八	狂歌四季の花	二二
照春隨筆	七一	其蔓集	二一四	狂歌今はむかし	二一九	狂歌時雨の橋	二九
戲場表史	一七五	奇妙龜鉢	二一三	狂歌梅の眞似	一〇三	狂歌拾葉集	二二
戲場調蒙圖彙	二〇三	九花菱錦繪	二一〇	狂歌うれい神紙	七四	狂歌尙友百首	一九三
旗章圖	二〇五	舊錦工夫囊	二二	狂歌繪本草の種	三三	狂歌新類題	二四
奇歌鬼燈傳	二二九	灸穴早合點	二六六	狂歌戎の鯛	二二	狂歌水魚集	二五
奇歌百圓	二二六	九章算法記	二六八	狂歌かゝ見山	一九	狂歌雪月花	二六
偽書説	一九七	救貧癡封選要	二四	狂歌かゝ見山	一九	狂歌選集樂	一九
歸字例要訣	八	灸神考	二四	狂歌かゝ見山	一九	狂歌太平樂	一九
起信論新舊對文述義	三	舊地考	二六	狂歌かゝ見山	一九	狂歌題輪	一九
起信論製和引據	三	救病不邪秘方	九七	狂歌かゝ見山	一九	狂歌種ふくべ	一九
奇正方	二五	急用間ニ合即座引	二〇四・二〇五	狂歌かゝ見山	一九	狂歌千代の梯	一九
其破置土産	二四	窮理往來	二〇三	狂歌かゝ見山	一九	狂歌千代の梯	一九
奇説徒然草	二〇	窮理啓蒙	二〇九	狂歌かゝ見山	一九	狂歌月の鏡	一九
貴賤心體直し	二〇	阿闍陀始創究理原	二〇七	狂歌かゝ見山	一九	狂歌机の塵	一九
龜藏遺稿	五一	エレナル光理原	二〇七	狂歌かゝ見山	一九	狂歌つのがみ草	一九
木曾道中勝景行程記	元	窮理三字教	二二〇	狂歌かゝ見山	一九	狂歌手なれのかゞみ	一九
北山詩草	九	窮理人體論	二二〇	狂歌かゝ見山	一九	狂歌女鏡	一九
奇談實錄	八一	窮理智恵の海	二〇八	狂歌かゝ見山	一九	狂歌なにかゞみ	一九
奇談戲草	一八	窮理早合點	二〇七	狂歌かゝ見山	一九	狂歌浪花丸	一九
吉奇漫錄	二五	要庭小諸大成	一九	狂歌かゝ見山	一九		
橋窓茶話	二五	狂歌廣分船	二四七	狂歌かゝ見山	一九		
魏郡公諫續錄	二〇八・二三	狂歌粟落穂	二二六	狂歌かゝ見山	一九		
貴貞志	二四	狂歌家之風	二七	狂歌かゝ見山	一九		
歸盤谷序	二四	狂歌生駒山	二七	狂歌かゝ見山	一九		
		狂歌いそちどり	二〇七	狂歌かゝ見山	一九		

狂歌浪花土産	二〇二	狂歌大和拾遺	九	榮成就論	七四	琴曲絳のしほり	三九・二五
狂歌二翁集	一八二	狂歌兩節東街道	一一	行成柳假名帖	二二	琴曲絳の錦	二〇
狂歌猫筑波	三三	狂歌類題集	一六〇	行成柳明詠和哥	二二	吟玉小倉色紙	二七
狂歌寐覺の花	一〇七	狂歌わすれがひ	一〇〇	行成百人一首	三	琴曲香羽山	二七
狂歌軒の松	二七	狂歌わすれがひ	一〇〇	叢説打出演	三三	名譽金玉書府	八
狂歌鳩の杖	三三	協紀辨方書	一四〇	都中記	二八	琴曲こまさら	六
狂歌花紅葉	六	行基菩薩草創記	九	京都指南圖	二〇	琴曲大全	一八
狂歌菱花集	二五	教義要宗	三六	行風夷哥式	六	琴曲筑波山	一八
狂歌百首	一八	教行信證字義辨疑誤	三〇	教民童蒙詞	一八	琴曲鶴の聲	一九
狂歌不斷笑	元	狂句梅柳	二五・二六	技獲錄	一六	琴曲常盤山	一九
狂歌帆かけ舟	元	教訓伊呂波經	二六	玉樹百人一首哥占	七	琴曲ねじめの絳	七
狂歌増鐘	三	教訓女今川操草	二〇八・二〇八	玉屑採	三	琴曲百人一首	九
狂歌まことの道	六	教訓女式歌枝折	二六	曲扇興圖式	三	琴曲松の聲	一九
狂歌松の鏡	一四	教訓さしもぐさ	一六	成局方便覽	三三	琴曲松の聲	一九
狂歌三葉集	一〇九	教訓竹馬哥	八八	玉葉百人一首哥囊	八〇	琴曲松の聲	一九
狂歌後三葉集	一一三	教訓手引草	九	居行子外篇	三三	琴曲よしの山	一九
狂歌新三葉集	一一三	教訓百物語	三二	御纂醫宗金鑑平脈辨脈篇	二九	金魚養玩草	三
狂歌新後三葉集	一一三	教訓惠の海	二二	清輔典儀抄	一九	禁園後園林泉の圖	三〇
狂歌拾遺三葉集	一一三	教訓行平銅	二二	季寄扇	一九	禁園の圖	三〇
狂歌水の鏡	二六	教訓略百人一首	二五	季寄袖の玉	一九	琴山琴録	三〇
狂歌道の梨	一九	教訓草草	二五	新撰季寄手引草	二四・二四・二四	金集談	三〇
狂歌三津浦	一〇三	狂犬咬傷治方	二四	漁父帖	元	欣淨財縁編	三〇
狂歌三濃濱	一〇三	教典蓋手懸賞	四	切形刺紋帳	二二	近思錄	三〇
狂歌無心抄	一〇三	驚座奇談	四	季分部類字引	一九	近思錄餘師	三〇
狂歌瀧灘草	一〇六	狂詩選	一〇八	銀河抄	二五	近人小詩	三〇
狂歌餅月夜	一〇八	行書四箴	六〇	金龜年代記	二五	金人銘	三〇
狂歌桃のながれ	一〇三	行書千字文	四九	金匱要略國字解	八〇・一〇七	近世時遊傳	三〇

香道軒の玉水	三三	古易扇	九四	古訓祝詞	一九〇	四季こし扇	二一〇
皇統傳略	三三	古易斷時言	五〇・三七	湖月百人一首花錦	一九〇	故事落穂集	二一〇
皇道要略	二八九	古易病策格	八二・三三	古言梯	一九〇	大故紙家碑帖	一九
孝養末のさかへ	二二七	古易病斷	一〇一	三津後光角力	一九〇	古事記略注	二四
孝榮餘事	一八二	古易又支解	二二五	護國論	二六	五子近思錄	二六
光文百人一首明錦	一七	五會法事讚演底	一〇〇	彩色九重にしき	二二	吳子國字解	二六
孔方圖錄	一七	古樂府	三	九重百人一首花月織	八	近世越路之雪	二六
弘法大師廻拜記	一七	古義神代考	四九	心の榮	八	古詩礎	二六
弘法大師御法海	一七	五畿内産物圖會	二〇	心の行衛	二二	古詩大觀	二六
弘法大師御法海	一七	五經一四・七三・六八・九〇・九四・九八	二〇	教訓心のゆくゑ	二二	古事談	二六
皇市君碑銘	三	五行易指南	三三	古今怪談西曙物語	二二	胡子知言	二六
校本古今和歌集	二〇六	古今和歌集打聽	二二・三三	古今假名遣	二六	故事附古新説話	二二
訂正校本庭訓往来	二〇六	古今和歌集序	二二	古今温病論	二八	故事附風流	二二
皇明詠物詩	一〇三	古今和歌集ひな言葉	二二	古今實物語	八	故實世語	二二
扣鳴編	一〇三	古今和歌集兩序雜言	二二	古今序之切	八	五事昆婆沙論	二二
紅毛華尺	一〇三	國雅管窺	一七・一七	古今茶人花押歌	八	五十韻の原由	二二
紅毛華尺指南	一〇三	國學指要	一七・一七	古今日本人物史	八	五十番狂哥合	二二
高野大師御詠哥集	一〇一	國學初入門	一七・一七	古今百人一首哥仙織	八	五十連普麻曾鏡	二二
神山先生學範	一〇一	國歌八論	一五	古今百物語	三	古狀編	二二
滑高野詣	一〇一	國花万葉記	一五	古今武士形氣	三	古狀編精註鈔	二二
廣用小諸袋	一〇一	告歸帖	一五	古今名物往來	三	五正百人一首寶臺	二二
孤雲樓遺稿	一〇一	克己銘	一五	古今養生論補篇	三	五車拔錦	二二
古易察病傳	一〇一	國事	一五	古今立花園篇	三	忠孝五常名義繪抄	二二
古易精義	一〇一	國字候文	一五	小差田草紙	三	古新狂哥酒	二二
古易精義指南	一〇一	國性慈忠義傳	一五	古三錦字引	三	午睡菴和哥	二二
後撰集新抄別記	二七・三三	心法神樂住居	一五			後撰異曲集	二二
後撰集新抄	二七・三三					後撰夷曲集校書	二二
後撰百人一首	二七・三三						
五代史	二二						
五代洲國名盡	二〇五						
五代詩抄	二〇五						
五代北條實記	二〇五						
五體文字本源	七四						
古調梯	二二						
滑稽部那枕	二二						
滑稽部那枕	二二						
滑稽發句類題集	二二						
滑稽發句類題集	二二						
滑稽漫畫	二二						
古家論語	二二						
琴歌集	二二						
後藤點五經	二二						
古道或問	二二						
詞玉緒補遺	二二						
壽仕標傳授	二二						
壽百人一首歌鏡	二二						
古能花帖	二二						
古風三體考	二二						
五部九卷	二二						

古錢鑑	二六	古文孝經解	二二	今按名蹟考	一八七	西國筋道中記	二七・六四
古戰擊要	二六	古文孝經發	二二	金剛經	一八七	西國略打順禮記	二七・六四
後撰集新抄	二七・三三	古文後集	二二	金光明最勝王經	一九	西國略打順禮記大全	二七・六四
後撰集新抄別記	二七・三三	御文要	二二	金剛力勇士鑑	一九	歲時文集	二七・六四
後撰百人一首	二七・三三	御文章來意抄	二二	今才調集	二二	濟世養生調	二七・六四
五代史	二二	古文眞寶	二二	今世名家文鈔	二二	細泉帖	二七・六四
五代洲國名盡	二〇五	古文眞寶後集	二二	問答合立仕様集	二二	采薪錄	二七・六四
五代詩抄	二〇五	古文眞寶正文	二二	早料理合立仕様集	二二	西方六字丸	二七・六四
五代北條實記	二〇五	古文典刑	二二	獸立卷	二二	便覽西陸海上記	二七・六四
五體文字本源	七四	古方便覽	二二	渾天新語	二二	改正場繪圖	二七・六四
古調梯	二二	古方便覽	二二	金昆羅參詣海陸記	二二	堺場古兵衛行狀聞書	二七・六四
滑稽部那枕	二二	古方便覽	二二	金昆羅道中記	二二	堺細見繪圖	二七・六四
滑稽部那枕	二二	古方便覽	二二	金昆羅天受記原	二二	境之圖	二七・六四
滑稽道中雲助嘶	二二	古方便覽	二二	紺屋ひなかつた鶴の聲	二二	全書遊松	二七・六四
滑稽發句類題集	二二	古方便覽	二二	婚禮手引草	二二	さき草	二七・六四
滑稽漫畫	二二	古方便覽	二二	崑崙寶錄	二二	櫻木物語	二七・六四
古家論語	二二	古方便覽	二二			櫻御殿那那の枕	二七・六四
琴歌集	二二	古方便覽	二二			佛壽寺御櫻苗	二七・六四
後藤點五經	二二	古方便覽	二二			佐元直指	二七・六四
古道或問	二二	古方便覽	二二			瑣語	二七・六四
詞玉緒補遺	二二	古方便覽	二二			左國易一家言	二七・六四
壽仕標傳授	二二	古方便覽	二二			左國史漢字引	二七・六四
壽百人一首歌鏡	二二	古方便覽	二二			呷千里新語	二七・六四
古能花帖	二二	古方便覽	二二			左氏捷覽	二七・六四
古風三體考	二二	古方便覽	二二			左氏傳列國世譜	二七・六四
五部九卷	二二	古方便覽	二二			指日	二七・六四

掌中金錢相場割圖	一八	淨土三部經	二八〇	女教補談袋	三〇・二〇〇
掌中線引年代記	一九	淨土眞宗龜鑑輯釋	二八〇	女教撰文庫	九
掌中群書一覽	一九	淨土眞宗五祖傳	二八〇	女教倭文庫	九
掌中源氏物語	二〇	改訂淨土眞宗聖教目錄	二八〇	女教和歌海	九
掌中三帖和譜	二〇	淨土眞宗靈會日鑑	二八〇	食療箋	九
掌中詩韻貫珠	二〇	淨土百詠	二八〇	食療手引草	九
掌中十三經註疏篇目	二〇	淨土門三家安心大意	二八〇	食類集方規矩大成	九
掌中尺牘楷梯	二〇	淨土要偈	二八〇	女訓いろは俗和哥	九
再掌中年曆履	二〇	淨土和讚管窺鈔	二八〇	女訓三才圖會	九
再掌中早鑑	二〇	淨土和讚管解	二八〇	女訓一首歌枕	九
再掌中早鑑	二〇	小兒五指秘囊	二八〇	女訓文章眞砂漬	九
掌中禮法秘傳	二〇	小兒醫療手引草	二八〇	女訓身持鏡	九
掌中歷代要覽	二〇	證如上人御消息	二八〇	女訓萬要品鏡	九
掌中和歌題林抄	二〇	商人買物獨案內	二八〇	女訓落鏡草	九
掌中和歌題林抄	二〇	商人勸化芙蓉編	二八〇	諸家雙六	九
掌中和哥朗題集	二〇	商人書論便覽	二八〇	諸家地紋式	九
掌中和漢年契	二〇	匠人測景定方圖說	二八〇	諸國怪談實記	九
腫服神書	二〇	商人道中記	二八〇	諸國古寺談	九
腫服要決	二〇	商人取引狀	二八〇	諸國順拜廿五ヶ所 (元祖開光大師御遺跡抄)	九
狀通案紙	二〇	商人日用書狀宮	二八〇	諸國順拜廿五ヶ所道中記	九
正徹物語	二〇	商人平生記	二八〇	諸國道中案見圖	九
唱導規矩	二〇	商人萬年曆	二八〇	諸國獨案內	九
尙堂書簡	二〇	商賈往來	二八〇	諸國獨案內	九
淨土往生論	二〇	商賈往來雜寶	二八〇	諸國獨案內	九
聖德百人一首被袋	二〇	小部集要	二八〇	諸國方言	九
		正文改悔	二八〇		

諸國妙見尊靈驗記	一六九	女誦館消息	二七	仁義くるま	二四	清詩別裁選	一八三・三六
助語辨法	一六九	諸流茶人略譜	二六	神祇宗源十二諸歌	二四	眞宗懷古抄	一八三・三六
書札案遺文海	一七〇	書林聚	二六	針灸經驗方	二四	眞宗聖教字箋	一八三・三六
書札案文	一七〇	諸禮教訓文庫	二六	針灸則	二四	眞宗聖教字箋	一八三・三六
書札案文大全	一七〇	諸禮手引種	二六	針灸手引草	二四	眞宗聖教字箋	一八三・三六
書札早手本	一七〇	諸禮童子訓	二六	鍼灸便覽	二四	眞宗聖教字箋	一八三・三六
書札便覽	一七〇	女禮百人一首代々鑑	二六	神教檢原紳	二四	眞宗聖教字箋	一八三・三六
對書狀鑑	一七〇	自來也說話	二六	新玉抄	二四	眞宗聖教字箋	一八三・三六
仕用書狀大全	一七〇	史律解	二六	秦曲笛譜	二四	眞宗聖教字箋	一八三・三六
日用書狀箱	一七〇	詩律兆	二六	神祇兩部歌	二四	眞宗聖教字箋	一八三・三六
改訂諸證文定期鑑	一七〇	字林玉篇大全	二六	信仰記三ノ口	二四	眞宗聖教字箋	一八三・三六
狂方初心式	一七〇	字林玉篇大全補遺	二六	應功記指覺大全	二四	眞宗聖教字箋	一八三・三六
改訂初心傳	一七〇	詩類函	二六	新紅塵集類題	二四	眞宗聖教字箋	一八三・三六
諸神本記	一七〇	事類全書總目錄	二六	神國處分草	二四	眞宗聖教字箋	一八三・三六
初心用文章	一七〇	志禮多言の葉	二六	新刻五經	二四	眞宗聖教字箋	一八三・三六
書體辨疑總論	一七〇	詩聯指掌	二六	新刻古文錦字引	二四	眞宗聖教字箋	一八三・三六
書通大成	一七〇	詩聯素人庖丁	二六	新刻古文孝經序跋	二四	眞宗聖教字箋	一八三・三六
四家諸通文鑑	一七〇	師走の月夜	二六	新刻四書正文	二四	眞宗聖教字箋	一八三・三六
徐天目文集	一七〇	新薄雪物語	二六	神國女調抄	二四	眞宗聖教字箋	一八三・三六
諸道聽耳世間猿	一七〇	新新歌謡と伝	二六	眞言暗誦要文	二四	眞宗聖教字箋	一八三・三六
女禮百人一首ます鑑	一七〇	新改正大日本輿地細圖	二六	眞言安心小鑑	二四	眞宗聖教字箋	一八三・三六
諸人一代理道中圖	一七〇	新學異見辨	二六	新三玉和歌集類題	二四	眞宗聖教字箋	一八三・三六
庶人喪儀式	一七〇	身家盛衰循環圖	二六	清詩選	二四	眞宗聖教字箋	一八三・三六
庶辨	一七〇	新歌林良材集	二六	清詩選大成	二四	眞宗聖教字箋	一八三・三六
初門楷芳帖	一七〇	申慶	二六	眞字引玉篇大成	二四	眞宗聖教字箋	一八三・三六
初聞帖	一七〇						
書要文鑑	一七〇						

新撰早字引	四六	新童子往來萬世寶鑑	八〇四	神名書	二〇九	水馬千金編	二七
新撰百姓往來	二四七	新童子往來萬代寶鑑	五二	進物重寶記	二六二	粹辨當	三三〇
新撰百物語	六七・七一	新童子往來萬福大成	一八〇	進物便覽	一九一	隨問釋義	三三
新撰部分類字引	〇五	新童子往來萬寶鑑	一八	四國尋開記	三三	隨類得	三
新撰庖丁梯	二六	新童子往來萬寶鑑	五	新藥摘要	三〇・三三	水練早合點	二八
新撰用文章寶玉蟲	五七	新童子往來萬寶鑑	一八	晉羊欣千字文	七	數學松社編	一〇〇
新撰和調部類鈔	一九	新童子往來萬寶鑑	一〇	新用文章	一六	素講拍子箋	六八
新撰和調部類鈔	一九	新童子往來萬寶鑑	一〇	森羅萬象要字海	一六・九	圖解五經	六八
新撰懷寶庫坊記大全	一八	新童子往來萬寶鑑	一〇	親鸞聖人正朋傳	一〇	增補圖會清正記	一九九
新撰字林玉篇大全	一九八・二八〇・二九〇	新童子往來萬寶鑑	一〇	眞理鈎股弦通術	四	生聞好次第	二七
眞草千字文	二九	新童子往來萬寶鑑	一〇	人倫大意	二七	子昂歸田賦用蜀道辭	三三
新撰日本道中行程記大全	五〇・八一	新童子往來萬寶鑑	一〇	新令字解	二七	雙陸獨勝古	一九
新撰用文章道調	二七	新童子往來萬寶鑑	一〇	新渡大泉譜	一四	篤能玉簪	二八
眞俗佛事論	四	新童子往來萬寶鑑	一〇	隨一小風	二七	須磨寺制札	九〇
新撰類題和歌集	一四	新童子往來萬寶鑑	一〇	瑞隨一小うたひ	一七〇	須磨詣	九〇
神代一覽	七	新童子往來萬寶鑑	一〇	粹學問	一八	墨色傳	九
新大成録のあらへ	二四・七三	新童子往來萬寶鑑	一〇	垂葭詩稿	九	墨色早指南	二九
新題百首	二〇三・二〇六	新童子往來萬寶鑑	一〇	隨求菩提感應傳	一八	隅田春妓容性	二九
新題和歌百首	一六	新童子往來萬寶鑑	一〇	醉興傳	一八	住吉網見繪圖	九
盡忠録	二九〇・九四	新童子往來萬寶鑑	一〇	水石畫譜	一九四	住吉名所鑑	九
清朝古文所見集	二七	新童子往來萬寶鑑	一〇	瑞竹堂經驗方	一〇七・三四	角力双六	二八
大坂新田細見圖	二六・七二	新童子往來萬寶鑑	一〇	垂釣那	一〇四	瑞捐火打	一〇
神傳方角吉凶考	二七	新童子往來萬寶鑑	一〇	粹の道づれ	一七	寸珍歌仙	一〇
神道學語	四	新童子往來萬寶鑑	一〇			寸珍實語教繪抄	一〇
神道講評論	一六	新童子往來萬寶鑑	一〇			寸珍服忌令	二
神道五帖	一六	新童子往來萬寶鑑	一〇				
新童子往來千歳寶鑑	一八	新童子往來萬寶鑑	一〇				

せ

井蛙抄	二六	聲字門顯體記	九	政要録	二〇	攝河水損村々改正圖	一七
西醫新書	二四・二六	成肅公碑	七	生理新論	二〇	實業說教心のかなめ	三五
西醫新書附録	二四	生象止觀	二二	世界新名數	三〇	說教するべし	三六
誠意伯詩抄	二七	成蹟録	二二	新到世界全圖	三〇	說教手引草	三三
聖意無盡藏	二七	補訂正續文章軌範	一四	世界の大略	三〇	雪玉集	二〇
星翁花月吟	二七	正對靈符占	二四	世界の富	三〇	絶句帖	八
正楷字覽	二七	生徒の心得	二四	世界風俗往來	三〇	絶句體評釋	八
正學指掌	二七	青囊完璧	二四	世界婦女往來	三〇	接骨新書	一七
清河書畫勸	二七	西播怪談實記	二四	石經通考	三〇	綴字篇	一七
製葛録	二七	清祕藏	二四	石室詩抄	三〇	改正攝島大坂畫圖	二七
西畫早學	二七	靜文館詩集	二四	積小館書則	三〇	改正攝州大坂全圖	二七
清家百盆	二七	棲碧山人百絶	二四	赤水先生文稿	三〇	攝州大坂地圖	二七
西漢言均	二七	西銘示蒙解	二四	赤水餘稿	三〇	攝州四天王寺圖	二七
蛭巖集	二七	清明上河圖	二四	石池序	三〇	攝州神社廻り圖	二七
蛭巖文集	二七	西遊遺稿	二四	消息尺牘楷梯	三〇	攝州平野大繪圖	二七
星經	二七	聖遊廓	二四	斥非論	三〇	攝州方格繪圖	二七
勢記要語抄	二七	聖諭廣訓	二四	世間孝子形氣	三〇	折塵劫記早刺鑑	二七
正訓神代卷	二七	勢遊神	二四	世間自慢顔	三〇	浙西六家詩抄	二七
正誤秋の寐覺	二七	製油録	二四	世間化物氣質	三〇	攝生論	二七
整骨新書	二七	西洋醫事集成寶函	二四	世語遺篇	三〇	改正攝津大坂之圖	二七
正齋書齋考	二七	西洋新藥方選	二四	世說麟麟談	三〇	攝津國大繪圖	二七
清樞唱和集	二七	西洋千字文	二四	世說故事苑	三〇	攝津兵庫圖	二七
西山三代發句集	二七	西洋天文圖說	二四	世說雜話	三〇	說文長箋	二七
制參發揮	二七	西洋早學圖解	二四	世說新語補圖字解	三〇	舌獨覆	二七
正字通作者辨	二七			世尊寺流四季帖	三〇	說法獅子吼編	二七
						說法鈔撮	二七